

リ、故ニ若シ記名裏書ニ日附ヲ記載セサルトキハ其ノ裏書ハ無効ナリ、判例ニ曰ク

原告ハ裏書讓渡ノ月日ヲ記載スルコトハ裏書讓渡ニ必要ナル方式ニ非スト抗辯スト雖モ署名ノミヲ以テ爲ス裏書ノ場合ハ格別、普通ノ裏書ニ在リテハ其年月日ヲ記載スルコトハ裏書ニ必要ナル方式ナルコトハ商法第四百五十七條ノ規定ニ徴シテ疑ヲ容レズ、今甲第一號證手形ヲ開スルニ原告ヨリ株式會社第一銀行ニ對スル裏書ニハ被裏書人ノ商號ヲ記載アルニ因リ其署名ノミヲ以テスル裏書ニ非サルコト勿論ナルニ拘ハラズ該裏書ニハ裏書ノ日ノ記載ナキニ因リ該裏書ハ法定ノ方式ヲ具備セサル不合法ノ裏書ニシテ法律上其效力ナキモノト云ハサルヲ得ス、從テ同銀行ハ本件手形ノ所持人ニ非ラサルカ故ニ假令セ原告カ同銀行ヨリ償還請求ノ通知ニ接シ償還ヲ爲シタルハトテ之ニ因リ前者ニ對シ償還請求ヲ爲ス權利ヲ取得スヘキ謂ハレナシ云々(原告小栗爲次郎對被告殿木善兵衛償還請求事件、東京地方裁判所判決)

故ニ記名裏書ニハ必ラス裏書ノ日附ヲ記載セサル可カラズ(二)裏書ノ日附ハ如何ナル標準ニ依テ之ヲ定ムヘキカ、其ノ裏書行爲ヲ爲シタル日ヲ以テ其ノ日附ト爲スヘキハ勿論ナリト雖モ左ノ判例ニ於テハ讓渡ノ合意成立ノ日ニ裏書ヲ爲シ後日之ヲ交付シタルモノハ日附ノ溯記ニ非ストセリ

手形ノ裏書ハ其手形交付ノトキニ於テ之ヲ爲スヲ通例トスルモ必シモ手形交付ノ日ヲ以テ裏書ノ日ト爲ササル可カラサルモノニ非ラス、本件ニ適用スヘキ舊商法第七百二十四條ハ裏書ノ日附ハ裏書讓渡合意ノ日ヨリ前ノ日附ト爲スコトヲ得サル旨ヲ規定シタルモノニシテ必シモ手形交付ノ日ヨリ前日附ト爲スコトヲ得スト爲シタルニ非ラス、故ニ本件ノ如ク手形讓渡ノ合意ノ成立シタル日ニ其裏書ヲ爲シ後日ニ至リ其手形ヲ被裏書人ニ交付スルモ決シテ裏書ノ日附ヲ溯記シ若クハ裏書ノ要件タル年月日ヲ缺クモノニアラス云々(明治三十三年才第五三〇號、第五四六號、約束手形金請求事件、大審院判決)

更ラニ之ヲ第四百四十五條ノ手形振出ノ日附ニ付テノ判例ニ徴スレハ或ハ手形ノ振出日附カ實際ノ事實ニ適合セサルモ形式上何等ノ瑕疵ヲ生セス又タ實質上ノ無効ヲ主張セサル場合ニハ實質ニ影響ヲ及ボサストシ、又ハ振出日附カ眞ノ事實ニ適合セサルモ該手形ハ無効ニ非ラスシテ善意ノ

取得者ハ手形上ノ權利ヲ保有スルコトヲ得トシ、或ハ其ノ振出日到来ノ時ヨリ振出人トシテノ義務ヲ負擔スヘキモノトシ(第四四五條「六、振出ノ年月日」ノ說明中ノ判例參看)又タ下ニ示ス判例ニ於テハ手形用紙ニ豫メ裏書ヲ爲シタル者カ振出人タルヘキ者ニ其ノ用紙ヲ交付シ振出人タルヘキ者ニ手形要件ノ記載ヲ一任シタル場合ト雖モ後日ニ至リ振出人タルヘキ者カ手形要件ヲ記載シ振出行爲ノ形式ヲ完備シ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ裏書行爲モ亦タ完全ニ效力ヲ發生ストセルカ故ニ是等ノ判例ニ依レハ實際ノ事實ト適合セサル裏書ノ日附ト雖モ裏書ヲ無効トスルモノニ非ラサルカ如シト雖モ左ノ判例ハ日附ヲ溯記セルモノハ全然之ヲ無効トセリ

按スルニ約束手形ノ普通裏書ハ約束手形、其贈本又ハ補箋ニ裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載スヘキハ商法第四百五十七條ノ規定スル所ナリ、而シテ之ニ其ノ年月日ヲ記載セシムル所以ノモノハ裏書當時裏書人ニ於テ裏書ヲ爲スノ能力ヲ有スルヤ否ヤヲ明ニシ以テ支拂能力ナキ者カ破産ニ瀕シ裏書ノ年月日ヲ溯記シ詐欺ヲナスコトヲ防止セントスルニ在リテ其記載ハ裏書ノ一要件ナレハ之ニ記載ノ年月日カ裏書ノ年月日ニ適合セサルトキハ適法ニ其年月日ノ記載アルモノト謂フヲ得ス、故ニ若シ裏書人ニ於テ裏書ノ年月日ヲ溯記セン乎其記載ハ無効ニシテ從テ裏書行爲モ亦無効ニ屬スルモノトス、今本件係爭手形ハ裏書ノ年月日ヲ溯記シタルモノナルハ當事者間ニ爭ナキ所ナレハ被裏書人タル上告人ハ其手形ニ付キ毫モ手形上ノ權利ヲ取得セサルヲ以テ振出人ニ對シ手形上ノ權利ヲ行使シ得サルヤ明カナリ、既ニ裏書ニシテ無効ナル以上ハ被上告人カ裏書ニ因リテ得タル利益ハ法律上ノ原因ナク享受シタルモノナリトス(明治三十五年才第四百五號、同三十六年二月十四日大審院判決)

要スルニ判例ノ示ス所ハ右ノ如シト雖モ裏書ノ年月日ヲ以テ裏書ノ要件トスル以上ハ其ノ行爲ト全然適合セサル日附ハ之ヲ無効トスルコト蓋シ相當ナルヘシ

三、裏書人ノ署名 (一)裏書人ノ署名ハ裏書ノ要件タルコト言フ俟タズ、故ニ此ノ署名ナキ

裏書ノ無効タルコト亦タ言フヲ俟タス、署名ハ自記シテ捺印セサルモ妨ケナシ、但シ自記ニ非ラサルトキハ捺印アルヲ要ス(第四四五條九ノ說明參看)(二)記名裏書ニハ右一乃至三ノ三條件ヲ要ス、故ニ若シ其ノ一ヲ缺クトキハ場合ニ依リ白地裏書トシテ有效ナルコトアリト雖モ概シテ其ノ裏書ハ無効ナリ、而シテ右三個ノ條件ノ外或ハ裏書人ノ住所ヲ記載シ又ハ指圖文句ヲ記載スルカ如キ別ニ妨ケナシト雖モ之ヲ記載シタリトテ手形上ノ效力ヲ生セス、但シ委任裏書ニハ右三條件ノ外猶ホ其ノ目的ノ附記ヲ要ス(第四六三條ノ說明參看)

四、條件以外ノ裏書事項

(一)被裏書人ノ氏名又ハ商號、裏書ノ年月日、裏書人ノ署名ハ記名裏書ノ要件ナリト雖モ此ノ以外ニ於テ裏書人ノ記載シ得ヘキ事項アリ、裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當リ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得(次條)(二)裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當リ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得(第四五九條)(三)裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當リ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載スルコトヲ得(第四六〇條)(右各條ノ說明參看)

五、裏書行爲ヲ爲シ得ル時

(一)裏書ハ記名裏書ナルト白地裏書ナルトヲ問ハス受取人又ハ其後ノ所持人カ手形ノ讓渡又ハ取立ノ委任ヲ爲ス爲メニ爲スモノナルヲ以テ振出後ニ爲スヘキモノタルコトハ言フ俟タス、然レトモ判例ニ於テハ振出前ニ於ケル裏書ト雖モ振出行爲ノ完成ト共ニ其ノ效力ヲ生スヘキモノトセリ、曰ク

手形ノ成立前其ノ受取人タルヘキ者カ豫メ手形用紙ニ裏書ヲ爲シタル場合ニハ振出行爲完成スルト同時ニ其ノ裏書ハ效力ヲ發生ス(明治三十八年才第百九十八號、同年七月八日大審院判決、第四四五條第三ノ說明中本件判例參看)
按スルニ原院ニ於テ確定シタル所ニ依レハ本件ノ事實ハ上告人等カ甲第一號證約束手形ノ用紙ニ手形金額其他手形要件ノ記

載ナキ以前豫メ裏書人トシテ署名捺印ノ上振出人タル森長峰吉ニ之ヲ交付シテ手形要件ノ記載ヲ一任シ其記載事項中手形金額ニ付テハ五千圓ヲ最高限度トシ其金額ノ範圍内ニ於テ之ヲ補充スヘキコトヲ承諾シタルニ峰吉ハ其補充權ヲ濫用シテ手形金額ヲ壹萬五千圓ト記載シ且其他ノ手形要件ヲ補充シ以テ本件手形ノ形式ヲ完備シ之ヲ被上告人ニ交付シタルモノナリト云フニ在ルヤ判文上明白ナリ、而シテ手形用紙ニ何等手形要件ノ記載ナキ以前豫メ裏書ヲ爲シタル者カ振出人タルヘキ者ニ之ヲ交付シテ手形要件ノ記載ヲ一任シタル場合ト雖モ後日直接振出人タルヘキ者カ手形要件ヲ記載シ振出行爲ノ形式ヲ完備シテ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ茲ニ其振出行爲完成シ之ト同時ニ右裏書行爲モ亦完全ニ其效力ヲ發生スルモノトス、是レ本院カ從來判例トシテ是認スル所ナリ、而シテ又斯ノ如キ場合ニ於テ手形用紙ニ豫メ裏書ヲ爲シタル者カ振出人タルヘキ者ニ手形要件ノ記載ヲ一任スルニ當リ本件事實ノ如ク手形金額ニ付キ制限ヲ加ヘ其制限内ニ於テ之ヲ補充スヘキコトヲ承諾シタルニ拘ラス振出人カ其補充權ヲ濫用シ制限ヲ超過スル手形金額ヲ記載シタルトキト雖モ裏書人ハ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ適法ニ手形ヲ取得シタル第三者ニ對シテハ補充權ノ濫用ヲ主張シ以テ其手形ニ表示セラレタル責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス、蓋商法ノ規定ニ於テ務メテ手形ノ流通力ヲ尊重シ手形ノ署名者ヲシテ專ラ手形ニ記載シタル文言ニ從ヒ責任ヲ負ハシメ偽造ノ手形ニ署名シタル者ニ對シテモ尙ホ同一ノ責任ヲ負シメ又何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ以テ手形ヲ取得シタル者ニ對シ其手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得サラシメタル等特ニ手形署名者ノ責任ヲ嚴ニ善意ナル手形取得者ノ保護ヲ厚クシタル立法ノ趣旨ニ鑑ミルトキハ、如上白地ノ手形用紙ニ豫メ裏書ヲ爲シ他人ニ之ヲ交付シ手形要件ヲ補充ヲ一任シタル者ハ後日之ニ記載セラレヘキ文言ニ從ヒ責任ヲ負フヘキコトヲ豫期シタルモノニシテ偶々其他人ニ補充權ヲ濫用セラレルコトアルモ是レ畢竟自ラ甘シテ斯ノ如キ危險ナキヲ必スヘカラサル地位ニ之ヲ置キタルニ因ルモノナレハ其補充權濫用ノ結果ニ付テモ善意ノ第三取得者ニ對シテハ豫メ裏書ヲ爲シタル者ニ於テ責任ヲ負フ可キハ當然ノ事ニシテ之カ爲メニ寸毫モ善意ナル第三者ノ害セラレヘキ謂レナケレハナリ(明治四十四年才第四百二十二號、同四十五年四月十九日大審院判決、株式會社一志銀行對米本平左衛門訴件)

即チ此ノ判決ノ當否ハ暫ク措キ實際ニ於テ振出前ニ於テ爲シタル裏書行爲モ必シモ無効ニ非ラスト認メタルノ例ト爲スヘシ(二)而シテ裏書ハ拒絕證書作成ノ期間後ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

(第四六二條ノ說明參看)(三)又々裏書ハ振出人カ破産宣告ヲ受ケタル後ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得、判例之ヲ示シテ曰ク

按スルニ債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後ト雖モ其債務者ニ對シ破産宣告前ヨリ既ニ存スル債權ハ債權者ニ於テ之ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ禁止スル法則存セサルヲ以テ本件約束手形ノ振出人山本猪三吉ニ對シ破産ノ宣告アリタル以前ヨリ既ニ其手形債權ヲ有スル合名會社三井銀行カ右宣告後其手形債權ヲ被上告人ニ裏書讓渡シタルハトテ破産財團ニ對シ當然其效ヲ存セサルモノニ非サルヤ言テ俟タス(明治四十五年才第八十號、同年五月二十七日大審院判決、破産管財人出浦力雄對株式會社三井銀行訴件)

以テ例ト爲スヘシ

六、裏書ノ記載及ヒ交付

(一)裏書ハ記名裏書タルト白地裏書タルトヲ問ハス爲替手形、其ノ謄本又ハ補箋ニ爲スコトヲ要ス、本條第一項ニ「裏書ハ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人ノ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス」ト規定セルモノ是レナリ、故ニ裏書ハ手形ノ原本ハ勿論、謄本及ヒ補箋ニモ之ヲ爲スコトヲ得

抑モ手形用紙ニ附箋ヲ爲シ之ニ裏書人カ署名スルモノヲ以テ手形裏書ノ方式ニ背反スルモノト爲スコトヲ得ス、何トナレハ商法第四百五十七條ニ依リハ手形ノ補箋ニ裏書ヲ爲シ得ヘキコト明白ニシテ附箋ハ法文ノ所謂補箋ニ外ナラサレハナリ(明治三十七年才第三百五十七號、同年九月十七日大審院判決)

故ニ振出ノ要件ノ如キハ補箋ニ記載スルコトヲ得スト雖モ裏書及ヒ保證ニ限り補箋ニ記載スルコトヲ得(第四四五條第四ノ說明及ヒ判例參看)(二)然レトモ裏書ハ其ノ文字ノ示ス如ク手形ノ裏面ニ記載スルヲ通例トスト雖モ既ニ謄本及ヒ補箋ニモ記載スルコトヲ得ル以上ハ必シモ手形ノ裏面ニ限ラサルハ既ニ述ヘタル所ノ如シ、故ニ手形ノ如何ナル位置ニ記スモ自由ニシテ其ノ裏書ト

認メ得ルヲ以テ足ル、從テ普通ノ例及ヒ順序ヲ謂ヘハ手形ノ裏面ニ記載シ、裏面ニ記載シ盡シ又裏書ヲ爲ス餘白ナキトキニ補箋ヲ爲シテ記載スルヲ常トスト雖モ先ツ補箋ヲ爲シテ之ニ記載シ次テ始メテ手形ニ記載スルモ必シモ違法ニ非ラス、補箋ニ次クニ補箋ヲ以テスルモ固ヨリ妨ケナシ(三)裏書カ手形上ノ效力ヲ生スルニハ手形、謄本又ハ補箋ニ之ヲ爲ス外之ヲ讓渡ノ意思ヲ以テスル交付アルコトヲ要ス、判例ニ曰ク

依テ按スルニ手形債權ハ證書債權ノ一ニシテ證券ヲ離レテハ成立シ得ルモノニ非サレハ事實其權利ヲ有スル者ト雖モ現ニ證券ヲ所持スルニアラサレハ其債權ノ實效ヲ收メ得ルモノニアラス、故ニ裏書ニ因リ其讓渡ハ當事者カ裏書ノ記載ヲ爲スノミヲ以テ足レリトセス其手形ヲ被裏書人ニ交付シ始メテ完成スルモノト論定スヘキモノトス、故ニ原院カ(前略)署名ノミノ裏書ト雖モ其裏書ヲ爲シ之ヲ交付スルニアラサレハ未タ讓渡ノ效ヲ生スヘキニアラス云々ト說示シタルハ毫モ不法ニアラス(明治三十六年才第二百七十二號、同年六月十八日大審院判決)

按スルニ手形債權ハ證券的權利ノ一ニ屬シ證券ト離レテ成立スルコトヲ得サルモノナレハ手形ノ裏書讓渡ヲ爲スニハ裏書人カ讓渡ノ意思ヲ以テ裏書記載ヲ要スルハ勿論ナルモ其裏書記載ニ因リテ讓渡ノ效力ヲ生スルニハ之ノミヲ以テ足レリトセス尙ホ讓渡ノ意思ヲ以テ其手形ヲ他人ニ交付シ爰ニ裏書行爲ハ完成シ讓渡ノ效力ヲ生シ又裏書人ハ被裏書人其他ノ所持人ニ對シ手形債務ヲ負擔スヘキモノトス、本件ニ於テ原院ノ確定セル所ニ依レハ上告人ハ係爭約束手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタル後其裏書欄ニ記名捺印シ訴外株式會社西六銀行ニ持參シ割引ヲ求メタルニ同銀行ニ於テハ手形面ノ金額中ニ不明ノ文字アルカ爲メ割引ニ應セサルヨリ上告人ハ自己ノ店員ヲシテ振出人沼田重助方ニ到リ同人ノ雇人の中川梅太郎ニ就キテ手形ヲ交付シ之カ訂正ヲ求メタルニ梅太郎ハ別ニ金額、満期日、振出人等ニ於テ右手形ト同一ナル手形ヲ作成シ上告人店員ニ交付シタルヨリ同店員ハ之ヲ受取り前記手形ハ廢棄セラレルモノト信シ其儘差置キタル所梅太郎ハ惡意ヲ生シ之ヲ被上告人ニ讓渡シタルモノナリ、而シテ被上告人カ善意且無過失ニテ其手形ヲ取得シタルコトハ原判決ノ認ムル所ナルモ上告人ハ讓渡ノ意思ヲ以テ裏書記載ヲ爲シタルニ止マリ其記載アル手形ヲ振出人ノ雇人ニ交付セシメタルハ讓渡ノ意思ニ出テタルモノニ非サルヲ以テ前

述ノ要件ヲ缺如シ被告ハ原告人ニ對シ償還請求ノ權利ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス(明治四十四年才第三百十號、同年十二月二十五日大審院判決)

即チ前者ハ單ニ交付アルコトヲ要スルノ例ニシテ後者ハ讓渡ノ意思ニ因ル交付ヲ要スルノ例ナリ

第二 白地裏書(第二項)

(一)白地裏書トハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲シ被裏書人ヲ記載セ
ス爾後其ノ手形ノ交付ノミヲ以テ讓渡ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ、是レ恰モ記名式手形ヲ無記名
式手形ト爲シタルカ如ク其ノ流通ヲ容易ナラシムルモノニシテ本條第二項ニ於テ『裏書ハ裏書人
ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡ス
コトヲ得』ト規定セルモノ是レナリ(二)白地裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スモノナル
カ故ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ要件トシ其他ノ條件ヲ要セス、故ニ手形ノ裏書ニ何等ノ記載ヲモ
爲サス單ニ裏書人カ裏書人トシテ其ノ氏名又ハ商號ノミヲ記スコト例之ハ手形ノ裏面ニ

裏書人 甲 某
トノミ記シタルヲ以テ足ルコト勿論ナリ、然レトモ通常手形用紙ノ裏面ニハ
表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日
ト印刷シアルカ故ニ右ノ用紙ノ年月日ノ下ニ裏書人カ其ノ氏名又ハ商號ノミヲ記シ其他ハ印刷ノ
儘ニ置クコト例之ハ
表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日 甲 某
トスルモ白地裏書タルコト勿論ナリ(三)故ニ假令ヒ右等ノ裏書ニ其ノ日附若クハ裏書人ノ住所
ノ記載アルモ是等ノ記載ハ手形上效力ヲ生セサル不用ノ記載トシテ其ノ裏書ハ白地裏書トシテ效
力ヲ有ス、判例ニ曰ク

甲第一號證ニ依レハ本件約束手形ヲ被告ニ於テ河原市之助ニ宛テ振出し、市之助ハ之ヲ裏書讓渡シタルコト明カナリ、右裏
書ハ裏書人ノ署名ノ外裏書人ノ住所、裏書ノ年月日ノ記載アルモ被裏書人ノ記載ナキヲ以テ年月日及ヒ住所ノ記載ハ重要ナ
ラサル手形ノ附記ト認メ從テ前顯裏書ハ白地裏書ナリト認定ス、然ラハ該手形ハ爾後手形ノ引渡ノミニ依リテ讓渡スナ得ル
義ニシテ而シテ該手形ヲ原告ニ於テ所持シ居ルヲ以テ該手形ノ所持人トシテ原告本訴ノ請求ハ相當ナリト認ム云々(明治三
十四年才第二百二十八號、原告株式會社橫濱米鹽雜穀取引所清算人對被告谷又五郎事件、東京地方裁判所判決)
商法ニ所謂白地裏書トハ被裏書人ヲ指定セサル裏書ノ方法ナルカ故ニ偶々裏書ノ年月日ヲ記スモ被裏書人ヲ指定セサル以上
ハ即チ白地裏書トシテ有效ナルコト疑ナシ(明治四十三年才第三十三號、株式會社關西銀行對セ、チャータード、バンク、
オプ、インテイヤ事件、同年二月十五日大審院判決)
上告論旨ハ商法第四百五十七條第二項ニ因ル裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スヘク其他何等ノ記載ヲモ爲スコトヲ得
サルモノトス、然ルニ原判決カ同條項ニ因ル裏書ニ年月日ヲ記載シタルモノヲ有效ナリト判定シタルハ不法ナリト謂フニ在
リ、依テ按スルニ商法第四百五十七條第二項ニ規定シタル裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲ス手形ノ裏書トハ所謂白地裏書ノ謂ニ
シテ被裏書人ヲ指定セサル裏書ニ外ナラス故ニ手形ノ裏書ニシテ被裏書人ノ指定ナキ場合ニ於テハ苟モ裏書人ノ署名アルト
キハ年月日ノ記載アルト否トニ拘ハラス其適法ナルコト固ヨリ論ヲ俟タス(明治三十六年才第四百四十一號、同年十月八日
大審院判決)

故ニ假令ヒ年月日ノ記載アルモ斯クノ如キハ不用ノ記載ニシテ是レアルモ白地裏書タルヲ妨ケサ
ルナリ(四)白地裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲スモノナルカ故ニ讓受人ハ前ニ示シタル文例

中ノ白地ニ氏名ノ記入ヲ爲サスシテ所持人タルノ權利ヲ行フコトヲ得ヘク又本條第二項後段ノ「此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得」トノ規定ニ依リ其儘手形ヲ交付シテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ヘシ、故ニ例之ハ

表面ノ金額

殿又ハ指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日

甲 某

トシ「某甲」ノミノ署名ヲ爲シ甲カ之ヲ乙ニ讓渡シタルトキハ乙ハ何等ノ記入モ爲スコトナク此儘ニテ所持人タルノ權利ヲ行フコトヲ得ヘク、又ハ此儘ニテ之ヲ丙ニ交付シテ丙ニ讓渡ヲ爲スコトヲ得ヘシ(五)但シ右ノ讓受人乙ハ交付ノミヲ以テセスシテ裏書ヲ爲シテ丙ニ讓渡スコトヲ得ヘシ、例之ハ乙ハ

表面ノ金額

殿又ハ指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日

甲 某

トシテ甲ヨリ白地裏書ニテ讓受ケタル手形ヲ更ニ

表面ノ金額

殿又ハ指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日

乙 某

ト裏書シテ丙ニ讓渡スコトヲ得ヘシ、故ニ判例ニ曰ク

舊商法第七百二十五條ノ規定ヲ案スルニ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡シタル手形ハ交付ノミヲ以テ之ヲ轉付スルコトヲ得ヘキモノト爲セリ、其法意ヲ尋繹スルニ一度讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタル手形ハ通例ノ裏書若クハ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テスル裏書ノ方法ニ依ラスシテ交付ノミヲ以テ讓渡スコトヲ得ヘシトノ趣旨ニシテ讓渡ノ方法

ヲ交付ノ一事ニ限定シタルニ非サルコトハ法文上自ラ明晰ナリ、由之觀之讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタル手形ノ讓受人ハ其裏書ニ依リ直接讓受ケタルト單ニ交付ノミヲ以テ讓受ケタルトノ別ナク自ラ他ニ之ヲ讓渡ストキニ當リテハ特別ノ制限アラサル限リハ更ニ裏書讓渡スルモ若クハ交付ノミヲ爲スモ渾テ自由ナルモノト云ハサルヲ得ス云々(上告人株式会社山陽貯蓄銀行對被告上告人兒玉語一約束手形金請求事件大審院判決)

故ニ白地裏書ニ依リテ手形ヲ讓受ケタル讓受人ハ其ノ手形ニ何等ノ記入ヲモ爲サスシテ所持人ノ權利ヲ行ヒ又ハ其儘之ヲ交付シテ讓渡ヲ爲シ若クハ更ニ裏書シテ讓渡ヲ爲スモ自由ナリ(六)又甲ヨリ白地裏書ニ依リテ讓受ケタル乙ハ第四百六十一條ニ依リ自己ヲ被裏書人トシテ之ヲ記入シ以テ所持人タルノ權利ヲ行フコトヲ得ヘク、例之ハ

表面ノ金額

殿又ハ指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日

甲 某

トシテ甲ヨリ讓受ケタル手形ニ更ニ乙ハ

表面ノ金額

殿又ハ指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日

甲 某

ト自己ノ氏名「乙」字ヲ記入スルコトヲ得ヘク、又タ右ノ如ク記入シタル上更ニ

表面ノ金額

殿又ハ指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日

乙 某

ト裏書シテ丙ニ讓渡スコトヲ得ヘシ、而シテ右ノ乙カ自己ヲ被裏書人トシテ自己ノ氏名ヲ記入スル以下ニ付キテハ猶ホ第四百六十一條ノ説明及ヒ判例ヲ參看スヘシ(七)白地裏書ヲ爲シテ讓

渡シタル手形ハ爾後手形ノ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘキカ故ニ恰モ無記名式手形ノ交付ノミニ依リテ讓渡シテ爲スコトヲ得ルト相同シ、然レトモ記名式手形ヲ白地裏書ニ依リテ讓渡シ爾後交付ノミニ依リテ讓渡スモ其ノ手形ハ無記名式手形ニ非ラサルヲ以テ金額ニ制限ナク第四百四十九條ヲ適用シテ三十圓以上ノモノタルコトヲ要セス、而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニモ準用スルモノナリ(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第三 記名裏書及ヒ白地裏書ノ記載例 右ニ説明スル所ニ依リ裏書ノ方法ハ明カナリト信スルモ猶ホ了解ニ便ナル爲メ記名裏書及ヒ白地裏書ノ記載方ヲ示セハ左ノ如シ

一、記名裏書及ヒ之ニ對スル記名裏書

表面ノ金額 乙 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (受取人甲カ爲シタル記名裏書)

大正 何 年 何 月 何 日 甲 某

表面ノ金額 丙 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (所持人乙カ爲シタル記名裏書)

大正 何 年 何 月 何 日 乙 某

二、記名裏書及ヒ之ニ對スル白地裏書

表面ノ金額 乙 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (受取人甲カ爲シタル記名裏書)

大正 何 年 何 月 何 日 甲 某

表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (被裏書人乙カ爲シタル白地裏書)

大正 年 月 日 乙 某

三、白地裏書及ヒ之ニ對スル記名裏書

表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (受取人甲カ爲シタル白地裏書)

大正 年 月 日 甲 某

表面ノ金額 丙 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (所持人乙カ爲シタル記名裏書)

大正 何 年 何 月 何 日 乙 某

四、白地裏書及ヒ之ニ對スル白地裏書

表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (受取人甲カ爲シタル白地裏書)

大正 年 月 日 甲 某

表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (所持人乙カ爲シタル白地裏書)

大正 年 月 日 乙 某

五、白地裏書及ヒ所持人ノ自己ヲ被裏書人トシテノ記入並ニ其ノ記名裏書(第四六一條ノ說明參看)

表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (受取人甲カ爲シタル白地裏書)

大正 年 月 日 甲 某

表面ノ金額 乙 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (甲ノ裏書ニ所持人乙自己ノ名ノ記入)

大正 年 月 日 甲 某

表面ノ金額 丙 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (所持人乙ノ記名裏書)

大正 何 年 何 月 何 日 乙 某

六、白地裏書及ヒ所持人ノ自己ヲ被裏書人トシテノ記入並ニ其ノ白地裏書(同上)

表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (受取人甲カ爲シタル白地裏書)

大正 年 月 日 甲 某

表面ノ金額 乙 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (甲ノ裏書ニ乙自己ノ名ノ記入)

大正 年 月 日 甲 某

表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也 (所持人ノ白地裏書)

大正 年 月 日 乙 某

右ノ例中白地裏書ハ通常用ユル手形用紙ノ印刷セル文言ヲ其儘用ヒタルモノナルモ白地裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲スモノナレハ右ノ如ク『表面ノ金額云々』ノ文言ヲ記載セス單ニ『裏書人某甲』又ハ『裏書人乙某』ト記スモ妨ケナキコトハ前ニ述ヘタル所ノ如シ

第四百五十八條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

本條ニ於テハ爲替手形ノ裏書人モ亦タ其ノ裏書ヲ爲スニ當タリ振出人ト同ク支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ手形ニ記載スルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ (一) 抑モ振出人カ手形ニ支拂人ヲ記載スルモ支拂人ハ之ニ因リテ支拂ノ義務ヲ負フモノニ非ラスシテ其ノ引受ヲ爲シテ始メテ支拂ノ義務ヲ負フモノナリ、故ニ若シ支拂人カ引受ヲ爲サス又ハ支拂ヲ拒絕シタル場合ニ更ニ之ニ代リテ引受又ハ支拂ヲ爲サシムル爲メ豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得、是レ振出人ニ付テ既ニ第四百四十八條ノ規定スル所ナリ (同條ノ說明參看) 然ルニ裏書人カ裏書ヲ爲シテ手形ヲ他人ニ讓渡シ而シテ若シ支拂人カ引受ヲ爲ササルトキ又ハ引受ヲ爲シタルモ其ノ引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ

所持人ハ裏書人ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク (第四七四、四八〇條ノ說明參看) 又タ支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ所持人ハ裏書人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ (第四八六條ノ說明參看) 若シ支拂人カ引受又ハ支拂ヲ爲ササルトキハ所持人ハ直チニ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ支拂人カ唯一回引受又ハ支拂ヲ拒絕シタルノ故ヲ以テ直チニ裏書人ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルハ裏書人ニ對シテモ亦タ所持人ニ對シテモ頗ル不便ニシテ若シ其ノ支拂人ニ代リテ引受又ハ支拂ヲ爲ス者アラハ之ヲ引受又ハ支拂ヲ爲サシムルハ便利ナリ、故ニ本條ニ於テハ振出人カ豫備支拂人ヲ指定スルコトヲ得ルト同シク裏書人モ亦タ其ノ裏書ヲ爲スニ當リ支拂人ニ代リテ引受又ハ支拂ヲ爲スヘキ豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得ルモノトセリ、是レ本條ノ規定ヲ爲シタル所以ナリ (二) 從テ裏書人カ此ノ豫備支拂人ヲ記載シタルトキハ所持人ハ支拂人カ引受又ハ支拂ヲ爲ササル場合ニ其ノ豫備支拂人ニ引受又ハ支拂ヲ求メタル後ニ非ラサレハ右ノ裏書人ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス (第五〇〇、五〇八條ノ說明參看) (三) 但シ右ノ如ク裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得ルト雖モ若シ裏書人カ下ノ二條ノ場合ノ如ク後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負ハサル場合ニ於テハ豫備支拂人ヲ記載スルノ必要ナク又タ之ヲ記載スルコトヲ得ス、本條ハ此點ニ關シテ何等ノ明言スル所ナシト雖モ固ヨリ然ラサルヲ得ス (四) 豫備支拂人ヲ定ムルニハ支拂地ニ於ケル者ナラサル可カラス、從テ手形ニ支拂地ノ記載ナキトキハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ヲ以テ支拂地トスルカ故ニ此ノ場合ニハ豫備支拂人モ亦タ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ノ者ナラサル可カラス (五) 此他本條ニ關シテハ總テ第四百四十八條ニ說明シタル所ハ之ヲ

適用シ得ヘキヲ以テ同條ノ説明ヲ參看スヘシ、而シテ振出人ノ定ムル豫備支拂人ノ第四百四十八條ノ規定ハ約束手形ニ準用セサルモ本條ノ裏書人ノ定ムル豫備支拂人ノ規定ハ約束手形ニモ亦タ準用スルモノナリ(第五二九條ノ説明參看)

第四百五十九條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

本條ニ於テハ所謂ル無擔保ノ裏書ヲ規定セリ(一)即チ裏書人ハ其ノ裏書ヲ爲スニ當リ手形ニ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得ルモノトス、而シテ此ノ記載アルトキハ手形上ノ文言タルノ效力ヲ有シ其ノ裏書人ハ後者ニ對シ擔保ノ請求若クハ償還ノ請求ニ應スルカ如キ手形上ノ責任ヲ負擔セス、蓋シ斯クノ如ク裏書人カ裏書ヲ爲シナカラ手形上ノ責任ヲ負擔セサルコトヲ許スハ手形ノ流通ヲ妨クルカ如シト雖モ之カ爲メニ其ノ前者ヲ害スルコトナキノミナラス裏書ニ依リテ手形ヲ讓受ケタル者ハ裏書人カ手形上ノ責任ヲ負擔セサルコトヲ甘シテ之ヲ讓受ケタル者ナレハ是レ亦タ其者ヲ害スルコトナク結局責任ヲ負ハサル旨ノ記載ヲ禁スヘキ理由ナシ、是レ本條ニ於テ各國ノ立法例ニ倣ヒ此ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ(二)從テ裏書人カ此ノ記載ヲ爲ストキハ豫備支拂人ヲ記載スルノ必要ナク又之ヲ記載スルヲ得サルナリ(前條ノ説明參看)而シテ本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニ準用スルモノナリ(第五二九、五三七條ノ説明參看)本條ニ付テハ猶ホ次條(三)ノ説明參看スヘシ

第四百六十條 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコト

ナシ

本條ハ所謂ル裏書人ノ裏書禁止及ヒ其ノ效力ヲ規定セリ(一)即チ裏書人ハ其ノ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載スルコトヲ得ヘク、而シテ此ノ記載ヲ爲シタルトキハ其ノ裏書人ハ自己カ爲シタル裏書ニ依リテ讓受ケタル者即チ直接ノ被裏書人ヲ除ク外其後ノ被裏書人ニ對シテハ一切手形上ノ責任ヲ負ハサルモノトス、之ヲ換言スレハ自己カ直接ニ讓渡シタル被裏書人ニ對シテハ責任アリト雖モ其後ノ者ニ對シ擔保若クハ償還ノ請求ニ應スル義務ナキモノトス(二)但シ裏書人カ本條ニ依リ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタル場合ト雖モ被裏書人ハ更ニ有效ニ之ニ裏書ヲ爲スコトヲ得ヘク其後ノ被裏書人モ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得ヘク、其ノ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得ルノ點ニ於テハ本條ノ裏書禁止ノ記載ナキ場合ト一切異ナルコトナシト雖モ唯タ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタル裏書人ハ直接ノ被裏書人ヲ除ク外他ノ後者ニ對シ一切ノ手形上ノ責任ヲ免ルルニ過キサルナリ、彼ノ第四百五十五條ノ但書ニ依リ振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタル場合ニ於テハ爾後一切裏書ヲ爲スコトヲ得ス假令ヒ裏書ヲ爲シタリトスルモ其ノ裏書ハ無効ナルニ拘ハラズ本條ノ裏書人ノ裏書禁止ハ單ニ其ノ裏書人カ直接ノ被裏書人ヲ除ク外ノ後者ニ對シテ責任ヲ免ルルニ止マリ其後ノ裏書ヲ無効トスルコトナシ、是レ振出人ノ裏書禁止ト裏書人ノ裏書禁止ト大ニ異ナル所ナリ(第四五五條第二ノ説明參看)(三)又タ本條ノ規定ハ前條ノ裏書人カ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載シタル場合ト一見其ノ結果相同シカ如シト雖モ前條ノ規定ニ依リ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載シタルトキハ假令ヒ自己カ爲シタル裏書ニ依リテ手形ヲ讓受ケタル直接ノ被裏書人ニ對シテモ責任ナキニ反シ本條ノ規定ニ依リ裏書禁止ノ旨ヲ記載シタルトキハ自己カ爲

シタル裏書ニ依リテ讓受ケタル直接ノ被裏書人ニ對シテハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス唯タ其者ヨリ後ノ者ニ對シテ責任ヲ免ルルモノトス、是レ前條ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載シタル場合ト大ニ異ナル所ナリ(前條ノ說明參看)而シテ本條ノ規定ハ亦タ約束手形及ヒ小切手ニ準用スルモノナリ(第五二九、五三七ノ說明參看)

第四百六十一條 裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得

本條ハ白地裏書アル手形ニ付テハ所持人ハ自己ヲ其ノ被裏書人ト爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セリ(一)抑モ白地裏書トハ裏書人カ署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルモノニシテ被裏書人ノ氏名又ハ商號、裏書ノ年月日ヲ記載セサルモノナリ、故ニ例之ハ裏書人甲ハ手形ノ裏面ニ

裏書人 甲 某

ト記シテ裏書ト爲スコトヲ得ヘク、又タ通常用ユル手形用紙ノ表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日

ト印刷シアル年月日ノ下ニ裏書人ノ氏名又ハ商號ノミヲ記入スルコト例之ハ表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日 甲 某

トシ印刷ノ部分ハ其儘ニシテ裏書ト爲スコトヲ得ヘシ、此ノ場合ニ於テ右ノ裏書ニ依リテ手形ヲ讓受ケタル者ハ右ノ儘ニテ所持人タルノ權利ヲ行フコトヲ得ヘク又タ右ノ儘其手形ヲ他人ニ交付

シテ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘク、之ヲ讓受ケタル者亦タ同一ナリ(第四五七條第二ノ說明參看)然レトモ右ノ儘ニテ何等ノ記入ヲ爲ササルトキハ若シ右ノ手形ヲ盜取シ又ハ拾取リタル者アル場合ニ於テハ其者ニ於テ所持人タルノ權利ヲ行ヒ又ハ他人ニ之ヲ讓渡スコトノ危険ナシトセス、故ニ此ノ危険ヲ避ケンカ爲メ所持人乙ハ前示ノ『裏書人甲某』トアル側ニ『被裏書人乙某』ト記入シ、又ハ前示ノ『表面ノ金額 殿』トアル所ニ自己ノ氏名ヲ記入スヘク

裏書人 甲 某

被裏書人 乙 某

表面ノ金額 乙 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也

大正 年 月 日 甲 某

ト自己ノ氏名又ハ商號ヲ記入スヘシ、此ノ記入ヲ爲シタルトキハ最早白地裏書ニ非ラサルヲ以テ其ノ記入ヲ爲シタル者即チ前例ノ乙ニ非ラサレハ所持人タルノ權利ヲ行フコトヲ得ス又タ其後チ之ヲ他人ニ讓渡スニハ更ニ記名裏書又ハ白地裏書ヲ爲ササル可カラサルニ至リ盜難、紛失等ノ場合ニ於テ其ノ盜取者又ハ拾取者ニ於テ所持人トシテ權利ヲ行ヒ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得サルニ至ル、故ニ白地裏書ニ依リテ讓受ケタル者又ハ其後ノ交付ニ依リテ手形ヲ所持スル者ヲシテ自己ヲ被裏書人トシテ記入セシムルヲ許スノ必要アリ、是レ本條ニ於テ『裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得』ト規定セル所以ナリ、故ニ白地

裏書ニ依リテ手形ヲ取得シタル者又ハ其者ヨリ交付ニ因リテ手形ヲ取得シタル者ハ自己ヲ被裏書人トシテ其ノ手形ニ記入スルコトヲ得ヘク、而シテ其ノ記入ヲ爲シタルトキハ爾後記名裏書又ハ白地裏書ヲ爲スニ非ラサレハ(第四五七條第三ノ五、六ノ記載例參看)之ヲ讓渡スコトヲ得サルモノナリ(二)本條ニ依リテ手形ノ所持人カ自己ヲ被裏書人トシテ手形ニ記入スルトキハ其ノ裏書ハ恰モ記名裏書ノ觀ヲ有ス、而シテ記名裏書ハ第四百五十七條ニ依リテ裏書ノ年月日ヲ記載スルヲ以テ要件トスルヲ以テ本條ニ依リテ所持人カ自己ヲ被裏書人トシテ記入スルニモ之ト共ニ其ノ年月日ノ記入ヲ爲スコトヲ要スルモノノ如シ、然レトモ判例ハ之ヲ要セサルモノトセリ、曰ク

商法第四百六十一條ニ從ヒ無記名裏書アル手形ノ所持人カ自己ヲ其被裏書人ト爲スニ付年月日ノ記載ヲ要セサルハ之ヲ要求セサル法文上明白ニシテ他ニ之ヲ必要トスルノ理由モ存セサルナリ、手形ノ記名裏書カ普通ノ方式トシテ年月日ノ記載ヲ要件トスルコトハ以テ反對ノ解釋ヲ容ルルノ理由ト爲スニ足ラス、何トナレハ白地裏書ニ所持人ノ氏名ヲ記入シテ記名裏書ト爲スハ自ラ別種ノ場合ニ屬スルカ故ニ彼場合ノ要件ハ此場合ニ於テモ要件ナリト論スルヲ得サレハナリ(明治四十年才第百三十七號、同年十一月七日大審院判決)

故ニ此ノ判例ノ趣旨ニ依レハ全ク自己ノ氏名又ハ商號ノミヲ記スルヲ以テ足ルヘシ(三)本條ハ裏書人カ其ノ署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタル場合ニ所持人ハ自己ヲ被裏書人トシテ記載スルコトヲ得ルコトヲ規定シタルモ必ラス被裏書人トシテ記入スルコトヲ命セルモノニ非ラス、故ニ所持人ハ必シモ之ニ被裏書人トシテ記入スルコトヲ要セス、之カ記入ヲ爲ササルモ所持人タルノ權利ヲ行フコトヲ得ヘク、又ハ之ヲ交付シテ讓渡ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論、猶ホ記入ヲ爲サスシテ更ニ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘシ、而シテ其ノ裏書アルトキハ第四百六十四條第一項ノ但書ニ依リテ裏書ノ連續アルモノト看做サルルモノトス(同條ノ說明參看)判例ニ曰ク

商法第四百六十一條ニ依レハ署名ノミヲ以テ爲シタル裏書即チ白地裏書ニ依リテ約束手形ヲ取得シタル者ハ自己ヲ被裏書人ト爲スコトヲ得ルモ必スシモ之ヲ必要トスルニアラス、次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ該手形ヲ取得シタルモノト看做スヘキハ同第四百六十四條但書ニ規定スル所ニシテ是レ同條本文ノ例外ヲ揭ケタルモノトス蓋シ裏書ノ連續ヲ必要トスル所以ハ手形ノミニ依リテ形式上正當ノ所持人ナル否ヲ識別スルニ在リ然ルニ白地裏書ノ場合ニ於テハ次ノ裏書人ハ其ノ裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト看做サルルヲ以テ手形ノミニ依リテ形式上正當ノ所持人ナル否ハ一瞥直ニ認識セラルヘキヲ以テ殊更ニ被裏書人トシテ記入スルノ方法ヲ爲スヲ要セサル趣意ナルヲ明カナリ(明治三十四年才第四百八六號、原告福岡平左衛門對被告田中瀧雄約束手形金請求事件、東京地方裁判所判決)

之ヲ要スルニ本條ノ趣旨ハ白地裏書アル爲替手形ノ所持人ハ自己ヲ被裏書人トシテ之ニ記入スルコトヲ得ヘク、之ヲ記入シタルトキハ爾後裏書ヲ爲スニ非ラサレハ之ヲ讓渡スコトヲ得サルニ在リ、然レトモ所持人ハ必シモ之ニ被裏書人トシテ記入セサルモ所持人タルノ權利ヲ行フコトヲ得ヘク、又タ之ヲ交付シテ他人ニ讓渡スコトヲ得ヘク、猶ホ之ニ裏書シテ他人ニ讓渡スコトヲ得ヘシ、唯タ一度ヒ本條ノ規定ニ依リテ被裏書人トシテ記入シタル後ハ最早ヤ自己カ裏書ヲ爲スニ非サレハ讓渡スコトヲ得サルモノニシテ盜難、紛失等ノ危險ヲ防クコトヲ得ヘキモノナリ(四)然レトモ所持人ハ本條ノ規定ニ依リ自己ヲ被裏書人トシテ記入セサルトキハ何等ノ記載ヲモ爲サス手形ノ交付ノミヲ以テ之ヲ讓渡スコトヲ得ルニ依リ交付ノミヲ以テ讓渡ヲ爲シタルトキハ自己ハ手形面ニ其ノ讓渡ヲ爲シタル者ナルコト即チ裏書人トシテ記載ナキニ因リ爾後ノ所持人ニ對シテ裏書人トシテノ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ヘシ、例之ハ甲カ左ノ如ク白地裏書ヲ爲シ

表面ノ金額 殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也
大正 年 月 日 甲 某

之ヲ乙ニ讓渡シタル場合ニ乙カ之レニ何等ノ記入ヲモ爲サス之ヲ丙ニ交付シテ讓渡ヲ爲シ丙モ亦
タ其儘之ヲ丁ニ交付シテ讓渡ヲ爲シタルトキハ此ノ手形面ハ乙丙ハ裏書人トシテ存セサルカ故ニ
所持人丁ニ對シテハ裏書人タル手形上ノ責任ヲ負ハサルカ如シ、而シテ本條ノ規定ハ約束手形及
ヒ小切手ニ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百六十二條

支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタ
ルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ
其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ
本條ニ於テハ支拂拒絶證書作成ノ期間ヲ經過シタル後ノ裏書及ヒ其ノ效果ヲ規定セリ、之ヲ分說
スレハ左ノ如シ

第一 期間經過後ノ裏書

(一)是レ舊商法ニ滿期後ノ裏書ト稱シタルモノナリト雖モ假令ヒ
滿期日ヲ經過スルモ支拂拒絶證書作成ノ期日ヲ經過セサル間ハ支拂拒絶證書ヲ作り通知ヲ爲シテ
償還請求ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ滿期後ノ裏書ト雖モ滿期前ノ裏書ト效力ニ於テ異ナルコトナ
シ、唯々支拂拒絶證書作成ノ期間ヲ經過シタル後ハ最早ヤ支拂拒絶證書ヲ作ルコトヲ得スシテ償
還請求ヲ爲スコトヲ得サルカ故ニ支拂拒絶證書作成ノ期間ヲ經過シタル後ノ裏書ニ於テ始メテ其
ノ效力ニ差アリ、故ニ本條ニ於テ舊商法ノ滿期後ノ裏書ヲ改メテ支拂拒絶證書作成ノ期間ヲ經過
シタル後ノ裏書トセリ(二)支拂拒絶證書作成ノ期間ヲ經過スルトキハ最早ヤ其ノ拒絶證書ヲ作
ルコトヲ得サルカ故ニ此ノ期間ヲ徒過スルトキハ償還請求ヲ爲スコトヲ得スト雖モ(第四八七條
ノ說明參看)支拂人ニ對シ猶ホ支拂ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ支拂拒絶證書作成期間經過後

ノ裏書ト雖モ之ヲ禁スヘキ理由ナシ、是レ先ツ右期間經過後ノ裏書アル所以ナリ

第二 被裏書人ノ取得ノ權利

(一)然レハ支拂拒絶證書作成ノ期間經過後ノ裏書ニ依リテ手
形ヲ讓受ケタル被裏書人ハ如何ナル權利ヲ取得スヘキカ、支拂拒絶證書作成ノ期間ヲ徒過スルト
キハ最早ヤ支拂拒絶證書ヲ作ルコトヲ得スシテ從テ償還請求ノ權利ヲ失フカ故ニ此ノ期間後裏書
ノ手形ニ依リテ手形ヲ取得シタル被裏書人モ亦タ償還請求ノ權利ヲ取得スルコトヲ得サルハ勿論
ニシテ、唯々裏書人カ有シタル支拂人ニ對シテ支拂ヲ請求スル權利ノミヲ取得スヘキモ勿論ナリ
是レ本條ニ於テ『被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス』ト規定セル所以ナリ、故ニ判
例ニ曰ク

然レトモ手形債務者カ手形所持人ニ對シ滿期日前ニ手形ノ交付ヲ受ケシテ手形金ノ支拂ヲ爲スモ其直接ノ當事者間ニ在テ
ハ支拂ノ效力ヲ生シ債務ノ消滅スヘキハ勿論ニシテ此點ニ關シテハ毫モ手形債務ト通常債務トノ間ニ何等ノ區別アルコトナ
シ、而シテ原院ニ於テ確定セル所ニ依レハ上告人ハ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書讓受人ナルカ故ニ商法第四百六十二
條ノ規定ニ依リ裏書人ナル甲者ノ有セシ權利ノ外何等手形上ノ權利ヲ取得スヘキニ非ス、而シテ被上告人ハ明治三十七年二
月二十日甲者ニ對シ手形金ヲ支拂ヒタルモノナレハ甲者ハ最早被上告人ニ對シ支拂ヲ求ムル權利ヲ有セス、從テ上告人モ斯
ル權利ヲ取得セサルモノナルコト今更言テ俟ツヘキニ非ス(明治三十九年オ第九十號、同年五月十五日大審院判決)

即チ裏書人カ手形金ノ支拂ヲ請求シ得サル者ナルトキハ被裏書人モ亦タ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得
サルモノトセリ(二)但シ裏書人カ拒絶證書作成ノ期間内ニ適法ニ拒絶證書ヲ作り且ツ償還請求
ノ通知ヲ爲シ償還請求ノ權利ヲ保全シ置キ而シテ後チ期間經過後ニ裏書ヲ爲シタル場合ハ既ニ裏
書人ニ於テ償還請求權ヲ保全シアルヲ以テ其後ニ裏書ニ依リ讓受ケタル被裏書人モ亦タ償還請求
權ヲ有スヘシ、而シテ是レ亦タ本條ニ所謂ル『裏書人ノ有セシ權利ヲ取得ス』ト謂ヘル中ニ包含

スヘシ、判例ニ曰ク

按スルニ原院モ敢テ否定セザリシカ如ク本件手形カ満期日ニ於テ振出人ニ呈示セラレタルノ事實アルコト甲第一號證ノ附箋ニ依リ認メ得ヘキ以上ハ其呈示ヲ爲セシモノハ満期日ニ於ケル手形所持人タル堀内井上銀行ナリト云フヘキハ當然ノ事理ニシテ特ニ立證ノ要ナシ、而シテ同銀行カ満期日ノ翌日手形ノ受取人タル被上告人ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ爲シタルコトハ原判決ノ確定シタル所ナリ、然レハ上告人カ本件手形ヲ讓受ケタルハ拒絕證書ノ作成ノ期間經過ノ後ニ在リト雖モ被上告人ニ對シテ償還請求權ヲ有スルコトハ論テ俟タス(明治四十五年才第二百五十九號、大正元年十二月十七日大審院判決)

即チ裏書人カ呈示ヲ爲シ及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シ置キタルトキハ拒絕證書作成ノ期間經過後ニ被裏書人ト爲リタル者モ亦タ償還請求權ヲ有ストセルヲ見ルヘシ(三)支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後チ所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタリシ權利ノミヲ取得スルカ故ニ判例ハ其ノ裏書人ノ前者カ裏書人ニ對シテ對抗シ得ヘカリシ事由ハ被裏書人ニ對シテモ之ヲ以テ對抗シ得ヘキモノトセリ、曰ク

裏書カ支拂拒絕證書作成ノ期間經過後ニ爲サレタル場合ニハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得スルニ過キス從テ手形債務者ハ手形ニ記載シアラサル事項ト雖モ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ハ之ヲ被裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノトス(中略)商法第四百六十二條モ亦此條理ヲ明文ニ顯ハシタルニ過キス故ニ支拂拒絕證書作成期日經過後ノ裏書ノ場合ニ於テハ手形債務者ハ被裏書人ヲ裏書人ト同視シ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ハ總テ被裏書人ニ對抗シ得ルモノト謂ハサルヲ得ス、而シテ裏書人ニ對抗シ得ヘカリシ事由ハ債務者カ裏書人ノ請求權ヲ殺滅若クハ消滅セシメ得ヘキ一切ノ事由ヲ指スモノナレハ債務者カ裏書人ニ對シテ相殺ニ適シタル債權ヲ有スル事實ハ裏書人ニ對抗シ得ヘキ事由ニシテ之ヲ被裏書人ニ對抗シ得ルニハ必スシモ裏書人ニ對シ相殺ノ意思表示ヲ爲シタルコトヲ要スルモノニ非サルコトハ商法第四百四十條ノ規定ニ因リ明認セラレルモノトス(明治三十八年才第九十九號、同年五月十三日大審院判決)

以テ判例ノ解スル所ヲ見ルヘシ

第三 裏書人ノ責任

(一)支拂拒絕證書作成ノ期間經過後ニ裏書ヲ爲シタルトキハ裏書人ハ如何ナル責任ヲ有スヘキカ、支拂拒絕證書作成ノ期間ヲ徒過スルトキハ償還請求ノ權利ヲ失フカ故ニ此後ニ於テ裏書ニ依リテ讓受ケタル被裏書人モ亦タ償還請求權ナキコト前述ノ如クニシテ而シテ之ヲ甘シテ讓受ケタル被裏書人ハ裏書人ニ對シ手形上ノ權利ヲ有セス、從テ裏書人ハ被裏書人ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ、是レ本條後段ニ於テ「此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ」ト規定セル所以ナリ(二)但シ前項後段ニ說明セル如ク裏書人カ拒絕證書作成ノ期間内ニ之ヲ作り且ツ償還請求ノ通知ヲ爲シ償還請求ノ權利ヲ保全シ置キ而シテ後チ期間後ニ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有セシ償還請求權ヲモ取得セルカ故ニ裏書人ニ對シテ償還請求ノ權利ヲ有スルカ如シト雖モ此ノ場合ニハ裏書人ノ保全シ置キタル償還請求權ヲ取得シタルモノナルカ故ニ裏書人ヲ除キタル前者ニ對シテハ請求權ヲ有スヘシト雖モ裏書人ニ對シテハ其ノ權利ヲ有セサルヘシ、而シテ此ノ場合モ亦タ本條後段ノ「其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ」ト謂ヘルニ包含スヘシ、本條ノ規定ハ猶ホ約束手形及ヒ小切手ニ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百六十三條

所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ取立ヲ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス(同上ヲ以テ)

前項ノ場合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得

(參照) 前商法

第四百六十三條(第一項) 所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ取立ヲ爲シ又ハ其取立ノ委任ヲ爲スコトヲ得此場合

第四編 手形 第二章 爲替手形 第二節 裏書 (第四六三條) 一四〇三

ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス

本條ニ於テハ爲替手形ノ委任裏書ヲ規定シ其ノ要件ヲ定メタリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 委任裏書ノ要件 (一)抑モ裏書ハ通例讓渡ノ爲メニ爲スモノナリト雖モ亦タ手形金額ノ取立ノ委任ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ、例之ハ甲ナル手形ノ受取人其ノ手形金額ヲ受取ル爲メ之ニ裏書シテ乙ニ交付シ乙ヲシテ其ノ手形金額ヲ支拂人ヨリ取立テシムルカ如シ、故ニ取立委任ノ裏書ハ恰モ債權證書ニ委任狀ヲ附記スルカ如キモノナリ、是レ本條第一項ニ於テ『所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ取立ヲ委任スルコトヲ得』ト規定セル所以ニシテ、前ニ裏書ハ其ノ目的ヨリ之ヲ區別スレハ讓渡裏書、委任裏書ノ二種アリト説明セル所以ナリ(第四五五條ノ說明參看)(二)然レトモ裏書ハ通例讓渡ノ爲メニ爲スモノナルヲ以テ之ニ反シテ取立ノ委任ノ爲メニ裏書ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ目的ヲ記載スルニ非ラサレハ讓渡裏書ト區別スルヲ得サルヲ以テ委任裏書ニハ必ラス其ノ目的ヲ附記スルヲ以テ要件トス、即チ本條第一項後段ニ於テ『此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス』トセルモノ是レナリ(三)右ノ如ク委任裏書ハ其ノ目的ヲ附記スルコトヲ要スルヲ以テ若シ裏書ニ其ノ目的ヲ附記セサルトキハ之ヲ讓渡裏書ト看做スヘク、從テ善意ノ第三者ニ對シテハ讓渡裏書ノ效力ヲ生スヘシ、何トナレハ被裏書人ニ對シテハ固ヨリ委任裏書ノ效力ヲ生スルニ過キスト雖モ善意ナル第三者ハ目的ノ附記ナキヲ以テ通例ノ裏書即チ讓渡裏書ト信スヘケレハナリ、故ニ判例ニ曰ク

手形ノ所持人カ取立委任ノ裏書ヲ爲シタル場合ニ於テ手形ニ其目的ヲ附記セス所謂信託的讓渡裏書ヲ爲シタルトキハ當事者ノ意思ハ被裏書人ノ名ニ於テ裏書人ノ爲メニ手形上ノ權利ヲ行使セシムルニ在ルヲ以テ當事者間ニ於テ取立委任ノ效力ヲ生

スルト同時ニ第三者ニ對スル關係ニ於テハ手形權利移轉ノ效力ヲ生シ被裏書人カ手形上ノ權利者ト爲リ裏書人ハ第三者ニ對シテ其權利ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス(大正三年才第五十六號、同年五月一日大審院判決)

署名ノミナリテ裏書ヲ爲シタル手形ハ爾後引渡ノミニ依テ之ヲ讓渡スコトヲ得ルハ商法第四百五十七條第二項ニ規定スル所ナレハ右手形ノ所持人カ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ即チ讓渡ノ效力ヲ發生セシムルノ意思ヲ表示シタルモノニシテ其實取立委任ノ目的ニ出テタリトスルモ是レ唯當事者間ニ或種ノ關係ヲ生スルニ止マリ法律上有效ナル讓渡ノ成立ヲ妨グヘキニ非ス

即チ皆ナ目的ノ附記ナキモノヲ以テ之ヲ讓渡裏書トセリ(四)前商法ノ本條ニ於テハ『所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ質入ヲ爲シ又ハ取立ノ委任ヲ爲スコトヲ得』トアリテ取立委任ノ外ニ質入裏書ヲ認メタリ、然レトモ本法ニ於テハ取立委任ノミヲ存シテ質入裏書ヲ削除セリ、議會ニ於ケル政府委員ノ説明ニ曰ク

第四百六十三條是ハ手形ノ質入ト云フコトヲ省ク爲メノ修正ナリ、手形カ質入ノ爲メ裏書ニ依テ轉轉シテ行クハ實際甚タ少ナシ、又タ質入裏書ヲ爲シ其手形ヲ渡セハ其手形ハ質取立即チ所持人ノ手中ニ移リ所持人カ更ニ又タ裏書ヲ爲シテ知ラサル人ノ手ニ移ルト云フコトハ行ヒ得メ話ナリト云フ所ヨリ寧口之ハ削除シ手形ノ質入ハ止メル譯ト爲レリ、其結果ハ民法ノ指圖書券ノ質入裏書ト云フコトノミ殘ル譯ト爲レリ(明治四十四年一月二十七日貴族院商法改正案特別委員會議事速記錄參看)

即チ之ニ依リテ本法ニ於テハ質入裏書ナルモノハ之ヲ認メサルニ至レリ

第二 委任裏書ノ效果 (一)委任裏書アルトキハ被裏書人ハ裏書人ニ代ハリ手形上ノ權利ヲ行フ代理人ト爲レルモノナルヲ以テ引受又ハ支拂ノ請求、拒絕證書ノ作成、擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキハ言フ俟タス(二)又タ被裏書人ニ於テ自ラ右ノ行爲ヲ爲スコトヲ欲セサルトキハ更ニ委任裏書ヲ爲シテ他人ヲシテ代理權ヲ行ハシムルコトヲ得、本條第二項ニ『前項ノ場

合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得』トアル是レナリ、故ニ委任裏書ノ被裏書人ハ更ニ取立委任ノ爲メ裏書ヲ爲スコトヲ得、然レトモ被裏書人ハ元來取立委任ノ爲メ被裏書人ト爲リタル者ナレハ取立委任ノ目的ノ外他ノ目的ヲ以テ裏書ヲ爲スコトヲ得ス、是レ本條第二項ニ『同一ノ目的ヲ以テ』ト規定シタル所以ナリ(三) 委任裏書ニ依リテ被裏書人ト爲リタル者カ更ニ同一ノ目的ヲ以テ裏書ヲ爲ス場合ニ於テハ裏書ニ其ノ目的ヲ附記スルコトヲ要スルヤ否ヤ、委任裏書ニ依リテ被裏書人ト爲リタル者ハ取立ニ關スル權限ノミヲ有スル者ナルヲ以テ讓渡ノ裏書ヲ爲スコトヲ得ス、從テ委任ノ目的ヲ附記セスト雖モ其者ノ爲シタル裏書ハ委任裏書ニシテ讓渡裏書ニ非ラスト解釋スルコトヲ得ヘクシテ必シモ之ヲ無効トスヘキ限リニ在ラスト雖モ爭ヲ避クルカ爲メニハ同ク目的ヲ附記スヘシ(四) 所持人カ本條第一項ニ依リ取立委任ノ目的ヲ附記シテ委任裏書ヲ爲シタルトキハ別ニ讓渡裏書ヲ爲スコトヲ得サルカ、例之ハ甲カ乙ヲ被裏書人トシ委任裏書ヲ爲シタルトキハ更ニ丙ヲ被裏書人トシテ之ニ讓渡ノ裏書ヲ爲スコトヲ得サルカ、委任裏書ト雖モ手形ノ交付ヲ爲スコトヲ要スルカ故ニ手形ヲ恢復シタル上ニ非ラサレハ更ニ讓渡裏書ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナリト雖モ委任裏書ト讓渡裏書トハ其ノ目的異ニシテ各別個ノモノナルカ故ニ委任裏書ノ被裏書人ヨリ手形ヲ回收シタル以上ハ更ニ之ニ讓渡裏書ヲ爲スコトヲ妨ケス、判例ニ曰ク

取立委任ノ裏書ハ手形ノ讓渡ニ非サルヲ以テ其被裏書人ハ取立委任ノ裏書ヲ除ク外裏書ヲ爲スコトヲ得ス(商法第四百六十三條參照) 是故ニ株式會社乙銀行ハ株式會社甲銀行ニ對シテ取立委任ノ裏書ヲ爲シタルトテ其手形債權者タルコトハ依然トシテ毫モ權利ヲ減損セラレサルヲ以テ何時ニテモ手形ヲ回收シテ裏書讓渡ヲ爲スヲ得タル地位ニ在リシモノト謂ハサルヲ得

ス、然レハ則チ株式會社甲銀行カ株式會社乙銀行ニ對シテ爲シタル裏書讓渡ハ其有セサル權利ヲ讓渡セント欲スル行爲ナレハ全然無効ナルコト固ヨリ論ヲ待タスト雖モ之カ爲メニ株式會社乙銀行カ被上告人ニ對シテ爲シタル裏書ノ無効ニ歸スル理アルヘカラス、何トナレハ株式會社乙銀行ノ手形債權ハ株式會社甲銀行ノ裏書ニ因テ取得シタルモノニ非サレハナリ蓋シ本件ハ委任裏書ノ被裏書人タル甲銀行カ逆裏書ヲ爲シテ手形ヲ委任者即チ裏書人ナル乙銀行ニ返還シ乙銀行ハ更ニ之ヲ讓渡裏書ヲ爲シテ被上告人ニ讓渡シタルモノナルヘク、而シテ判決ハ甲銀行ノ逆裏書ハ無効ナルモ乙銀行ノ被上告人ニ對スル讓渡裏書ハ無効ニ非ラストセルモノノ如シ、而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニ準用スルモノナリ(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百六十四條

裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書力連續スルニ非サレハ其權利ヲ行フコトヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス抹消シタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其記載ナキモノト看做ス(同條ヲ以テ)

本條ニ於テハ裏書アル爲替手形ノ所持人カ其ノ權利ヲ行フニハ裏書ノ連續アルコトヲ要スルコトヲ規定セリ、而シテ本條ハ手形法上殊ニ裏書ニ付テ重要ノ規定ナリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 記名裏書ノ連續(本條第一項本文)

(一) 記名裏書アル手形ノ所持人カ其ノ權利ヲ行フニハ最初ノ裏書ヨリ自己カ被裏書人ト爲リタルマテ裏書ノ連續アルコトヲ必要トス、之ヲ『裏書ノ連續』ト謂フ、例之ハ甲カ手形ニ裏書シテ之ヲ乙ニ讓渡シ、乙モ之ニ裏書シテ之ヲ丙ニ移シ、丙モ亦々裏書シテ之ヲ丁ニ、丁モ同ク裏書シテ之ヲ戊ニ與ヘタルカ如シ、即チ此ノ場合ニハ最初

ノ裏書人タル甲ヨリ最後ノ所持人タル戊マテ裏書ハ連續シ即チ裏書ノ連續アルナリ、然ルニ之レニ反シ甲ハ裏書シテ之ヲ乙ニ讓渡シタルニ乙内共ニ裏書ヲ爲サシテ丁ニ至リ裏書シテ之ヲ戊ニ讓渡シタルトキハ是レ乙ヨリ丁ニ至ルマテノ間ニ裏書ナキモノニシテ即チ此間ノ連續ヲ缺クモノナリ、蓋シ此例ニ於テ乙ヨリ丁ニ至ルマテノ間裏書ノ連續ナキニ拘ハラズ丁カ手形ヲ所持シタルハ是レ正當ニ手形ヲ取得シタルモノニ非ラスシテ或ハ盜取ニ因リタルモ知ル可カラス、何トナレハ正當ニ之ヲ取得シタルモノトセハ乙ヨリ丁ニ至ル間ニ於テモ順次裏書ノ連續アルヘキ筈ナレハナリ、故ニ裏書アル手形ノ所持人カ正當ナル所持人トシテ其ノ權利ヲ行フニハ必ラス第一ノ裏書ヨリ自己ニ至ルマテ裏書ノ連續アルコトヲ必要トシ、若シ其ノ連續ヲ缺クトキハ所持人ハ其ノ權利ヲ行フコトヲ得サルモノトス、是レ先ツ第一項ニ於テ「裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其ノ裏書カ連續スルニ非サレハ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス」ト規定セル所以ナリ(一) 然レハ右ノ如キ數個ノ裏書中ニ於テ偽造若クハ沒收セラレタル裏書アリタルトキハ如何、此ノ場合ニモ猶ホ裏書ノ連續アリトスヘキカ如何、判例ハ二者ノ場合共ニ連續アルモノトセリ、曰ク

現ニ裏書ノ存スル以上ハ假令其ノ裏書カ偽造ニ係ルモノナレハトテ裏書ナキモノト爲スコカラス、故ニ本訴約束手形ニ某カ滿韓鹽業株式會社ノ取締役トシテ爲シタル裏書ハ同人カ其資格ヲ冒用シテ爲シタルモノナルニセヨ之ヲ無視シテ裏書ノ連續ヲ缺クモノト謂フヲ得サレハ原院カ假リニ該裏書ヲ偽造ニ係ルモノトスルモ裏書ノ連續ヲ缺ク所ナキ旨判示シテ上告人ノ抗辯ヲ排斥シ該裏書カ果シテ偽造ニ係ルモノナルヤ否ヤナ判定セザリシトテ上告人所論ノ如キ不法アルモノニ非ス(大正二年十月十日大審院判決)

銀行ノ取締役カ其地位ヲ濫用シ不正ニ利益ヲ得ルカ爲ニ爲シタル裏書ニ付キ偽造罪トシテ處罰ヲ受ケタルト否トハ毫モ本人タル會社ノ責任ニ消長ヲ來スモノニ非サルカ故ニ假令文書偽造罪ニ處セラレタル結果トシテ其裏書ノ部分カ沒收セラレルコト

トアルモ(中略)手形所持人ノ權利ニ對シ何等ノ消長ヲ及ホスモノニ非ラサルヤ明カナリ(明治三十九年第十九號、同年三月二十日大審院判決)

即チ前者ノ判例ハ裏書カ偽造ナル場合ト雖モ裏書ノ連續ニ缺クル所ナシトセルモノニシテ後ノ判例ハ裏書ノ連續ニ關スルモノニ非ラスト雖モ裏書部分ニ沒收處分アルモ所持人ノ權利ニ消長ヲ來スモノニ非ラストセルヲ見ルヘシ(三) 然レハ又多數個ノ裏書中ニ不適法ニシテ無効ノモノアリタルトキハ如何、此ノ點ニ付テハ東京控訴院ト大審院ト反對ノ判決ヲ爲シタルコトアリ、東京控訴院ニ於テハ數個ノ裏書中ニ無効ナルモノアルトキハ其後ノ所持人ニハ裏書ノ連續ナシトシ(明治三十三年第八〇二號判決) 大審院ニ於テハ同伴ノ上告事件ニ於テ無効ノ裏書ハ始メヨリ裏書ナキト同一ナリトセリ、大審院ノ判決理由ヲ示セハ左ノ如シ

上告人カ本訴ニ於テ其支拂ヲ請求スル約束手形ノ裏書ヲ閱スルニ第一ノ裏書人ハ田邊榮三郎ニシテ被裏書人ハ株式會社實業貯金銀行ナリ、其ノ第二ノ裏書人ハ株式會社實業貯金銀行ニシテ被裏書人ハ第百銀行通旅籠町支店ナリ、其ノ第三ノ裏書人ハ第百銀行通旅籠町支店ニシテ被裏書人ハ第百銀行ナリ、其ノ第四ノ裏書人ハ第百銀行ニシテ被裏書人ハ第百銀行通旅籠町支店ナリ、其ノ第五ノ裏書人ハ第百銀行通旅籠町支店ニシテ被裏書人ハ株式會社實業貯金銀行即チ其所持人タル上告人ナリ、由之觀之トキハ一見第百銀行通旅籠町支店ナルモノヲ以テ人格アルモノトシ其被裏書人ト爲シ又ハ裏書人ト爲シタルモノ、如キ外觀ナキニ非ラスト雖モ前ニ說明セシ如ク法律上支店ハ法人ノ營業所ナルカ故ニ第百銀行通旅籠町支店ナル記載ハ同支店ニ在テ商行為ヲ爲ス所ノ第百銀行ヲ指示シタルモノニ外ナラス、而シテ其第三、第四ノ裏書ハ始メヨリ記載ナキモノト同一ナルヲ以テ本件係争ノ手形ハ第二ノ裏書人タル株式會社實業貯金銀行ノ讓渡ニ依リ第百銀行カ之ヲ讓受ケ又々其第五ノ裏書ニ依リ引續キ同銀行カ再ヒ株式會社實業貯金銀行ニ讓渡シタルモノニシテ其裏書ハ法律上全ク連續シタルモノト爲スヘキモノナルカ故ニ本案所争ノ手形所持人タル上告人ハ商法第四百六十四條ノ規定ニ違背シタルモノト謂フヲ得サルモノトス云々

(明治三十四年才第百五十九號、上告人株式會社實業貯金銀行對被上告人葉抱利十郎約束手形金請求事件、同年七月四日大審院判決)

更ラニ其後大審院ノ判決スル所ニ依レハ左ノ如シ

上告論旨ハ本件手形ハ上告人ニ於テ署名ノミニ依レル裏書ヲ爲シタリト爲スモ其後訴外乙丙ノ各記名裏書ヲ經テ被上告人カ取得シタルモノニシテ其乙丙ノ裏書タルヤ無効ノ裏書ニシテ連續ヲ缺クモノナルカ故ニ被上告人ハ本件手形ノ所持人トシテ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得サルモノナルニ原院ハ(中略)無効ノ裏書ハ即チ裏書ノ存在セザルト同一ニ歸シ隨テ連續ノ有無ノ問題ヲ生セスト判示シタルハ裏書連續ノ本義ヲ誤解シタル不法アリト謂フニ在リ、然レトモ原院ノ認メタル事實ニ依レハ本件手形ハ上告人ノ前者甲ヨリ其署名ノミニ依レル裏書ニ因リ上告人ノ取得シ、上告人モ亦同様署名ノミニ裏書ヲ以テ其後者ニ流通セシメタルモノナレハ其後幾人ノ手ヲ轉讓シ其人カ署名セザル場合ニ在テモ尙ホ最後ノ所持人タル被上告人ハ自己ヲ被裏書人ト爲スコトヲ得ヘキハ法規上一疑ナキ所ナリ、而シテ上告人ヨリ手形ヲ取得シタル訴外乙丙ニ於テ事實上轉讓ノ媒介者ナリトスルモ其裏書カ法律上無効ナル以上ハ其記載ハ空白ト異ナルコトナキヲ以テ被上告人カ自己ヲ被裏書人ト爲シタル場合ニ在テハ上告人カ直接ノ前者タルヘキハ當然ニシテ此間裏書連續ノ問題ヲ生スヘキニ非ス(明治四十一年才第四百十五號、同年十一月七日大審院判決)

故ニ此ノ判例ニ徴スルモ大審院ノ意見ハ無効ナル裏書ハ之ヲ裏書ノ空白ト同視スヘキモノトセルヲ見ルヘシ、但シ之ヲ空白ト同視シ總テ記載ナキモノトスルモ裏書連續ノ形式上其ノ結果ハ場合ニ因リテ同シカラス、例之ハ甲ヨリ乙ニ、乙ヨリ丙ニ、丙ヨリ丁、丁ヨリ戊ニ裏書アリタル場合ニ於テ其ノ裏書カ總テ記名裏書ナルトキ乙、丙ノ裏書カ無効ニシテ空白ト同視スヘキモノトセハ即チ乙、丙ノ裏書ナキモノニシテ甲、丁間ノ裏書ハ連續セザルヘシ、之ニ反シテ甲カ白地裏書ヲ爲シテ乙ニ讓渡シ、乙ハ記名裏書ヲ爲シテ丙ニ、丙モ亦タ記名裏書ヲ爲シテ丁ニ、丁ハ記名又ハ白地裏書ヲ爲シテ戊ニ讓渡シタル場合ニ於テ乙、丙ノ記名裏書カ無効ニシテ記載ナキト同一ナルト

キハ甲ト丁ノ裏書ノ間ニハ裏書ノ連續ナキカ如シト雖モ甲ノ裏書ハ白地裏書ナルヲ以テ乙、丙ノ裏書カ無キモノト爲ルトキハ丁ハ直接ニ甲ヨリ手形ヲ取得シ之レヲ戊ニ裏書シタルモノト爲リテ甲、丁間ニ裏書ノ連續ヲ必要トセザルニ至ルカ如シ(四)而シテ以上裏書ノ連續アルヲ要スルコトハ單ニ讓渡裏書ノミニ限ラス取立委任ノ爲メノ裏書ニ於テモ亦タ同一ナリ

第二 白地裏書ノ連續(本條第一項但書)

(一)右ニ説明シタル所ハ記名裏書ノ場合ナレトモ署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキ即チ白地裏書ノ場合ニ於テハ之ニ異ナルモノアリ、抑モ署名

ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキ即チ白地裏書ノ場合ニ於テハ爾後裏書ヲ要セス爲替手形ノ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ルカ故ニ(第四五七條ノ說明參看)記名裏書ノ場合ノ如ク裏書ノ連續ヲ保ツコト能ハサルヘシ、例之ハ甲カ手形ニ白地裏書ヲ爲シテ之ヲ乙ニ讓渡シ、乙ハ其ノ手形ノ交付ノミヲ以テ之ヲ丙ニ讓渡シ(白地裏書アルトキハ交付ノミヲ以テ讓渡スコトヲ得ルカ故ニ)丙モ亦タ之ヲ丁ニ交付シテ讓渡シ、而シテ丁ハ之ニ裏書シテ戊ニ讓渡シタルカ如シ(白地裏書アル場合ニ交付ノミヲ以テ讓受ケタル者ハ自己ヲ被裏書人トシテ記入セザルモ更ニ之ニ裏書ヲ爲シテ讓渡スコトヲ得ルカ故ニ)此ノ場合ニ於テ甲ノ爲シタル裏書ト丁ノ爲シタル裏書トハ連續ナシ何トナレハ甲ト丁トノ間ニ於ケル乙及ヒ丙ノ讓渡ハ交付ノミヲ以テ爲シタルモノニシテ裏書ヲ爲シタルモノニ非ラサレハナリ、故ニ若シ之ヲ本條本文ノ規定ヨリ見レハ裏書ノ連續アラサルヲ以テ所持人タル戊ハ所持人タルノ權利ヲ行フコトヲ得サルニ至ルヘシ、然ルニ白地裏書即チ署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタル場合ニ於テハ爾後手形ノ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ルカ故ニ引渡ノミヲ以テ讓渡シタルトキハ裏書ナキハ當然ニシテ從テ裏書ノ連續ナキモ亦タ當然ノ結果ナ

リ、是ニ於テカ本條但書ニ於テ例外ヲ設ケ「署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス」ト規定セリ、故ニ例之ハ前例ノ乙ト丙トノ間ニハ裏書ナシト雖モ次ノ裏書人即チ丁ハ自己ノ爲シタル裏書アルニ依リテ手形ヲ正當ニ取得シタルモノト看做サレ即チ法律ノ作用ニ因リテ裏書ノ連續アルモノトシテ從テ丁ヨリ裏書ニ依リテ手形ヲ取得シタル戊ハ所持人トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘシ、是レ第一項但書アル所以ナリ、故ニ白地裏書アル手形ヲ交付ニ因リテ取得シタル者例之ハ前例ノ丁ハ第四百六十一條ニ依リ自己ヲ被裏書人トシテ記入セサルモ更ニ之ニ裏書ヲ爲シテ讓渡スコトヲ得ヘク、而シテ其ノ被裏書人即チ前例ノ戊ハ丁ノ裏書アルニ依リテ裏書ノ連續アルモノトシテ所持人タル權利ヲ行フコトヲ得ヘシ、是レ判例ニ於テモ既ニ認ムル所ナリ(第四六一條ノ判例參看)(二)但シ白地裏書アル手形ノ所持人ハ其ノ手形ニ自己ヲ被裏書人トシテ記入セサルモ所持人タルノ權利ヲ行フコトヲ得ヘキカ故ニ甲カ白地裏書ヲ爲シテ乙ニ讓渡シ、乙ハ交付ノミニ因リテ之ヲ丙ニ、丙モ交付ノミニ因リテ之ヲ丁ニ、丁モ亦タ交付ニ因リテ之ヲ戊ニ讓渡シタル場合ノ如キハ乙以後ハ單ニ交付ノミニ因リテ讓渡シタルモノニシテ裏書ナキカ當然ナルカ故ニ所持人タル戊ハ假令ヒ之ニ被裏書人トシテ記入セサルモ又ハ丁ヨリハ裏書ニ依リテ取得シタルモノニ非サルモ所持人タルノ權利ヲ行フコトヲ得ヘク、結局此ノ場合ニ於テハ裏書ノ連續ヲ必要トセサルモノナリ、何トナレハ單ニ交付ノミニ因リテ讓渡ヲ爲シタル場合ニハ元來其ノ讓渡ニハ裏書ナクシテ從テ裏書ノ連續アルヘキ理由ナケレハナリ(第四六一條ノ說明參看)

第三 抹消シタル裏書ノ效力(第二項)

(一)裏書アル手形ノ所持人カ其ノ權利ヲ行フニハ本

條第一項本文ニ依リ其ノ裏書ノ連續アルコトヲ要シ、若シ其ノ數個ノ裏書中ニ白地裏書アルトキハ第一項但書ニ依リ次ノ裏書人ハ其ノ裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト看做スヘキコトハ既ニ説明シタル所ノ如シ、然ルニ數個ノ裏書中ニハ一旦爲シタル裏書カ抹消セララルコトアリ、此ノ場合ニハ其ノ抹消セラレタル裏書ハ裏書ノ連續上之レヲ存在スルモノトスヘキカ又ハ其ノ記載ナキモノト見ルヘキカ、蓋シ抹消セラレタル裏書ハ其ノ裏書トシテハ效ナシトスルモ一度ヒ裏書セラレタルコトアル事實ハ存スルカ故ニ裏書ノ連續上猶ホ裏書アリタルモノト爲スコトヲ得ヘク結局疑問タルヲ免レス、故ニ今次ノ改正ニ於テ新ニ本條第二項ヲ設ケテ「抹消セラレタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其ノ記載ナキモノト看做ス」ト規定シ以テ此ノ疑問ヲ決定セリ(二)蓋シ裏書ヲ抹消スルハ實際ニ於テハ多クハ取立委任ノ場合ニ生ス、例之ハ手形ノ所持人甲カ其ノ手形金額取立ノ委任ヲ爲ス爲メ裏書ヲ爲シテ之ヲ乙ニ交付ス、然カモ委任裏書ニハ第四百六十三條第一項ニ依リ其ノ目的ヲ附記スルコトヲ要スルモ往々ニシテ此ノ附記ナシ、而シテ被裏書人乙ハ之ヲ支拂人ニ呈示シ支拂ヲ求ムルモ支拂人カ支拂ヲ爲ササルヲ以テ此ノ場合ニ其ノ手形ヲ委任者甲ニ戻スニ戻裏書即チ逆裏書ヲ爲スハ法律上正當ノ手續ナリト雖モ此ノ戻裏書ヲ爲スハ手數ナルヲ以テ戻裏書ヲ爲サス前ノ委任裏書ヲ抹消シ以テ之ヲ甲ニ返還スルカ如シ、從テ此ノ場合ニ甲ハ更ラニ裏書ヲ爲シテ其ノ手形ヲ丙ニ讓渡スモ裏書ノ不連續ナルコトナクシテ裏書ノ無効ヲ來スコトナシ、何トナレハ取立委任ノ爲メ乙ニ爲シタル裏書ハ抹消セラレ其ノ裏書ハ記載ナキモノト看做サルカ故ニ甲ハ依然タル所持人ニシテ從テ直接ニ之ヲ丙ニ裏書讓渡スモ裏書ノ不連續ナルコトナケレハナリ、故ニ更ニ例ヲ變シ甲カ乙ニ手形ヲ裏書讓渡サントシ其ノ裏書ヲ爲シタルモ都合ニ

依リ其ノ讓渡ヲ止メ其ノ裏書ヲ抹消シ而シテ更ニ之ヲ丙ニ裏書讓渡ス場合ニ於テモ亦タ同一ナリ
(三)但シ數個ノ裏書中ニ若シ抹消セラレタル裏書存スルトキハ爲メニ裏書ノ不連續ヲ來スコトアルヘシ、例之ハ甲ヨリ乙ニ、乙ヨリ丙ニ、丙丁戊ト順次記名裏書讓渡アリタル場合ニ乙ヨリ丙ニ爲シタル裏書カ抹消セラレタルコトアリトセハ其ノ裏書ハ記載ナキモノト看做サルルカ故ニ茲ニ裏書ノ不連續ヲ來スヘキカ如シ、然レトモ裏書カ斯カル場合ニ抹消セラルルコトハ殆ント是レアラサルヘシ、而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニモ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第三節 引 受

前節ニ於テハ爲替手形ノ裏書ヲ規定シタルニ依リ本節ニ於テハ其ノ引受ヲ規定セリ、引受トハ支拂人カ其ノ支拂ヲ爲スコトヲ引受クル行爲ヲ謂フモノニシテ支拂人ハ之ニ因リテ支拂ヲ爲スノ義務ヲ負フモノナリ、抑モ爲替手形ニ於テ振出人カ支拂人ヲ記載スルハ其ノ支拂人ヲシテ支拂ヲ爲サシムルコトヲ受取人ニ約スルニ止マリテ之カ爲メニ支拂人ハ支拂ノ義務ヲ負フモノニ非ラス、其ノ支拂ノ義務ヲ負フハ實ニ引受ヲ爲スニ因リテ生スルモノナリ、故ニ引受ハ手形上重要ナル行

爲ナリ、是レ本節ニ於テ裏書ニ次テ之ヲ規定シタル所以ニシテ、而シテ本節ニ於テハ其ノ引受ヲ求ムル爲ニスル手形ノ呈示、引受ノ效力、引受ヲ爲ス場合ノ支拂擔當者及ヒ支拂場所ノ記載等ヲ規定セリ

第四百六十五條 所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得

本條ニ於テハ先ツ爲替手形ノ所持人ハ何時ニテモ手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其ノ支拂ノ引受ヲ求ムルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ、之ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 引受呈示ノ必要 (一)抑モ振出人カ爲替手形ニ支拂人ヲ記載スルハ滿期日ニ於テ支拂人ヲシテ其ノ支拂ヲ爲サシムルコトヲ記スニ止マリ支拂人ハ之カ爲メニ支拂ノ義務ヲ負フモノニ非ラス、支拂人ハ引受ヲ爲シテ始メテ其ノ義務ヲ負フモノナリ(第四七〇條ノ說明參看)故ニ所持人ニシテ其ノ支拂ノ安固ヲ得ント欲セハ手形ヲ支拂人ニ呈示シテ以テ其ノ引受ヲ求ムルノ必要アリ、而シテ支拂人ニシテ其ノ引受ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ支拂ノ義務ヲ負フカ故ニ爾後其手形ハ信用ヲ増シテ流通力ノ盛ナルヲ得ヘシ、是レ本條ニ於テ『所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得』ト規定セル所以ナリ、而シテ此ノ呈示ヲ稱シテ『引受ヲ求ムル爲メノ呈示』ト謂ヒ又ハ之ヲ略シテ『引受ノ呈示』ト謂フ (二)引受ヲ求ムル爲メノ呈示ハ何時ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得、從テ苟モ振出後ナル以上ハ振出ノ時ヨリ求ムルモノ可ナリ是レ本條ニ『何時ニテモ』ト規定セル所以ナリ、但シ其ノ終期ニ付テハ滿期日前タルコトヲ要スト爲ス者アリ、又ハ滿期日若クハ其後ノ二日內ト雖モ妨ケナシト説ク者アリ、然レトモ前者ニ對

スル權利ヲ失フコトヲ顧ミサレハ時効期間内ハ必シモ妨ケナカルヘシ、何トナレハ前者ニ對スル權利ヲ失フコトヲ顧ミサル以上ハ支拂ノ請求サヘ時効期間内ハ爲スコトヲ得レハナリ、唯タ前者ニ對スル權利ヲ失ハサラントセハ滿期日後ノ二日内マテニ之ヲ爲スコトヲ要スヘシ、蓋シ滿期日後ノ二日内ト雖モ引受ヲ求メ直ニ支拂ヲ求ムルコトヲ得レハナリ、(三) 引受ヲ求ムル爲メノ呈示ハ支拂人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス、何トナレハ引受ハ手形金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ引受クルモノナルヲ以テ之ヲ爲スニハ支拂人ニ對シテ爲スヘキコト勿論ナレハナリ、從テ假令ヒ振出人カ支拂擔當者ヲ定メタルトキト雖モ引受ノ呈示ハ支拂人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス、(四) 然レトモ支拂人ハ單ニ支拂人トシテ手形ニ記載セラレタル者ニ過キスシテ必シモ之カ引受ヲ爲スヘキ義務アル者ニ非ラサルヲ以テ假令ヒ所持人カ引受ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示スルモ之ヲ引受ケサラントセハ其ノ拒絕ヲ爲スコトヲ得ヘシ、(五) 支拂人カ引受ノ拒絕ヲ爲シタルトキハ手形ハ最早ヤ概シテ支拂ハレサルモノト爲ルヲ以テ、(但シ支拂人カ引受ノ拒絕ヲ爲スモ猶ホ滿期日ニ支拂ヲ爲スコトアルヘク又タ其ノ支拂ヲ爲ササルニ因リ償還請求ヲ爲スニハ引受ノ拒絕アリタルニモ拘ハラズ猶ホ必ラス支拂ヲ求ムル爲メ呈示ヲ爲スコトヲ要ス、第四八七條ノ說明參看) 所持人ハ第四百七十四條及ヒ第四百七十五條ニ依リ引受拒絕證書ヲ作ラシメテ其ノ前者ニ對シテ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得、故ニ引受ヲ求ムル爲メニスル呈示ハ一ハ支拂人ヲシテ之ヲ引受ケシメテ其ノ支拂ノ安固ヲ得、一ハ若シ引受ヲ爲ササルトキニ前者ニ擔保ノ請求ヲ爲ス爲メナリ、(第四七四、四七五條ノ說明參看) (六) 從テ所持人ニシテ支拂人カ引受ヲ爲ササルモ前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ欲セサレハ必シモ呈示ヲ爲スコトヲ要セス、是レ本條ニ於テ

『引受ヲ求ムルコトヲ得』ト規定セル所以ナリ、(七) 然レトモ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ在テハ次條ニ規定スル如ク日附ヨリ一年内ニ呈示ヲ爲シテ引受ヲ求ムルコトヲ要シ、若シ拒絕證書ニ依リテ其ノ呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ單ニ擔保ノ請求權ナキノミナラス償還請求權ヲモ失フヘク、又タ振出人カ手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサル場合ニ其ノ手形ニ引受ヲ求ムル爲メ呈示ヲ爲スヘキ旨ヲ記載シタルトキモ亦タ同一ナリ、故ニ此ノ場合ニハ必ラス呈示ヲ爲スコトヲ要ス、(次條及ヒ第四七二條ノ說明參看)

第二 引受呈示ノ場所

(一) 所持人カ引受ヲ求ムル爲メ支拂人ニ對シテ爲スヘキ手形ノ呈示ハ第四百四十二條ニ依リ支拂人ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ住所又ハ居所ニ於テ支拂人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス、但シ支拂人ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス、(二) 手形ニ支拂地ノ記載アルトキ若クハ支拂地ノ記載ナキモ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地アリテ之ヲ支拂地トスルトキト雖モ引受ノ爲メノ呈示ハ必シモ其ノ支拂地ニ於テ爲スコトヲ要セサルモノト解ス、何トナレハ支拂地ハ支拂ヲ爲スカ爲メニ特ニ定メタル地ナルヲ以テ支拂ニ關スル行爲ハ支拂地ニ於テ爲スヘクシテ從テ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示ハ支拂地ニ於テ爲スコトヲ要スト雖モ引受ヲ求ムル爲メノ呈示ハ支拂ノ爲メニ非ラサルヲ以テ必シモ支拂地ニ於テ爲スコトヲ要セサルハナリ、但シ支拂人ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其ノ住所又ハ居所ニ於テ爲スコトヲ要スルハ前ニ述ヘタル所ノ如シ、(三) 從テ又タ手形ニ支拂場所ノ記載アルトキト雖モ亦タ右ト同一ニ解ス、但シ東京控訴院ノ古キ判例ニ於テハ『支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載セル手形ニ在リテハ其ノ手形ニ記載シタル支拂ノ場所ハ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示ニ付テノ法定ノ場

所ナリト解セサル可カラス』トセリ(明治三十三年ネ第二五四號同院判決、第四四二條第四ノ說明中ノ同判例參看)(以上第四四二條及ヒ第四五四條ノ說明參看)

第四百六十六條

一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

本條ニ於テハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ引受ノ呈示及ヒ其ノ呈示ヲ爲ササル場合ノ效果ヲ規定セリ、左ノ如シ

第一 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ引受ノ呈示(第一項)

拂人カ手形ヲ一覽シタル後或ル確定ノ期間ヲ經過シタル日ヲ以テ滿期日トスルモノナリ(第四五〇條四ノ說明參看)故ニ此ノ手形ハ所持人カ之ヲ支拂人ニ呈示スルニ非ラサレハ所謂一覽ナキモノナルヲ以テ一覽後ノ期間ノ進行ヲ始メス、從テ呈示ヲ爲ササル限リハ何時マテモ時効ノ進行ヲ始メサルモノナリ、然レトモ斯クノ如キハ振出人及ヒ裏書讓渡人ヲシテ永ク其ノ責任ヲ免レシメサルモノニシテ之ヲ保護スル所以ニ非サルニ依リ必ラス所持人ハ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ引受ヲ求ムヘキモノトシ、而シテ其ノ呈示ヲ爲スヘキ期間ハ其ノ日附即チ振出ノ日附ヨリ一年以内トセリ(二)然レトモ振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得ヘク、故ニ手形ニ其ノ期間ヲ記載シタルトキハ必ラス其ノ期間內ニ呈示ヲ爲ササルヲ得ス、是レ本條第一項ノ規定アル所

以ナリ、其ノ呈示ヲ爲スヘキ者及ヒ場所ニ付テハ前條ニ說明シタル所ノ如シ

第二 引受ノ呈示ヲ爲ササル場合ノ效果(第二項)

付テハ日附ヨリ一年內又ハ振出人カ定メタル期間內ニ引受ヲ求ムル爲メ呈示ヲ爲スヘキモノナルニ依リ所持人カ若シ右ノ期間內ニ呈示ヲ爲ササルトキハ其ノ前者即チ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル手形上ノ權利即チ擔保請求權及ヒ償還請求權ヲ失フヘシ(二)當ニ呈示ヲ爲ササルトキノミナラス假令ヒ呈示ヲ爲スモ支拂人カ引受ヲ拒絕シタルコトヲ引受拒絕證書ヲ作りテ證明スルニ非ラサレハ亦タ擔保及ヒ償還ノ請求權ヲ失フモノトス、是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ、故ニ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ右ノ期間內ニ必ラス呈示ヲ爲スヘク、而シテ支拂人カ其ノ引受ヲ爲ササリシトキハ必ラス拒絕證書ヲ作成セシムヘシ

第四百六十七條

所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間內ニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絕證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

引受人カ引受ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

本條ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ手形ニ記載セサ

ル場合ニ所持人ハ拒絕證書ヲ作ラシムヘキコト及ヒ之ヲ作ラシメサリシトキノ效果并ニ此ノ場合ニ於ケル呈示ノ日ト看做スヘキ日ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 拒絕證書ノ作成及ヒ呈示ノ日(第一項)

ノ手形ノ呈示ヲ受ケタル時ヨリ一定ノ期間ヲ經過シタル日ヲ以テ滿期日トスルモノナルヲ以テ呈示ヲ爲ササル限リハ滿期日ノ起算點ナク、從テ此種ノ手形ハ必ラス呈示期間内ニ呈示ヲ爲スヘキコトハ既ニ前條ノ規定スル所ナリ(前條ノ說明參看)而シテ所持人カ此ノ呈示ヲ爲シタル場合ニ於テ支拂人カ其ノ引受ヲ爲ササルトキハ所持人ハ呈示期間内ニ其ノ拒絕證書ヲ作ラシメサル可カラス、蓋シ前條ニ於テハ右ノ場合ニ呈示ヲ爲スヘキコト及ヒ其ノ期間ヲ定メタルニ過キサル可故ニ本條第一項ニ於テハ其ノ呈示ヲ爲シタルモ支拂人カ引受ヲ拒絕シタル場合ニ所持人ハ拒絕證書ヲ作ラシムヘキコト及ヒ之ヲ作ルノ日ハ必ラス呈示期間内ニ限ルコトヲ示シタリ(二)右ノ如ク支拂人カ全然引受ヲ爲ササルトキハ呈示期間内ニ拒絕證書ヲ爲ラシムルト雖モ假令ヒ支拂人カ引受ヲ爲シタルモ若シ其引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セサリシトキハ亦タ所持人ハ呈示期間内ニ拒絕證書ヲ作ラシム可キモノトス、是レ本條第一項前段ニ於テ「支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス」ト規定セル所以ナリ、而シテ若シ所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキハ其ノ前者ニ對シテ手形上ノ權利ヲ失フコトハ下ニ説明スルカ如シ(三)以上二個ノ場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサルトキハ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキヲ以テ滿期日ヲ定ムル必要アリト雖モ爲ササルトキハ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキヲ以テ滿期日ヲ定ムル必要アリト雖モ

一覽後定期拂ノ手形ハ呈示ノ日ヨリ或ル期間ヲ起算シ其ノ期間經過ノ日ヲ以テ滿期日トスヘキモノナルニ拘ラス以上二個ノ場合ノ如ク支拂人カ引受ヲ拒絕ヲ爲シ又ハ引受ノ日ヲ記載セサリシトキハ呈示ノ日ヲ知ルニ由ナク從テ滿期日ヲ定ムルコトヲ得サルニ依リ便宜上拒絕證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做シ此日ヨリ或ル期間ヲ計算シ其ノ期間經過ノ日ヲ以テ滿期日トスヘキモノトセリ、是レ本條第一項後段ノ規定アル所以ナリ

第二 拒絕證書ヲ作ラサル效果(第二項)

右ノ如ク所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ支拂人カ其ノ引受ヲ爲サス又ハ引受ヲ爲シタルモ其ノ日附ヲ手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ其ノ拒絕證書ヲ作ラシム可キモノナルニ若シ之ヲ作ラシメサリシトキハ其ノ結果トシテ其ノ前者即チ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ一切ノ手形上ノ權利ヲ失フモノトス、故ニ單ニ擔保ノ請求ノミナラス償還請求ヲ爲ス權利ヲモ失フヘシ、是レ前條第二項ノ權衡ニ比シテ正ニ然ルヘキ所ニシテ即チ本條第二項ノ規定ノ來レル所以ナリ

第三 引受ノ日附ヲ記載セサル場合ニ拒絕證書ヲ作ラシシトキノ呈示ノ日(第三項)

右本條第二項ニ依リ所持人カ拒絕證書ヲ作ラサリシトキハ其ノ前者即チ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ手形上ノ權利ヲ失フト雖モ是レ唯タ前者即チ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ之ヲ失フニ過キスシテ引受ヲ爲シタル引受人ニ對シテハ拒絕證書ノ作成ヲ爲ササリシトスルモ依然支拂ノ請求權ヲ有ス、故ニ此ノ場合ニモ滿期日ヲ定ムル爲メニ呈示ノ日ヲ定メサルヘカラスト雖モ引受人カ引受ノ日附ヲ記載セサリシトキハ呈示ノ日ヲ知ルニ由ナキヲ以テ之レヲ以テ呈示ノ日ヲ定ムルヲ得ス、又タ此ノ場合ハ元來拒絕證書ヲ作ラサリシ場合ナルカ故ニ本條第一項後段ノ如ク拒絕證書作

成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做スコトヲ得ス、是ニ於テ本條第三項ニ於テ「引受人カ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス」ト規定セリ、從テ引受人カ引受ヲ爲スニ當リ其ノ引受ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ其ノ前者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フト雖モ其ノ引受人ニ對シテハ支拂ノ請求權アルヲ以テ其ノ請求ヲ爲スニハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日トシ之ヨリ一覽後ノ期日ヲ計算シテ滿期間ヲ定メ其日ニ於テ爲スヘキモノトス、是レ本條第三項ノ規定アル所以ナリ

第四百六十八條 引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シタルモノト看做ス
本條ニ於テハ引受ノ方式ヲ規定セリ (一) 抑モ支拂人ハ單ニ支拂人トシテ手形ニ記載セラレタル者タルニ止リ之カ爲メニ支拂ノ義務ヲ負フモノニ非ラス其ノ引受ヲ爲スニ因リテ始メテ支拂ノ義務ヲ負フモノナルコトハ既ニ屢々説明シタル所ナリ (猶ホ第四七〇條ノ說明參看) 故ニ所持人カ支拂人ヲシテ支拂ノ義務ヲ負ハシメントセハ其ノ引受ヲ求ムル爲メ支拂人ニ對シ手形ヲ呈示セサル可カラス (二) 而シテ此ノ呈示アリタル場合ニ於テ支拂人カ其ノ引受ヲ爲サントスルトキハ爲替手形ニ引受ノ旨ヲ記シ之ニ署名スヘキモノトス、何トナレハ引受ハ手形行爲ノ一種ニシテ其ノ文言ニ依テ義務ヲ負フモノナレハナリ、是レ本條第一項ニ於テ「引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス」ト規定セル所以ナリ (三) 從テ手形ニ記載スル以上ハ如何ナル場

所ニ記載スルモ妨ケナシト雖モ通例手形用紙ニハ引受ノ欄アルヲ以テ其ノ欄内ニ記載ス (第四四五條書式參看) (四) 引受ノ方式ハ右ノ如ク爲替手形ニ引受ノ旨ヲ記シ支拂人之ニ署名スヘキモノナリト雖モ假令ヒ其ノ引受ノ旨ヲ記ササルトキ即チ單ニ署名ノミヲ爲シタルトキト雖モ之ヲ以テ其ノ引受ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス、是レ本條第二項ノ規定スル所ナリ、故ニ引受ハ手形ニ引受ノ旨ヲ記シ支拂人之ニ署名スルハ右第一ノ如ク完全ナル方式ナリト雖モ必シモ「引受」ナル文字ヲ記載スルヲ要セス「承諾致候也」又ハ「承知候也」ト記スモ妨ケナキノミナラス右ノ如ク全ク何等ノ記載ヲモ爲サス單ニ署名ノミヲ爲スモ引受ヲ爲シタル效アリ (五) 從テ引受ノ日附ノ如キモ之ヲ記載スルヲ要セスト雖モ一覽後定期拂ノ手形ニ於テハ引受ノ日附ノ記載ナキトキハ前條第一項ノ規定ニ依リ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要シ其ノ拒絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做シ又タ其ノ拒絶證書ヲ作ラサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做シ此ノ日ヨリ一覽後ノ期間ヲ起算スヘキモノトス、而シテ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ所持人ハ其ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヲ以テ法文ニハ規定ナシト雖モ一覽後定期拂ノ手形ニ在テハ引受ノ日附ヲ記載セシムルハ所持人ニ於テ利益アリト謂フヘシ (前條ノ說明參看) (六) 引受ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ引受クルモノニシテ而シテ支拂人ハ單ニ手形ニ支拂人トシテ記載セラレタル者タルニ止マルカ故ニ引受ハ手形ノ振出アリ所持人カ其ノ引受ヲ求ムル爲ニ第四百六十五條ニ依リ支拂人ニ呈示ヲ爲シタルトキニ於テ支拂人カ手形ニ記載シテ爲スヲ普通トスト雖モ判例ハ

按スルニ爲替手形ノ振出以前ニ引受人トシテ紙面ニ署名シタル者カ將來他人ノ之ニ振出ノ要件ヲ記載スル所ニ從テ手形上ノ債務ヲ負擔スヘキ意思ヲ以テ其書面ヲ他人ニ交付シタルトキハ其署名者ノ意思ハ將來他人ノ振出行爲ヲ爲スニ因リ成立スヘキ

キ爲替手形ヲ引受ケルニ在ルヲ以テ其署名ハ署名當時完成シ手形行爲トシテ有效ナルモノト謂ハサルヘカラス(中略)署名者ハ振出行爲ニ因リ成立スヘキ手形ニ付キ其責任ヲ免ルルコトヲ得サルナリ(明治四十年才第六十二號、同年五月二十九日大審院判決、第四四五條第三ノ說明中本件判決及ヒ同條中同趣旨判例參照)

トシテ豫メ爲シタル引受ノ記載ト雖モ有效ナリトセリ、但シ此ノ場合ニ於テ引受ノ效力ノ發生スルハ固ヨリ振出行爲完成ノ後タルコトハ勿論ナルヘシ

第四百六十九條

支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ其引受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但シ引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

本條ニ於テハ支拂人ハ手形金額ノ一部ノ引受ヲ爲スコト及ヒ此他ノ單純ナラサル引受ヲ爲シタル場合ノ效力ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 手形金額ノ一部ノ引受(第一項)

(一) 支拂人カ前條ノ規定ニ依リ引受ヲ爲スニ當タリテハ手形金額ノ全部ヲ引受ケスシテ其ノ一部ノ引受ヲ爲スコトヲ得ヘシ、之ヲ『一部ノ引受』ト謂フ、蓋シ支拂人カ引受ヲ爲サントスルニ當リ資金其他ノ都合ニ依リ手形金額ノ全部ハ引受ケサルモ其ノ一部ヲ引受ケントスルコトアルヘシ、然カモ此ノ場合ニ於テ假令ヒ一部ノ引受ト雖モ之ヲ有效トスレハ所持人ニ對スル前者ハ支拂人カ引受ケタル部分ニ付テハ擔保ノ請求ヲ免ルルノ利益アルノミナラス之ヲ有效トスルハ實際上便利ナルヲ以テ假令ヒ一部ノ引受ト雖モ之レヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ、是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ (二) 從テ此ノ場合ニハ支拂人

ハ其ノ一部ノ引受ヲ爲スコトヲ記載スヘク、所持人ハ全部ノ引受ヲ爲ササルヲ理由トシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス、又タ之ヲ拒ムヲ得サル代ハリニ其ノ引受ラレタル一部ニ付テハ引受拒絕證書ヲ作ラシムルヲ要セサルハ勿論ナリ、唯タ其ノ引受ナキ部分ニ付キ拒絕證書ヲ作ラシメサレハ前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス、又タ一覽後定期拂ノ手形ニ在テハ其ノ引受ナキ部分ニ付キ償還請求權ヲモ失フヘシ(第四六六、四六七條ノ說明參看)

第二 此他ノ單純ナラサル引受(第二項)

(一) 支拂人カ引受ヲ爲スコトキハ單ニ引受ノ旨ヲ記シ署名ヲ爲シ手形ノ文言通りニ支拂ヲ爲スコトヲ引受ケルヲ以テ原則トス、之ヲ『單純ナル引受』ト謂フ、故ニ前項ノ一部ノ支拂ノ如キモ元來單純ナル引受ニ非ラス、然レトモ一部ノ引受ニ付テハ法律ハ前項ニ於テ之ヲ有效トシテ認メタリト雖モ前項ノ場合ヲ除クノ外他ノ單純ナラサル引受ニ付テハ其ノ引受ヲ拒絕シタルモノト看做スヘキモノトセリ、例之ハ支拂人カ或ル物品ト引換ニ支拂ヲ爲スヘキコトヲ記シテ引受ヲ爲シタルカ如キ又ハ滿期後ニ於テ支拂ヲ爲スヘキコトヲ記シテ引受ケタルカ如シ、斯クノ如ク支拂人カ引受ヲ爲スニ條件又ハ期限ヲ附スル等單純ナル引受ヲナササリシトキハ法律上其ノ引受ヲ拒絕シタルモノト看做スヘキモノトス、從テ此ノ場合ニ所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサルトキハ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス、又タ一覽後定期拂ノ手形ニ在テハ之ヲ作ラシメサルトキハ償還請求權ヲモ失フヘシ (二) 支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキ換言セハ單純ナラサル引受ヲ爲シタルトキハ引受ヲ爲ササリシモノト看做スト雖モ然カモ支拂人カ單純ナラサル引受ヲ爲シタルトキハ其ノ引受ヲ爲シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負フヘキモノトス、何トナレハ單純ナラサル引受ヲ爲シタルトキト雖モ全然引受ナキニ優

ルコト萬々ニシテ之カ爲メニ前者ハ毫モ害セラレルコトナケレハナリ、是レ本條第二項ニ於テ單
純ナラサル引受ヲ爲シタルトキハ引受ヲ拒絶シタルモノト看做スニ拘ハラヌ更ニ其ノ但書ニ於テ
引受人ハ其ノ引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フヘキモノトセル所以ナリ、故ニ所持人ハ前述ノ如ク
其ノ前者ニ對シ擔保又ハ償還ノ請求權ヲ保全セントセハ拒絶證書ヲ作ラサルヲ得スト雖モ引受人
ニ對シテハ其ノ引受ノ文言ニ從ヒ支拂ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク、引受人ハ前例ヲ以テスレハ物
品ト引換ニ支拂ヲ爲スヘク又ハ滿期後ニ定メラレタル期日ニ於テ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノ
ナリ

第四百七十條 支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ滿期日ニ於テ其引受ケタル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

本條ハ支拂人ニ對スル引受ノ效力ヲ規定セリ (一) 抑モ爲替手形ノ要件トシテ振出人ハ必ラス手
形ニ支拂人ヲ記載スルコトヲ要スト雖モ之ヲ記載スルハ單ニ支拂人ヲシテ支拂ヲ爲サシムルコト
ヲ約スルト支拂人ニ對シテハ支拂ヲ委託スル爲メタルニ過キス、故ニ支拂人カ其ノ委託ニ應ジ支
拂ノ義務ヲ負擔スルト否トハ其ノ自由ニシテ、手形ニ支拂人トシテ記載セラレタルカ爲メニ支拂
ノ義務ヲ負フモノニ非ラス、然レトモ支拂人カ第四百六十五條、第四百六十六條ニ依リ手形ノ呈
示ヲ受ケタル場合ニ第四百六十八條ニ依リ一旦引受ヲ爲シタルトキハ其ノ引受ノ行爲ニ因リテ茲
ニ始メテ滿期日ニ於テ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔ス、故ニ支拂人カ支拂ノ義務ヲ負擔スルハ全ク
引受ヲ爲シタルニ因ルモノナリ、是レ本條ニ於テ『支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ滿期日ニ於テ
其引受ケタル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ』ト規定セル所以ナリ、而シテ此ノ引受ニ因リ支拂ノ義務

ヲ負擔シタル者ヲ引受前ノ支拂人又ハ引受ヲ爲ササル支拂人ト區別スルカ爲メニ之ヲ支拂人ト謂
ハスシテ『引受人』ト稱ス (二) 支拂人カ引受ヲ爲スニハ單純ナル引受ヲ爲シテ手形金額全部ヲ
引受ケルコトアリ、或ハ前條第一項ニ依リ其ノ一部ヲ引受ケルコトアリ、其ノ手形金額ノ全部ヲ
引受ケタル場合ニハ滿期日ニ於テ其ノ金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負ヒ一部ヲ引受ケタル場合ニハ其
引受ケタル部分ノ金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フ、故ニ其ノ支拂フヘキ金額ハ引受ケタル金額ニ依
ルモノトス、是レ亦本條ニ於テ『其引受ケタル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ』ト規定セル所以ナリ
(三) 斯クノ如ク支拂人カ支拂ノ義務ヲ負フハ全ク引受ヲ爲シタルニ因ルモノニシテ其ノ引受ハ獨
立シタル一個ノ手形行爲ナルカ故ニ未タ振出人ヨリ爲替資金ヲ受取ラサリシトキト雖モ苟モ一旦
引受ヲ爲シタル以上ハ支拂ノ義務ヲ負ヒ假令ヒ其ノ手形ヲ所持人ニ交付セスシテ自己ノ手許ニ有
スル場合ト雖モ之カ取消ヲ爲スヲ得サルノミナラス、引受ニ因リテ生シタル支拂ノ義務ハ單ニ手
形ノ呈示ヲ爲シタル所持人ニ對スルノミナラス其後ノ裏書讓受人及ヒ其前ノ裏書讓渡人并ニ振出
人ニ對シテモ之ヲ負擔ス(次條ノ說明參看) 是レ支拂人カ支拂ノ義務ヲ負擔スルハ引受ナル單獨ノ
行爲ニ因ルヨリ來レル效力ニシテ從テ所持人ハ支拂ノ呈示若クハ拒絶證書ノ作成ヲ怠リタリトス
ルモ引受人ニ對スル請求權ヲ失フコトナク引受人ハ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得サルナリ

第四百七十一條 引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

本條ニ於テハ引受人カ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ所持人、償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人

ニ對シテ支拂フヘキ金額ヲ決定セリ、之ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 所持人ニ對シテ支拂フヘキ金額

(一) 抑モ支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リテ満期日ニ其ノ引受ケタル金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フモノナルコトハ既ニ前條ノ規定スル所ナルヲ以テ假令ヒ満期日ニ至リ支拂ヲ爲ササルコトアルモ苟モ一旦引受ヲ爲シタル以上ハ其義務ヲ免ルルコトヲ得ス(前條ノ說明參看)故ニ満期日後ニ於テ所持人ヨリ請求アルトキハ其ノ支拂ヲ爲ササルヲ得ス、是レ前條ノ規定ヨリ生スル當然ノ結果ナリト雖モ、若シ引受人カ満期日ニ至リ支拂ヲ爲ササルコトアルトキハ其ノ翌日ヨリ利息ヲ生スヘク又タ所持人ハ拒絕證書ヲ作ラシムル等其ノ他ノ費用ヲ要スルコトアルヘキニ拘ハラス前條ノ規定ノミヲ以テスレハ引受人ハ單ニ其ノ引受ケタル金額ヲ支拂フノ義務ヲ負擔スルニ過キス、然ルニ満期日後ノ利息ヲ生シ又ハ拒絕證書ノ作成其他ノ費用ヲ要シタルハ引受人カ引受ヲ爲シナカラ満期日ニ於テ支拂ヲ爲ササリシ義務不履行ノ結果ニ外ナラサレハ此ノ場合ニ於テハ單ニ支拂ヲ爲ササリシ金額ノミナラス満期日以後ノ利息及ヒ拒絕證書作成ノ手数料其他ノ費用モ亦タ引受人ニ負擔セシムルハ當然ナル所ナリ、是レ本條ニ於テ『引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ所持人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十一條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム』ト規定セル所以ナリ (二) 第四百九十一條ノ規定トハ支拂アラサリシ手形金額及ヒ満期日以後ノ法定ノ利息、拒絕證書作成ノ手数料其他ノ費用ノ負擔ヲ謂フモノナリ(同條ノ說明參看)故ニ引受人ハ満期日ニ支拂ヲ爲ササルトキハ其後ニ於テモ其ノ所持人ニ對シテ支拂ヲ爲ササリシ手形金額及ヒ満期日後ノ法定ノ利息、其他ノ費用ヲ支拂ハサルヲ得サルモノトス

第二 償還ヲ爲シタル裏書人又ハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額

(一) 引受ノ行爲ハ獨立シ

タル一個ノ手形行爲ニシテ、引受人ハ此ノ行爲ニ因リテ義務ヲ負フモノナルヲ以テ單ニ手形ノ呈示ヲ爲シタル所持人ノミナラス、所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケテ之ニ償還ヲ爲シタル裏書人又ハ振出人ニ對シテモ亦タ支拂ノ義務ヲ負フコトハ既ニ前條ニ說明シタル所ナリ(前條ノ說明參看)故ニ引受人カ満期日ニ支拂ヲ爲ササリシ爲メ所持人カ拒絕證書ヲ作り其他ノ手續ヲ爲シテ裏書人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲シ裏書人カ之ニ應シテ償還ヲ爲シ又ハ漸次斯クノ如クシテ振出人モ償還ヲ爲シタルトキハ引受人ハ其ノ償還ヲ爲シタル裏書人又ハ振出人ニ對シテモ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得スシテ是等ノ者ヨリ請求アルトキハ亦タ其ノ請求ニ應セサル可カラス、是レ前條ノ規定ヨリ來レル當然ノ結果ナリト雖モ裏書人若クハ振出人カ償還ヲ爲スニハ請求ヲ受ケタル手形金額及ヒ其ノ利息ヲ支拂ヒ猶ホ之カ爲メニ費用ヲ支出セルニ拘ハラス前條ノ規定ニ依レハ引受人ハ單ニ其ノ引受ケタル金額ヲ支拂フノ義務ヲ負擔スルニ過キス、然ルニ裏書人又ハ振出人カ償還シタル金額ノミナラス利息ヲ生シ費用ヲ支出シタルハ全ク引受人カ引受ヲ爲シナカラ満期日ニ支拂ヲ爲ササルニ因リ償還請求ニ逢フテ之ヲ支出シタルモノナレハ畢竟引受人カ支拂ヲ爲ササリシ結果ニ外ナラス、故ニ此ノ場合ニハ引受人ヲシテ單ニ支拂ヲ爲ササリシ金額ノミナラス法定ノ利息及ヒ之カ爲メニ支出シタル費用ヲモ其ノ償還ヲ爲シタル裏書人又ハ振出人ニ對シテ支拂ハシムルコト當然ナリ、是レ亦タ本條ニ於テ『引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム』ト規定シタル所以ナリ (二) 第四百九十二條ノ規定トハ裏書人カ支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定ノ利息並ニ其ノ支出シタル費用ノ負擔ヲ謂フモノナリ(同條ノ說明參看)故ニ引受人カ満期日

ニ支拂ヲ爲ササルニ因リ所持人カ償還請求ヲ爲シ裏書人又ハ振出人カ償還ヲ爲シタルトキハ引受人ハ其ノ裏書人又ハ振出人カ支拂ヒタル金額及ヒ其ノ支拂ノ日以後ノ法定ノ利息並ニ右ノ者カ支出シタル費用ヲ支拂ハサルヲ得サルナリ

第四百七十二條

振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支

拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス(同上ヲ以テ)

前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

(參照) 前商法

第四百七十二條(第一項) 支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テ振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス

本條ニ於テハ爲替手形ニ振出人カ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ニ於テ之ヲ記載スルヲ得ルコト、之ヲ記載セサリシ場合ノ結果及ヒ振出人カ手形ニ引受ヲ求ムル爲メ呈示ヲ爲スヘキコトヲ記載シタル場合ニ其ノ呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサル結果ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 支拂人ノ支拂擔當者ノ記載(第一項前段)

(一) 抑モ振出人ハ支拂人ニ非ラサル者ヲ以

テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得ルコトハ既ニ第四百五十三條ノ規定スル所ナリ(同條ノ說明參看)而シテ若シ振出人カ右ノ如ク支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其ノ手形ノ引受ヲ爲スニ當タリ本條第一項ニ依リ自己ノ選擇ニ從ヒテ支拂擔當者ヲ記載スルコトヲ得ヘシ、蓋シ支拂地ト支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テハ支拂人カ其儘引受ヲ爲ストキハ次ニ説明スルカ如ク其ノ支拂地ニ出張シテ自ラ支拂ヲ爲ササル可カラス、是レ實際ニ於テ不便尠ナカラス故ニ支拂人ニ於テ自己ニ代ハリ支拂擔當者ヲシテ支拂ノ任ニ當ラシムルコト及ヒ其ノ支拂擔當者ニハ如何ナル人ヲ以テ充ツヘキカヲ定ムルハ振出人ヨリ却テ引受人ニ於テ必要ナリ、故ニ支拂地ニ於テ支拂擔當者ナル者ヲ設ケ自己ニ代リ支拂ノ任ニ當タラシムヘク又々其ノ支拂擔當者ニハ何人ヲ以テ之ニ充ツヘキカヲ定ムルハ振出人ヨリハ寧ロ引受人ニ於テ要アリトス、從テ振出人カ支拂擔當者ヲ手形ニ記載セサリシトキハ支拂人ニ於テ其ノ引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載セシムルヲ便トス、故ニ前商法ノ本條ニ於テハ『支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テ云々支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得』ト規定セリ(二) 斯クノ如ク支拂人カ支拂擔當者ヲ定メテ之ヲ手形ニ記載スルハ本來支拂地ト支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テ最モ必要ヲ感スルモノナリト雖モ支拂地ト支拂人ノ住所地下異ナラサル場合ニ於テモ亦タ必要ナキニ非ラサルヲ以テ今次ノ改正ニ於テハ必シモ支拂地ト支拂人ノ住所地下異ナル場合ノミニ限ラス總テノ場合ニ於テ支拂人ハ之ヲ記載シ得ヘキモノトセリ、是レ振出人カ支拂擔當者ヲ定ムル第四百五十三條ト同一趣旨ニ基クモノナリ(同條ノ說明參看)

第二 支拂人カ支拂擔當者ヲ記載セザリシ場合ノ結果(第一項後段)

ニ振出人カ支拂擔當者ヲ記載セザリシトキハ支拂人ニ於テ其ノ引受ヲ爲スニ當リ自己ノ便宜ニ從ヒ支拂擔當者ヲ記載スルコトヲ得ルト雖モ之ヲ記載スルト否トハ支拂人ノ自由ナルカ故ニ若シ之ヲ記載セスシテ引受ヲ爲シタルトキハ支拂ノ文言通り支拂地ニ於テ支拂ヲ爲スコトヲ引受ケタルモノナレハ其ノ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ササル可カラサルコト勿論ナリ、是レ本條第一項後段ニ於テ「若シ支拂人カ之ヲ記載セザリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス」ト規定セル所以ナリ (二) 之ニ反シテ支拂人カ支拂擔當者ヲ記載シタルトキハ支拂擔當者ニ手形ヲ呈示シ支拂擔當者カ支拂ヲ爲ササル爲メ所持人カ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ必ラス支拂地ニ於テ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス、而シテ若シ此ノ手續ヲ爲ササリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フヘシ (第四九〇條ノ說明參看)

第三 振出人カ擔當者ヲ記載セザリシ場合ノ手形ノ呈示(第二項)

ニ於テ支拂擔當者ヲ記載スルコトヲ得ルト雖モ之ヲ記載スルト否トハ自由ナルカ故ニ之ヲ記載セサルコトアルノミナラス支拂擔當者ヲ定ムルコト其ノ何人ヲ選擇スヘキカハ支拂人ニ於テ却テ必要アルカ故ニ實際ニ於テハ支拂人ヲシテ記載セシムルヲ便トス、而シテ既ニ此ノ理由ニ依リ振出人カ擔當者ヲ定メシテ支拂人ヲシテ之ヲ定メシメントセハ滿期日前ニ引受ノ爲メ之ヲ支拂人ニ呈示セシメ以テ支拂人カ引受ヲ爲スニ當リ支拂人ヲシテ支拂擔當者ヲ定ムルノ機會ヲ與フルノ必要アリ、從テ振出人ヲシテ手形ヲ振出スニ當タリ其ノ手形ニ引受ヲ求ムル爲メ之ヲ支拂人ニ呈示スヘキコトヲ記載スルコトヲ得セシメサル可カラス、是レ本條第二項前段ニ於テ「前項ノ場合

ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得」ト規定セル所以ナリ (二) 而シテ既ニ爲替手形ニ在テハ支拂擔當者ヲ記載スルコトヲ得ルモノトシ殊ニ支拂人ヲシテ之ヲ記載セシメントシテ手形ノ呈示ヲ爲スヘキコトヲ記載シタルニ拘ハラズ、所持人カ其ノ呈示ヲ爲サシテ支拂ヲ拒絶セラレタルトキハ是レ寧ロ呈示ヲ爲ササル所持人ヲ責ムヘク之カ爲メニ裏書人又ハ振出人ヲシテ償還ノ請求ニ應セシム可キモノトスルハ不當ナルヲ以テ呈示ヲ爲ササル所持人ヲシテ其ノ前者即チ裏書人及ヒ振出人ニ對スル手形上ノ權利ヲ失ハシム可キノミナラス假令ヒ呈示ヲ爲スモ支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ拒絶證書ニ依リ呈示ヲ爲シタルコトヲ證明スルヲ要スルモノト爲スヲ適當トス、是レ本條第二項後段ニ於テ「此ノ場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ」ト規定セル所以ナリ、故ニ所持人ハ此ノ規定ニ從ヒ呈示ヲ爲シテ引受ヲ求ムヘク、若シ支拂人カ引受ヲ爲ササル場合ニ於テハ拒絶證書ヲ作ラシメテ其ノ呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ裏書人及ヒ振出人ニ對シ擔保ノ請求權ノミナラス償還請求ヲ爲ス權利ヲモ失フヘシ

第四百七十三條 支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

本條ニ於テハ支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ手形ニ支拂場所ヲ記載スルコトヲ得ルコトヲ規定セリ (一) 抑モ支拂地トハ例之ハ東京市、横濱市、神戸市ト謂ヘル或ル一ノ地域ヲ謂フモノナルカ故ニ其ノ支拂地内ニ於テ更ニ特定ノ場所ヲ定メ其ノ場所ニ於テノミ支拂ヲ爲スヘキモノトスルハ單ニ支拂人ニ便利ナルノミナラス支拂ヲ受クル者ニモ頗ル便利ナリ、故ニ第四百五十四條ニ於テハ振

出人ハ爲替手形ニ其ノ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得ルモノトセリ(同條ノ説明參看)然ルニ支拂ノ場所ヲ定ムルコト及ヒ其ノ如何ナル場所ヲ以テ支拂ノ場所トスヘキヤヲ定ムルハ振出人ヨリハ却テ支拂ヲ爲ス者ニ於テ一層切ナル必要アルヘシ、故ニ振出人ヨリモ支拂人ヲシテ之ヲ定メシムルヲ實際上便利トスヘク、從テ振出人カ之ヲ記載セサリシ場合ニハ支拂人ヲシテ其ノ引受ヲ爲スニ當タリ適宜ニ支拂場所ヲ記載スルコトヲ許スハ相當ナリ、是レ本條ニ於テ「支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ爲替手形ニ其ノ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得」ト規定セル所以ナリ(二)從テ支拂人カ之ヲ記載シタルトキハ其ノ場所ニ於テノミ支拂ヲ爲スヘク支拂ヲ受クル者モ亦タ其ノ場所ニ於テ支拂ヲ得ヘク他ノ場所ニ於テ支拂ヲ求ムルコトヲ得ス、而シテ既ニ本條ニ於テ支拂人ニ支拂場所ノ記載ヲ爲スコトヲ許シタル以上ハ之ヲ記載スルハ決シテ第四百六十九條第二項ノ單純ナル引受ヲ爲ササリシモノニ非ラサルハ勿論ニシテ之ヲ記載シタルヲ以テ引受ヲ拒絕シタルモノト看做サレサルモ勿論ナリ(支拂場所ノ記載ニ關シテハ説明スヘキコト甚タ多シト雖モ既ニ第四百五十四條ニ於テ詳説シタルカ於ニ茲ニ再説セス、必ラス同條ノ説明ヲ參看スヘシ)

第四節 擔保ノ請求

前節ニ於テハ爲替手形ノ引受ヲ規定シタルニ依リ本節ニ於テハ擔保ノ請求ニ關スル手續ヲ規定セリ、抑モ擔保ノ請求トハ手形ノ支拂カ疑シキニ依リ前者ニ對シテ之ヲ保證スヘキ擔保ヲ要求スルヲ謂フ、蓋シ支拂人カ手形ノ引受ヲ拒絕シ又ハ之ヲ引受ケタルモ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ是レ概シテ其ノ手形ハ支拂ハレサルモノト爲ルヘシ、但シ支拂人カ引受ノ拒絕ヲ爲シ、又ハ之ヲ引受ケタル後破産ノ宣告ヲ受クルモ絶對ニ滿期日ニ支拂ナキモノニ限ラヌト雖モ既ニ支拂人カ引受ヲ拒絕シタル以上ハ先ツ其ノ手形ハ概シテ支拂ハレサルモノト見ルヘク引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキモ同一ナリ、故ニ斯クノ如ク手形ノ支拂カ疑シキモノト爲リタル場合ニハ其ノ所持人ヲ保護スル爲メニ其ノ前者ニ對シ相當ノ擔保ヲ供セシムルノ必要アリ、是レ擔保請求權ノ來レル所以ニシテ從テ此ノ請求權ヲ生スルハ支拂人カ引受ヲ爲ササル結果ニ外ナラス、故ニ本節ニ於テ引受ニ次キ擔保ノ請求ヲ規定シ、擔保ヲ請求シ得ヘキ場合、擔保請求ノ手續、請求ヲ受ケタル裏書人ノ更ニ爲ス擔保ノ請求、擔保ノ提供及ヒ擔保ニ代フル供託、擔保失效ノ場合、引受人ノ破産宣告ノ場合ニ於ケル擔保ノ請求、其擔保ノ失效ノ場合等ヲ規定セリ

第四百七十四條

支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得
支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲シタルトキハ所持人ハ其殘額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

本條ニ於テハ先ツ通例ノ擔保請求權即チ支拂人カ引受ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル所持人カ其ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ規定セリ、本條ノ規定ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 支拂人カ全部ノ引受ヲ爲ササリシ場合ノ所持人ノ擔保請求權(第一項) (一)抑モ爲替手形ノ支拂人ハ手形ニ支拂人トシテ記載セラレタルカ爲メニ何等ノ義務モ負フモノニ非ラスシテ其ノ支拂ノ義務ヲ負フハ實ニ引受ヲ爲シタルニ因ルモノナルヲ以テ爲替手形ノ所持人ハ其ノ支拂ノ安固ヲ期スル爲メ何時ニテモ手形ヲ支拂人ニ呈示シテ以テ其ノ引受ヲ求ムルコトヲ得ヘク、又タ一覽後定期拂ノ手形ニ在テハ之ヲ呈示セサレハ滿期日ノ起算點ヲ定ムルコト能ハサルカ故ニ必ラス其ノ引受ノ爲メニ之カ呈示ヲ爲スヘキモノナリ(第四七〇、四六五、四六六條ノ說明參看)然ルニ支拂人カ此ノ呈示アルモ引受ヲ爲ササルトキ、若クハ法律上引受ヲ爲ササルモノト看做スヘキトキ、又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ引受ノ日附ヲ記載セサルトキハ是レ其ノ手形ハ概シテ支拂ハレサルモノト見ルコトヲ得ヘシ、但シ此ノ場合ニ於テモ絕對ニ滿期日ニ支拂ハレサルモノニハ限ラスト雖モ既ニ引受ヲ爲サス又ハ法律上引受ケサルモノト看做スヘク又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ引受ノ日附ヲ記載セサルトキハ是レ滿期日ニ於テ概シテ支拂ナキモノト見ルヘキハ至當ナ

リ、而シテ既ニ手形カ斯ノ如ク支拂ノ疑ハシキモノト爲リタル以上ハ所持人ノ權利ヲ保護シ及ヒ其ノ手形ニ信用ヲ與ヘテ流通ヲ滑カナラシムル爲メ所持人ニ對シテ之ニ處スル相當ノ權利ヲ與ヘサル可カラス、此ノ權利ニ付テハ各國ノ立法例三種ニ分レ、或ハ單ニ其ノ前者即チ裏書人及ヒ振出人ニ對シテ支拂ヲ保證スルニ足ルヘキ擔保ヲ要求スルノ權利即チ擔保ノ請求權ノミヲ與フ可シトスルモノアリ、或ハ擔保ノ請求權ノミナラス直チニ前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ノ償還ヲ請求スルノ權利即チ償還請求權ヲモ與フ可シトスルモノアリ、又ハ擔保ノ請求權ト償還請求權ト二者其一ヲ選擇セシム可シトスルモノアリ、然レトモ本法ニ於テハ第一ノ主義ヲ採リ單ニ擔保ノ請求權ノミヲ與フ可キモノトシ本條第一項ニ於テ『支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ擔保ヲ請求スルコトヲ得』ト規定セリ(二)故ニ、一、爲替手形ノ所持人カ第四百六十五條ニ依リ其ノ手形ヲ支拂人ニ呈示シテ引受ヲ求メタルニ支拂人カ其ノ引受ヲ爲ササリシトキ、二、又ハ支拂人カ引受ヲ爲シタルモ其ノ引受ニ或ル條件ヲ附シ又ハ期限ヲ附スル等單純ナル引受ヲ爲ササリシニ依リ第四百六十九條第二項ニ依リ法律上引受ヲ拒絶シタルモノト看做ストキ、若クハ、三、一覽後定期拂ノ手形ニ付キ支拂人カ引受ヲ爲サス又ハ引受ヲ爲シタルモ引受ノ日附ヲ手形ニ記載セサリシトキ此ノ三個ノ場合ニハ所持人ハ次條ニ依リ引受拒絶證書ヲ作ラシメ其ノ前者即チ裏書人中ノ各員若クハ振出人ニ對シ其ノ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ供スヘキコトノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ(三)而シテ此ノ請求ハ所持人ニ對シ直接ニ裏書讓渡ヲ爲シタル裏書人ノミナラス其前ノ裏書人何レノ者ニ對シテモ又ハ振出人ニ對シテモ所持人ヨリ直接ニ爲スコトヲ得ヘシ、例之ハ甲カ振出人、乙、丙、丁、戊カ裏書人ニシテ

己ナル所持人ニ至リタルトキハ其ノ所持人ナル己ハ自己ニ直接ニ裏書讓渡ヲ爲シタル成ノミナラ
ス、丁、丙、乙及ヒ振出人甲ノ四人中何レノ者ニ對シテモ自己ノ好ム所ニ從ヒ自己ヨリ直接ニ擔
保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキカ如シ、之ヲ『所持人ノ擔保請求權』ト謂フ(第四六五乃至四六七條
及ヒ次條ノ說明參看(四)而シテ右ノ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ第四百七十七條ニ依リ引受拒絕
證書ト引換ニ手形金額及費用ニ相當スル所ノ擔保ヲ供シ又ハ擔保ヲ供スルニ代ヘテ相當ノ金額ヲ
供託セサル可カラス(第四七七條ノ說明參看)又タ右ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ更ニ其ノ前ノ裏
書人又ハ振出人ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク、之ヲ『裏書人ノ擔保請求權』ト謂ヒ、
其ノ請求ヲ受ケタル者ハ亦タ右ノ如ク擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲サルヲ得サルナリ(第四七六條
ノ說明參看)

第二 支拂人カ一部ノ引受ヲ爲シタル場合ノ所持人ノ擔保請求權(第二項) (一)右ノ如ク爲
替手形ノ所持人ハ支拂人カ引受ヲ爲ササリシ場合ニ其ノ前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ノ擔保ヲ請
求スルヲ得ルト雖モ支拂人カ第四百六十九條第一項ニ依リ手形金額ノ一部ヲ引受ケタルトキハ其
ノ一部ニ付テハ引受ケアリタルモノナレハ其ノ部分ニ對シテハ擔保ヲ請求スルノ必要ナシ、故ニ
此ノ場合ニハ其ノ引受ケラレサリシ殘額及ヒ費用ニ付テノミ擔保ノ請求ヲ爲ス權利ヲ與フルヲ以
テ足ルヘシ、是レ本條第二項ニ於テ『支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲シタルトキハ所持
人ハ其ノ殘額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得』ト規定セル所以ナリ(二)而シテ
此ノ殘額及ヒ費用ニ付キ其ノ擔保ヲ請求シ得ヘキ場合、擔保請求ノ對手人、擔保ノ提供又ハ供託
等ニ付テハ前項ニ述ヘタル所ト全ク相同シ

第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ 引受拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(同上ヲ以テ)

(參照) 前商法

第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシメ且擔保ヲ供セ
シメント欲スル者ニ對シ遲滯ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

本條ニ於テハ爲替手形ノ所持人ノ擔保ノ請求ヲ爲ス手續ノ要件ヲ規定セリ(一)抑モ爲替手形ノ
所持人カ支拂人ニ對シテ手形ヲ呈示シテ其ノ引受ヲ求メタルニ支拂人カ其ノ引受ヲ爲サス、又ハ
引受ヲ爲シタルモ單純ナル引受ヲ爲ササリシニ因リ引受ヲ拒絕シタルモノト看做サレ、若クハ一
覽後定期拂ノ爲替手形ニ付キ引受ヲ爲シタルモ其ノ日附ヲ手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ其
ノ前者即チ裏書人又ハ振出人ニ對シテ手形金額及ヒ費用ニ相當スル擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル
ハ既ニ前條ノ規定スル所ナリ(前條ノ說明參看)(二)而シテ所持人カ此ノ前條ノ規定ニ從ヒ擔保
ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ本條ニ依リ引受拒絕證書ヲ作ラシメ之ニ依リテ其ノ請求ヲ爲スコ
トヲ得、前商法ノ本條ニ於テハ引受拒絕證書ノ外猶ホ直チニ擔保請求ノ通知ヲ發スヘキモノトセ
リト雖モ改正ノ本條ニ於テハ取引ノ迅速ヲ圖ル爲メ單ニ拒絕證書ヲ作ルヲ以テ足レリトシ通知ヲ
爲スヘキコトノ規定ヲ削除セリ(三)但シ擔保ノ請求ヲ爲スト否トハ所持人ノ自由ナルヲ以テ之
ヲ請求スルコトヲ欲セサルトキハ拒絕證書ト雖モ亦タ之ヲ作ラシムルコトヲ要セス、然レトモ一
覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ支拂人カ引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記
載セサリシトキハ呈示期間内ニ拒絕證書ヲ作ラシムヘク、又タ振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ

記載セザリシ場合ニ引受ヲ求ムル爲メ支拂人ニ呈示スヘキコトヲ記載シタルトキハ必ラス拒絕證書ヲ作ラシムヘク、前者ノ場合ニ拒絕證書ヲ作ラス後者ノ場合ニ拒絕證書ヲ作ラスシテ呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ共ニ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘシ(第四六七、四七二條ノ說明參看)(四) 引受拒絕證書ハ支拂人カ引受ヲ爲ササルトキ、又ハ單純ナラサル引受ヲ爲シタルトキハ直チニ之ヲ作ラシムルヲ要スト雖モ法律ハ之ヲ作ルヘキ期間ヲ定メサルカ故ニ必シモ其ノ日ニ作ルコトヲ要セス滿期日マテニ作ルヲ以テ足ル、唯タ速ニ擔保ノ請求ヲ爲サントスルトキハ引受拒絕ノ日ニ作ルヲ要スルノミ、然レトモ一覽後定期拂ノ手形ニ付テハ其ノ日附ヨリ一年ノ法定期間内又ハ振出人カ定メタル呈示期間内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要シ(第四六六條ノ說明參看) 支拂人カ手形金額ノ全部ヲ引受ケサルトキハ其ノ全部ニ付テ拒絕證書ヲ作ラシメ引受人カ一部ノ引受ヲ爲シタルトキハ其ノ殘額ニ付テ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス(拒絕證書ノ作成ニ付テハ第五一四條ノ說明參看)(五) 引受拒絕證書ヲ作ルベキ場所ハ引受呈示ノ場所ニ同シ、故ニ第四百六十五條第二ノ說明ヲ參看スヘシ、但シ支拂人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキ之カ問合ヲ爲シ猶ホ知レサルトキハ之ヲ爲シタル公證人又ハ執達吏ノ役場若クハ問合セタル官署若クハ公署ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得(第四四二條ノ說明參看)

第四百七十六條 擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得(同)

(參照) 前商法

第四百七十六條 裏書人カ其後者ヨリ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付

キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滞ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百七十四條ニ於テハ所持人ノ擔保請求權ヲ規定シ、前條ニ於テハ其ノ所持人ノ爲ス擔保請求手續ノ要件ヲ規定シタルニ依テ本條ニ於テハ後者ヨリ擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人カ其ノ前者ニ對スル擔保ノ請求權ヲ規定セリ(一) 爲替手形ノ所持人ハ支拂人カ若シ引受ヲ爲ササリシトキハ其ノ前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ相當スル擔保ヲ請求スルコトヲ得ヘキコトハ第四百七十四條ノ規定スル所ナリ(同條ノ說明參看) 而シテ所持人ニシテ既ニ裏書人ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシトセハ其ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ更ニ其ノ前者ナル裏書人及ヒ振出人ニ對シ自己カ擔保スヘキ所ノ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルノ權利アルハ勿論ナリ、何トナレハ振出人及ヒ各裏書人ハ支拂人カ引受ヲ爲ササル場合ニハ等シク擔保ヲ供スヘキ義務アル者ナルヲ以テ若シ裏書人中ノ或ル一人カ所持人ヨリ擔保ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ前者タル裏書人及ヒ振出人ハ所持人ニ對シ擔保ヲ供スル代ハリニ其ノ者ニ對シ其ノ者ノ擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ナル擔保ヲ供スヘキコトハ勿論ナレハナリ、是レ本條ニ於テ『擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額云々相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得』ト規定セル所以ナリ、故ニ例之ハ甲カ振出人、乙、丙、丁、戊カ裏書人ニシテ己ナル所持人ニ至リ、其ノ所持人己カ戊ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲シタルトキハ戊ハ其ノ前者即チ丁、丙、乙及ヒ振出人ナル甲四人中何レニ對シテモ戊カ擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得ヘク、又タ所持人己カ丁ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲シタルトキハ(己ハ其ノ前者即チ甲、乙、丙、丁、戊何レニ對シテモ擔

保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキカ故ニ) 丁ハ其ノ前者即チ丙、乙、甲ノ三人中何レノ者ニ對シテモ更ニ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルカ如シ、之ヲ『裏書人ノ擔保請求權』ト謂フ (二) 而シテ此ノ擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人カ更ニ其ノ前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スニハ更ニ拒絕證書ヲ作成セシムルコトヲ要セス、請求ニ應ジテ擔保ヲ供スル者ニ對シ自己ニ對シテ擔保ヲ請求シタル者ヨリ受取リタル拒絕證書ヲ擔保ト引換ニ交付スルヲ以テ足ル (三) 前商法ノ本條第二項ニハ『前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滞ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス』ト規定セリト雖モ改正ノ本法ニ於テハ既ニ前條ニ於テ所持人ノ爲ス擔保請求ニ付キ通知ヲ發スルコトヲ要セサルモノト爲シタルカ故ニ (前條ノ說明參看) 之ト同一理由ニ依リ本條ノ擔保請求ニ付テモ亦タ通知ヲ發スルコトヲ要セサルモノトシ本條第二項ヲ全然削除セリ

第四百七十七條

前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク引受拒絕證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得

本條ニ於テハ前三條ノ規定ニ依リ擔保ノ請求ヲ受タル者ノ擔保提供ノ方法ヲ規定セリ (一) 前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者即チ所持人ヨリ擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人又ハ振出人 (第四七四條) 其ノ裏書人ヨリ更ニ擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人又ハ振出人 (前條) (第四七五條) 擔保請求ノ手續ニ過キス) ハ其ノ請求ヲ受クルヤ遲滞ナク引受拒絕證書ト引換ニ請求者ニ對シ相當ノ擔保ヲ供スヘキモノトス (二) 而シテ其ノ擔保ノ種類ニ付テハ法律ハ一切之ヲ制限スルコトナキヲ以テ或ハ質權ヲ設定シ、或ハ抵當權ヲ設定シ、又ハ保證人ヲ立テテ爲スコトヲ得ヘシ

(三) 唯タ所持人ニ對シテハ手形金額及ヒ費用、又ハ一部引受アリタル場合ニハ其ノ殘額及ヒ費用ニ相當スル擔保タルヲ以テ足リ、裏書人ニ對シテハ其ノ擔保シタル金額及ヒ費用ニ相當スル擔保タルヲ以テ足ル (四) 但シ右何レノ場合ニ於テモ擔保ニ代ヘ相當ノ金額ヲ供託所ニ供託スルコトヲモ得ヘシ (五) 而シテ其ノ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲ス期間ニ付テハ本條ハ遲滞ナク規定シタルカ故ニ擔保ノ請求ヲ受クルト共ニ直チニ之ヲ爲スヘキモノトス (六) 又タ之カ擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲スニハ拒絕證書ト引換ニ爲スヘキモノナルカ故ニ若シ請求者カ拒絕證書ト引換ニセザレハ必シモ擔保ヲ供スルコトヲ要セス、要スルニ雙方交換的ニ爲スモノナリ、從テ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ更ラニ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スニハ拒絕證書ヲ要セサルカ如シト雖モ請求ヲ受ケタル前者カ裏書人ニ擔保ヲ供スルトキハ請求ヲ爲シタル裏書人ハ之ト交換ニ拒絕證書ノ交付ヲ要スルハ勿論ナリ

第四百七十八條

前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後後者全員ノ爲メ且其後後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

(同上ヲ以テ本條第二項削除)

(參照) 前商法

第四百七十八條(第二項) 所持人又ハ裏書人カ第四百七十五條又ハ第四百七十六條第二項ノ通知ヲ發シタルトキハ其通知ヲ受クル者ノ後者全員ノ爲メニシタルモノト看做ス

本條ニ於テハ前者カ爲シタル擔保又ハ供託ノ其ノ後後者ニ及ホス效力ヲ規定セリ (一) 前者カ前四條ニ依リ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其ノ後者全員ノ爲メニモ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲

シタル効力アルモノトス、例之ハ甲カ振出人、乙、丙、丁、戊カ裏書人ニシテ己ナル所持人ニ至リ、其ノ所持人己カ丙ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲シ(己ハ甲、乙、丙、丁、戊ノ何レニ對シテモ請求ヲ爲シ得ルカ故ニ)丙カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其ノ丙ノ爲シタル擔保ノ提供又ハ供託ハ其ノ後者全員即チ丁、戊ノ爲メニモ爲シタルモノト看做サレ己ハ丁、戊ニ對シテハ最早ヤ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス、是レ本條前段ニ於テ『其後者全員ノ爲メト』規定セル所以ナリ(二)又タ前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其ノ後者全員ニ對シテ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルノ効ヲ生スルモノトス、例之ハ前例ノ如ク丙カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルハ所持人ナル己ノ請求ニ因リテ爲シタルモノナリト雖モ丙ノ後者即チ丁戊ニ對シテモ之ヲ爲シタルモノト看做サレ丁、戊ハ丙ニ對シテハ最早ヤ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス、之ヲ爲ササルモ其ノ擔保又ハ供託金ノ上ニ權利アリ、是レ本條後段ニ於テ『且其後者全員ニ對シテ』ト規定シ、而シテ右一二ヲ合シ『前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス』ト規定セル所以ナリ(三)前商法ノ本條第二項ニハ『所持人又ハ裏書人カ第四百七十五條又ハ第四百七十六條第二項ノ通知ヲ發シタルトキハ其通知ヲ受クル者ノ後者全員ノ爲メニシタルモノト看做ス』ト規定セリト雖モ既ニ第四百七十五條及ヒ第四百七十六條第二項ノ通知ハ之ヲ要セサルモノトシテ其ノ規定ヲ削除シタルカ故ニ從テ右ノ本條第二項ノ規定モ全然之ヲ削除セリ

第四百七十九條 左ノ場合ニ於テハ第四百七十七條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其効力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

- 一 後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ
- 二 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ
- 三 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ
- 四 手形上ノ權利カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ
- 五 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ滿期日ヨリ一年內ニ償還ノ請求ヲ受ケサリシトキ

本條ニ於テハ以上諸條ノ規定ニ依リ裏書人又ハ振出人カ其ノ後者ニ對シ供シタル擔保及ヒ供託ノ効力ノ消滅スヘキ場合ヲ規定セリ、即チ本條第一號乃至第五號ノ事由ノ生スルトキハ裏書人又ハ振出人カ供シタル擔保ハ當然其ノ効力ヲ失ヒテ最早ヤ擔保ヲ受クルニ至リ、又タ供託シタル金額モ其者ニ於テ之ヲ取戻スコトヲ得ルモノトス、本條ニ規定セル各號ノ事由ヲ分說スレハ左ノ如シ

一、後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ 抑モ裏書人若クハ振出人ノ擔保ヲ供シタルハ支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササリシニ因ルモノナルヲ以テ(第四六五、四六九、四七四、四七六條ノ說明參看)假令ヒ擔保ノ請求ニ依リ其ノ擔保ヲ供シ又ハ擔保ニ代ヘテ供託ヲ爲シタルトスルモ其後ニ至リ支拂人カ單純ナル引受ヲ爲シタルトキハ是レ既ニ擔保ヲ供スヘキ原因ナキニ至レルヲ以テ其ノ供シタル擔保ハ効力ヲ失ヒ、供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得ヘキハ勿論ナリ

二、手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ 擔保ノ請求權ハ前述ノ如ク支拂人カ引受ヲ爲サスシテ其ノ支拂カ疑ハシキモノト爲リタルニ因リ之ヲ保證スル爲メニ過キサルヲ以テ其後手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキハ擔保ハ全ク必要ナキニ至ルヘシ、從テ手形金額及ヒ費用ノ支拂アルトキハ擔保ハ當然其ノ效力ヲ失ヒ、供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得ルハ當然ナリ

三、擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ 擔保ハ前述ノ如ク手形金額ノ支拂ヲ保證スルモノニシテ手形金額カ支拂ハレサルトキハ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者ハ償還義務アルニ過キサレハ結局擔保ハ其者ノ爲メニハ償還義務ヲ保證スルモノト謂フヘク、從テ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ償還ヲ爲シタルトキハ擔保ハ全ク必要ナキニ至リ其ノ效力ヲ失ヒ、供託シタル金額ハ取戻スコトヲ得ヘキハ論ヲ俟タス、其ノ前者カ償還ヲ爲シタル場合ニ於テモ亦タ同一ニシテ結局後者ハ手形上ノ責任ヲ免ルルヲ以テ其ノ供シタル擔保ハ效力ヲ失ヒ供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得ヘシ

四、手形上ノ權利カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ 擔保ハ手形上ノ義務者カ其ノ權利者ノ爲メニ權利實行ノ保證トシテ供シタルモノナリ、然ルニ其ノ手形上ノ權利カ時効ニ因リ又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキハ最早ヤ之カ實行ノ擔保ヲ爲ス義務ナキヲ以テ之ト共ニ擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ、供託シタル金額ハ取戻スコトヲ得ヘキハ勿論ナリ

五、擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ満期日ヨリ一年ニ償還ノ請求ヲ受ケサリシトキ 抑モ擔保ハ手形金額ノ支拂ヲ保證スルモノニシテ手形金額ノ支拂ナキトキハ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者ハ償還義務アルニ過キスシテ從テ擔保ハ其ノ償還義務ヲ保證スルモノニ過キス、然

ルニ償還請求權ヲ有スル者カ償還ノ請求ヲ爲ササレハトテ永ク擔保ヲ供シ置クヘキモノトセハ擔保ヲ供シタル者ノ不利尠ナカラサルノミナラス、満期日ヨリ一年ヲ經テ猶ホ償還ノ請求ヲ爲サスシテ拋棄シ置ク者ノ如キハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做スコトヲ得ヘシ、故ニ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ満期日ヨリ一年ニ償還ノ請求ヲ受ケサルトキハ最早ヤ其ノ擔保ハ效力ヲ失ヒタルモノトシ、供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得ヘキモノトス

第四百八十條

引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供

セサルトキハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絕證書ヲ

作ラシムルコトヲ要ス(同上ヲ以テ本項改正)

豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス

(參照) 前商法

第四百八十條(第一項) 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ豫備支

拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絕證書ヲ作ラシメ且遲滞ナク豫備支拂人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前數條ニ於テ支拂人カ引受ヲ爲ササルニ因ル擔保ノ請求ニ關シテ規定シタルニ依リ本條以下ニ於テハ引受人ノ破産ノ宣告ヲ受ケタルニ因ル擔保ノ請求ニ關シテ規定シ、而シテ本條ニ於テハ先ツ

其ノ擔保ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 擔保請求ノ條件

爲替手形ノ支拂人カ引受ヲ爲ササルトキハ所持人若クハ所持人ヨリ擔保ノ請求ヲ對ケタル者ハ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求權アルコトハ前數條ノ規定スル所ナレトモ假令ヒ支拂人カ引受ヲ爲シ引受人ト爲リタリトスルモ其ノ後ニ引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ最早ヤ手形金額ヲ支拂フヘキ資力ナキ者ト認メラレタルモノナルヲ以テ引受アリト雖モ其ノ手形ハ概シテ支拂ノ難キモノト爲リタルコトハ恰モ支拂人カ引受ヲ爲ササリシ場合ト異ナルコトナシ、故ニ此ノ場合ニモ所持人ハ裏書人又ハ振出人ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク、又タ所持人ヨリ其ノ請求ヲ受ケタル者ハ更ニ其前ノ裏書人又ハ振出人ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲ス權アリ、之ヲ稱シテ『引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルニ因ル擔保ノ請求』ト謂フ、從テ擔保請求權ハ單ニ支拂人カ引受ヲ爲ササルニ因ルモノト、支拂人カ引受ヲ爲シタルモ破産ノ宣告ヲ受ケタルニ因ルモノトノ二種アルモノトス、而シテ其ノ前者ニ付テハ前數條ニ於テ規定シ、後者ニ付テハ本條及ヒ次條ニ於テ之ヲ規定セリ、然レトモ引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルニ因リ擔保ノ請求ヲ爲スニハ之ニ要スル條件アリ、而シテ此ノ條件ハ豫備支拂人アルトキト豫備支拂人ナキトキトニ依リテ異ナリ、左ニ之ヲ分説ス

一、豫備支拂人アルトキ

(一)引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ是レ支拂ヲ爲スヘキ資力ナキ者ト看做サレタルモノナルカ故ニ其ノ引受ヲ爲シタルニ拘ハラズ所持人ハ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求權アリト雖モ若シ引受人ニシテ相當ノ擔保ヲ供スルニ於テハ敢テ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ要セサルカ故ニ第一ノ條件ハ引受人カ相當ノ擔保ヲ供セサル場合ナルコトヲ必要トス

(但シ此ノ條件ハ豫備支拂人ナキトキニテモ必要ナリ)(二)而シテ引受人カ相當ノ擔保ヲ供セサル

トキハ所持人ハ直ニ其ノ前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ得ヘキカ如シト雖モ豫備支拂人アルニ於テハ豫備支拂人ニ於テ引受ヲ爲スヤモ知ルヘカラサルノミナラス豫備支拂人ヲ置キタル趣旨ハ第一ノ支拂人ノ引受カ效ヲ奏セサル場合ニ引受ヲ爲サシムルニ在ルヲ以テ先ツ一應豫備支拂人ニ對シ引受ヲ求メシメ而シテ其ノ豫備支拂人ニ於テ猶ホ單純ナル引受ヲ爲ササルトキニ於テ始メテ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(四)但シ豫備支拂人ニ引受ヲ求ムルニハ引受人ノ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス、即チ以上ノ爲メ本條第一項ニ於テ『引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス』ト規定シ、猶ホ第二項ニ於テ『又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其ノ前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得』ト規定セル所以ナリ

二 豫備支拂人ナキトキ

(一)引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ支拂ノ資力ナキ者ト看做サレタルモノナルカ故ニ所持人ハ直チニ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキカ如シト雖モ引受人カ猶ホ擔保ヲ供スルヤモ知ル可カラサルヲ以テ先ツ第一ニ其ノ引受人ニ對シ擔保ノ請求

ヲ爲スヲ要スルコトハ前ニ述ヘタルカ如シ(二)而シテ若シ引受人カ擔保ヲ供セサルトキハ豫備支拂人アルトキハ之ニ對シ引受ヲ求ムヘキコト亦タ前述ノ如シト雖モ豫備支拂人ナキニ於テハ之カ引受ヲ求ムルニ由ナク亦タ必要ナキヲ以テ此ノ場合ニハ所持人ハ直チニ其ノ前者ニ對シ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス、是レ本條第一項ニ於テ『引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ相當ノ擔保ヲ供セサルトキハ』ト規定シ、更ニ第二項ニ於テ『豫備支拂人ナキトキハ所持人ハ其ノ前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得』ト規定セル所以ナリ

第二 擔保請求ノ手續

以上説明シタル所ニ依リ豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其ノ前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得ヘク、而シテ此ノ場合ニ於テ其ノ請求ヲ爲スノ手續ハ支拂人カ引受ヲ爲ササル場合ノ手續ト同シク第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用スヘキモノトス、而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形ノ振出人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ準用ス(第五二九條ノ説明參看)

第四百八十一條

左ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

一 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ

二 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ

三 第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合

本條ニ於テハ引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルニ因ル擔保ノ效力ノ消滅及ヒ供託シタル金額ヲ取戻スコトヲ得ヘキ事由ヲ規定シタルモノニシテ、本條ニ掲ケタル事由ノ生シタルトキハ前條ノ規定

ニ依リテ裏書人又ハ振出人カ供シタル擔保ハ效力ヲ失ヒ、供託シタル金額ハ其者ニ於テ取戻スコトヲ得ルモノトス、本條ニ掲ケタル事由ヲ分説スレハ左ノ如シ

一、豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル擔保ヲ供セサル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキニ所持人ヨリ其ノ前者ニ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ其ノ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササルニ因ルナリ(前條ノ説明參看)然ルニ豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキハ最早ヤ擔保ノ必要ナク、擔保ヲ供セシメタル原因消滅シタルモノナルヲ以テ既ニ供シタル擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ、又タ供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得ヘキハ勿論ナリ

二、引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ所持人ヨリ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ豫備支拂人アル場合ト否ラサル場合トヲ問ハス其ノ引受人カ擔保ヲ供セサルニ因ルモノナリ(前條ノ説明參看)然ルニ引受人カ後日自ラ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ是レ亦タ前者ヲシテ擔保ヲ供シ置カシムルノ必要ナク、其ノ擔保ヲ供シタルノ原因消滅シタルモノナルヲ以テ前者カ供シタル擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ、供託シタル金額ハ取戻スコトヲ得ヘキコト右第一ノ場合ト異ナルコトナシ

三、第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合 此ノ場合ニ付テハ第四百七十九條ノ説明中二乃至五ニ於テ説明シタル所ニシテ茲ニ再説スルノ要ナカルヘシ(同條ノ説明參看)而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形ノ振出人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルニ因リ所持人ノ前者カ擔保ヲ供シタル場合ニ準用スヘキモノトス(第五二九條ノ説明參看)

第五節 支拂

前節ニ於テハ爲替手形ノ擔保ノ請求ヲ規定シタルニ依リ本節ニ於テハ其ノ支拂ニ關スル事項ヲ規定セリ、支拂トハ支拂人(引受人ヲ包含スルコト勿論ナリ)又ハ支拂擔當者カ手形金額ヲ支拂フヲ謂フモノニシテ手形上ノ義務ヲ消滅セシムル通例ノ方法ナリ、抑モ支拂人ハ支拂人トシテ記載セラレタルニ止リ爲ニ支拂ノ義務ヲ負フモノニ非ラス、其ノ支拂ノ義務ヲ負フハ引受ニ因リテ生スルモノナルヲ以テ所持人ハ其ノ支拂ヲ確ムル爲メ支拂人ニ對シ引受ヲ求ムルコトヲ得ヘク、其ノ引受ナキ場合ニ於テハ即チ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ、是レ前二節ニ於テ引受ニ續キ直チニ擔保ノ請求ヲ規定シタル所以ナリ、而シテ引受ハ總テ支拂前ニ起ルモノナルカ故ニ引受及ヒ其ノ結果トシテ生スルコトアルヘキ擔保ノ請求ヲ規定シタル以上ハ順序トシテ次ニ來ルヘキ支拂ヲ規定スルハ當然ナリ、是レ本節ニ於テ引受及ヒ擔保ノ請求ニ次キ支拂ヲ規定シタル所以ニシテ一覽拂ノ爲替手形ノ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示、支拂ノ方法及ヒ一部ノ支拂、手形金額ノ供託等ニ關スル事項ヲ規定セリ

第四百八十二條 一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手

形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

本條ニ於テハ先ツ一覽拂ノ爲替手形ノ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示及ヒ其ノ呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサル場合ノ效果ヲ規定セリ、之ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 一覽拂爲替手形ノ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示(第一項) (一) 抑モ一覽拂ノ爲替手形ハ支拂人カ手形ヲ一覽シタル日即チ手形ノ呈示アリタル日ヲ以テ手形金額ヲ支拂フヘキ満期日トスルモノナリ、但シ手形ニ満期日ヲ記載セザリシトキモ亦タ一覽拂ノ手形トシ其ノ一覽ノ日ヲ以テ満期日トス(第四五〇條ノ三及ヒ第四五一條ノ說明參看) 故ニ一覽拂ノ手形ニ在テハ其ノ手形ヲ支拂人ニ呈示シタル日ハ即チ満期日ニシテ支拂ヲ爲スヘキ日ト爲ルヲ以テ此ノ手形ニ付テハ別ニ引受ノ爲メノ呈示ナルモノナシ、是レ引受ニ關スル第四百六十六條ニ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ呈示期間ノ規定アリテ而シテ一覽拂ノ爲替手形ノ呈示期間ノ規定ナキ所以ナリ、斯ノ如ク一覽拂ノ爲替手形ハ之ヲ呈示セサル間ハ何時マテモ満期日到來セサルモノニシテ從テ所持人カ之ヲ呈示セサル間ハ振出人及ヒ裏書人ハ其ノ義務ヲ免ルルヲ得ス、然レトモ所持人カ之ヲ呈示セサル爲メ振出人及ヒ裏書人ヲシテ永ク責任者ノ地位ニ置クハ是レ永ク不安ノ状態ニ置クモノナルヲ以テ一覽後定期拂ノ手形ノ呈示期間ト同シク所持人ハ其ノ振出ノ日附ヨリ一年內ニ手形ヲ呈示シテ其ノ支拂ヲ求ムヘキモノトス、是レ本條第一項ニ於テ『一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年

内ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス』ト規定セル所以ナリ (二) 然レトモ振出人ハ猶ホ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得ルヲ以テ手形ニ其ノ呈示期間ヲ記載シタルトキハ所持人ハ其ノ期間内ニ呈示ヲ爲シ支拂ヲ求メサル可カラス、是亦タ本條第一項但書ニ於テ『但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得』ト規定セル所以ナリ

第二 呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサル場合ノ效果 (第二項)

(一) 右ノ如ク一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其ノ振出ノ日附ヨリ一年内、又ハ振出人ノ記載シタル呈示期間内ニ手形ヲ呈示シテ其ノ支拂ヲ求ムヘキモノナルヲ以テ若シ此ノ期間内ニ呈示ヲ爲ササルトキハ其ノ前者即チ裏書人及ヒ振出人ニ對シ償還請求ヲ爲ス權利ヲ失フヘシ (二) 又タ假令ヒ實際呈示ヲ爲スモ支拂人カ之ヲ支拂ハサルトキハ拒絕證書ヲ作り其ノ呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ前者ニ對スル償還請求權ヲ失フモノトス、故ニ前者ニ對スル償還請求權ヲ保全セントセハ單ニ呈示ヲ爲シタルヲ以テ足レリトセス必ラス拒絕證書ヲ作ラシメ以テ其ノ呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサル可カラス、蓋シ裏書人及ヒ振出人カ償還請求ニ應スヘキ義務ヲ負フハ滿期日ニ於テ支拂ナキコトヲ條件トスルモノナルニ拘ハラズ所持人カ呈示ヲ爲サスシテ呈示期間ヲ過キタルトキハ是レ正當ニ滿期日ニ支拂ヲ求メタルモノニ非ラサルノミナラス寧ロ償還請求權ヲ拋棄シタルモノト謂フヘシ、是レ本條第二項ニ於テ『所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ』ト規定セル所以ナリ、而シテ以上本條ノ規定ハ一覽拂ノ約束手形ニ準用ス (第五二九條ノ說明參看)

第三 一覽拂以外ノ爲替手形ノ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示

(一) 本條ニハ一覽拂ノ爲替手形ノ

呈示ノミヲ規定シ其他ノ爲替手形ノ呈示ヲ爲スヘキコトヲ規定セス、然レトモ支拂ハ次條ニ規定スル如ク手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セサルモノナレハ何レノ手形ト雖モ支拂ヲ求ムルカ爲メニハ之カ呈示ヲ爲スヘキコト勿論ニシテ別ニ明文ヲ以テ規定スルヲ要セス (二) 支拂人カ引受ヲ爲シタルトキハ其ノ引受人ニ對シテハ滿期日ニ呈示ヲ爲ササルモ拒絕證書ヲ作ラシメサルモ支拂請求權ハ消滅セス (但シ第四九〇條ノ場合ヲ除ク) 唯タ第四百八十七條ニ依リ之ヲ爲ササレハ償還請求權ヲ失フモノナルヲ以テ之ヲ失フヲ甘ンスレハ敢テ呈示ヲ要セス、從テ之ヲ甘ンセス償還請求ヲ爲サントセハ之カ爲メノ呈示ナル同條ノ規定アルヲ以テ足リ特ニ支拂ヲ求ムル爲メノミニ呈示ヲ爲スヘキ明文ヲ必要トセス (三) 未タ引受ヲ爲ササル支拂人ハ滿期日後ニ於テ支拂ヲ爲スコトアルヘシト雖モ之ヲ支拂フト否トハ自由ニシテ支拂アルコトヲ必セサルカ故ニ之ヲ甘ンシ、且ツ呈示ヲ爲ササルカ爲メニ償還請求權ヲ失フコトヲ甘ンスレハ是レ亦タ呈示ヲ要セス、從テ之ニ甘ンセス償還請求ヲ爲サントセハ第四百八十七條ノ規定ヲ以テ足リ別ニ明文ヲ要セス、是レ一覽拂以外ノ爲替手形ニ付キ別ニ支拂請求ノ爲メノミニ呈示ノ規定ヲ設ケサル所以ナリ

第四 支拂ノ爲メニスル呈示ノ場所

所持人カ支拂ヲ求ムル爲メニ手形ヲ呈示スヘキ場所及ヒ拒絕證書作成ノ場所ニ付テハ第四百八十七條ニ說明スル所ヲ參看スヘシ

第四百八十三條

支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス」
支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

本條ニ於テハ爲替手形ノ支拂ノ方法ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 支拂フヘキ金額ト爲替手形ノ引換(第一項) (一) 抑モ手形上ノ債權ハ手形ト其ノ生死ヲ共ニシテ其ノ運命一ニ手形ニ伴フモノナリ、而シテ手形ノ支拂ハ手形ノ債務ヲ辨濟スルノ方法ニシテ當然ナル順序ニ於テ手形ノ最後ノ目的ヲ達スルモノナルヲ以テ支拂アルト共ニ其ノ手形ハ之カ支拂ヲ爲ス者ニ歸セシメサル可カラズ、若シ支拂ヲ爲スニ手形ノ引換ヲ要セスト爲サハ支拂ヲ爲シタル者ハ其ノ證明ヲ爲スコトヲ得サルヘク、更ニ其ノ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求ムル者アルトキハ二重拂ヲ爲ササル可カラサルニ至ルヘシ、故ニ支拂ヲ爲スニ當リテハ爲替手形ト引換ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ要セサルハ勿論ナリ、判例ニ曰ク

商法第四百八十三條支拂ハ手形ト引換ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ要セストノ規定ハ手形債務者ニ付與セラレタル權利ニシテ強制執行ノ場合ト雖モ手形ノ債務者ハ依然此權利ヲ保持スルコト勿論ナリ(明治三十七年オ第二百十七號、同年十月二十二日大審院判決)

以上ハ先ツ本條第一項ノ規定スル所ナリ (二) 支拂ハ爲替手形ト引換ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ要セサルハ單ニ記名式手形ノミナラス無記名式手形ト雖モ亦タ同一ニシテ、白地裏書ニ依リ交付ノミニ因リテ移轉スルコトヲ得ル場合ニ於テモ固ヨリ異ナルコトナシ (三) 支拂ハ爲替手形ト引換ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ要セサルハ本條第一項ノ規定スル所ナレトモ次項ニ依リ所持人ヲシテ爲替手形ニ其ノ支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得ルカ故ニ支拂ヲ爲ス者ニシテ若シ此ノ記載ヲ爲サシメントスルトキハ之ヲ記載セル手形ト引換ニ非ラサレハ支拂ヲ爲スコトヲ要セサルモノト爲ルヘシ (四) 然レトモ次條ノ一部支拂ノ場合ニ於テハ手形ノ原本ト引換ニスルヲ得ス手形ニ其旨ヲ記載セシメ其ノ寫本ヲ交付セシムルコトヲ得ヘシ(次條ノ説

明參看)

第二 所持人ノ受領ノ記載及ヒ署名(第二項)

(一) 支拂ハ手形ト引換ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ要セサルハ前項ノ規定スル所ナレトモ支拂ヲ爲ス者ハ猶ホ所持人ヲシテ其ノ手形ニ支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムル權利アリ、蓋シ支拂ヲ爲スニハ爲替手形ト引換ニ爲スヘシト雖モ單ニ手形ヲ受取りタルノミニテハ支拂ヲ爲シタルカ爲メニ手形ヲ受取りタルモノナルヤ否ヤハ後日ニ證明スルニ難ク、又タ何人ニ支拂ヲ爲シ何人ヨリ之ヲ受取りタルヤモ明カニスルコトヲ得ス、故ニ是等ノ事項ヲ明カニスルカ爲メニハ其ノ手形ニ所持人ヲシテ支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且ツ之ニ署名セシムルヲ適當トス、是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ、從テ支拂ヲ爲ス者ハ所持人カ此ノ手續ヲ爲ササルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ要セスシテ之カ爲メニ支拂ノ拒絕ト看做サルルコトナキハ勿論、所持人ハ之カ爲メニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ得サルナリ (二) 支拂ヲ爲ス者カ所持人ヲシテ右ノ記載ヲ爲サシムルコトヲ得ルハ單ニ記名式手形ノミナラス無記名式手形若クハ白地裏書ニ依リ交付ノミニ因リテ所持人ト爲レル者ニモ之レヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ (三) 所持人カ右ノ記載ヲ爲スニハ爲替手形ニ之ヲ爲スヘク、爲替手形ニ爲ス以上ハ如何ナル場所ニ之ヲ爲スモ妨ケナシト雖モ通例手形用紙ノ裏面ノ末尾ニハ右ノ記載ヲ爲スヘキ欄アルヲ以テ之ニ記載シ署名スヘシ(第四四五條書式ニ參看) (四) 然レトモ次條ノ一部支拂ノ場合ニ於テハ所持人ハ爲替手形ニ其旨ヲ記入シ且ツ其ノ寫本ヲ作り署名シテ之ヲ支拂ヲ爲ス者ニ交付スヘキモノトス(次條ノ說明參看) 而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ノ支拂ニ之ヲ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第三 支拂ヲ爲スヘキ者

(一) 以上説明シタル所ハ本條ノ規定スル所ナレトモ猶ホ支拂ニ關シテハ説明スヘキコト尠ナカラス、以下其ノ二三ヲ併セテ説明セントス、支拂ヲ爲スヘキ者ハ支拂人若クハ支拂擔當者ナリ、支拂人ハ手形ニ支拂人トシテ記載セラレタルニ止マリ引受ヲ爲ササルトキハ支拂ノ義務ヲ負フモノニ非ラス、故ニ支拂ヲ爲スト否トハ自由ニシテ若シ支拂ヲ拒絕シタルトキハ所持人ハ拒絕證書ヲ作ラシメ償還請求ノ通知ヲ爲シテ前者ニ對シ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得(第四八六、四八七條ノ説明參看)(二) 支拂擔當者ハ手形ニ振出人又ハ引受人カ記載スルモノニテ支拂人ノ爲メニ支拂ヲ爲ス者ナリ、而シテ支拂人カ引受ヲ爲ササルトキハ單純ナル支拂人ナルカ故ニ支拂擔當者モ之ヲ支拂ハサル可カラサル義務ナク、從テ支拂擔當者カ支拂ヲ爲ササルトキハ所持人ハ右ノ如ク亦タ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得(第四九〇條ノ説明參看)(三) 支拂人カ引受ヲ約シタルトキハ其ノ引受ニ因リ支拂ノ義務ヲ負フモノナルヲ以テ滿期日ニ於テ必ラス支拂ヲ爲ササル可カラス、從テ引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ右ノ如ク前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ引受人ノ支拂ノ義務ハ滿期日ニ支拂ヲ爲ササルモ其ノ義務消滅スヘキモノニ非ラサルヲ以テ滿期日後ニ於テモ依然支拂ヲ爲スノ義務ヲ負フモノナリ(四) 此他判例ハ支拂保證人モ支拂人ト同一ノ責任アルモノトセリ(第四八七條三ノ説明參看)

第四 支拂ヲ受クヘキ者

(一) 支拂ヲ受クヘキ權利アル者ハ所持人ナリト雖モ其ノ代理人又ハ相續人モ支拂ヲ受クヘキ者ナルコト勿論ナリ、判例ニ曰ク

手形所持人ヨリ支拂拒絕證書作成ノ委任ヲ受ケタル執達吏カ委任者ノ爲メニ支拂人ニ對スル手形ヲ呈示シ支拂ヲ請求スル權能ヲ有スルモ固ヨリ疑ナシ(中略)執達吏カ支拂拒絕證書作成ノ委任ヲ受ケ滿期日後二日內ニ支拂人ニ對シ手形ヲ呈示シテ爲

シタル支拂ノ請求ハ有效ニシテ償還請求ノ一要件ニ當ルニ足ルモノトス(明治三十七年才第五號、同年二月十日大審院判決)即チ所持人ノ委任ヲ受ケタル執達吏モ亦タ支拂ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル者ナリ(二) 所持人トハ裏書禁止アル爲替手形ノ受取人、未タ裏書ナキ爲替手形ノ受取人、被裏書人、白地裏書アル手形ノ所持人、無記名式手形ノ所持人、取立委任ノ被裏書人トス(三) 民事訴訟法ノ規定ニ依リ除權判決ニ依リ手形ノ權利者タルコトノ確定シタル者モ亦タ支拂ヲ受クル權利ヲ有ス、故ニ右等ノ者ハ皆ナ支拂ヲ受クル權利ヲ有スル者ナリ

第五 支拂ヲ爲スヘキ時

(一) 支拂ヲ爲スヘキ時ハ滿期日ナルコト勿論ナリ、何トナレハ滿期日トハ期限ノ滿限ノ日ナレハナリ、故ニ學者ニ依テハ支拂ヲ爲スヘキ日ハ必ラス滿期日ニ限ルト論スル者アリト雖モ滿期日後二日內ハ又タ支拂ヲ爲スコトヲ得ル日ナリ、何トナレハ償還請求ヲ求メントスルニモ第四百八十七條ノ明文ニ依リ所持人ハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示スルヲ以テ足ルヘク、況ンヤ償還請求ヲ爲ス爲メニ非ラスシテ單ニ支拂ヲ求ムル爲メナル場合ニ於テオヤ、必シモ滿期日ノミニ限ラサレハナリ、前商法ノ下ニ於ケル判例ナリト雖モ曰ク

按スルニ支拂ヲ求ムル爲メニ手形ヲ呈示スルハ滿期日ニ於テスルヲ以テ通例トスルコトハ勿論ナレトモ假令滿期日ニ之ヲ呈示セサルモ所持人カ償還請求ノ權利ヲ喪失スヘキ規定商法中ニ存セサルノミナラス同法第四百八十七條ノ規定ニ依レハ拒絕證書ノ作成ハ滿期日又ハ其後二日內ニ於テスルコトヲ得ヘシ而シテ手形ノ所持人カ滿期日ニ手形ヲ支拂人ニ呈示スルモ支拂ナキニ因リ其後二日內ノ期間ニ於テ拒絕證書ヲ作成セントスルニ際シ若シ支拂人カ支拂ヲ爲セント欲スルトキハ所持人ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルハ固ヨリ論ヲ待タズ、故ニ其反面ニ於テ所持人ハ拒絕證書作成ノ期間內ハ適法ニ手形ヲ呈示ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト論斷セサルヲ得ス(明治三十六年才第三百四十九號、同年七月九日大審院判決)

但シ右ノ如ク支拂ヲ爲スヘキ日ハ滿期日又ハ其後ノ二日内ナリト雖モ所持人カ滿期日ニ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示ヲ爲シ支拂ヲ受ケサルトキハ其日ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ得、必シモ滿期日後ノ二日内ニ限ラサルナリ(二)支拂ヲ爲スヘキ時ハ滿期日又ハ其後ノ二日内トス、故ニ支拂ヲ爲ス者カ此日ニ支拂ヲ爲スコトノ延期ヲ求メ支拂ヲ受クル者亦タ之ヲ承諾シタルトキハ此ノ兩者間ニ於テハ延期ハ有效ナリト雖モ所持人ハ滿期日ヨリ起算シ拒絶證書作成期間ニ拒絶證書ヲ作ルニ非ラサレハ前者ニ對スル償還請求權ヲ失フヘシ、延期シタル日ニ於テ拒絶證書ヲ作ルモ其ノ效ナシ、故ニ判例ハ延期ハ當事者間ニ效力ヲ生スト雖モ手形ノ權利關係ヲ民事上ノ權利關係ニ變更スルモノトセリ、曰ク

約束手形ノ所持人カ其滿期日ニ當リ振出人ノ求テ容レテ支拂ノ猶豫ヲ承諾シタルヲ以テ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノト謂フコトヲ得ス、然レハ支拂猶豫ノ契約カ當事者間ニ其效力ヲ生スルヤ明カナリ、而シテ振出人及ヒ所持人ノ間ニ於ケル此契約ハ手形上ノ權利關係ナシテ民事上ノ權利關係ニ變セシムルノ效果ヲ生ス、蓋シ(中略)所持人カ振出人ノ求テ容レ手形ニ記載セル滿期日ニ付キ延期ヲ承諾シタルニ拘ハラズ所持人ハ尙ホ手形上ノ權利ヲ行ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトセハ裏書讓渡人ハ滿期日後何等ノ通知ナキヲ以テ償還義務ヲ免レタリト信スルトキニ於テ自己ノ曾テ關知セサリシ延期契約ノ效果ニ因リ忽然償還請求ヲ受クルノ不幸ヲ見ルニ至ル可キヲ以テナリ(明治三十年オ第二百四十三號、同三十一年四月二十八日大審院判決)

故ニ延期ヲ爲ス時ハ手形關係ハ民事關係ニ變シ從テ手形上ノ償還請求ヲ爲スコトヲ得ス(三)滿期日ハ支拂ヲ爲スヘキ日ノ初日ナルカ故ニ所持人ハ滿期日前ニ於テ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス、又タ支拂人ハ勿論、引受人ト雖モ其前ニ於テ之ニ應スヘキ義務ナシ、從テ所持人モ亦タ滿期日前ニ必ラス支拂ヲ受ケサル可カラサル義務ナシ、但シ支拂人ト所持人トノ者ニ於テ滿期日前ニ任意

ニ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ受クルハ自由ナリト雖モ時トシテ支拂人ニ不利ナルコトアルヘシ(四)滿期日後ニ於テモ支拂人ハ支拂ヲ爲スヘキ義務ナシ、支拂人ハ單ニ支拂ノ委託ヲ受ケタルニ止マルモノナルヲ以テ滿期日前ニ於テモ支拂ノ義務ナシ況ンヤ滿期日後ニ於テオヤ、但シ滿期日後ニ於テ支拂ヲ爲スハ自由ナリト雖モ若シ支拂拒絶證書作成期日後ニ支拂ヲ爲シタルトキハ支拂人ハ支拂ヲ爲シタルニ拘ハラズ振出人ニ對シテ其ノ求償ヲ爲スヲ得サルコトアルヘシ、然レトモ支拂人カ引受ヲ爲シタルトキハ其ノ引受ニ因リ支拂ノ義務ヲ負フヲ以テ滿期日後ト雖モ支拂ヲ爲ササルヲ得サルナリ

第四百八十四條 手形金額ノ全部ニ付キ引受アリタルトキト雖モ所持人ハ

其一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス

一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形ニ記載シ且其寫本ヲ作り署名ノ後之ヲ交付スルコトヲ要ス(同上ヲ以テ)
(本項改正)

(參照)

前商法

第四百八十四條(第二項) 一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形ニ記載シ且其體本ヲ作り署名ノ後之ヲ交付スルコトヲ要ス

本條ニ於テハ手形金額ノ一部支拂ノ效力及ヒ此ノ場合ニ所持人ノ爲スヘキ手續ヲ規定セリ、即チ左ノ如シ

第一 手形金額ノ一部支拂ノ效力(第一項) (一)所持人ハ支拂人カ手形ノ引受ヲ爲ササリ

シトキト雖モ其ノ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス、又タ支拂人カ假令ヒ手形金額ノ全部ノ引受ヲ爲

シタルトキト一部ノ引受ヲ爲シタルトキト問ハス一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス、何トナレハ所持人ハ全部ノ支拂ヲ受クヘキ權利アルハ勿論ナリト雖モ其ノ一部ノ支拂ヲ拒絶セシムルノ必要ナキノミナラス假令ヒ一部ノ支拂ト雖モ苟モ支拂アルトキハ其ノ部分ニ付テハ前者ニ對シテ償還請求ヲ爲スノ手續ト費用トヲ省クコトヲ得レハナリ、是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ(二)從テ所持人ハ其ノ支拂アリタル部分ニ付テハ前者ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得スト雖モ其ノ殘額ニ付テハ依然償還請求權ヲ有スヘキコトハ勿論ニシテ、此ノ殘額ニ對シテハ拒絶證書ヲ作ラシメ通知ヲ爲シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二 一部受領ノ記載及ヒ寫本ノ交付(第二項)

(一)手形金額ノ一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ一部ノ支拂ヲ受ケタル旨ヲ爲替手形ニ記載シ其ノ手形ハ之ヲ自己ニ有シ、唯タ其ノ寫本ヲ作り署名シテ之ヲ支拂ヲ爲シタル者ニ交付スヘキモノトス、前條第一項ニ於テハ支拂ハ爲替手形ト引換ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ要セスト爲シタリト雖モ一部支拂ノ場合ニ於テハ未タ支拂ヲ受ケサル殘額アルヲ以テ所持人ハ手形ノ交付ヲ爲スコトヲ得ス、故ニ手形ニハ單ニ一部ノ支拂ヲ受ケタルコトヲ記載シ、而シテ其ノ受取ヲ明カニスル爲メ其ノ手形ノ寫本ヲ作り署名シテ之ヲ交付スヘキモノトスルヲ便トス、是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ(二)前商法ノ本條第二項ニハ本條ノ『寫本』トアルハ『謄本』トアリシヲ今次ノ改正ニ於テ之ヲ『寫本』ト改メタリ、蓋シ裏書ハ第四百五十七條ニ依リ手形ノ謄本ニ記載スルコトヲ得ヘク、保證モ亦タ同一ナリ(第四五七、四九七條ノ說明參看)是等ノ場合ニ於テ其ノ記載ヲ爲シタル謄本ハ其ノ效用ハ原本ト同一ナリ、然ルニ本條ノ寫本ハ一部ノ支拂アリタルコトヲ記載シタル手形ノ原本ハ依然トシテ所持人ニ

於テ之ヲ保有シ而シテ唯タ其ノ代リニ一部支拂ノアリタルコトヲ明カニスル爲メ支拂ヲ爲シタル者ニ交付スルニ過キサレモノナルカ故ニ之ヲ謄本ト稱スルトキハ原本ト效用ヲ同フスヘキ謄本ト混同スルノ虞レアリ、故ニ今次ノ改正ニ於テ之ヲ區別スル爲メ之ヲ寫本ト改メタリ(明治四十四年一月二十七日貴族院商法中改正法律案特別委員會議事速記録參看)(三)而シテ以上本條ノ規定ハ第五百二十九條及ヒ第五百三十七條ニ依リ約束手形及ヒ小切手ニ準用ス、然レトモ之ヲ約束手形ニ準用スルニハ所持人ト振出人トノ間ニ限ルヲ普通トス、判例ニ曰ク

然レトモ商法第四百八十四條ハ爲替手形ノ所持人ト支拂人トノ間ニ於ケル支拂ニ付テノ規定ナルヲ以テ商法第五百二十九條ニ依リ之ヲ約束手形ニ準用スヘキ場合ニ於テモ亦其所持人ト振出人トノ間ニ於ケル支拂ノ場合ナラサルヘカラス、本案ハ之ト異ナリ裏書人カ所持人ニ對シ約束手形金一部ノ償還ヲ爲シタル場合ニシテ償還金額ヲ手形ニ記載スルコトヲ要スル旨ノ規定ナキヲ以テ上告論旨ハ理由ナシ(明治三十六年第三百四十六號、同年十月十日大審院判決)

然レトモ約束手形ノ振出人ニ保證人アリテ保證人カ支拂ヲ爲スコトアルヘキヲ以テ保證人カ一部ノ支拂ヲ爲シタルトキハ又タ本條ノ規定ヲ準用スヘシ

第四百八十五條 爲替手形ノ支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絶證書

作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得

本條ニ於テハ引受人ノ手形金額ノ供託ニ因ル債務ノ免除ヲ規定セリ(一)抑モ單純ナル支拂人ハ必シモ支拂ノ義務ナシト雖モ、引受人即チ引受ヲ爲シタル支拂人ハ引受ニ因リテ支拂ノ義務ヲ負フカ故ニ所持人ヨリ支拂ノ請求ナキトキト雖モ其ノ義務ヲ免ルルモノニ非ラス、然レトモ爲替手形ハ流通證券ニシテ數人ニ移轉スルカ故ニ引受人カ滿期日ニ於テ支拂ヲ爲サントスルモ所持人ノ

何人ニシテ手形カ何人ノ手ニ在ルヤヲ知ルコトヲ得サルカ故ニ引受人ヨリ進テ支拂ヲ爲スコトヲ得サルヘシ、然ルニ所持人カ支拂ヲ請求セサレハトテ進ンテ支拂ヲ爲ス便宜ヲ有セサル引受人ニ對シ支拂ノ請求アルマテ其ノ責任ヲ負ハシムルハ不當ト謂フヘシ、故ニ此ノ場合ニハ引受人ハ其手形金額ヲ供託所ニ供託シテ其ノ債務ヲ免レシムルヲ適當トス(二)而シテ其ノ供託ヲ爲スコトヲ得ル時期ニ付テハ滿期日後直ニ之ヲ爲サシムルモ不可ナキカ如シト雖モ所持人カ引受人ヲ信用スルノ結果滿期日ニ支拂ヲ請求セサルコトアルヘキヲ以テ支拂拒絶證書作成ノ期間内ハ支拂フヘキ金額ヲ引受人ノ手許ニ存セシメ唯タ支拂拒絶證書作成ノ期間ヲ經過スルモ支拂ノ請求ナキトキニ於テ始メテ供託ヲ許スヲ可トス、是レ本條ニ於テ『支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得』ト規定セル所以ナリ(三)但シ本條ニハ手形金額ヲ供託シテト規定セリト雖モ必シモ手形金額ノ全部ニ限ラス引受人カ一部ノ引受ヲ爲シタル場合ノ如キハ其ノ引受ノ金額ヲ供託シテ債務ヲ免ルルコトヲ得ルハ勿論ナリ、而シテ本條ノ規定ハ約束手形ニ準用ス(第五二九條ノ說明參看)

第六節 償還ノ請求

前節ニ於テハ爲替手形ノ支拂ヲ規定シタルニ依リ本節ニ於テハ償還ノ請求ヲ規定セリ、償還ノ請求トハ爲替手形ノ支拂カ拒絶セラレタルニ因リ所持人又ハ裏書人カ前者即チ其前ノ裏書人又ハ振出人ニ對シテ其ノ支拂ハレサル金額及ヒ費用ノ償還ヲ請求スルヲ謂フナリ、抑モ爲替手形ハ振出人カ其ノ手形金額ノ支拂ヲ支拂人ニ委託スルモノナリト雖モ爲替手形ハ固ト信用證券ニシテ裏書ニ依リ自由ニ輾轉スル流通性アル所以ノモノハ若シ其ノ支拂カ拒絶セラルトキハ裏書人及ヒ振出人ニ於テ之カ償還ヲ爲スヘシトノ條件アルニ因ルモノナリ、故ニ爲替手形ニシテ支拂ハレサルトキハ其ノ性質上裏書人又ハ振出人ニ於テ償還ヲ爲ササル可カラス、是レ償還請求權ノ依テ來ル所ナリ、斯クノ如ク償還請求ハ手形金額カ支拂ハレサル結果トシテ來レルモノナルカ故ニ前節ノ支拂ニ次キ本節ニ於テ償還ノ請求ヲ規定シタルモノニシテ而シテ本節ニ於テハ償還請求ヲ爲シ得ヘキ場合、償還請求ヲ爲スノ手續、償還請求ヲ受ケタル裏書人ノ償還請求及ヒ其ノ手續、支拂擔當者アル場合ニ於ケル償還請求ノ要件、償還請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額、戻爲替手形、償還ヲ爲ス方法等ニ關スル事項ヲ規定セリ

第四百八十六條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

本條ニ於テハ先ツ所持人カ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ヲ規定セリ、是レ恰モ所持人ノ擔保ノ請求ニ關スル第四百七十四條第一項ノ規定ト相對スルモノナリ(一)抑モ爲替手形ノ振出人カ手形ヲ振出スヤ其ノ要件トシテ手形ニ支拂人ヲ記載スト雖モ是レ唯タ滿期日ニ於テ其ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ委託シタルモノニ止マリ支拂人カ果シテ支拂ヲ爲スヘキヤ否ヤハ

未定ナリ、假令ヒ支拂人カ引受ヲ爲シタリトスルモ是レ亦タ満期日ニ於テ果シテ支拂ヲ爲スヤ否
 ヤモ明カナラス、故ニ爲替手形ニシテ單ニ支拂人ノミニ重キヲ置クモノトセハ豈ニ之ヲ信用證券
 ト爲スニ足ランヤ、然ルニ爲替手形カ信用證券トシテ效力アル所以ノモノハ若シ支拂人カ支拂ヲ
 拒絶シタル場合ニハ翻テ振出人ヲシテ其ノ手形金額ヲ償還セシムル途アルニ因ルナリ、又タ爲替
 手形ニシテ前述ノ如ク單ニ支拂人ノミニ重キヲ置クモノトセハ誰カ一片ノ裏書ノミヲ以テ之ヲ受
 取ルモノアラシヤ、然ルニ爲替手形カ裏書ニ依テ能ク流通スル所以ノモノハ若シ支拂人カ支拂ヲ
 拒絶シタルトキハ翻テ裏書人ヲシテ其ノ手形金額ヲ償還セシムル途アルニ因ルナリ、故ニ爲替手
 形ニシテ振出人カ信用アル者ナラシメハ其ノ流通ヤ能ク、裏書人ノ信用アル者ニシテ多カラシメ
 ハ其ノ流通益々盛ナルヘシ、是レ皆ナ償還請求アルニ因ルナリ、之ヲ以テ爲替手形ハ所持人カ引
 受ヲ爲シタルト否ト問ハス若シ支拂ヲ爲ササルトキハ所持人ハ其ノ前者即チ裏書人及ヒ振出人
 ニ對シ其ノ手形金額、利息及ヒ費用ノ請求ヲ爲スコトヲ得ベシ、之ヲ『償還請求權』ト謂フ、故
 ニ例之ハ甲カ振出人、乙、丙、丁、戊カ裏書人ニシテ所持人己ニ至リ、其ノ所持人己カ満期日ニ
 支拂人ニ對シテ支拂ヲ求メタルニ支拂人カ其ノ支拂ヲ爲ササルトキハ己ハ振出人甲若クハ裏書人
 乙、丙、丁、戊ノ數人中其ノ何レニ對シテモ其ノ手形金額、満期日後ノ法定利息及ヒ費用ノ償還
 ヲ請求スルコトヲ得ヘシ、是レ先ツ本條ニ於テ『支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所
 持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得』ト規定セル所以ナリ (二) 本條ニ依リ償還請
 求權ヲ有スル者ハ所持人ナリ、其ノ記名裏書ニ依リ所持人ト爲リタル者ト白地裏書ニ依リ所持人
 ト爲リタル者ナルト其後手形ノ交付ニ因リ又ハ無記名式手形ノ交付ニ因リ所持人ト爲リタル者ナ

ルトヲ問ハサルナリ (三) 所持人ノ償還請求ニ因リテ償還ヲ爲スヘキ者ハ所持人以前ノ手形ニ署名
 シタル者ニシテ裏書人、振出人及ヒ其ノ保證ヲ爲シタル者ナリ、故ニ前例ヲ以テスレハ振出人甲
 裏書人乙、丙、丁、戊ナリ、但シ手形ニ署名シタル者ニ限ルカ故ニ白地裏書及ヒ無記名式手形ニ
 於テ手形ニ署名セス單ニ前者ヨリ受ケテ後者ニ交付シタル者即チ唯タ手渡シタル者ノ如キハ償還
 義務者ニ非ラサルナリ (四) 然レトモ手形ニ署名シタル前者ハ皆ナ何レモ償還義務者ナルカ故ニ
 前例ノ甲、乙、丙、丁、戊皆ナ償還義務ヲ負ヒ所持人ハ其ノ數人中ノ何レニ對シテモ償還ノ請求ヲ爲
 スコトヲ得、故ニ第四百八十七條ノ二ニ於テハ償還請求ノ通知ハ其ノ直接ノ前者ニ對シテ發スヘ
 キモノトセリト雖モ是レ唯タ償還請求ノ通知ヲ爲スヘキ者ヲ定メタルニ止マリ直接ノ前者ニ對シ
 テノミ償還請求權アリト謂フニ非ラス、但シ其ノ直接ノ前者ニ請求ヲ通知スルニ非ラサレハ償還
 請求者ニ於テ不利益アリ (第四八七條ノ二ノ說明參看) (五) 手形ハ固ト信用證券ニシテ而シテ又
 タ流通證券ナルカ故ニ其ノ手形ハ總テ嚴格ナルノミナラス償還請求ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササル場
 合ニ於テ之ヲ其ノ前者ニ對シテ請求シ、又タ其ノ償還ヲ爲シタル者カ更ニ其ノ前者ニ對シテ償還
 ヲ請求スルモノナルカ故ニ其ノ手續ハ殊ニ嚴格ニシテ若シ其ノ手續ニ欠缺アルトキハ其ノ償還請
 求權ヲ失フニ至ル、故ニ償還ノ請求ヲ爲スニ當テハ以下各條ニ規定セル手續ニ注意シテ欠缺ナキ
 コトヲ要ス (六) 但シ償還請求ノ手續ニ欠缺アリテ前者ニ對スル償還請求權ヲ失ヒタルトキト雖
 モ引受人及ヒ約束手形ノ振出人ニ對シテハ請求權アリ (第四七〇條 (三)ノ說明參看) 又タ振出人
 及ヒ引受人ニ對シ請求權ヲ失ヒタルトキト雖モ其者カ利益ヲ受ケタル限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲
 スコトヲ得ヘシ (第四四四、四九〇條ノ說明參看) 而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形ノ振出人、

小切手ノ支拂人カ支拂ヲ爲ササリシ場合ニモ亦タ準用スヘキモノトス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百八十七條

所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間內ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス但此期間ニハ休日ヲ算入セス(同上ヲ以テ)

所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

(參照)

前商法

第四百八十七條(第一項) 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシメ且償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ拒絶證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

前條ニ於テハ手形カ支拂ハレサルトキハ其ノ所持人ニ償還請求權アルコトヲ規定シタルニ依リ本條以下ニ於テハ其ノ償還請求ヲ爲ス手續ヲ規定シ本條ニ於テハ先ツ所持人ノ爲ス償還請求ニ付キ手形ノ呈示、拒絶證券ノ作成及ヒ之ヲ怠リタル場合ニ於ケル權利ノ喪失ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 支拂ヲ求ムル爲メノ呈示(第一項前段)

支拂ヲ求ムル爲メノ呈示ハ償還請求ヲ爲スノ

第一要件ナリ、猶ホ左ニ之ヲ分説ス

一、呈示ノ必要 (一)抑モ裏書人及ヒ振出人カ所持人ニ對シテ負フ所ノ償還義務ハ手形カ若シ支拂ハレサルニ於テハ之カ履行ヲ爲スヘシト謂ヘル條件附ノ義務ナリ、故ニ手形カ支拂ハレタルニ於テハ裏書人及ヒ振出人ハ償還ノ義務アルコトナシ、從テ所持人ハ其ノ手形カ支拂ハレキヤ否ヤヲ確ムル爲メ之ヲ支拂人ニ呈示セサル可ラス、而シテ此ノ呈示ヲ爲スモ支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキニ於テ始メテ前者ニ對シ償還請求權アリ、故ニ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示ハ實ニ償還請求ノ第一條件ナリ(二)然レトモ此ノ呈示ヲ爲スハ償還請求ヲ爲ス條件ノ爲メナルヲ以テ償還請求ヲ爲ササラントセハ必シモ之カ呈示ヲ爲スコトヲ要セス、殊ニ其ノ支拂人カ一旦引受ヲ爲シタル以上ハ之ニ因リテ支拂ノ義務ヲ負フ者ナルヲ以テ呈示ヲ爲ササルモ引受人ハ依然其ノ義務アリ、唯タ時効ニ因ルト手形金額ノ供託ニ因ルト手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ呈示ヲ爲ササルトニ因リテ之ヲ免ルルノミ(第四四三、四八五、四九〇條ノ說明參看)故ニ償還請求ヲ爲ササラントセハ必シモ呈示ヲ要セスト雖モ苟モ償還請求ヲ爲サントセハ必ラス呈示ヲ爲ササル可カラ

二、呈示ヲ爲スヘキ者 (一)呈示ヲ爲スヘキ者ハ償還ノ請求ヲ爲サントスル所持人ナルコト勿論ナリト雖モ其ノ代理人又ハ相續人モ亦タ呈示ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナルコトモ勿論ナリ、判例ハ『執達吏カ支拂拒絶證書作成ノ委任ヲ受ケ支拂人ニ對シ手形ヲ呈示シテ爲シタル支拂ノ請求ハ有效ニシテ償還請求ノ一要件ニ當タルモノ』トセリ(明治三十七年オ第五號、同年二月十日大審院判決)(二)所持人トハ裏書禁止アル爲替手形ノ受取人、未タ裏書人ナキ爲替手形ノ受取人、

被裏書人、白地裏書アル手形ノ所持人、無記名式手形ノ所持人、取立委任ノ被裏書人トス、猶ホ第四百八十三條第四ノ説明ヲ參看スヘシ

三、呈示ヲ受クヘキ者 (一)呈示ヲ受クヘキ者ハ支拂人ナルコト勿論ナリ (二)然レトモ手形ニ支拂擔當者ノ記載アルトキハ先ツ支拂擔當者ニ呈示スヘシ、而シテ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ之ニ呈示シ且ツ其ノ支拂ナキ場合ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシメサルトキハ引受人ニ對シテサヘモ手形上ノ權利ヲ失フヘシ (第四九〇條ノ説明參看) (三)手形ニ支拂保證人アル場合ニ判例ハ『所持人カ支拂保證人ニ對シ支拂ヲ請求スルニ當リテハ主タル債務者ナル振出人ニ對シ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示スルノ要ナキモノトス、何トナレハ手形上ノ債務ヲ保證スルモノハ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負擔スルモノニシテ手形所持人ハ主債務者ト保證人トノ何レニ對シテ支拂ヲ求ムルモ隨意ナレハナリ』トセリ (明治三十七年才第三百三號、同年三月五日大審院判決) (四)又判例ハ約束手形ノ振出人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニモ猶ホ破産者ニ對シテ呈示ヲ爲スヘキモノトセリ、曰ク

按スルニ約束手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ其手形ニ關シ破産財團ニ影響ヲ及ホスヘキ法律行為ヲ爲スコトヲ得サルハ固ヨリ論ナキモ之ニ何等ノ影響ヲ及ホササル法律行為ハ之ヲ爲スコトヲ得、故ニ單ニ其前者ニ對スル償還請求ノ爲メ必要ナル手形ノ呈示ノ如キハ振出人ニ於テ之ヲ受ケルモ破産財團ニ何等ノ影響ヲ及ホササルヲ以テ振出人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス必ス同人ニ對シテ之ヲ爲ササル可カラス (明治三十六年才第三百三十八號、同三十七年三月十二日大審院判決)

四、呈示ノ行爲 (一)呈示トハ之ヲ受クヘキ者ニ對シ支拂ヲ求ムルノ意思ヲ以テ之ヲ示シタルコトヲ認識セシムル行爲ヲ謂フ、故ニ呈示トハ之ヲ受クヘキ者ニ對シテ之ヲ認識セシムルニ足ル

ノ行爲ヲ爲スコトヲ要シ、假令ヒ認識セシムルコト能ハサル場合ニ於テモ其ノ行爲ヲ爲スニ非ラサレハ呈示アリト謂フヲ得ス、從テ判例ニ於テモ支拂人カ支拂地ニ營業所、住所又ハ居所ヲ有セサルトノ一事ヲ以テ手形所持人カ支拂請求手續ヲ爲ササルモ之ヲ爲シタルモノト看做ササルヲ得ストノ規定ナシトシ以テ手形ヲ呈示シ支拂請求ヲ爲ササルモ適法ニ之ヲ呈示シタルモノト看做ササルヲ得スト判定シタルヲ違法ナリトセリ、曰ク

手形所持人カ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ受ケル爲メ支拂期日ニ支拂地ニ至リ支拂人ノ營業所、住所、居所ノ間合ヲ爲シ尙ホ官署又ハ公署ニ間合ヲ爲スモ之ヲ知リ能ハサリシトキハ即チ支拂人ニ於テ支拂ヲ拒絶シタルモノトス可キハ同第四百四十二條ニ徴シテ明カナルモ單ニ支拂人カ支拂地ニ營業所、住所又ハ居所ヲ有セサルトノ一事ヲ以テ手形所持人カ支拂請求手續ヲ爲ササルモ之ヲ爲シタルモノト看做ササルヲ得ストノ規定ナキノミナラス支拂人カ支拂地ニ營業所、住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ手形所持人ハ支拂人ノ本籍地ニ至リ手形ヲ呈示シテ支拂拒絶證書ヲ作成シ以テ裏書人ニ償還請求ノ通知ヲ爲スニ依リ手形上ノ權利ヲ失ハサルモノトスルカ如キ規定モ亦アルナシ、然ルニ原院ニ於テ本件手形ノ支拂人カ支拂期日ニ其支拂地ニ營業所、住所又ハ居所ヲ有セサリシモノト認メ此場合ニ於テハ縱令手形所持人ナル被上告人カ支拂地ニ於テ手形ヲ呈示シテ支拂請求ヲ爲ササルモ適法ニ之ヲ呈示シタルモノト看做ササルヲ得ス殊ニ被上告人ハ支拂人ノ本籍地ニ至リ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ請求シ且支拂拒絶證書ヲ作成シ裏書人ナル上告人ニ對シ償還請求ヲ通知シタルニ依リ手形上ノ權利ヲ失ハスト判定シタルハ前掲法條ノ規定ニ違背シタルモノトス (明治三十三年才第三百四十二號、同年九月十五日大審院判決)

故ニ呈示ニハ之ヲ受クヘキ者ノ營業所、住所又ハ居所ナシト雖モ猶ホ單ニ是レナシト認メタルノミヲ以テ足レリトスルヲ得ス現ニ營業所、住所又ハ居所ニ到リ其ノ呈示ノ手續ヲ試ミ其ノ始メテ全ク存セサルトキニ於テ其ノ行爲完了シタルモノト爲スヘシ (二)從テ其ノ營業所、住所又ハ居所ニ到ルモ呈示ヲ受クヘキ者ニ面會スルコト能ハサルトキハ拒絶證書ニ其旨ヲ記載スルヲ以テ呈

示ノ行爲アリトス、判例ニ曰ク

手形所持人カ支拂ヲ求ムル爲メ支拂場所若クハ手形ノ支拂ヲ求ムルニ適當ナル場所ニ至ルモ支拂義務者ニ面會スル能ハサルトキハ手形ノ呈示ハ此ニ完了ス(明治三十七年オ第百八十九號、同年八月十八日大審院判決)

按スルニ約束手形ノ所持人カ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルニ當リ其手形ニ支拂場所ノ指定アルトキハ先ツ支拂ヲ求ムルカ爲メ右支拂場所ニ至リ振出人ニ對シテ呈示及ヒ拒絕證書作成ノ手續ヲ爲スヘク、而シテ若シ振出人不在ニシテ面會スルコト能ハサルトキハ商法第五百十五條第三號(前商法)ニ依リ振出人ニ面會スルコト能ハサリシ理由ヲ拒絕證書ニ記載スルヲ以テ足ルモノニシテ支拂場所ニ振出人カ出會スルト否トハ毫モ呈示ノ效力ニ影響スルモノニ非サルハ上告人所論ノ如シ(明治三十七年オ第百三十三號、同年五月二十八日大審院判決)

故ニ呈示ヲ受クヘキ者在ラサルトキハ必シモ之ニ面會セサルモ呈示ニ必要ノ行爲ヲ爲スヲ以テ足ル(三)然レトモ判例ハ約束手形ノ支拂保證人ニ對シ支拂ヲ請求スルニハ振出人ニ對シ支拂請求ノ爲メ手形ヲ呈示スルノ要ナシトセリ(明治三十七年オ第百三號、同年三月五日大審院判決、本條前示第三ノ說明中ノ判例參看)

五、呈示ヲ爲スヘキ時 (一)呈示ヲ爲スヘキ時ハ滿期日又ハ其後ノ二日內トス、故ニ滿期日、其ノ翌日及ヒ其ノ翌々日ノ三日間トス、從テ呈示ハ必ラス此ノ三日內ニ爲ササル可カラズ、本條第一項ニ『所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ』ト規定セル是レナリ、從テ所持人カ此ノ期間內ニ呈示ヲ爲ササルトキハ其ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘシ(二)而シテ本條第一項但書ニ『但此期間ニハ休日ヲ算入セス』トアリ、然レトモ此ノ但書ハ拒絕證書ノ作成期間ニ關スルモノナルカ故ニ手形ノ呈示ニ適用セス、從テ手形ノ呈示ニ付テハ滿期日又ハ其後ノ二日內ニ休日アルモ之ヲ算入シ如

何ナル場合ニ於テモ此ノ三日外ニ出ツルヲ得ス(三)一覽拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ一年內又ハ振出人カ定メタル呈示期間內ニ呈示ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ必ラス其ノ期間內ニ呈示ヲ爲スコトヲ要ス、而シテ此ノ期間內ニモ休日アルモ之ヲ算入セス(第四八二條ノ說明參看)(四)前商法ノ本條ニ於テハ『所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ』云々ト規定シ本條ノ如ク『滿期日又ハ其後二日內ニ云々呈示シ』ト規定セサリシヲ以テ明文上ヨリ見レハ滿期日一日ノミニ於テ呈示ヲ爲スコトヲ要スルカ如ク唯タ解釋ニ於テ之ヲ支拂拒絕證書作成期間即チ滿期日又ハ其後ノ二日內ニ爲スコトヲ得ルモノト爲シタルニ過キス、(明治三十六年オ第五號、同年二月十日、同年オ第百三號、同年十月二十四日、同年オ第三百四十九號、同年七月九日大審院判決)故ニ今次ノ改正ニ於テハ明カニ本條ノ如ク規定シ以テ滿期日又ハ其後二日內ニ呈示スヘキコトヲ示シタリ

六、呈示ヲ爲スヘキ場所 (一)呈示ヲ爲スヘキ場所ハ手形ニ支拂場所ノ記載アルトキハ必ラス其ノ場所ニ於テ爲スヘク(二)支拂場所ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於ケル支拂人若クハ支拂擔當者ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其ノ住所又ハ居所ニ於テ爲スコトヲ要ス(此點ニ付テハ說明スヘキコト多シト雖モ既ニ詳説シタルハ茲ニ再説セス、必ラス第四四二、四五二乃至四五四條ノ說明及ヒ判例參看)

第二 支拂拒絕證書ノ作成(第一項後段) 支拂ヲ求ムル爲メノ呈示ハ償還請求ノ第一要件ニシテ支拂拒絕證書ノ作成ハ之ニ次ク第二ノ要件ナリ、即チ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示ヲ爲シタルモ支拂ナキトキハ其ノ拒絕證書ヲ作成セシムルコトヲ要ス、本條ニ『若シ手形金額ノ支拂ナキトキ

ハ同一期間内ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス』ト規定スル是レナリ、左ニ分説ス

一、拒絶證書作成ノ必要 (一)償還請求ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササルニ因リテ始メテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ所持人カ手形ノ呈示ヲ爲シタルモ其ノ支拂ノ拒絶セラレタルコトヲ要ス、從テ所持人カ前者ニ對シ償還請求ヲ爲サントセハ支拂ヲ拒絶セラレタルコトヲ證明スルヲ要シ、其ノ證明ハ確實ナルコトヲ要スルヲ以テ必ラス拒絶證書ニ依リテ之ヲ爲ササル可カラス、故ニ支拂カ拒絶セラレタルトキハ必ラス拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要シ、拒絶證書ノ作成ハ所持人カ償還請求ヲ爲ス第二ノ條件ナリ(二)然レトモ拒絶證書ノ作成ハ償還請求ヲ爲ス條件ノ爲メナルヲ以テ償還請求ヲ爲ササラントセハ必シモ之ヲ作成セシムルコトヲ要セス、殊ニ支拂人カ引受ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ支拂ノ義務ヲ負フモノナルヲ以テ之ヲ作成セサルモ引受人ニ對シテ支拂ノ請求權ヲ失フモノニ非ラス、唯タ手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ拒絶證書ヲ作ラサルトキ之ヲ失フノミ(第四九〇條ノ說明參看)故ニ償還請求ヲ爲ササラントセハ必シモ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要セスト雖モ苟モ之ヲ爲サントセハ必ラス之ヲ作ラシムルコトヲ要ス(三)拒絶證書ハ所持人ノ委任ニ因リ執達吏又ハ公證人ノ作ルモノトス(第五一四條ノ說明參看)

二、拒絶證書作成ノ時期 (一)支拂拒絶證書ハ滿期日カ又ハ其後ノ二日内ニ之ヲ作成セシムルコトヲ要ス、故ニ滿期日ニ作ラシメサルモ遅クモ其ノ翌日又ハ翌々日ニ作ラシメサル可カラス之ヲ『支拂拒絶證書ノ作成期間』ト謂フ、本條ニ『同一期間内ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス』トアル『同一期間内』ト謂フハ即チ滿期日又ハ其後二日内ヲ指ス(二)然レトモ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示ヲ爲スハ滿期日又ハ其後ノ二日内ニ限ルモ拒絶證書ノ作成ニ付テハ其ノ期間内

ニ休日アルトキハ之ヲ算入セスシテ三日トス、即チ本條但書ニ『但此期間ニハ休日ヲ算入セス』ト規定セル是レナリ、蓋シ拒絶證書ハ執達吏又ハ公證人カ作成スルモノナルカ故ニ三日ノ期間内ニ休日アルトキハ其日ハ拒絶證書ハ之ヲ作ルコトヲ得スシテ爲メニ其ノ期間ハ實際二日ト爲リ證書作成ノ時機ヲ失スル虞アレハナリ、是レ今次ノ改正ニ於テ此ノ但書ヲ加ヘタル所以ナリ、從テ此ノ但書ハ手形ノ呈示ニ適用セス、而シテ右ノ期間内ニ拒絶證書ヲ作ラサルトキハ償還請求權ヲ失フヘシ(三)支拂人ト所持人トノ協議ニ依リ支拂日ノ延期ヲ爲シタルトキト雖モ猶ホ右ノ期間内ニ拒絶證書ヲ作ラシムヘシ、然ラサレハ右兩者間ニハ延期ハ有效ナリト雖モ前者ニ對シテ亦タ償還請求權ヲ失フヘシ、故ニ此ノ場合ニ於テモ必ラス右ノ期間内ニ之ヲ作成セシムルコトヲ要ス(第四八三條第五ノ說明中ノ判例參看)(四)但シ拒絶證書作成ノ免除アリタルトキ及ヒ引受人ニ對シテハ之ヲ作ラシメサルモ償還請求權ヲ失フコトナシ(第四八九條ノ說明參看)

三、拒絶證書作成ノ場所 拒絶證書作成ノ場所ハ前ニ說明シタル呈示ノ場所ト異ナルコトナシ、然レトモ若シ支拂人又ハ支拂擔當者ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ公證人又ハ執達吏ハ其地ノ官署ニ問合ヲ爲シ猶ホ知レサルトキハ其ノ役場又ハ官署若クハ公署ニ於テ作ルコトヲ得(拒絶證書作成ノ場所ニ付テハ說明スヘキコト甚タ多キモ既ニ詳説シタレハ茲ニ再説セス必ラス第四四二、四五二乃至四五四條ノ說明及ヒ判例ヲ參看スヘシ)

第三 呈示、拒絶證書作成懈怠ノ結果(第二項) (一)所持人カ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ第一ニ本條第一項前段ニ依リ手形ヲ支拂人ニ呈示シ、第二ニ又タ本條第一項後段ニ依リ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス、而シテ是レ償還請求ニ付キ本條ニ規定シタル二

個ノ要件ナリ、故ニ其ノ要件ノ一ヲ缺クトキハ其ノ所持人ハ前者ニ對スル手形上ノ權利即チ償還請求權ヲ失フヘシ、本條第二項ニ於テ『所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲サリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ』ト規定セル是レナリ (二) 然レトモ引受人及ヒ約束手形ノ振出人ニ對シテハ前者ニ對シ償還請求權ヲ失ヒタルトキト雖モ猶ホ請求權アリ、又タ是等ノ者ニ對シ時效若クハ手續ノ欠缺ニ因リ請求權ヲ失ヒタル場合ニ於テモ其者カ利益ヲ受クル限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得 (第四七〇、四四四、四九〇條ノ說明參看) 而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニ準用ス (第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四 償還請求通知規定ノ轉條

(一) 本條ノ說明ヲ終ハルニ當タリ茲ニ最モ注意スヘキハ前商法ノ本條ニ於テ『且償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ拒絕證書作成ノ日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス』トノ規定ヲ本條ヨリ削除シ之ヲ次條ニ送リタルコト是レナリ、抑モ前商法ノ本條ニ於テハ償還請求ヲ爲スノ要件トシテハ第一手形ノ呈示ヲ爲スコト、第二拒絕證書ヲ作成スルコト、第三償還請求ノ通知ヲ發スルコトノ三トセリ、故ニ假令ヒ適法ニ呈示ヲ爲シ、適法ニ拒絕證書ヲ作成セシメタルモ適法ナル償還請求ノ通知ヲ爲ササリシトキハ前者ニ對シテ償還請求權ヲ失ヒタリシナリ、而シテ前商法ニ於テ此ノ通知ヲ要スルモノトシタルハ償還ヲ請求セラルル者カ突然ニ請求ヲ受クルトキハ之カ支拂ヲ爲スヘキ資金ノ準備ナキヲ以テ之ヲ準備セシムル爲メタルニ在リ、然レドモ此ノ通知ヲ缺キタルカ爲メニ所持人ヲシテ全然前者ニ對スル權利ヲ喪失セシムルモノトスルハ酷ナリ、故ニ償還請求ノ通知ハ次條ニ於テ之レヲ發セシム可キモノトスルモ之ヲ發セサルモ償還請求權ハ失ハサルモノトスルヲ適當トシ即チ先ツ本條ヨリ削除シテ之ヲ次

條ニ移シタリ (明治四十四年一月二十七日貴族院商法中改正法律案特別委員會議事速記録政府委員說明參看) (二) 而シテ斯クノ如ク償還請求ノ通知ノ規定ハ之ヲ次條ニ移シタルカ故ニ所持人カ前者ニ通知ヲ爲ササルモ償還請求權ハ之ヲ失フコトナシト雖モ若シ之カ通知ヲ爲ササルトキハ第四百八十八條ノ二ノ規定ニ依リ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任シ且ツ利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フヘシ、故ニ償還請求ノ通知ハ亦タ必要ナルモノト知ルヘシ (次條以下ノ說明參看)

第四百八十七條ノ二 前條第一項ノ場合ニ於テハ所持人ハ其直接ノ前者ニ

對シ拒絕證書作成ノ日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ

要ス (同上ヲ以テ)

本條ニ於テハ償還請求ヲ爲スニ付テノ通知ヲ發スヘキコト、之ヲ受クル者及ヒ其ノ通知ヲ發スル期間ヲ規定セリ、便宜左ニ之ヲ分説ス

第一 償還請求ノ通知ヲ發スヘキ場合

(一) 前條第一項ニ依リ所持人カ手形ヲ支拂人ニ呈示シタルモ其ノ支拂ナキニ因リ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントシ拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ直接ノ前者ニ對シ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス、是レ本條ノ規定スル所ナリ (二) 支拂拒絕證書作成ノ免除アリタル場合ニ於テハ拒絕證書ヲ作ラシメサルモ所持人ハ其ノ免除ヲ爲シタル者ニ對シテハ第四百八十九條ニ依リ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ (同條ノ說明參看) 故ニ此ノ場合ニハ支拂拒絕證書ハ作ラシメストスルモ本條ニ依ル償還請求ノ通知ハ猶ホ之ヲ發スルコトヲ要ス、何トナレハ拒絕證書作成ノ免除ハ償還請求ノ通知マテモ免除シタルモノニ非ラサレハ

所持人ニ於テ其前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルニハ滿期日後三日即チ支拂拒絕證書作成期間ノ翌日迄ニ償還請求ノ通知ヲ發スルヲ以テ足ルヘク、拒絕證書作成義務ヲ免除セラレタル場合ナルト否トニ依リ右期間ニ何等ノ影響ヲ及ボスヘキモノニ非サルナリ (明治三十七年オ第五百五號、同年四月二十八日大審院判決)

此ノ判例ハ通知ノ期間ニ關スルモノナリト雖モ然カモ拒絕證書作成義務ノ免除アリタル場合ニモ猶ホ償還請求ノ通知ヲ要スルコトヲ知ルニ足ルヘシ (三) 然レトモ償還請求ノ通知ハ償還請求ノ要件ニ非ラサルカ故ニ之カ通知ヲ爲ササルモ償還請求權ハ之ヲ失フコトナシ、此ノ點ニ付テハ下ノ第四百八十八條ノ二ノ第三及ヒ本條第六ノ說明參看)

第二 償還請求ノ通知ヲ受クヘキ者

(一) 償還請求ノ通知ヲ受クヘキ者ハ所持人ノ直接ノ前者トス、本條ニ『其直接ノ前者ニ對シ』ト規定セルハ之カ爲メナリ、故ニ例之ハ甲カ振出人、乙、丙、丁カ裏書人ニシテ戊ニ至リ戊カ所持人ニシテ支拂人カ支拂ヲ爲ササルニ依リ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ所持人戊ノ直接ノ前者即チ丁ニ對シ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス (二) 前商法ノ前條ニ於テハ『且償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ云々通知ヲ發スルコトヲ要ス』ト規定シ償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ通知スヘキモノト爲シタルカ故ニ前例ニ於テ所持人戊カ其ノ前者總員ニ對シ償還ヲ爲サシメント欲スルトキハ其ノ總員即チ甲、乙、丙、丁四人ニ對シテ通知ヲ發セサル可カラシテ極テ煩雜ヲ免レス、故ニ本條ニ於テハ之ヲ改メ其ノ直接ノ前者即チ前例ノ丁一人ニ對シテノミ通知ヲ發スヘキモノトシテ丁一人ニ對シテ發シタルトキハ甲、乙、丙ノ總員ニ對シテ發シタルト同一ノ效力アルモノトシ其ノ甲、乙、丙ニ對シテハ次

條ニ依リ所持人戊ヨリ通知ヲ受ケタル下ヨリ丙ニ、丙ヨリ乙ニ、乙ヨリ甲ニ順次通知スヘキモノトセリ (明治四十四年一月二十七日貴族院商法中改正法律案特別委員會議事速記録參看) 猶ホ此點ニ付テハ次條ノ說明ヲ參看スヘシ (三) 償還請求ノ通知ハ所持人ノ直接ノ前者ニ對シテ爲スヘキモノナリト雖モ若シ其ノ前者カ裏書ヲ爲スニ當リ裏書地ヲ記載セサリシトキハ必シモ其者ニ爲スコトヲ要セス第四百八十八條ノ三ノ規定ニ依リ其者ノ直接ノ前者ニ對シテ爲スコトヲ要ス、例之ハ前例ノ所持人戊ヨリ其ノ直接ノ前者ナル丁ニ通知ヲ爲スヘキ筈ナルモ丁ニシテ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セサリシトキハ丁ニ爲スコトヲ要セス丁ノ直接ノ前者ナル丙ニ爲スヘキカ如シ (第四八八條ノ三ノ說明參看) (四) 償還請求ノ通知ハ其ノ通知ヲ受クヘキ本人ニ對シテ爲スハ勿論、其ノ代理人ニ對シテ爲スモ足レリ、判例ハ民事訴訟法ニ依リ命セラレタル特別代理人ニ對シテ爲スモ有效ナリトシ曰ク

償還請求ヲ爲スニハ請求ヲ爲サント欲スル前者ニ書面ヲ以テ其請求及ヒ支拂拒絕證書作成ノ通知ヲ爲スコトヲ要スルコトハ商法(前商法)ニ規定スル所ニシテ民事訴訟法第四十六條ニ從ヒ任命セラレタル特別代理人ニ其通知ヲ爲シ得ルコトハ商法中ニ規定セサルモ同法條ノ結果豫メ該通知ヲ爲ササレハ訴ヲ起シ償還請求ヲ爲シ得ル場合ニ至ラサルカ故ニ右通知ハ起訴ニ付キ必要條件ニ屬シ訴訟法ニ依リ任命セラレタル特別代理人ハ訴訟ニ關スル事項ニ付キ起訴ノ前後ヲ問ハス代理ヲナス可キモノナレハ起訴ノ必要條件タル行爲モ同人ニ爲セハ之ヲ有効ナリト謂ハサルヲ得ス、然レハ原院カ被上告人ヨリ本件特別代理人タル上告人ニ前掲通知ヲ爲シタルヲ有效視シ判決シタルハ相當ニシテ毫モ不法ノ廉ナシ (明治二十九年オ第五百六十五號、同年五月二十八日大審院判決)

要スルニ通知ヲ代人ニ爲スモ有效ナリ (五) 然レトモ償還請求ノ通知ハ償還請求ノ要件ニ非ラサルカ故ニ所持人カ全然通知ヲ爲サス又ハ直接ノ前者ヲ超ヘタル前者ニ通知シタルトキト雖モ償還

請求權ハ之ヲ失ハサルカ故ニ(第四八六條及ヒ下ノ第六ノ説明參看)本條ニ『直接ノ前者』トアルハ通知ヲ爲スヘキ者ヲ規定シタルニ止マリ之カ爲メニ直接ノ前者ニ對スルニ非ラサレハ償還請求權ナシトノ意ニ非ラサルハ勿論ナリ

第三 償還請求ノ通知ヲ發スヘキ期間

(一)償還請求ノ通知ヲ發スヘキ期間ハ拒絕證書作成ノ日又ハ其ノ後二日內トス、故ニ拒絕證書ヲ作成シタル日及ヒ其ノ翌日、翌々日ノ三日トス、前商法ノ前條ニ於テハ此ノ期間ヲ拒絕證書作成ノ翌日マテトシ二日トセリト雖モ本法ハ三日トシテ一日ヲ伸長シタリ(二)然レトモ前商法ニ比シ一日ヲ伸長シタルモノナルカ故ニ例之ハ七月一日カ滿期日ノ場合ニ同日ニ手形ノ呈示ヲ爲シ同月三日ニ拒絕證書ノ作成ヲ爲シタルトキハ償還請求ノ通知期間ハ同月五日マテナリト雖モ、若シ七月一日ニ呈示ヲ爲シ同日ニ拒絕證書ヲ作りタルトキハ通知期間ハ同月三日マテナリ(三)而シテ前條第一項但書ニ於テハ休日ヲ算入セサル規定アルモ此ノ規定ハ拒絕證書作成ノ期間ノミニ適用スヘキモノナルカ故ニ通知期間ニハ適用セスシテ但シ通知ハ此ノ三日內ニ發スルコトヲ要スルニ止マルカ故ニ苟モ此ノ期間內ニ發シタル以上ハ其ノ到達ノ如何ノ如キハ問フ所ニ非ラサルナリ(五)支拂拒絕證書作成義務ノ免除アリタル場合ニ於テハ所持人ハ恐クハ皆ナ拒絕證書ヲ作成セサルヘシ、然カモ此ノ場合ニモ償還請求ノ通知ヲ必要トス(本條第一(二)ノ説明參看)然レトモ此ノ場合ニハ拒絕證書ヲ作りサルカ故ニ本條ニ『拒絕證書作成ノ日又ハ其後二日內』ト謂ヘル『拒絕證書作成ノ日』ナルモノナルヘシ、果シテ然レハ此ノ場合ノ償還請求ノ通知期間ハ何ニ依リテ之ヲ定ムヘキカ、蓋シ前商法ノ前條ニ於テハ

償還請求ノ通知ハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ且ツ拒絕證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ストシ通知ノ期間モ呈示及ヒ拒絕證書作成期間ト同一條中ニ規定シタルカ故ニ拒絕證書作成義務免除ノ場合モ普通ノ拒絕證書作成ノ翌日マテニ通知ヲ發スヘキコトト解シ得タルモ(本條第一(二)ノ説明中ノ判例參看)改正ノ本條ニ於テハ呈示及ヒ拒絕證書作成期間ヲ規定セル前條ト區別シ本條ニ於テ償還請求ノ期間ノミヲ規定シ而シテ其ノ償還請求ノ期間ノミヲ規定シタル本條ニ於テ突如トシテ『拒絕證書作成ノ日又ハ其後二日內』ト謂ヘルカ故ニ拒絕證書作成ノ日ナキ拒絕證書義務免除ノ場合ハ法文上ニ於テハ遂ニ通知期間ヲ定ムルコトヲ得サルニ至レリ、法律ハ第四百八十九條ノ二ニ於テ『支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ云々拒絕證書作成ノ期間內ニ云々手形ヲ呈示シタルモノト推定ス』ト規定シ手形呈示ノ推定ヲ規定シナカラ何故ニ『拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ支拂拒絕證書作成ノ期間內ニ之ヲ作成シタルモノト看做ス』ト規定セサリシヤ、然レトモ此ノ規定ナキハ法文ノ不充分ナルニ止リ拒絕證書作成免除ノ場合ト雖モ通知期間ヲ別ニスヘキ理由ナキヲ以テ普通ノ拒絕證書作成期間ノ最後ノ日(即チ滿期日ヲ算入シテ三日目)ニ於テ拒絕證書ヲ作りタルモノト看做シ其日又ハ其後二日內ニ通知ヲ發スヘク、結局此ノ場合ニハ七月一日ヲ以テ滿期日トスレハ七月五日マテニ通知ヲ發スルヲ以テ足ルトスヘク、從テ普通ノ場合ニ滿期日七月一日ニ呈示ヲ爲シ同時ニ拒絕證書ヲ作りタルトキハ七月三日マテニ通知ヲ爲ササル可カラサル場合ニ比シ常ニ二日ヲ利スルモノト爲ルヘシ

第四 償還請求ノ通知ヲ爲スヘキ場所

(一)償還請求ノ通知ヲ爲スヘキ場所即チ通知ヲ發ス

ヘキ名宛ノ場所ハ通知ヲ受クヘキ者カ裏書人ナルトキハ手形ニ記載シタル裏書地ニ爲シ、通知ヲ受クヘキ者カ振出人ニシテ手形ニ振出地ヲ記載シタルトキハ其ノ振出地ニ爲スヘシ(二)而シテ裏書人カ裏書地ヲ記載セサルトキハ其者ニハ通知ヲ發セス其ノ直接ノ前者ニ對シテ發スヘキモノナルカ故ニ其者ノ手形ニ記載シタル裏書地ニ爲スヘク順次斯クノ如クス、而シテ振出人ニ至リ手形ニ振出地ノ記載ナキトキハ通知ヲ要セス(第四八八條ノ三ノ說明參看)(三)右何レノ場合ニ於テモ通知ヲ發スルトキハ之ヲ受クヘキ者ノ營業所、營業所ナキトキハ住所又ハ居所ニ宛テ發スヘシ(第四四二條ノ說明參看)

第五 償還請求ノ通知ノ方法

(一)償還請求ノ通知ハ法定ノ期間中ニ之ヲ發スルヲ以テ足ル、而シテ其ノ請求ノ通知ヲ發ストハ所持人カ被通知者ニ對シ其ノ通知事項ノ意思表示ヲ通常被通知者ニ到達シ得ヘキ状態ニ置ク行爲ヲ完了シタルコトヲ謂フ、故ニ必シモ其ノ意思表示カ被通知者ニ到達シタルコトヲ要セスト雖モ通常到達シ得ヘキ状態ニ置クコトヲ要ス、後ニ掲ル判例モ皆之ヲ認ム(二)從テ其ノ通知ノ方法モ亦タ之ニ從ヒタル以上ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ妨ケナク或ハ自ラ面語スルハ勿論、使者ヲ以テスルモ可ナリ、書面タルト口頭タルトヲ問フコトナク又郵便、電信、電話ハ勿論、又タ必シモ性質上通信機關タラサルモノニ依ルモ妨ケナシ、法文ニハ『發スルコトヲ要ス』トアルカ故ニ必ラス書面ヲ以テスルコトヲ要スルカ如シト雖モ是レ唯タ通知ヲ爲スヘキ時期ヲ規定シタルニ止マリ必シモ書面ヲ以テ爲スヘキコトヲ規定シタルモノニ非ラス、唯タ果シテ通知ヲ爲シタルヤ否ヤハ後爭ト爲ルコトアルヲ以テ之ヲ立證シ得ル正確ノ方法ニ依ルハ之レヲ發スル者ノ利益ナリ(三)故ニ從來執達吏ニ委任シテ通知ヲ爲ス者多シ、然レトモ

所謂ル通知ヲ發スルトハ通常被通知者ニ到達シ得ヘキ状態ニ置クコトヲ意味スルコト前述ノ如キカ故ニ判例ハ之ヲ前提トシテ執達吏ニ委任シタル場合モ或ハ之ヲ通知ヲ發シタルモノトシ、又ハ否ラストセリ、將來亦タ執達吏ニ委任スル者アルヘキヲ以テ試ニ之ヲ掲クレハ執達吏ニ委任ノ信書ヲ發シタルハ未タ通知ヲ發シタルモノニ非ラストセル例ハ左ノ如シ

按スルニ商法第四百八十七條ニ謂フ償還請求ノ通知ヲ發ストノ意義ハ償還請求ヲ爲サントスル手形ノ所持人カ其通知ノ發送ニ關シ自ラ爲スヘキ行爲ヲ完了シ其通知ヲシテ當然被通知人ニ到達スヘキ状態ニ在ラシムルノ謂ニ外ナラス、而シテ其通知ノ方法ハ法律ニ於テ一定シアラサルヲ以テ郵便電信ノ如キ通信機關ニ依テ其通知ヲ爲スト執達吏若クハ一人ニ依嚙シ爲ストハ敢テ問フ所ニ非スト雖モ其通知ノ傳達ヲ執達吏ニ依嚙シタル場合ニ於テハ執達吏ニ其依嚙ヲ爲シ承諾ヲ得タル時期ニ至リ初メテ償還請求ノ通知ヲ發シタルモノト謂ヒ得ヘク執達吏ニ對シ其傳達依嚙ノ信書ヲ發シタル行爲ハ未タ以テ商法第四百八十七條ニ謂フ償還請求ノ通知書ヲ發シタル行爲ト謂フヲ得ス、何トナレハ其傳達依嚙書ノ發送ハ依嚙意思ノ發送ニシテ償還請求ノ通知ノ發送トハ自ラ異ナリ、後者ハ執達吏カ其依嚙ヲ承諾シ自ラ其手續ヲ爲スニ因リ初メテ存シ得ヘキモノナレハナリ、然ルニ原院カ依嚙ノ通知ヲ發シタル時ヲ以テ償還請求通知ヲ發送シタルモノナリト判定シタルハ不法ナリトス(明治三十七年才第三百九十八號、同年十月十五日大審院判決)

他管内ノ執達吏ニ委任シタルハ通知ヲ發シタルモノニ非ラストノ例ハ左ノ如シ

按スルニ商法第四百八十七條ノ償還請求ノ通知ハ拒絕證書作成ノ翌日マテニ之ヲ發送スレハ即チ足リ必スシモ先方ニ到達スルヲ要セサルコトハ本院判例ノ既ニ認ムル所ナレトモ其發送タルヤ必ス通常先方ニ到達スヘキ相當ノ方法ヲ採ラサルヘカラサルハ論ヲ俟タサルナリ、而シテ本件ノ如ク送達ニ付キ職權ヲ有セサル他管内ノ執達吏ニ通知ヲ委任スルモ必ス上告人ニ到達スヘキ相當ノ方法ヲ採リタリト謂フ可カラス、然ルニ原院ニ於テ之ヲ是認シタルハ不法ナリトス(明治三十七年才第七百七十四號、同年十月二十日大審院判決)

又タ執達吏カ委任ヲ承諾シタル時ニ於テ通知ヲ發シタルモノトセル例ハ左ノ如シ。

按スルニ商法第四百八十七條ニハ償還請求通知ノ發送ヲ以テ償還請求ヲ爲ス要件中ニ置キタルノミニテ其方法ヲ定メサルニ因リ通知方通常到達シ得ヘキ手續ヲ執了スルヲ以テ其發送アリトスルニ足レリ必スシモ意思傳達ノ機關ト定マリタルモノニ依ルコトヲ要セサルナリ、蓋シ執達吏ハ特ニ意思傳達ノ機關トシテ任用セラレタル者ニ非スト雖モ當事者ノ委任ニ依リテハ其意思ノ通知ヲ爲スコトヲ妨ケサルヲ以テ本件ノ如ク償還請求ノ通知ヲ爲スコトヲ執達吏ニ委任シ其拒絕ナカリシ場合ニ於テハ上告人ハ償還請求ニ必要ナル通知ヲ發シタルモノト謂ハサルヘカラス (明治三十五年才第三百三十三號、同年九月五日大審院判決)

而シテ執達吏カ委任ヲ受ケタル場合ニ通知ヲ送達スルニハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヲ要セストセ
ル例ハ左ノ如シ

按スルニ商法第四百八十七條ニハ『所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ云云拒絕證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス』トアリテ要ハ所持人カ償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ拒絕證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルニ在リ、而シテ郵便ニ依ルト執達吏ニ依頼シ若クハ雇人其他ノ人ヲ介スルトナ間ハ償還義務者ニ對シ前掲ノ日マテニ償還ノ請求ヲ知ラシムル手續ヲ執了シ即チ其請求ノ通知ヲ發スレハ足ルモノニシテ本件ノ如ク執達吏ニ依頼シテ通知ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ敢テ民事訴訟法ニ規定シタル送達ノ手續ニ依ラサルヘカラサルモノニ非ス、要ハ通知ノ方法トシテハ償還義務者ニ通常到達シ得ヘキ方法ヲ執レハ足ルモノナルニ原院カ執達吏チシテ送達ヲ爲サシムル場合ニ於テハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルニ非サレハ通知ノ効チ生セサルモノト判定シタルハ不法ナリ (明治三十四年才第三百六十二號、同年十一月二十一日大審院判決)

右ノ數例ニ依リテ執達吏ニ委任シタル場合ニ果シテ通知ヲ發シタルモノト見ルヘキヤ否ヤヲ解ス
ヘシ (四) 而シテ執達吏ニ委任スルモノト共ニ最モ多キハ書留郵便又ハ配達證明ノ郵便ニ依ルモ
ノ是レナリ、然レトモ判例ニ於テハ之ヲ以テ通知ヲ發シタルコトノ立證ト爲スニ足ラストセル
アリ、參考ノ爲メ之ヲ示セハ左ノ如シ、但シ本法ニ於テハ通知書ト推定スルコトニ關スル規定ア

リ (第四八八條ノ四ノ説明參看)

甲第一號及ヒ甲二號證ハ執レモ書留郵便物受取證ニシテ其成立ハ當事者間ニ爭ナキモ之ニ依リテ原告主張ニ係ル償還請求ノ通知ヲ發シタルモノト認ムルコト能ハス (明治三十三年才第一二四號約束手形金償還請求事件、東京地方裁判所判決)

被告ノ提出シタル甲第三號證ノ書留郵便受取證ハ被控訴人ヨリ控訴人ニ宛テ書留ヲ以テ郵便物ヲ發送シタルコトヲ證スルニ足ルモ其郵便力果シテ甲四號證ノ如キ拒絕證書作成ノ通知及ヒ償還請求ノ書面ナリシコトヲ證スルニ足ラサルモノトス (明治三十三年才第六五三號、約束手形金請求事件、東京控訴院判決)

次ニ確定日附ナキ證書ヲ以テハ通知ヲ爲シタルコトヲ立證スルニ足ラストセル例ハ左ノ如シ

原告カ株式會社土浦五十銀行ヨリ原告ニ對シ償還請求ノ通知ヲ爲シタル事實ヲ立證スル爲メ提出シタル甲第三號證ハ黒川金之助ナル者ノ作成シタル確定日附ナキ私署證書ニ過キサルカ故ニ同證ハ第三者タル原告ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ナル證據力ヲ有セス、然レハ同銀行ハ原告ニ對スル償還請求權ヲ適法ニ保全シタリト爲スニ由ナシ云々 (明治三十三年才第七〇三號、約束手形金請求事件、東京地方裁判所判決)

然レトモ前二例ノ如キ既ニ書留郵便受取書若クハ配達郵便ノ證明書ニ依リ一旦請求者カ之ヲ證明シタル以上ハ其ノ受取書若クハ證明書ハ他ノ書類ニシテ償還請求ノ通知ニ非ラストセハ被請求者ニ於テ之ヲ反對ニ證明スヘキモノナルヲ以テ之カ反證ヲ擧ケサル限りハ償還請求ノ通知ナリト推定スルコト證據法上當然トスル所ナリ、故ニ東京控訴院カ反對ニ之ヲ認メタル例アリ左ノ如シ

被告ハ償還請求ノ通知ヲ受ケタルコトナシト抗爭スルモ本院ハ成立ニ爭ナキ甲第三號證ノ二郵便物配達證明書ニ依リ原告ニ對シ適法ニ償還請求ノ通知ヲ發シタルノ事實アルヲ認ム、然レハ原告ハ被告ニ對シ依然手形上ノ權利ヲ有ス云々

要スルニ從來實際ノ判例ハ斯クノ如ク區々ナルニ依リ本法ニ於テハ今次新タニ第四百八十八條ノ四ノ規定ヲ設ケ『期間内ニ書面ヲ發送シタル事實アルトキ其事實ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取

扱所ノ證アル場合ニ限り其ノ書面ハ之ヲ償還請求ノ通知書ト推定ス』ヘキモノトセリ、但シ此點ニ付テハ同條ニ論スル所ヲ參看スルコトヲ要ス (五) 終リニ償還請求ノ通知ヲ爲スヘキ事項ニ付テハ法律ハ別ニ之ヲ規定スルコトヲ單ニ償還請求ノ通知ト謂ヘリ、故ニ其ノ何レノ手形ナルヤヲ認メ得ヘキ表示ヲ爲シ法定ノ期間内ニ呈示ヲ爲シタルモ支拂人カ支拂ヲ爲ササルコト、依テ法定ノ期間内ニ拒絶證書ヲ作成セシメタルコト、而シテ之ニ依テ償還請求ヲ爲ス爲メ通知ヲ爲スコト等ヲ記載スルヲ以テ足ルヘシ、之ヲ要スルニ通知ノ事項ハ其ノ償還請求ヲ爲スコトノ通知タルコトヲ認メ得ルヲ以テ足ルヘシト雖モ其ノ爭ナキヲ期セントセハ可成ク詳細ニ記載スルコト固ヨリ可ナリ

第六 償還請求ノ通知ヲ缺キタル結果

(一) 所持人カ償還請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ手形ノ呈示ヲ爲シ若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間内ニ支拂拒絶證書ヲ作ルヘク、而シテ右ノ呈示ヲ爲サス又ハ拒絶證書ヲ作ラサルトキハ其ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘキコトハ前條ノ規定スル所ナリ、故ニ本條ノ規定ニ依ル償還請求ノ通知ハ之ヲ爲スコトヲ要スルモ然カモ手形ノ呈示ト拒絶證書ノ作成トヲ適法ニ爲シタル以上ハ本條ノ償還請求ノ通知ハ之ヲ爲サストスルモ償還請求權ヲ失フコトナシ、從テ償還請求ノ通知ハ其ノ請求ノ要件ニ非ラス (前條第四ノ說明參看) (二) 然レトモ若シ其ノ前者ノ何人ニ對シテモ通知ヲ爲ササルトキ即チ全ク通知ヲ爲ササルトキハ第四八八條ノ二ノ第二項ニ依リ自己ノ前者ノ全員ニ對シ通知ヲ爲ササルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任シ且ツ利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フヘク、又タ償還請求ノ通知ハ本條ニ依リ所持人ノ直接ノ前者ニ發スヘキニ其前者ヲ措キ夫レヨ

リ前ノ前者ニ爲シタルトキハ同條第一項ニ依リ其者ノ後者即チ通知ヲ受クヘキ筈ナリシ者ニ對シ同一ノ結果ヲ生ス (同條ノ說明參看) (三) 但シ償還請求ノ通知ヲ受クヘキ裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ手形ニ裏書地ヲ記載セサリシトキ又ハ振出人カ振出地ヲ記載セサリシトキハ第四八八條ノ三ニ依リ其ノ裏書人又ハ振出人ニハ通知ヲ要セス、從テ又タ右ノ通知ヲ缺キタル場合ノ責任ヲ負フコトナシ (同條ノ說明參看) 而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニ準用ス (第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百八十八條 裏書人カ其後者ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタルトキハ其直接ノ前者ニ對シ通知ヲ受ケタル日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス (同上ヲ以テ本條改正)

(參照) 前商法

第四百八十八條 裏書人カ其後者ヨリ前條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ自己カ通知ヲ受ケタル日ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百八十六條ニ於テハ所持人ノ其ノ前者ニ對スル償還請求權ヲ規定シ、第四百八十七條ニ於テハ其ノ所持人カ償還請求ヲ爲スノ手續ヲ規定シ前條ニ於テハ其ノ償還請求ノ通知ヲ規定シタルニ依リ本條ニ於テハ所持人ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人ノ其ノ前者ニ對スル償還請求ノ通知ヲ規定セリ、是レ引受ニ關スル第四百七十六條ニ對スルモノナリ、之ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 裏書人ノ償還請求權

(一) 既に説明シタル如ク所持人ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ其ノ前者ニ對シ償還請求權ヲ有ス(第四八六條ノ説明參看)而シテ裏書人ハ其ノ裏書讓渡ヲ爲ス前ニ於テハ其ノ手形ノ所持人ニシテ其ノ前者ニ對シ償還請求權ヲ有シタリシ者ナルカ故ニ前二條ノ規定ニ依リ自己カ所持人ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ自己ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論ナリ、之ヲ「裏書人ノ償還請求權」ト謂フ、是レ前商法ノ本條第一項ニ於テ「裏書人カ其後者ヨリ前條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得」ト規定セシ所以ナリ、故ニ例之ハ甲カ振出人、乙、丙、丁、戊カ裏書人ニシテ所持人已ニ至リ其ノ所持人已カ戊ニ對シ償還請求ノ通知ヲ爲シタルトキハ戊ハ甲、乙、丙、丁ノ四人中其ノ何レニ對シテモ更ニ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク、又タ戊カ丙ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲シタルトキハ丙ハ更ニ甲、乙二人中何レニ對シテモ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ(但シ通知ニ付テハ下ノ第二參看)(二)然ルニ改正ノ本條ニ於テハ先ツ前商法本條第一項ノ裏書人ノ償還請求權ヲ有スル旨ノ規定ヲ削除シ單ニ第二項ノ償還請求ノ通知ノミヲ本條ニ規定セリ、是レ蓋シ所持人ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人カ其ノ前者ニ對シテ償還請求權ヲ有スルハ勿論ニシテ當然謂フヲ待タサルモノトシタルニ因ルカ又ハ本條ニ於テ償還請求ノ通知ヲ規定スル以上ハ償還請求權ヲ有スルコトハ之ヲ規定セサルモ推測シ得ヘシト謂ヘル理由ニ因ルカ二者其一ニ居ルヘシト雖モ若シ然リトセハ所持人カ償還請求權ヲ有スル旨ノ第四八六條ノ規定モ必要ナク、又タ擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人カ其ノ前者ニ對シテ擔保ノ請求權ヲ有スル旨ノ第四百七十六條ノ規定モ必要ナカルヘシ、然ルニ之ヲ規定シナカラ裏書人ノ償還請求權ノミヲ規定セサルハ法文ノ不一

致ノミナラス其ノ立文ノ體裁ニ於テモ當ヲ得タリト謂フヲ得ス、此點ハ改正ニ非ラスシテ寧ロ改惡ナリト謂フヘシ、本項ニ付テハ猶ホ第四百八十六條ノ説明ヲ參看スルコトヲ要ス

第二 裏書人ノ償還請求ノ通知(本條ノ規定)

(一) 前條ノ規定ニ依リ所持人ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人カ前項ニ説明シタル所ニ依リ更ニ其ノ前者ニ對シ自己カ所持人ニ償還シタル金額ノ償還ヲ請求セント欲スルトキハ自己ノ直接ノ前者ニ對シ自己カ所持人ヨリ通知ヲ受ケタル日又ハ其後二日內ニ更ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス、是レ本條ノ規定スル所ナリ(二)然レトモ此ノ場合ニハ手形ノ呈示ハ所持人ニ於テ之ヲ爲シアリ又タ拒絕證書モ所持人ニ於テ既ニ作成セシメアリテ支拂人カ支拂ヲ爲サリシコトヲ證明シ且ツ此拒絕證書ハ償還ノ際償還ヲ爲シタル裏書人ニ交付スルカ故ニ(第四九五條ノ説明參看)單ニ償還請求ノ通知ノミヲ爲スヲ以テ足り所持人ノ償還請求ノ場合ノ如ク手形ノ呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ヲ要セス(三)裏書人カ本條ニ依リ償還請求ノ通知ヲ爲スヘキ者ハ其ノ直接ノ前者タルコト所持人ノ請求ノ場合ト同シ、故ニ償還ノ請求ハ前者中何レノ者ニモ爲シ得ヘシト雖モ請求ノ通知ハ必ラス其ノ直接ノ前者ニ對シテ爲スコトヲ要ス(四)但シ償還請求ノ通知ハ償還請求ノ要件ニ非ラサルカ故ニ裏書人カ全然通知ヲ爲サス又ハ直接ノ前者ニ爲ササルトキト雖モ償還請求權ノ全部ハ之ヲ失フコトナシ(五)然レトモ若シ全然償還請求ノ通知ヲ發セサルトキハ次條第二項ニ依リ其ノ前者全員ニ對シ通知ヲ爲ササル爲メニ生シタル損害ヲ賠償シ且ツ利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失ヒ、又タ直接ノ前者ニ發セスシテ他ノ前者ニ發シタルトキハ次條第一項ニ依リ其ノ後者ニ對シテ同一ノ結果ヲ生ス(次條ノ説明參看)(六)裏書人カ償還請求ノ通知ヲ爲スニハ本條ニ依リ其ノ直接ノ前者ニ對シ發

スルコトヲ要スト雖モ若シ其ノ裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ手形ニ裏書地ヲ記載セサリシトキハ必シモ之ニ發スルコトヲ要セス其者ノ直接ノ前者ニ對シテ之ヲ發スルコトヲ要ス、振出人カ振出地ヲ記載セサリシトキハ振出人ニ對シテ發スルコトヲ要セス(第四八八條ノ三ノ說明參看)
(七)裏書人カ本條ニ依リ償還請求ノ通知ヲ發スヘキ期間ハ前條ニ依リ所持人ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタル日又ハ其後二日內即チ合計三日トス、故ニ前商法ニ比シ一日ヲ伸長セリ(八)本條ノ規定ニ依リ裏書人ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人カ更ニ其ノ前者ニ對シ償還ノ通知ヲ爲サントスル場合ニ於テモ總テ本條ノ規定ニ從フ(九)此他本條ニ付テハ前條ニ說明シタル所ハ之ヲ適用シ得ヘク而シテ前條ニ於テ詳説シタルカ故ニ必ラス之ヲ參看スルコトヲ要ス、又タ本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニモ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百八十八條ノ二

所持人又ハ裏書人カ其直接ノ前者ニ非サル前者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發シタルトキハ其者ノ後者ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任シ且利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フ

所持人又ハ裏書人カ其前者ノ何レニ對シテモ通知ヲ發セサリシトキハ其

前者全員ニ對スル權利義務ニ付キ前項ノ規定ヲ準用ス(同上ヲ以テ)

第四百八十七條ノ二及ヒ前條ニ於テハ所持人及ヒ裏書人ノ償還請求ノ通知ヲ規定シタルニ依リ本

條ニ於テハ是等ノ者カ其ノ通知ヲ爲サス又ハ通知スヘキ順序ヲ紊リタル場合ニ於ケル效果ヲ規定セリ、是レ今次ノ改正ニ於テ新タニ設ケタル所ナリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 本條立法ノ趣旨

(一)所持人又ハ裏書人カ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ各々其ノ直接ノ前者ニ對シテ其ノ通知ヲ發スヘキコトハ第四百八十七條ノ二及ヒ前條ノ規定スル所ナリ(同二條ノ說明參看)然レハ所持人又ハ裏書人カ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ各々其ノ直接ノ前者ニ對シテ通知ヲ發スヘシト雖モ若シ其ノ直接ノ前者ニ發セス其ノ前者ヲ超ヘタル前者ニ發シ若クハ全ク通知ヲ發セサリシトキハ其ノ結果ハ如何、是レ當サニ本條ノ規定スル所ナリ抑モ本法ニ於テハ第四百八十七條ニ於テ手形ノ呈示ヲ爲サス又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲ササルトキハ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘキモノト爲シタルカ故ニ手形ノ呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ハ償還請求ノ絕對ノ要件ナリト雖モ償還請求ノ通知ヲ爲サス又ハ其ノ順序ヲ誤リタル場合ニ於テ手形上ノ權利ヲ失フヘキコトヲ規定セサルカ故ニ償還請求ノ通知ハ償還請求ノ要件ニ非ラス、故ニ償還請求ノ通知ヲ爲サス又ハ通知ノ順序ヲ誤リタルトキト雖モ之カ爲メニ所持人又ハ裏書人ハ前者ニ對スル償還請求權ヲ失フモノニ非ラス、然レトモ前條及ヒ前々條ニ於テ償還請求ノ通知ヲ發ス可キモノトセルハ償還ヲ請求セラルル者即チ償還義務者ヲシテ其ノ通知ニ因リテ償還スヘキ資金ノ準備ヲ爲サシムルニ在リ、果シテ然レハ償還ノ請求ヲ爲ス者カ其ノ通知ヲ爲サスシテ償還義務者カ資金ノ準備ヲ爲スコトヲ得ス爲メニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ損害ヲ生シタルハ償還請求者カ通知ヲ缺、又ハ順序ヲ誤リタルニ因ルモノナルヲ以テ其ノ損害ハ通知ヲ爲サス又ハ通知ノ順序ヲ誤リタル者ニ於テ負擔セサル可カラス、是レ先ツ本條ノ一貫セル立法ノ趣旨トス(二)而シテ此ノ趣旨ニ依リテ本條第一項ニ於テハ通知ノ順序ヲ誤リタル場合即チ直接ノ前者ニ非ラサル前者ニ通知ヲ發シタル場合、第二項ニ於テハ全ク通知ヲ爲ササリシ場合即チ前者ノ何レニモ通知ヲ

發セサル場合ノ效果ヲ規定セリ、即チ左ノ如シ

第二 順序ヲ誤リテ通知ヲ爲シタル場合(第一項)

(一)所持人カ其ノ直接ノ前者ニ非ラサル前者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發シタルトキ例之ハ振出人甲、裏書人乙、丙、丁ヨリ所持人戊ニ至リ而シテ戊カ支拂人ヨリ支拂ヲ受ケサル爲メ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ甲、乙、丙、丁何レニ對シテモ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ償還請求ノ通知ハ第四百八十七條ノ二ニ依リ其ノ直接ノ前者ナル丁ニ對シテ爲ササル可カラス、然ルニ所持人戊カ其ノ直接ノ前者ナル丁ニ對シテ爲サスシテ更ニ其ノ前者ナル丙ニ對シテ爲シタルトキハ直接ノ前者ナル丁ハ通知ヲ受ケサルカ爲メ償還ノ資金ヲ準備スルコトヲ得ス、然カモ前者ナル以上ハ丁ハ償還義務ハ免レサルヲ以テ通知後實際ニ償還ヲ請求セラルルトキハ急ニ資金ヲ準備セサル可カラスシテ茲ニ損害ヲ生スヘキヲ以テ此ノ場合ニハ償還請求者戊ハ丁ニ對シ爲メニ生シタル損害ヲ賠償シ且ツ自己カ請求スヘキ利息金及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フヘシ、本條第一項ニ『其者ノ後者ニ對シ云々損害ヲ賠償スル責ニ任シ』トアル『其者ノ後者』トハ右ノ場合ニ於ケル丙ノ後者即チ丁ヲ指シタルモノナリ、故ニ此ノ場合ニハ戊カ丁ニ償還ヲ請求スルコトヲ得ルハ手形元金ノミニ止マル(二)右ハ所持人カ其ノ直接ノ前者ニ非ラサル前者ニ通知ヲ發シタル場合ナルモ所持人ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人カ其ノ直接ノ前者ニ非ラサル前者ニ通知ヲ發シタル場合ニ於テモ亦タ同シ、例之ハ前例ノ丁カ所持人戊ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタル場合ニ丁カ更ニ償還ノ請求ヲ爲サントスルニ當タリ其ノ直接ノ前者ナル丙ニ通知セシテ乙ニ通知ヲ發シタルハトキハ丁ハ丙ニ對シ通知ヲ缺キタルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償シ且ツ利息及ヒ費用ノ償還請求權ヲ失フヘキカ如シ、而シテ本條

第一項ハ右ノ所持人ト裏書人ト兩者ノ通知ノ場合ヲ併セテ規定シタルモノナリ(三)然レトモ裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ手形ニ裏書地ヲ記載セサリシトキハ償還請求ノ通知ハ次條第一項ニ依リ其ノ直接ノ前者ニ對シテ發スヘク、例之ハ右(一)ノ例ニ於テ所持人戊ニ對スル裏書人丁カ裏書ニ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セサリシトキハ所持人戊ノ爲ス通知ハ其ノ前者即チ丙ニ發スヘキモノニシテ法律上丁ニ發スルコトヲ要セサルモノナルカ故ニ此ノ場合ニハ次條第二項ノ規定ニ依リ本條ノ規定ヲ適用セシテ戊ハ丁ニ對シ損害賠償ノ責ナク且ツ手形元金ハ勿論、利息、費用ト雖モ亦タ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(次條ノ說明參看)

第三 前者ノ何レニモ通知ヲ爲サザリシ場合(第二項)

(一)本條第一項ハ所持人又ハ裏書人カ其ノ直接ノ前者ニハ償還請求ノ通知ハ發セサリシモ更ニ其ノ直接ノ前者ノ前者ニ發シタル場合ナルモ若シ所持人又ハ裏書人カ其ノ前者ノ何レニ對シテモ通知ヲ發セサリシトキ即チ全然何人ニモ通知ヲ發セサリシトキハ其ノ前者全員ハ何レモ償還資金ノ準備ヲ爲スコトヲ得サリシモノナルカ故ニ償還請求ヲ爲ス所持人又ハ裏書人ハ其ノ前者全員ニ對シテ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任シ且ツ利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フヘシ、故ニ例之ハ前項(一)ノ例ニ於テ所持人戊ハ何人ニモ通知ヲ發セサリシトキハ甲、乙、丙、丁何レニ對シテモ損害賠償ノ責ヲ負ヒ利息及ヒ費用請求ノ權利ヲ失フヘク(二)ノ例ニ於テ裏書人丁カ其ノ前者ノ何人ニモ通知ヲ發セサリシトキハ甲、乙、丙以レニ對シテモ亦タ同一ナルカ如シ(二)然レトモ裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ手形ニ裏書地ヲ記載セサリシトキ又ハ振出人カ振出地ヲ記載セサリシトキハ之ニ通知スルコトヲ要セサルカ故ニ之ニ通知セサルモ之ニ對シテ賠償ノ責ヲ負フコトナク、利息及ヒ費用

用ノ請求權ヲ失フコトナシ (次條ノ說明參看)

第四百八十八條ノ三 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セサリシ

トキハ償還請求ノ通知ハ其直接ノ前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前條ノ規定ハ裏書地ヲ記載セサリシ裏書人ニ對スル權利義務ニハ之ヲ適用セス振出人カ振出地ヲ記載セサリシトキ亦同シ^(上同)

前條ニ於テハ所持人又ハ裏書人カ償還請求ノ通知ノ順序ヲ誤リ又ハ全然通知ヲ爲ササリシ場合ノ結果タル賠償責任及ヒ利息、費用ノ償還請求權ノ喪失ヲ規定シタルニ依リ本條ニ於テハ裏書地又ハ振出地ヲ記載セサリシ裏書人又ハ振出人ニ對スル償還請求ノ通知ノ不要及ヒ此ノ場合ニハ前條ノ賠償責任及ヒ利息、費用ノ請求權喪失ノ規定ヲ適用セサル旨ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 裏書人カ裏書地ヲ記載セサリシ場合

(一) 所持人又ハ償還請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人カ其前者ニ對シ償還請求ヲ爲サントスルトキハ其ノ直接ノ前者ニ對シ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要スルコトハ第四百八十七條ノ二及ヒ第四百八十八條ノ規定スル所ナリ (同條ノ說明參看) 然レトモ其ノ直接ノ前者 (直接ノ前者ハ所持人又ハ裏書人ニ對シ裏書讓渡ヲ爲シタル裏書人ナリ) カ裏書ヲ爲スニ當タリ手形ニ裏書地ヲ記載セサリシトキハ之レニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發セントスルモ其ノ者ノ住所又ハ居所ノ不明ナルコトアル可クシテ通知ヲ發スルコト能ハサル場合アルヘシ、從テ其ノ前者ニ對シ償還請求ノ通知ヲ受ケントセハ裏書ヲ爲スニ當タリテハ手形ニ裏書地ヲ記載スヘク、若シ之ヲ記載セサリシトキハ本條ニ於テハ之ニ對シテ通知ヲ發スルコトヲ要セス其

ノ前者ニ對シテ發スヘキモノトシ本條第一項ニ於テ『裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セサリシトキハ償還請求ノ通知ハ其直接ノ前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス』ト規定セリ、故ニ例之ハ振出人甲、裏書人乙、丙、丁ヨリ所持人戊ニ至リ、戊カ支拂ヲ受ケサリシ爲メ償還請求ノ通知ヲ其ノ直接ノ前者ナル丁ニ爲サントシタルモ丁カ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セサリシトキハ戊ハ丁ニ對シテ通知ヲ爲スコトヲ要セス丁ノ直接ノ前者ナル丙ニ對シテ爲スヘキカ如ク又ハ戊ヨリ丁カ通知ヲ受ケタル場合ニ丙カ裏書地ヲ記載セサルトキハ丁ハ乙ニ通知スヘキカ如ク、(二) 前條第一項ノ規定ニ依レハ裏書人カ其ノ直接ノ前者ニ通知ヲ發スヘキニ其者ニ通知セスシテ其ノ前者ニ發シタルトキハ其ノ通知ヲ受ケサリシ者ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘキ責ニ任シ且ツ利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フヘキモノナリ (同條ノ說明參看) 例之ハ前例ニ於ケル所持人戊カ其ノ直接ノ前者ナル丁ニ對シテ通知ヲ發スヘキニ丁ニ發セスシテ其ノ前者ナル丙ニ發シタルトキハ通知ヲ受ケサリシ丁ニ對シテ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償シ且利息及ヒ費用ノ請求權ヲ失フヘシ、然ルニ本條ニ於テハ裏書地ヲ記載セサリシ裏書人即チ前例ノ丁ニハ通知ヲ爲スコトヲ要セス其直接ノ前者ナル丙ニ通知スヘシトセルカ故ニ此場合ニ前條第一項ノ規定ヲ適用スヘキモノトセハ所持人戊ハ通知ヲ受ケサリシ丁ニ對シ損害賠償ノ責ニ任シ利息、費用ノ請求權ヲ失ハサル可カラス、然レトモ本條ニ於テ裏書地ヲ記載セサリシ丁ニ通知スルコトヲ要セストセルハ法律カ規定セルモノナルノミナラス丁ハ手形ニ裏書地ヲ記載セスシテ通知ヲ受ケサルコトヲ甘シタルモノナルカ故ニ假令ヒ之カ爲メニ損害ヲ生スルモ戊ヲシテ賠償セシムヘキ限リニ在ラス又タ戊ヲシテ利息、費用ノ償還請求權ヲ失ハシムヘキ理由ナシ、故ニ本條第二項

ニ於テハ前條ノ規定即チ損害賠償、利息、費用請求權喪失ノ規定ハ裏書地ヲ記載セサリシ裏書人ニ對スル權利義務ニハ之ヲ適用セサルモノトセリ

第二 振出人カ振出地ヲ記載セザリシ場合

(一) 振出人ハ手形ヲ振出シタル者ニシテ最後ノ償還義務者ナルヲ以テ其ノ後者カ振出人ニ對シテ償還請求ヲ爲サントスルトキハ振出人ニ對シテ其ノ通知ヲ發スヘシ、例之ハ前項ニ示シタル例ノ如ク振出人甲、裏書人乙、丙、丁ヨリ所持人戊ニ至リ、戊ヨリ丁ニ償還請求ノ通知ヲ爲シ、丁ハ丙ニ、丙ハ乙ニ同様通知ヲ爲シタルトキハ乙ハ甲カ其ノ直接ノ前者ナルヲ以テ前條第一項ニ依リ振出人甲ニ對シテ又々通知ヲ發スヘシ、然レトモ振出人カ手形ニ振出地ヲ記載セサリシトキハ其ノ住所又ハ居所ノ知レサルコトアルヲ以テ裏書人カ裏書地ヲ記載セサル場合ニ其ノ裏書人ニ通知セスシテ其ノ直接ノ前者ニ通知スルト同ク振出人ニ通知セスシテ其ノ直接ノ前者ニ通知スヘキモノナリト雖モ振出人ニハ前者ナキヲ以テ結局此ノ場合ニハ何人ニモ通知ヲ要セサルコト爲ルヘシ、而シテ既ニ振出人ニ通知ヲ要セサルコトガ法律ノ規定ニ出ツルモノトセハ通知ヲ爲ササルハ當然ナルカ故ニ其ノ通知ヲ爲ササルコトノ結果ナル前條ノ賠償責任及ヒ利息、費用ノ請求權喪失ノ規定ハ此ノ場合ニ適用スヘカラサルハ言ヲ須ヒス、故ニ本條第二項ニ於テ『前條ノ規定ハ云々之ヲ適用セス振出人カ振出地ヲ記載セサルトキ亦同シ』トセリ(二)但シ本條第二項ニハ

前條ノ規定ハ裏書地ヲ記載セサリシ裏書人ニ對スル權利義務ニハ之ヲ適用セス振出人カ振出地ヲ記載セサリシトキ亦同シ』ト謂ヘル一句ハ第二項ノミニ附加セラレ第

ト規定シ『振出人カ振出地ヲ記載セサリシトキ亦同シ』ト謂ヘル一句ハ第二項ノミニ附加セラレ第

一項ニハ附加セラレサルカ故ニ第一項ノ規定ハ振出人カ振出地ヲ記載セサリシ場合ニハ用ヒラレサルモノト爲ルヘシ、果シテ然レハ裏書人カ裏書地ヲ記載セサリシトキハ其ノ裏書人ニ通知ヲ要セストノ意ナル第一項ハ振出人カ振出地ヲ記載セサリシ場合ニ用ヒス從テ此ノ場合ニモ振出人ニハ通知ヲ要スルコト爲ルヘシ、故ニ若シ振出人カ振出地ヲ記載セサリシ場合ニモ通知ヲ要セサルモノト規定セントセハ

裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セサリシトキハ償還請求ノ通知ハ其ノ直接ノ前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前條ノ規定ハ裏書地ヲ記載セサリシ裏書人ニ對スル權利義務ニハ之ヲ適用セス

前二項ノ規定ハ振出人カ振出地ヲ記載セサリシ場合ニ之ヲ準用ス
ト謂ヘルカ如ク規定スヘシ、此ノ規定ト雖モ第一項ニ對シテハ完全ニ非ラスト雖モ本條ノ規定ニ比シテハ優ルコト萬々ナルヘシ、今次ノ改正カ其ノ法文ニ於テ往々ニ首肯シ能ハサルモノアルハ何ソヤ、但シ解釋トシテハ前ニ述ヘタル如ク解スヘキハ勿論ナリ

第四百八十八條ノ四

所持人又ハ裏書人カ其前者ニ對シ第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ期間内ニ書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事
實ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證アル場合ニ限り其書面ハ之ヲ
償還請求ノ通知書ト推定ス(上同)
本條ニ於テハ所持人又ハ裏書人カ償還請求通知期間内ニ發シタル書面ヲ償還請求ノ通知書ト推定
スヘキ場合ヲ規定セリ (一) 償還請求ノ通知ハ前商法ニ於テハ之ヲ償還請求ノ要件トシ本法ハ之

ヲ絶對的要件トセスト雖モ之ヲ發スルヲ要スルコトハ第四百八十七條ノ二及ヒ第四百八十八條ノ規定スル所ニシテ若シ其ノ發スヘキ者ニ發セス又ハ全然發セサルトキハ第四百八十八條ノ二ニ規定スルカ如キ結果ヲ來タスヲ以テ從來ニ於テモ之ヲ發スル方法トシテ書留郵便ヲ用ヒ又ハ配達證明郵便ヲ用ヒシコト甚タ尠ナカラス將來又タ之ヲ用ユル者多カルヘシ、然ルニ書留郵便又ハ配達證明郵便ノ如キハ其ノ郵便物ノ何タルヲ證明スルモノニ非ラサルカ故ニ從來ノ判例ニ於テモ單ニ是等ノ郵便ノミヲ以テハ償還請求ノ通知ヲ爲シタルコトノ立證ト爲スニ足ラスト爲シ又ハ之ニ反スル例アリ、但シ苟クモ一應償還請求ノ通知ヲ爲シタルモノトシテ書留郵便又ハ配達證明郵便ヲ以テ之レカ立證ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ償還請求ノ通知ニ非ラスト主張スル者ハ其者ニ於テ却テ更ニ其ノ然ルコトノ反對舉證ヲ爲スノ責アルヘシト雖モ實例ノ解スル所ハ右ノ如クナルヲ以テ(第四八十七條ノ二ノ第五ノ說明中ノ判例參看)本條ニ於テハ『所持人又ハ裏書人カ其前者ニ對シ第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ期間内ニ書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事實ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證アル場合ニ限リ其書面ハ之ヲ償還請求ノ通知書ト推定ス』トセリ(二)然レトモ本條ニ依リ此ノ推定ヲ爲スニハ先ツ第一ニ所持人又ハ裏書人カ其前者ニ對シテ第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ通知期間内ニ書面ヲ發送シタルノ事實アルコトヲ要ス、故ニ(イ)差出人ハ所持人又ハ裏書人ナルコト(ロ)受取人ハ其ノ前者ナルコト(ハ)第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ通知期間内ニ差出シタル書面ナルコト(ニ)以上ノ事實アルコトノ諸件ヲ要ス(三)而シテ第二ニ右ノ事實ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證アルコトヲ要ス、通信官署トハ郵便局、電信局ノ如キヲ謂ヒ、公衆通信取扱所トハ鐵道停車場ノ公衆電

報取扱驛ノ如キヲ謂フ(四)故ニ以上第一、第二ノ條件アルトキハ其ノ書面ハ反證ナキ限り之ヲ償還請求ノ通知書ト推定スト雖モ茲ニ注意ヲ要スルハ本條ニ『云々書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事實ニ付キ云々』ト謂ヒ直ニ『書面ヲ發送シタル事實ニ付キ』ト謂ハサリシコト是レナリ蓋シ書面發送ノ事實ハ後日其ノ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證明書ヲ以テモ之ヲ證シ得ヘシト雖モ本條ノ推定ヲ爲スニハ之ヲ以テハ足ラス其ノ書面發送ノ事實其モノノ中ニ於テ證アルヲ要シ換言スレハ『事實ニ付キ』證アルコトヲ要ス、故ニ例之ハ『大正三年三月一日何某ヨリ何某ニ宛テ普通郵便物ヲ發送シタルコトヲ證明ス、大正三年十月一日何々郵便局』ト謂ヘルカ如キ發送ノ事實アリタル後チノ證明書即チ發送ノ事實其モノニ附著セサルモノハ以テ此ノ推定ヲ爲スノ證ト爲スコトヲ許サス、之ニ反シテ書留郵便物ヲ發送スルニ際シ其ノ郵便物ヲ受取リタルコトノ郵便局ノ受取證ハ其ノ書面發送ノ事實ニ附著シタルモノナルカ故ニ本條推定ノ證ト爲スニ足ルカ如シ、要スルニ本條ノ『事實アルトキハ其事實ニ付キ』ト謂ヘルハ正ニ右ノ意ヲ表示セントシタルモノト解ス(五)本條ノ規定ハ苟モ右ノ事實アリ而シテ反證ナキ限りハ償還請求ノ通知書ト推定スルモノナリト雖モ固ト推定ナルカ故ニ反對ノ證據ヲ以テ其ノ推定ヲ破ルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ

第四百八十九條 爲替手形ノ所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキ
ト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ
所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得ス
本條ニ於テハ支拂拒絕證書作成ノ免除アリタル場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキノ所持

人ノ免除者ニ對スル權利及ヒ所持人カ猶ホ拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ノ費用ノ負擔者ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 拒絕證書作成免除ノ場合之ヲ作ラシメサル所持人ノ權利 (第一項)

(一) 抑モ爲替手形ノ所持人カ其ノ前者ニ對シ償還請求ヲ爲スニハ其ノ第二ノ條件トシテ拒絕證書ヲ作成セシムルコトヲ要スルハ第四百八十七條ノ規定スル所ナリ (同條ノ說明參看) 然レトモ元來拒絕證書ヲ作ルハ償還請求ヲ受クル者ニ對シ支拂人カ支拂ヲ爲サリシコトヲ證明スルモノニシテ要スルニ償還請求ヲ受クル者即チ振出人及ヒ裏書人ノ利益ノ爲メニ爲スモノナリ、故ニ振出人若クハ裏書人ニシテ之ヲ要セストスルトキハ其ノ作成ヲ免除スルコトヲ得、之ヲ稱シテ『拒絕證書作成ノ免除』ト謂フ (二) 斯クノ如ク拒絕證書作成ノ免除ヲ爲スハ振出人若クハ裏書人ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要セスト爲シタルモノナルヲ以テ所持人カ償還請求ノ際之ヲ作ラサリシトテ其ノ免除者ニ對スル償還請求權ヲ失フヘキ理ナシ、是レ本條第一項ニ於テ『所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ』ト規定セル所以ナリ (三) 然レトモ是レ唯タ其ノ免除者ニ對シ請求權ヲ失ハサルニ過キサルヲ以テ其ノ免除者以外ノ者ニ對シ償還請求ヲ爲サントセハ拒絕證書ヲ作成セシムルコトヲ要シ、之ヲ作成セシメサレハ免除者以外ノ者ニ對スル請求權ヲ失フヘシ、但シ拒絕證書ノ作成ヲ要スルハ所持人カ償還請求ヲ爲スニハ拒絕證書ノ作成ヲ要セサルハ勿論ナリ (四) 拒絕證書ノ作成ノ免除ハ單ニ拒絕證書ヲ作成スルコトヲ免除シタルモノニ過キサルカ故ニ之カ爲メニ償還請求ノ通知ヲ爲スコトマテモ免除シタルモノニ非ラ

ス、故ニ拒絕證書作成ノ免除アリタルトキハ免除者ニ對シテハ拒絕證書ノ作成ヲ要セスト雖モ償還請求ノ通知ハ猶ホ之ヲ爲ササル可カラス (五) 拒絕證書作成ノ免除ヲ爲スニハ必シモ之ヲ手形ニ記載スルコトヲ要セス其他ノ方法ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得、判例ニ曰ク

按スルニ拒絕證書作成免除ノ行爲ハ之ヲ手形ニ記載スルニ非サレハ手形上ノ效力ヲ生スルコト能ハサルハ勿論ナリト雖モ其事項ハ元來手形ノ要件ニ非サルヲ以テ直接當事者ノ間ニ在テハ假令之ヲ手形ニ記載セサルモ意思表示ノ效力アルヘキコトハ毫モ疑ナ容ルヘキニ非ス本件ニ於テ原判決ニ確定セラレタル事實ニ依レハ拒絕證書作成免除ノ意思表示ヲ爲シタルコト明カナレハ手形ニ記載セサルモ效力ヲ有スルモノトス (明治三十七年第五百十五號、同年十二月十日大審院判決)

然レトモ是レ唯タ免除者、被免除者ノ當事者間ニ有效ナルニ過キサレハ他ノ者ニ對シテモ效力ヲ生セシメントセハ手形ニ記載スルコトヲ要ス (六) 拒絕證書作成ノ免除ヲ爲スハ必シモ之ヲ手形ニ記載スルヲ要セス其他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得、然レトモ之ヲ手形ニ記載シタルトキハ其ノ後者全員ノ爲メニ效力ヲ生シ其ノ後者ヨリ免除者ニ償還請求ヲ爲スニハ其ノ作成ヲ要スルコトナシ、例之ハ振出人カ免除ノコトヲ手形ニ記載シタルトキハ一切ノ裏書人及ヒ所持人ヨリ振出人ニ請求ヲ爲ス場合ニ拒絕證書ノ作成ヲ要セス、裏書人ノ一人カ之ヲ手形ニ記載シタルトキハ其後一切ノ裏書人及ヒ所持人ヨリ其ノ裏書人ニ請求ヲ爲ス場合ニ作成ヲ要セサルカ如シ

第二 拒絕證書作成免除ノ場合ニ之ヲ作ラシメタル費用ノ負擔 (第二項)

(一) 右ノ如ク振出人若クハ裏書人カ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタルトキハ所持人カ免除者ニ償還請求ヲ爲スニハ拒絕證書ノ作成ヲ要セスト雖モ拒絕證書ハ亦タ所持人ノ爲メニハ支拂ヲ受ケサルコトヲ證明スル要具ニシテ殊ニ免除者以外ノ者ニ償還請求ヲ爲スニ必要ナルヲ以テ拒絕證書ヲ作成セシムルコ

トハ一方ニ於テハ所持人ノ權利ナリ、故ニ振出人若クハ裏書人ハ自己ニ對シテ之カ作成ヲ免除スルコトヲ得ルト雖モ所持人ノ之ヲ作ラシムル權利ヲ奪フコトヲ得ス、從テ所持人ハ免除アリタルニ拘ハラズ之ヲ作ルハ自由ナリ(二)所持人ヨリ償還ノ請求アリタル場合ニ振出人若クハ裏書人カ之ニ償還スヘキ金額ハ單ニ手形金額ノミナラス拒絕證書作成ノ手数料及ヒ費用ヲ包含ス(第四九一條ノ說明參看)而シテ拒絕證書ノ作成ハ其ノ免除アリタルニ拘ハラズ所持人ノ權利ナリトセハ若シ所持人カ之ヲ作リタルトキハ是レ當然ノ權利ヲ行ヒタルモノニシテ前述ノ如ク其ノ作成費用ハ償還請求ノ金額中ニ包含スルモノナルカ故ニ振出人又ハ裏書人カ證書作成ノ免除ヲ爲シタルニ拘ハラズ償還ノ際其ノ費用ヲ負擔セサル可カラサルハ當然ナリ、是レ本條第二項ニ於テ『所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得ス』ト規定セル所以ナリ、而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百八十九條ノ二

支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ呈示シタルモノト推定ス(同上ヲ以テ)

本條ニ於テハ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ適法ニ支拂ヲ求ムル爲メ手形ノ呈示ヲ爲シタルモノトスル推定ヲ規定セリ(一)所持人カ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スニハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ支拂人ニ呈示スルコトヲ要シ之カ呈示ヲ爲ササルトキハ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘキコトハ第四百八十七條ノ規定スル所ナリ(同條ノ說明參

看)而シテ其ノ果シテ法定ノ期間内ニ呈示ヲ爲シタルヤ否ヤハ支拂拒絕證書ニ記載シ之ヲ以テ證明ス、然ルニ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル場合ニ於テハ所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作ルコトナキコト普通ナルヲ以テ所持人カ果シテ法定ノ期間内ニ手形ヲ呈示シタルヤ否ヤヲ證明スヘキ具ナシ、然カモ此ノ場合ニ呈示ノ證明ヲ爲スカ爲メニ拒絕證書ノ作成ヲ要ストセハ拒絕證書作成ノ免除ハ殆ント免除ノ效アラサルヘシ、故ニ今次ノ改正ニ於テ本條ヲ追加シ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メニ手形ヲ呈示シタルモノト推定スヘキモノトセリ、從テ支拂拒絕證書ノ免除アリタルトキハ所持人ハ償還請求ノニ要件タル支拂拒絕證書ハ之ヲ作ルコトヲ要セス、又タ手形ノ呈示モ當然之ヲ爲シタルモノト推定セラル、但シ下ノ如ク推定ハ破ラレルコトアルヘシ(二)而シテ此ノ推定アルハ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對スル場合ノミニ限り免除ヲ爲ササル者ニ對シテハ此ノ結果ヲ生セス、要スルニ本條ノ規定ハ拒絕證書作成ノ免除ヲ爲シタル者ニ對シテノミ適用アリテ而シテ免除ヲ爲ササル者ニ對シテハ適用ナシ(三)又タ免除ヲ爲シタル者ニ對スル場合ト雖モ本條ノ規定ハ一ノ推定ニ止マルカ故ニ反對ノ證明アルトキハ手形ノ呈示ヲ爲シタルモノトノ推定ハ破ラレルコトアルハ勿論ナリ

第四百九十條

所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂擔當者ニ、若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ

支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百八十七條
第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(同上ヲ以テ)
爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人カ前項ニ定メタル手
續ヲ爲ササリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ

(參照) 前商法

第四百九十條(第二項) 支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テ所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキ
ハ支拂擔當者ニ、若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支
拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第
四百八十七條第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絶證書ヲ作ラシメ且償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

本條ニ於テハ支拂擔當者アル場合ノ償還請求ノ手續及ヒ其ノ手續ニ欠缺アル場合ノ效果ヲ規定セ
リ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 支拂擔當者アル場合ノ償還請求手續(第一項)

(一) 振出人ハ支拂人ニ非サル者ヲ以テ
支拂擔當者トシテ記載スルコトヲ得ヘク、振出人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂人モ亦タ引受ヲ
爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得ヘキハ第四百五十三條及ヒ第四百七十二條第一項ノ規定スル
所ナリ(同一條ノ說明參看)而シテ手形ニ此ノ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ所持人カ償還請求ヲ爲
サントスルトキハ手形ヲ其ノ支拂擔當者ニ呈示シテ以テ支拂ヲ求ムルコトヲ要ス、蓋シ支拂擔當
者ハ支拂人自ラ支拂ヲ爲サス特ニ之カ支拂ヲ爲サシムル爲メニ設ケタル者ナルヲ以テ支拂擔當者

アル場合ニ於テハ先ツ之ニ手形ヲ呈示シテ其ノ支拂ヲ求ムヘキコト當然ナレハナリ(二) 支拂擔當
者アル場合ニ手形ノ呈示ヲ爲スヘキ者、呈示ノ行爲、呈示ヲ爲スヘキ時、呈示ヲ爲スヘキ場所ニ
付テハ支拂擔當者ナキ場合ノ第四百八十七條ニ說明シタル所ト同シ(同條ノ說明參看)(三) 支拂
擔當者アル場合ニ所持人カ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メタルモ支拂擔當者カ支拂ヲ爲ササルトキハ
支拂地ニ於テ第四百八十七條第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(四) 支
拂擔當者アル場合ニ擔當者カ支拂ヲ爲ササルニ因リ作ルヘキ拒絶證書ノ作成時期、作成ノ場所等
ニ付テハ支拂擔當者ナキ場合ノ第四百八十七條ニ說明シタル所ト亦タ同シ(五) 支拂擔當者アル
場合ニ所持人カ支拂擔當者ニ呈示ヲ爲サス又ハ拒絶證書ヲ作ラサルトキハ引受人ニ對シテモ手形
上ノ權利ヲ失フヘキコトハ次ノ如シ(六) 支拂擔當者アル場合ト雖モ所持人カ其ノ前者ニ對シ償
還ノ請求ヲ爲サントスルニハ支拂擔當者ニ呈示ヲ爲シ且ツ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルヲ以テ足リ
更ニ支拂人ニ對シ呈示ヲ爲シ請求ヲ爲スコトヲ要セス直ニ前者ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得
第二 右ノ場合ニ償還請求手續ニ欠缺アル場合ノ效果 (一) 爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ア
ル場合ニ於テ所持人カ其ノ前者ニ對シ償還請求ヲ爲ス條件ハ右ノ如シ、然ルニ所持人カ此ノ手續
ヲ爲ササリシトキハ其ノ前者ニ對シ償還請求權ヲ失フヘキコトハ第四百八十七條第二項ニ依ルモ
固ヨリ當然ナリ(二) 然レトモ手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ所持人カ右ノ請求手續ヲ爲サ
サルトキハ單ニ其ノ前者ニ對シテ償還請求權ヲ失フノミナラス引受人ニ對シテモ支拂ヲ請求スル
權利ヲ失フヘシ、抑モ支拂人カ一旦引受ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ支拂ノ義務ヲ負フモノナル
カ故ニ引受人即チ引受ヲ爲シタル支拂人ニ對シ支拂ヲ請求スルニハ手形ノ呈示ヲ必要トセス又タ

先ツ支拂擔當者ニ呈示スヘキコトハ支拂場所アルトキハ先ツ支拂場所ニ於テ呈示ヲ爲スヘキト同ク支拂擔當者ノ性質上當然ナル所ニシテ特ニ法文ニ明言スルヲ要セス、第四百八十七條ニ於テモ本條ニ於テモ支拂場所アルトキハ先ツ支拂場所ニ於テ呈示スヘシトノ規定ヲ爲ササルニ非スヤ、然カモ其規定ナキモ支拂場所アルトキハ先ツ其ノ支拂場所ニ於テ呈示ヲ爲スヘキハ當然ナリ、而シテ遂ニ本條第一項ノ規定ハ全ク無用ニシテ、唯タ第二項ヲ規定スルノ前提タリシニ止マルニ至レリ、蓋シ政府ノ改正案ニ於テハ本條ノ規定ヲシテ前商法ノ如ク他所拂手形ノ償還請求手續ヲ規定シタルモノナラシメ更ニ一層之ヲ明確ナラシメントシタルヲ衆議院ニ至ルニ及ンテ前示ノ如ク『支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テ』ナル數字ヲ削リテ遂ニ本條第一項ノ規定ヲシテ無意義ナルニ至ラシメタリ、今次ノ本法ノ改正カ往々ニシテ改悪ナルカ如キモノアルハ如何(二)本條ニ依リ所持人カ償還ノ請求ヲ爲サントシ支拂擔當者ニ手形ヲ呈示スル場合ニ於テモ支拂場所アルトキハ必ラス其ノ支拂場所ニ於テ擔當者ニ呈示スルコトヲ要シ、支拂場所ナキトキハ支拂地住所地下異ナル場合ニ於テノミ之ヲ定ムルコトヲ得ルモノトセシカ故ニ支拂擔當者ハ支拂地ニ於ケル者タルハ勿論ナリト雖モ本法ニ於テハ第四百五十三條改正ノ結果トシテ支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナルト否トヲ問ハス支拂擔當者ヲ定ムルコトヲ得ルモノトシタルカ故ニ支拂擔當者ハ支拂地ノ者ニ限ラスシテ從テ支拂擔當者アルノ故ヲ以テ必シモ支拂地ニ於テ支拂ヲ爲スヘキモノト限ラス、要スルニ支拂擔當者アルト否トハ支拂ヲ爲スヘキ土地ト何等ノ關係ナク、從テ支拂擔當者ヲ定メタルトキト雖モ支拂場所アルトキハ支拂場所ニ於テ呈示スヘク、支拂場所ナキトキハ支

拂地ニ於テ呈示スヘキコト勿論ナレハナリ、前商法ノ本條ニ於テ『若シ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ手形ヲ呈示シ』トアル『支拂地ニ於テ』ト謂ヘルハ前商法ノ本條ハ他所拂手形ノ償還請求手續ヲ規定シタルモノナルカ故ニ若シ支拂擔當者ノ記載ナキ場合ニ於テハ支拂人ノ住所地下ニ於テ呈示スルモ妨ケナシト誤解スルヲ避クル爲メ支拂地ニ於テ呈示スヘキコトヲ念言シタルモノナルモ本法ニ於テハ第四百五十三條改正ノ結果トシテ他所拂手形ト當所拂手形トノ區別ヲ認メサルモノト爲シタルカ故ニ手形ハ總テ支拂場所ノ記載ナキ限りハ支拂地ニ於テ呈示スヘキハ勿論ニシテ從テ本條ニ於テ『支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ呈示シ』トアル『支拂地ニ於テ』ナル語ハ當然謂フヲ待タサル所ニシテ今次ノ改正ニ於テ本條ノ『支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テ』ナル語ヲ削除スルト共ニ『支拂地ニ於テ』ナル語モ共ニ削除スヘカリシヲ心付スシテ其儘存シタルモノナリ、故ニ此ノ『支拂地ニ於テ支拂人ニ呈示シ』ナル語アルノ故ヲ以テ支拂擔當者ニ呈示スルニハ支拂地タルヲ要セスト解スヘカラス、故ニ支拂擔當者ノ營業所又ハ住所、居所カ支拂地外ナルトキト雖モ必ラス支拂地ニ於テ呈示スルコトヲ要ス、而シテ本條ノ規定ハ約束手形ニ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百九十一條 爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

- 一 支拂アラサリシ手形金額及ヒ滿期日以後ノ法定利息
- 二 拒絕證書作成ノ手数料其他ノ費用

前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル(同上ヲ以テ本項改正)

(參照) 前商法

第四百九十一條(第二項) 前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル

本條ハ所持人ノ償還請求權ノ範圍ヲ規定シタルモノニシテ、所持人カ其ノ前者ニ對シテ償還ヲ請求シ得ヘキ金額ヲ規定セリ、抑モ爲替手形ノ所持人ハ裏書人又ハ振出人ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得ヘキハ第四百八十六條ノ規定スル所ニシテ、又タ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ其ノ前者ニ對シテ更ニ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキハ第四百八十八條ノ規定ヨリ知り得ヘキ所ナリ(右二條ノ說明參看)而シテ右ノ所持人カ償還請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ト所持人ヨリ請求ヲ受ケ更ニ其ノ前者ニ對シテ請求ヲ爲ス裏書人ノ償還請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額トハ同

一ナラス、其ノ前者ニ付テハ本條ニ之ヲ規定シ後者ニ付テハ之ヲ次條ニ規定セリ、本條ノ規定ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所カ支拂地ト同シキ場合(第一項) (一)抑モ

爲替手形ノ所持人ハ滿期日ニ於テ支拂人ヨリ手形金額ノ支拂ヲ受クヘキ權利ヲ有シ、若シ支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ其ノ前者ニ對シ其ノ支拂ヲ受ケサリシ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ權利ヲ有スルヲ以テ支拂人カ手形金額ヲ支拂ハサリシトキハ其ノ全部ニ付キ償還請求權ヲ有シ、其ノ一部ヲ支拂ハサリシトキハ(第四八四條ノ說明參看)其ノ支拂ハサリシ部分ニ付キ償還請求權ヲ有ス、故ニ所持人カ其ノ前者ニ對シ償還請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ第一ニ手形金額ノ支拂アラサリシ部分ニ限ルヘキコト勿論ナリ、而シテ斯クノ如ク支拂アラサリシ場合ニ於テ之ヲ償還スルハ裏書人若クハ振出人ノ義務ナルヲ以テ其ノ部分ニ對シ滿期日以後ノ法定ノ利息即チ年六分ノ利息ヲ請求スルコトヲ得ヘキモ勿論ナリ(第二七五、二七六條ノ說明參看)故ニ本條第一項ニ於テハ先ツ『爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得』ト謂ヒ第一號ニ於テ『支拂アラサリシ手形金額及ヒ滿期日以後ノ法定利息』ト規定セル所以ナリ(二)而シテ又タ前者ハ若シ支拂人カ滿期日ニ支拂ヲ爲ササリシトキハ償還ヲ爲ストノ條件附ノ義務ヲ負フモノナレハ之レカ請求ヲ爲ス爲メニ所持人カ法律ノ規定ニ依リ作成セシメタル拒絕證書ノ手数料、其他償還請求ノ通知ヲ發シタル費用ノ如キモ償還ヲ爲スヘキ義務アル者ニ於テ負擔スヘキコト勿論ニシテ從テ所持人ハ單ニ支拂アラサリシ金額及ヒ滿期日以後ノ法定ノ利息ノミナラス猶ホ之カ爲メニ費シタル拒絕證書作成ノ手数料及ヒ其他ノ費用ニ付キ裏書人又ハ振出人ニ對シテ併テ

請求シ得ヘキコト當然ナリ、是レ第一項第二號ニ於テ『拒絕證書作成ノ手数料其他ノ費用』ト規定セル所以ナリ、從テ此ノ規定中ニハ單ニ支拂拒絕證書作成ノ手数料及ヒ費用ノミナラス引受拒絕證書作成ノ手数料及ヒ費用ヲモ包含スヘシ

第二 償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所地方支拂地ト異ナル場合(第二項)

(一) 右ハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ手形ノ支拂地ト同シキ場合ナレトモ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ右ノ規定ニ從ヒテ償還ヲ請求シ得ヘキ金額ヲ定ムルコトヲ得ス、蓋シ償還請求ハ所持人カ支拂地ニ於テ支拂ヲ受ケサリシカ爲メニ之ヲ其ノ前者ニ對シ請求スルモノニシテ其ノ目的ハ支拂地ニ於テ支拂人ヨリ直ニ支拂ヲ受ケタルト同一ノ状態ニ在ラシムルニ在リ、然ルニ若シ償還請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ支拂地ト異ナルトキハ償還請求ヲ受ケル者ハ必シモ支拂地ニ於テ償還ヲ爲スヘキ義務ナク、自己ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ於テ償還スルヲ以テ足ルカ故ニ若シ此ノ場合ニ於テモ本條第一項ノ規定ニ從フヘシトセハ所持人ハ支拂地ニ於テ支拂ヲ受ケタルト同一ノ結果ヲ受ケルコトヲ得サルニ至ルヘシ、何トナレハ支拂地ト償還ヲ爲ス者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト同地ナラサレハナリ、故ニ此場合ニハ支拂地ヨリ償還ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ其ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ支拂地トシテ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ償還金額ヲ定ムヘキモノトス、例之ハ所持人カ支拂ヲ受ケサリシ手形金額千圓、拒絕證書ノ作成其他ノ費用カ十圓ニシテ償還ヲ受ケヘキ金額カ總計千十圓ナル場合ニ於テ支拂地ヨリ償還ヲ爲スヘキ裏書人又ハ振出人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場カ支拂地ニ於テ手形

金額百圓ニ付キ百圓五十錢ナルトキハ裏書人又ハ振出人ノ償還スヘキ金額ハ千十五圓五錢ナルカ如シ、是レ本條第二項前段ニ於テ『償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス』ト規定セル所以ナリ(二) 然レトモ其ノ支拂地ニ於テハ場所ニ依リ爲替手形ノ相場ナルモノナキコトアルヲ以テ此ノ場合ニ於テハ己ムヲ得ス償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ヲ以テ標準トシテ之ヲ計算スルヨリ外ナシ、何トナレハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最モ近キ所ニ宛テ振出シタル爲替手形ノ相場ヲ以テ計算スレハ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタルモノト其ノ相場ニ於テ大差ナク他ノ方法ニ比シ最モ適當ナレハナリ、是レ本條第二項後段ニ於テ『若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル』ト規定セル所以ナリ(三) 今次改正ノ本條ニ於テハ前商法本條ノ『住所』トアリシヲ總テ『營業所又ハ住所ノ所在地』ト改メタリ、是レ手形取引ヲ爲ス者ハ其ノ營業所ニ於テスルヲ普通トシ營業所ナキトキニ其ノ住所地ニ於テスルモノニシテ必シモ住所地ニ於テノミ爲スモノニ限ラサルカ故ナリ、本條ノ改正ハ此ノ文字ノ修正ニ過キス、而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百九十二條 償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息
二 其支出シタル費用

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前條ニ於テハ所持人ノ其ノ前者ニ對シ償還ヲ請求シ得ヘキ金額ヲ規定シタルニ依リ本條ニ於テハ所持人ヨリ請求ヲ受ケタル裏書人カ更ニ其ノ前者ニ對シ償還ヲ請求スルコトヲ得ル金額ヲ規定セリ、之ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所地方請求者ノ夫レト同シキ場合(第一項) (一) 抑モ爲替手形ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ニ對シ更ニ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク、又タ其ノ裏書人ヨリ請求ヲ受ケタル者ハ更ニ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキハ既ニ第四百八十八條ノ規定ヨリ知リ得ヘキ所ナリ(同條ノ說明參看) 斯クノ如ク後者ノ請求ヲ受ケ償還ヲ爲シタル裏書人ハ更ニ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ更ニ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ固ト其ノ前者ニ對シ之カ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキハ自己カ後者ノ請求ニ應シ償還ヲ爲シタル爲メナルヲ以テ其ノ前者ニ對シ更ニ償還ヲ請求シ得ヘキ金額ハ自己カ後者ニ支拂ヒタル金額タルヘキコト勿論ナリ、何トナレハ前者ノ裏書人ニ對スル償還ハ其者ノ支拂ヒタル金額ヲ償還スルコトヲ目的トスルモノナレハナリ、故ニ先ツ後者ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ更ニ其ノ前者ニ對シ其ノ支拂ヒタル金額ヲ請求スルコトヲ得ヘク、而シテ既ニ然リトセハ其ノ支拂ノ日以後ノ法定利息即チ年六分ノ利息ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ、是レ本條第一項ニ於テ『償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人

ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得』ト規定シ第一號ニ於テ『其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息』ト規定シタル所以ナリ (二) 而シテ又タ後者ニ償還ヲ爲シタル裏書人ハ單ニ自己カ支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息ノミナラス、猶ホ自己カ支出シタル費用例之ハ更ニ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲ス費用ノ如キモ之ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス、是レ前條第一項第二號ニ規定シタルト同一ノ理由ニ出ツルモノニシテ本條第一項第二號ニ於テ『其支出シタル費用』ト規定セル所以ナリ

第二 償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所地方請求者ノ夫レト異ナル場合(第二項)

(一) 右ハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ請求ヲ爲シタル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト同一ナル場合ナレトモ若シ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ請求ヲ爲ス者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト異ナルトキハ請求ヲ爲ス者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヨリ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ請求者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ於ケル相場ニ依リ償還金額ヲ定ムヘキモノトス、是レ其ノ理由ハ前條第二項前段ノ規定ト同一ナリト雖モ手形ノ支拂地ニ於ケル相場ニ依ラスシテ請求者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ於ケル相場ニ依ルノ差アルノミ (二) 若シ右ノ場合ニ請求者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ於ケル相場ナキトキハ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ルヘキコト前條第二項後段ノ場合ト異ナルコトナシ、是レ本條第二項ニ於テ『前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス』ト規定セル所以ナリ、而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百九十三條 爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得

本條ニ於テハ所謂ル戻爲替手形ヲ規定セリ(一)抑モ爲替手形ノ所持人ハ支拂人カ支拂ヲ爲サザリシ場合ニ於テ前數條ノ規定ニ依リ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク、又タ所持人其他自己ノ後者ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人モ前數條ノ規定ニ依リ更ニ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ、是レ屢々説明シタル所ナリ、斯クノ如ク所持人又ハ裏書人ハ前者ニ對シ償還請求權ヲ有スルカ故ニ前數條ノ規定ニ依リ償還請求ノ通知ヲ發シテ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリト雖モ、此ノ手續ニ依リテ請求ヲ爲スニハ爲替手形、支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ヲ送付セサル可カラス(第四九五條ノ説明參看)然ルニ右ノ請求ヲ爲ス者カ請求金額ニ付キ償還ヲ爲スヘキ者ヲ支拂人トシテ爲替手形ヲ振出シ以テ之カ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得ハ是レ頗ル便利ナリ、殊ニ其ノ爲替手形ヲ銀行ニ持參シテ割引ヲ求メ以テ直ニ正金ヲ得ルコトヲ得ハ右ノ爲替手形、支拂拒絕證書及ヒ償還計算書カ償還義務者ニ到着スルヲ待ツコトヲ要セスシテ償還請求者ニ大ナル便利ヲ與フヘシ、故ニ本條ニ於テモ亦タ之ヲ認メ「爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得」ト規定セリ、從テ爲替手形ノ所持人カ支拂人ヨリ支拂ヲ拒絕セラレタル場合ニ於テ拒絕證書ヲ作成セシメ而シテ其ノ前者即チ裏書人又ハ振出人ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ其ノ償還ヲ爲サシメント欲スル者ヲ支拂人トシテ爲替手形ヲ振出スコトヲ得ヘク、又タ所持人若クハ後者ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人カ更ニ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ亦タ其ノ前者ヲ支拂人ト

シテ爲替手形ヲ振出スコトヲ得ヘシ、此ノ場合ニ前ノ手形即チ償還請求ノ爲メニ非サル手形ヲ指シテ「本手形」ト謂ヒ、其ノ償還請求ノ爲メニ振出ス手形ヲ「戻爲替手形」ト謂フ(二)戻爲替手形ノ手形金額トシテ記載スルコトヲ得ヘキ金額ハ所持人カ振出スコトキハ第四百九十一條ニ依ル金額、裏書人カ振出スコトキハ第四百九十二條ニ依ル金額トシ之ニ各戻手形ヲ振出スニ因テ生シタル費用ヲ加ハヘタル金額トス(右二條ノ説明參看)(三)戻手形ノ支拂地ハ必ラス償還ノ請求ヲ受クヘキ者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テスヘク其他ノ地ヲ支拂地トスルコトヲ得ス、又タ振出地ハ所持人カ振出ス場合ニ於テハ本手形ノ支拂地ヲ以テ振出地トシ、裏書人カ振出ス場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ振出地トシ、滿期日ハ何レノ場合ニ於テモ一覽拂トスヘキモノトス(次條ノ説明參看)(四)此ノ他戻爲替手形ハ通常ノ爲替手形ト別ニ異ナル所ナシト雖モ是レ固ト償還請求ヲ爲ス爲メナルヲ以テ其ノ手形ニハ本爲替手形、支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ヲ添附スルコトアリ、何トナレハ償還請求者カ償還ヲ受クルニハ右等ノ書類ト引換ニ爲スヘキモノニシテ而シテ戻手形ハ償還請求ノ爲メニ振出スモノナレハナリ(第四九五條ノ説明參看)然レトモ之ヲ添附スルトキハ戻手形ノ信用薄ク流通ヲ害シ又ハ本手形ニ分離シテ流通セシムル等ノ弊アルヲ以テ之ヲ添附セサル場合アリ、而シテ之ヲ添附セサル場合ニハ支拂人カ是等ノ書類ト引換ニ非ラサレハ支拂ヲ爲サストシテ戻手形ノ支拂ヲ拒絕スルコトアリ、故ニ此ノ場合ニハ所持人ハ是等ノ書類ヲ戻手形ノ振出人ヨリ受取り之ヲ支拂人ニ渡シテ戻手形ヲ引受ケシムルコトアリ、要スルニ戻手形ニハ右等ノ書類ノ添附ナシトスルモ手形ノ形式ニ缺クル所ナク手形トシテハ有效ナリト雖モ支拂人カ右等ノ書類ナキ爲メ之ヲ支拂ハサルコトアルヘキヲ以テ戻手形ニ其ノ

戻手形ナルコトト右等ノ書類ヲ添附セルコトヲ記スコト可ナルヘシ (五) 右ノ如ク戻爲替手形ハ償還請求ノ爲メニ振出スモノナレトモ結局或ル金額ヲ支拂ハシムルコトヲ目的トスルモノナレハ其資金カ單ニ償還請求ノ金額タル外通常ノ爲替手形ト異ナル所ナキヲ以テ受取人ハ裏書禁止ノ記載ナキ限リハ之ニ裏書シテ讓渡スコトヲ得ヘク、而シテ讓受人即チ所持人ハ支拂人ニ對シ之ヲ呈示シテ支拂ヲ求ムヘク、若シ支拂人即チ本手形ノ償還ヲ爲スヘキ者カ之カ支拂ヲ爲ササルトキハ所持人ハ戻爲替手形ノ裏書人又ハ振出人ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スヲ得ヘキコト通常ノ手形ト異ナルコトナシ、而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形ニモ准用ス (第五二九條ノ說明參看)

第四百九十四條

所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス
所持人カ振出ス爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其住所地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス (同上ヲ以テ本條改正)

(參照) 前商法

第四百九十四條 所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス
所持人カ振出ス爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其住所地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス

前條ニ於テハ爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其ノ前者ヲ支拂人トシテ戻爲替手形ヲ振出スヲ得ルコトヲ規定シタルニ依リ本條ニ於テハ其ノ戻爲替手形ニ記載スヘキ支拂地満期日及ヒ振出地ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 戻爲替手形ノ支拂地

戻爲替手形ニ支拂地トシテ記載スルコトヲ得ヘキモノハ必ラス償還請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ナラサル可カラス、之ヲ換言スレハ戻爲替手形ノ支拂人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ナラサル可カラス、何トナレハ償還ハ其ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ於テ爲スヘキモノニシテ必シモ本手形ノ支拂地ニ於テ爲スヘキモノニ非ラサレハナリ、若シ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ支拂地トセスシテ他ノ場所ヲ以テ支拂地トスルコトヲ得ルモノトセハ償還ノ支拂ヲ受クル者ハ其ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ於テ支拂ヲ爲スヲ以テ足レルニ拘ハラヌ戻爲替手形ノ支拂ノ爲メ特ニ其ノ支拂地ニ出張セサル可カラサルニ至ル不都合アレハナリ

第二 戻爲替手形ノ満期日

戻爲替手形ハ必ラス一覽拂ノモノナラサル可カラス、何トナレハ第四百九十一條第二項及ヒ第四百九十二條第二項ニ於テ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ支拂地ヨリ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ヲ以テ償還金額ヲ定ムヘキモノト爲シタル以上ハ (同條ノ說明參看) 戻爲替手形モ亦タ一覽拂ノモノトスヘキハ當然ニシテ若シ之ヲ一覽拂ノモノトセサルトキハ戻手形ノ割引料ノ増加ヲ來シ償還金額ノ計算ニ齟齬ヲ生スレハナリ、是レ本條第一項ニ於テ『所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ其ノ支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコト

ヲ要ス』ト規定セル所以ナリ

第三 戻爲替手形ノ振出地

戻爲替手形ニ記載スヘキ振出地ハ(一)所持人カ振出ス戻爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス、何トナレハ第四百九十一條第二項ニ於テ所持人ノ償還請求ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ支拂地ヨリ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ定ムヘキモノトシタル以上ハ償還請求ノ爲メニスル戻爲替手形ノ振出地モ亦タ本爲替手形ノ支拂地ニ於テ振出スヘキコト勿論ナレハナリ(二)又タ裏書人カ振出ス戻爲替手形ニハ其ノ裏書人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス、何トナレハ第四百九十二條第二項ニ於テ後者ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ノ其前者ニ對スル償還支拂ノ金額ハ其ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヨリ償還ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ振出地ニ於ケル相場ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトシタル以上ハ(同條ノ說明參看)償還ヲ爲シタル裏書人カ更ニ償還請求ノ爲メニスル戻爲替手形ノ振出地モ亦タ償還請求ヲ爲ス裏書人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ振出地トセサル可カラサルコト勿論ナレハナリ、是レ本條第二項ニ於テ『所持人カ振出ス爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ云々』ト規定シ猶ホ後段ニ於テ『裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス』ト規定セル所以ナリ、而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス(第五二九條ノ說明參看)

第四百九十五條 償還ハ爲替手形、支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ト引換ニ

非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受クル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

本條ニ於テハ償還ヲ爲ス方法ヲ規定シタルモノニシテ支拂ニ於ケル第四百八十三條ト其ノ趣旨ヲ同フスル所ナリ、本條ノ規定ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 償還金額ト書類ノ引換(第一項)

(一) 償還ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求ニ應ジ償還ヲ爲スニハ爲替手形、支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ト引換ニ其ノ金額ヲ交付スヘク、是等ノ書類ト引換ニ非ラサレハ償還ヲ爲スコトヲ要セス、何トナレハ償還ノ請求ニ依リ其ノ金額ノ支拂ヲ受クルニハ爲替手形ヲ返還スヘキハ勿論、支拂拒絕證書ハ支拂人カ支拂ヲ爲サリシコトヲ證明スルモノニシテ而シテ償還計算書ハ其ノ償還ヲ請求シタル金額ノ計算ニ誤リナキコトヲ證明スルモノナルノミナラス若シ是等ノ書類ト引換ヲ要セサルモノトセハ償還請求者ハ或ル者ヨリ償還ヲ受ケナカラ更ニ是等ノ書類ヲ利用シテ他ノ者ニ對シ二重ノ償還請求ヲ爲スモ知ル可カラサレハナリ、是レ本條第一項ニ於テ『償還ハ爲替手形、支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ト引換ニ非ラレハ之ヲ爲スコトヲ要セス』ト規定セル所以ナリ(二) 從テ償還請求者カ前二條ノ規定ニ依リテ償還請求ノ爲メ戻爲替手形ヲ振出シタル場合ニ於テ支拂人ヨリ支拂ヲ受クルトキモ亦タ戻爲替手形ノ外右ノ書類ヲ支拂人ニ交付スヘク、支拂人ハ之ト引換ニ非ラサレハ戻爲替手形ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セサルナリ(三) 但シ最後ノ裏書人カ拒絕證書ノ作成ヲ免除シ所持人ニ償還ヲ爲シ更ラニ其ノ前者ニ償還ノ請求ヲ爲シ前者ヨリ償還ヲ受クル場合ニハ拒絕證書ナキヲ以テ引換ヲ要セサルヘシ(四) 償還ノ請求ヲ受ケタル者カ償還ヲ爲スニハ金錢ヲ以テ支拂フヲ常トスト雖モ請求者ノ承諾

アルトキハ他ノ方法ヲ以テ支拂義務ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論ナリ、判例ニ於テモ

按スルニ約束手形ノ金額カ振出人ヨリ支拂ハレサル場合ニ於テ其讓渡人カ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタルトキ爲ス償還ニ付テハ必スシモ金額ヲ要スルカ如キ制限ノ規定存セサルカ故ニ前者カ手形ノ所持人又ハ償還ヲ爲シタル者ニ對シテ償還ヲ爲スニハ汎ク民法ニ規定セル債權ノ消滅方法ニ從ヒ債權ヲ消滅セシメタル場合ナモ包含スルモノトス、依テ本件ニ於テ上告人カ係争手形ニ付キ其所持人タリシ訴外者ヨリ償還請求ヲ受ケタルトキ之ニ對シテ自ラ新し手形ヲ振出し舊手形ニ於ケル債權ヲ消滅ニ歸セシメタルハ即チ商法上ノ償還義務ヲ盡シタルモノナルヲ以テ振出人ニ對シテ之レカ求償權ヲ有スルコト勿論ナリ (明治三十九年オ第二百三號、同年八月三十一日大審院判決)

トシ以テ償還ヲ爲スニ新ニ手形ヲ振出シテ之ヲ請求者ニ與ヘ支拂義務ヲ消滅シタルトキハ即チ償還義務ヲ盡シタルモノナルヲ以テ更ニ振出人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトセリ

第二 償還受領ノ記載及ヒ署名(第二項)

償還ヲ爲スニハ前項ノ書類ト引換ニ爲スノ外、償還ヲ受ケタル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ之ニ署名セシムルコトヲ得ルモノトス、何トナレハ償還計算書ハ償還ヲ受クヘキ金額ヲ詳細ニ記シ之カ計算ヲ明ニスルモノナレハ之カ支拂ヲ受ケタルトキハ其ノ計算書ニ受領ノ旨ヲ記シ且ツ署名セシムヘキコト當然ナレハナリ (一) 償還ノ請求ヲ爲ス爲メニ戻爲替手形ヲ振出シタル場合ニ支拂人カ支拂ヲ爲スコトキハ第四百八十三條ニ依リテ戻爲替手形ニ支拂受領ノ旨ヲ記載セシムル外猶ホ計算書ニモ之ヲ記載セシムルコトヲ得ヘク、支拂ヲ受ケタル者カ計算書ニ記載スル場合ニハ戻爲替手形ニ因リテ支拂ヲ受ケタルコトヲ明記スルヲ可トス、而シテ本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニモ準用スルモノナリ (第五二九、五三七條ノ說明參看)

第四百九十六條 (同上ヲ以テ) (本條削除)

(參照) 前商法

第四百九十六條 第四百七十八條第二項ノ規定ハ償還ノ請求ニ之ヲ準用ス

前商法ノ本條ハ擔保請求ノ通知ノ效力ニ關スル第四百七十八條第二項ノ規定ハ償還ノ請求ニ付テモ之ヲ準用スヘキコトヲ規定シ所持人又ハ裏書人カ第四百八十七條、第四百八十八條ノ規定ニ依リ發シタル償還請求ノ通知ハ其ノ通知ヲ受ケタル者ノ後者全員ノ爲メニシタルモノト看做スヘキコトヲ規定シタルモノナリ、然レトモ改正ノ本法ニ於テハ第四百八十七條ノ二及ヒ第四百八十八條ノ二ニ於テ償還請求ノ通知ヲ發シタルトキハ其ノ前者總員ニ對シテ效力ヲ生スヘキモノトシ前商法ト反對ノ主義ヲ採リタルヲ以テ其ノ結果トシテ本條ノ規定ハ全然之ヲ削除セリ

第七節 保證

前數節ニ於テハ爲替手形ノ振出、裏書、引受、擔保ノ請求、支拂、償還ノ請求ヲ規定シタルニ依リ本節ニ於テハ保證ヲ規定セリ、保證ハ爲替手形ノ振出人、裏書人、引受人ノ債務ヲ確保シ手形ノ流通ヲ容易ナラシムルモノニシテ保證ヲ爲シタル者ハ之ニ因リテ主タル債務者即チ自己カ保證シタル者ト連帶シテ責任ヲ負ヒ又タ主タル債務カ無効ナル場合ニ於テハ主タル債務者ト同一ノ責

任ヲ負フモノナリ、斯クノ如ク保證ハ振出、裏書、引受ヨリ生シタル債務ヲ擔保スルモノナルカ故ニ振出、裏書、引受、支拂及ヒ引受ノ結果タル擔保ノ請求、支拂ノ結果タル償還ノ請求ヲ規定シタルニ次キ本節ニ於テ之ヲ規定シタルモノニシテ而シテ本節ニ於テハ保證ノ方式、其ノ效力、何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルヤノ決定及ヒ保證人カ其ノ債務ヲ履行シタル場合ニ於ケル權利等ヲ規定セリ

第四百九十七條 爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證スル爲メ爲替手形、其

贍本又ハ補箋ニ署名シタル者ハ其債務力無効ナルトキト雖モ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フ

本條ニ於テハ先ツ保證ノ債權者ニ對スル效力及ヒ併セテ保證ノ方式ノ一ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 爲替手形ノ保證

(一) 爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證スルトハ爲替手形ノ振出、裏書、引受ヨリ生シタル債務ヲ保證スルモノナリ、手形ノ振出人ハ其ノ後者即チ裏書人及ヒ所持人ニ對シ手形カ支拂ハレサル場合ニ手形金額、利息及ヒ費用ノ償還ヲ爲ス債務ヲ負擔シ、裏書人ハ其ノ後者即チ自己以後ノ裏書人及ヒ所持人ニ對シ同ク償還ヲ爲ス債務ヲ負擔シ、引受人ハ手形金額ノ支拂ヲ爲ス債務ヲ負擔スル者ナルヲ以テ是等ノ債務ノ履行ヲ擔保スル爲メニ保證ヲ爲スヲ『爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證ス』ト謂フ、而シテ此ノ保證ヲ爲シタル者ハ下ニ説明スル如ク主タル債務者即チ保證セラレタル者ト連帶シテ責任ヲ負ヒ又タ其ノ主タル債務力無効ナル場合ニ於テハ獨立シテ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フモノナリ (二) 保證ヲ爲ス者ニ付テ專ラ問題ト爲

リシハ銀行カ所謂ル手形ノ支拂保證ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ在リ、判例ハ之ヲ判シテ曰ク

按スルニ株式會社ノ目的ハ其定款ニ依テ定マルモノニシテ手形金ノ支拂保證ノ債務ヲ負擔スルコトカ株式會社タル上告人ノ目的ノ範圍内ナルヤ否ハ一ニ上告人ノ定款タル乙第一號證ニ規定セル目的の中ニ包含スルヤ否ニ依テ之ヲ定メサル可ヘカラス然ルニ原判決ハ乙第一號證ノ第十七條第十八條及ヒ第十九條ノ規定ヲ掲ケ上告人ノ營業ノ範圍ハ右ニ掲ケタルモノニ止マルコトヲ認メ且一般ニ株式會社ハ定款ニ反シ其目的トスルモノノ以外ノ營業ヲ爲シ得サルハ論ナキモ其目的トスル營業ニ關係スル以上ハ其直接タル間接タルトナ間ハ性質上營業ト抵觸セサル總テノ行爲ヲ爲シ得ルモノトシ上告人カ本件ノ約束手形ニ付キ振出人ノ當座預金ノ有無ニ拘ハラズ手形金ヲ支拂フヘキ保證債務ヲ負擔ルタルハ間接ニ其營業ニ關係ナリ有シ定款ニ抵觸セサル有效行爲トシタルハ違法ニシテ破棄スヘキモノトス (明治三十九年才第三百九十九號、同四十年二月十二日大審院判決)

即チ判例ハ前判決カ所謂ル銀行カ支拂保證ヲ爲スコトカ其ノ定款ノ範圍内ニ在ラサルコトヲ認メナカラ營業ト抵觸セサル總テノ行爲ヲ爲シ得ヘキモノトシ手形ノ支拂保證ヲ有效ナリトシタルハ不法ナリトシテ之ヲ破棄スヘキモノトセリ、故ニ此ノ判例ニシテ維持セラルル間ハ裁判上ニ於テハ銀行又ハ會社カ手形ノ保證ヲ爲シ得ルヤ否ヤハ其ノ保證ヲ爲スコトカ其ノ定款ノ範圍内ニ包含スルヤ否ヤニ依リテ定マルヘシ (三) 株式會社タル銀行ノ取締役カ會社ヲ代表シテ手形ノ保證ヲ爲シ而シテ一方ニ於テ其者カ其ノ手形ノ受取人タル場合ニ付キ左ノ判例アリ

某カ上告會社風早銀行ノ取締役トシテ上告會社ヲ代表シテ締結シタル保證義務ハ他ノ一方ニ於テ本件手形ノ受取人タル個人トシテノ同人ニ對シ同一行爲ノ相手方ノ代理人ト爲リタル結果民法第百八條ニ依リ無効ナリト雖此無効ハ右個人トシテ同人ニ對シテノミ存在スルニ過キサレハ其他ノ手形權利者ニ對スル上告會社ノ保證義務ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノニ非ス (大正二年才第四百四號、同三年七月三日大審院判決、株式會社風早銀行對宮內長訴件)

故ニ手形ノ保證ヲ爲シタル者カ他方ニ於テ手形當事者ト爲リ混同ニ因リテ保證債務消滅シ其他其

ノ者自身ニ對シテ無効ナル場合ト雖モ他ノ者ニ對シテハ保證ハ有效ナルコトハ勿論ナリ

第二 保證ノ方式 (一)手形ノ保證ヲ爲スニハ爲替手形、其ノ贖本又ハ補箋ニ署名スルコトヲ要ス、故ニ是等ノ書類ニ署名セスシテ他ノ書類ヲ以テ爲シタルトキハ手形上保證ノ效力ヲ生セス(二)然レトモ民事上ノ保證ノ效力ヲ生セシムルニハ必シモ手形、其ノ贖本又ハ補箋ニ爲スコトヲ要セス、判例ニ曰ク

按スルニ民法上ノ保證債務ナルモノハ主タル債務ニシテ存在スル以上ハ其債務力手形ヨリ生スルモノナルト否トニ拘ハラズ有效ニ成立シ得ルモノトス、夫ノ商法第四百九十七條ハ手形、其贖本又ハ補箋ニ署名シタル保證人ハ主タル手形債務力無効ナル場合ト雖モ主タル債務者ト同一ノ義務ヲ負フヘキ旨ヲ規定シテ保證人ニ特別義務ヲ負擔セシメタルモノニシテ手形ヨリ生スル債務ハ其手形、其贖本又ハ補箋ニ署名スルニアラサレハ之ヲ保證シ得サル旨ヲ規定シテ別箇ノ書面ヲ以テ民事上ノ保證ヲ爲スコトヲ禁シタルモノニ非ス、然ルニ原院カ同條ハ其規定スル方式ニ依ルニアラサレハ手形ヨリ生スル債務ハ一切之ヲ保證シ得サル旨ヲ規定シタルモノノ如ク誤解シ上告人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不法ナリ(明治三十五年オ第五百三十六號、同三十六年三月十九日大審院判決)

手形債務ノ保證人カ一定ノ手形債務ヲ保證スル旨ヲ記載シ特ニ債權者ヲ指名セサル證書ヲ手形債權者ニ交付シタルトキハ其交付以後ニ於テ手形上ノ權利ヲ取得シタル者全員ニ對シテ保證ヲ爲スノ意思ヲ表示スルモノニシテ其保證契約ハ手形債權者ト爲リタルモノノ承諾ト同時ニ成立スヘキモノト解スルヲ相當ナリトス(大正二年オ第四百四號、同三年七月三日大審院判決、株式會社風早銀行對宮内長事件)

故ニ手形ヨリ生シタル債務ト雖モ手形上保證ノ效力ヲ生セシメス民事上ニ於ケル普通保證ノ效力ヲ生セシメントセハ他ノ書面ヲ以テ爲スコトヲ妨ケス、又々其ノ書面ニ債權者ヲ指示セス即チ宛名ナキ保證ノ書面ヲ交付シタルトキハ其ノ交付後手形ノ權利ヲ取得シタル者ノ全員ニ對シテ保證

ヲ爲シタルモノト爲ル、而シテ保證ノ手形上ノ效力ヲ生スルト民事上ノ效力ヲ生スルトノ差異ハ次ニ述ル所ノ如シ(三)手形ノ保證ヲ爲スニハ手形、其ノ贖本又ハ補箋ニ其旨ヲ記シテ署名ヲ以テ爲ス、但シ保證ノ旨ヲ記ササルトキト雖モ其ノ保證タルコトヲ推定シ得ルトキハ足レリト雖モ時トシテ單ニ署名ノミヲ爲シタルトキ例之ハ振出人ノ署名ト駢ヘテ署名シタルトキノ如キハ保證人ナルヤ又ハ二人ノ振出人ナルヤ明カナラサルコトアリ、故ニ舊商法ニ於テハ保證ハ主タル債務者ノ署名ニ副署スヘキモノト爲シタルニ拘ラス本條ニ於テハ特ニ『債務ヲ保證スル爲メ云々署名シタル者』ト謂ヒ以テ單ニ署名ノミナラス保證ノ旨ヲ記載スヘキコトヲ示セリ、然レトモ引受人ノ署名ト駢ヘテ單ニ署名シタルトキ又ハ裏書人ト駢ヘテ單ニ署名シタルトキノ如キハ何レモ保證ト推定シ得ヘキカ故ニ單ニ署名ノミヲ以テ足ルヘシ、唯タ正確ナルヲ期スルカ爲メニハ明カナラサ證人タルコトヲ記載スルヲ可トスルコト勿論ナリ、而シテ何人ノ爲メニ保證シタルカ明カナラサル場合ニ付テハ次條ニ規定セリ(次條ノ說明參看)(四)總テノ手形行爲ハ署名行爲ナルヲ以テ一個ノ署名ヲ以テ二個以上ノ手形行爲ヲ爲スコトヲ得ス一ノ手形行爲ニハ一ノ署名ヲ要シ從テ『裏書人兼保證人』ト記載シタル署名ハ保證ノ署名ト爲ラストノ說アリ、判例ハ之ニ反セリ、左ノ如シ

裏書人兼保證人ト記載シ之ニ署名シタル以上ハ裏書人及保證人タルコトヲ各別ニ記載シテ署名シタルモノト同一ナリト解スルヲ相當トスヘキヲ以テ本論旨ハ理由ナシ(同上第四百四號判決)

第三 保證ノ效力 (一)爲替手形、其ノ贖本又ハ補箋ニ保證ノ爲メ署名シタル者ハ之ニ因リテ其ノ主タル債務者ト連帶シテ其ノ責ニ任スヘキモノトス、故ニ振出人ノ保證ヲ爲シタル者ハ振出人ト連帶シテ其ノ責ヲ負ヒ、裏書ノ保證ヲ爲シタル者ハ裏書人ト連帶シ、又々引受ノ保證ヲ爲シ

タル者ハ引受人ト連帶シテ其ノ責ニ任スヘキモノトス、是レ本條ニ於テ規定セスト雖モ商行爲ノ第二百七十三條第二項ノ規定ヨリ來ル當然ノ結果ナリ、從テ數人ノ手形保證人アルトキハ其ノ保證人ハ皆ナ主タル債務者ト連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(二)然レトモ數人ノ保證人アル場合ニ於テ一ノ判例ハ第二百七十三條第二項ノ規定ハ其ノ數人ノ保證人カ主タル債務者ト連帶關係アルノミナラス同時ニ其ノ保證人相互ノ間ニ於テモ亦タ連帶ノ責アル旨ヲ包含スルノ意ナリト爲スニ拘ハラズ(同條第二ノ說明中ノ判例參看)左ノ判例ニ於テハ手形ノ保證人相互ノ間ニ於テハ連帶關係ナキモノトセリ、曰ク

按スルニ手形保證人ハ各自獨立シテ其保證シタル金額ニ對シ債務ヲ負擔スル者ニシテ連帶債務者ニ非ス、又手形保證人ト民法上ノ保證ヲ爲シタルモノ(縱令其保證カ商行爲タルトキ及ヒ主タル債務カ商行爲タルトキト雖)トノ間ニモ連帶債務者ノ關係ヲ生スヘキモノニ非サルコトハ憲ニ上告人所論ノ如シ、故ニ原判決カ本件ニ付各保證人ニ對シテ直チ民法第四百四十二條ヲ適用シタルハ不法タルヲ免レス(同上)

而シテ(三)爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證シタルモノハ右(一)ノ如ク主タル債務者ト連帶シテ其ノ責ニ任スヘキモノナリト雖モ手形保證人ノ責任ハ右ニ止マラスシテ主タル債務カ無効ナルトキト雖モ其ノ保證ハ無効ニ非ラサルノミナラス獨立シテ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フヘキモノトス、故ニ例之ハ裏書ノ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ裏書カ無効ナリシトキト雖モ之カ保證ヲ爲シタル者ハ自己カ裏書人タルト同一ノ責任ヲ負ハサル可カラス、是レ本條ニ於テ明カニ規定スル所ナリ(四)而シテ手形上ノ保證ヲ爲シタル者ハ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フカ故ニ左ノ如キ判例アリ

按スルニ手形上ノ債務ヲ保證スル者ハ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フテ以テ手形ノ所持人カ右保證人ニ對シ其債務ノ履行

ヲ求ムルニハ豫メ主タル債務者タル振出人ニ對シテ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示スルノ要ナキモノトス(明治四十四年才第三百二十一號、同四十五年二月三日大審院判決)

而シテ(五)保證カ手形上ノ保證トシテ效力ヲ有スルニハ手形、其ノ謄本又ハ補箋ニ爲スコトヲ要スト雖モ其他ノ書面ニ爲シタルトキト雖モ民事上ノ保證ノ效力ヲ生スヘキコトハ右第一ノ說明中ニ述ヘタル所ナリ(判例參看)從テ他ノ書面ヲ以テ爲シタルトキハ民事上ノ保證ノ效力ヲ生スルニ過キサルカ故ニ主タル債務者ト連帶ノ關係ナク又主タル債務カ無効ナルトキハ保證モ亦タ其ノ効ナシ、是レ手形上ノ保證ト民事上ノ保證ト異ナル所ナリ、而シテ本條ノ規定ハ約束手形ニ準用ス(第五二九條ノ說明參看)

第四百九十八條 何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其保

證ハ引受人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但未タ引受アラザリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本條ニ於テハ何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサル場合ニハ如何ニ之ヲ決スヘキヤヲ規定セリ(一)抑モ手形ニハ振出人、裏書人、引受人等多數ノ債務者アルヲ以テ其ノ何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルモノナルカ分明ナラサルコトハ實際屢々生スル所ナリ、此ノ場合ニ於テハ終ニ其ノ保證ハ無効トスルヨリ外ナシト雖モ若シ之ヲ無効トスルトキハ實際保證アルニ拘ハラズ其ノ效力ヲ認メサルモノト爲リ當事者ノ意思ニ反スヘシ、故ニ之ヲ無効ト決センヨリハ寧ロ之ヲ手形上多數ノ人ニ對シ債務ヲ負ヘル引受人ノ爲メニ爲シタルモノト看做シ有效トスルハ手形ノ信用ヲ増加セシムルノ利アリ、是レ本條本文ニ於テ「何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其

保證ハ引受人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス』ト規定セル所以ナリ(二)然レトモ其ノ手形カ未タ引受アラサリシトキハ引受人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得ス、而シテ引受ナキ場合ニ於テ最モ多數ノ人ニ對シ債務ヲ負フ者ハ振出人ナルヲ以テ此ノ場合ニ於テハ振出人ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコト正當ナリ、是レ亦本條但書ニ於テ『未タ引受アラサリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス』ト規定セル所以ナリ、而シテ本條ノ規定ハ約束手形ニ進用ス(第五二九條ノ說明參看)

第四百九十九條 保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス

本條ニ於テハ保證人カ其ノ債務ヲ履行シタルトキハ如何ナル權利ヲ取得スヘキカヲ規定セリ、即チ(一)保證人カ手形上ノ債權者ヨリ請求ヲ受ケ其ノ債務ヲ履行シタルトキハ先ツ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利ヲ取得ス、故ニ例之ハ甲カ振出人、乙、丙カ裏書人ニシテ丁カ丙ノ保證ヲ爲シ而シテ所持人戊ヨリ償還ノ請求ヲ受ケ保證人丁カ丙ニ代ハリテ之ヲ償還シタルトキハ所持人タル戊ハ最早ヤ丙ニ對シ償還請求ヲ爲スコトヲ得スシテ其ノ所持人戊カ丙ニ對シテ有シタルリシ償還請求ノ權利ハ保證人丁ニ移ルカ如シ、是レ保證人丁ハ丙ニ代ハリ償還ヲ爲シタルモノナレハ所持人戊カ丙ニ對シテ有セシ權利ヲ取得スヘキハ勿論ナレハナリ(二)又タ右ノ保證人ハ單ニ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利ヲ取得スルノミナラス主タル債務者カ其ノ前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ併セテ取得スヘキモノトス、例之ハ前例ノ如ク保證人丁ハ所持人戊カ丙ニ

對シテ有セシ償還請求權ヲ取得スルノミナラス丙カ償還ヲ爲スニ因リテ其ノ前者タル甲乙ニ對シテ有スヘキ償還請求權ヲモ取得スヘキモノトス、何トナレハ保證人丁ハ丙ニ代リテ償還ヲ爲シタルモノナレハ丙カ其ノ前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲモ併セテ取得スヘキハ勿論ナレハナリ、是レ本條ニ於テ『保證人カ其ノ債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス』ト規定シタル所以ニシテ、之ヲ要スルニ前例ヲ以テスレハ保證人丁ハ丙ニ對シテモ求償權ヲ有シ又タ甲、乙ニ對シテモ求償權ヲ有スルモノトス、而シテ以上本條ノ規定ハ約束手形ニモ準用スルモノナリ(第五二九條ノ說明參看)

第八節 參加

前數節ニ於テハ爲替手形ニ付キ普通ニ經過スヘキ事項ヲ規定シタルニ依リ本節ニ於テハ參加ヲ規定セリ、抑モ爲替手形ノ支拂人カ引受ヲ爲ササルトキハ所持人又ハ裏書人ハ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲シ、支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ所持人又ハ裏書人ハ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スヲ普通ノ順序トスト雖モ若シ第三者ニシテ引受ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スニ於テハ之ヲ禁スヘキ

理ナキノミナラス之ヲ許スニ於テハ其ノ手形ノ信用ヲ増シ以テ流通ヲ圓滑ナラシムルコトヲ得ヘシ、此ノ第三者ノ引受ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スヲ『參加』ト稱シ、其ノ參加スル者ヲ『參加人』ト謂ヒ、參加セラルル者ヲ『被參加人』ト謂フ、斯クノ如ク參加ハ第三者カ引受ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スモノナルヲ以テ手形ノ普通ニ經過スヘキ振出、裏書、引受、擔保ノ請求、支拂、償還ノ請求ニ次キ保證ヲ規定シタル後ナル本節ニ於テ其ノ規定ヲ設ケタリ、而シテ參加ハ引受ノ爲メナル參加アリ又タ支拂ノ爲メナル參加アリ、故ニ本節ニ於テハ之ヲ二款ニ分チ、第一款ニ於テ『參加引受』ヲ規定シ、第二款ニ於テ『參加支拂』ヲ規定セリ

第一款 參加引受

參加引受トハ支拂人カ引受ヲ爲ササル場合及ヒ支拂人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルモ擔保ヲ供セサル場合ニ於テ豫備支拂人其他ノ第三者カ引受ヲ爲スヲ謂フ、而シテ其ノ參加引受ヲ爲ス者ヲ『參加引受人』ト謂ヒ、參加セラルル者ヲ『被參加人』ト謂フ、本款ニ於テハ右ノ參加引受ニ付キ豫備支拂人ノ參加、參加引受ノ拒絕、參加引受人ノ選擇、參加引受ノ方式及ヒ其ノ手續、參加引受人ノ義務、參加引受アルニ因ル擔保請求權ノ消滅、被參加人ノ擔保請求權等ヲ規定セリ

第五百條 爲替手形ノ所持人カ引受拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者

ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス

豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

本條ニ於テハ先ツ豫備支拂人アル場合ニ於ケル所持人ノ擔保請求ノ條件及ヒ豫備支拂人カ引受ノ拒絕ヲ爲シタル場合ニ於ケル拒絕證書ノ記載ヲ規定セリ、之ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 豫備支拂人アル場合ノ所持人ノ擔保請求ノ條件(第一項) (一)抑モ支拂人カ手形ノ引受ヲ拒絕シタル場合ニ於テハ所持人ハ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ第四百七十四條ノ規定セル所ナリ、故ニ所持人ハ支拂人カ引受ヲ爲ササルトキハ拒絕證書ヲ作成セシメ其ノ前者ニ對シ直チニ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ(同條ノ說明參看)若シ振出人又ハ裏書人カ手形ニ豫備支拂人ヲ記載シタルトキハ是レ第一ノ支拂人カ引受又ハ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ之ニ代リテ引受又ハ支拂ヲ爲サシメントスルモノナレハ(第四四八、四五八條ノ說明參看)所持人ハ之ニ從ヒテ先ツ其ノ豫備支拂人ニ手形ヲ呈示シテ引受ヲ求メ若シ其ノ引受ナキ場合ニ非ラサレハ前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトスヘキハ當然ナリ、何トナレハ豫備支拂人アルニ拘ハラス之ニ引受ヲ求メスシテ直チニ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトセハ豫備支拂人ヲ設ケタル趣旨ヲ失フヘケレハナリ、是レ本條第一項ニ於テ『爲替手形ノ所持人カ引受拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス』ト規定セル所以ナリ (二)斯クノ如ク手形ニ豫備支拂人ノ記載アルトキハ其ノ豫備支拂人ニ對シ引受ヲ求メ若シ豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキニ於

テ始メテ所持人ハ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ、豫備支拂人カ引受ノ請求ニ應シ引受ヲ爲シタルトキハ是レ即チ參加引受ヲ爲シタルモノニシテ參加引受人ハ之ニ因リテ支拂人カ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義粉ヲ負フモノトス(第五〇五條ノ說明參看)是レ豫備支拂人ニ付キ參加ノ規定ナル本條ニ於テ之ヲ規定シタル所以ナリ(三)而シテ所持人ハ豫備支拂人ノ參加引受ヲ爲スヲ拒ムコトヲ得サルモノトス(次條ノ說明參看)猶ホ本條ニ付テハ第四百八十條ノ說明ヲ參看スヘシ)

第二 豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシ場合ノ拒絕證書ノ記載(第二項) (一)右ノ如ク手形ニ豫備支拂人ノ記載アルトキハ所持人ハ其ノ豫備支拂人ニ對シテ引受ヲ求ムルコトヲ要スト雖モ豫備支拂人ハ第一ノ支拂人カ引受ヲ爲ササリシ場合ニ之ニ代ハリテ引受又ハ支拂ヲ爲スコトノ委託ヲ受ケタルニ止マリ之ニ應シ引受ヲ爲スト否トハ自由ニシテ、若シ之ヲ拒絕シタルトキハ所持人ハ茲ニ始メテ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ、既ニ斯クノ如ク一旦豫備支拂人ニ引受ヲ求ムルコトヲ要スルモノトスル以上ハ擔保ノ請求ヲ爲クニ際シ所持人ハ其ノ引受ヲ求メタルコトヲ證明セサル可カラズ、而シテ之カ證明ヲ爲サシムルハ拒絕證書ニ記載セシムルヲ正確且ツ便利トスルヲ以テ第一ノ支拂人ニ對シ引受ヲ請求シ拒絕セラレタル際ニ作ラシメタル引受拒絕證書ニ之ヲ記載セシム可キモノトス 是レ本條第二項ニ於テ「豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス」ト規定セル所以ナリ(二)而シテ豫備支拂人カ引受ヲ拒絕セスシテ之カ引受ヲ爲シタルトキハ是レ即チ參加引受人ナルカ故ニ所持人ハ右ノ引受拒絕證書ニ參加引受アリタルコトヲ記載セシメ拒絕證書作成ノ費用ノ支拂ト

引換ニ之ヲ參加引受人ト爲リタル豫備支拂人ニ交付スヘキモノトス(第五〇四條ノ說明參看)

第五百一條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受ヲ拒ム

コトヲ得

本條ニ於テハ所持人ハ豫備支拂人ニ非ラサル者ノ參加引受ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ規定セリ(一)抑モ參加引受ハ支拂人カ引受ヲ爲ササル場合ニ第三者カ參加シテ其ノ引受ヲ爲スモノナルヲ以テ支拂人ヲ除クノ外ハ振出人、裏書人又ハ保證人ノミナラス手形ニ全ク關係ヲ有セサル者ト雖モ參加引受人ト爲ルコトヲ得ヘシ、然レトモ其ノ參加引受ヲ爲ス者ニシテ資産若クハ信用ナキ者ナルトキハ其者カ引受ヲ爲スモ之カ爲メニ手形ハ毫モ信用ヲ増スコトナキノミナラス他方ニ於テハ參加引受アルトキハ所持人ハ擔保ノ請求權ヲ失フカ故ニ(第五〇六條ノ說明參看)資産、信用ノ不明ナル者ノ參加引受ハ時トシテ所持人ニ於テ不利ナルコトナシトセス、故ニ斯カル場合ニ於テハ所持人ハ其者ノ參加引受ヲ拒ムコトヲ得サル可カラズ、然レトモ豫備支拂人アルトキハ法律ニ於テ之ニ對シ引受ヲ求ムヘキモノト爲シタルカ故ニ(前條及ヒ第四八〇條ノ說明參看)豫備支拂人カ引受ヲ爲サントシタルトキハ所持人ハ之ヲ拒ムコトヲ得スト雖モ其他ノ者カ參加引受ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ拒ムコトヲ得ヘシ、是レ本條ニ於テ「爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受ヲ拒ムコトヲ得」ト規定セル所以ナリ(二)但シ所持人ニシテ擔保請求權ヲ失フコトヲ甘ンスル以上ハ豫備支拂人ノ參加引受ト雖モ亦タ之ヲ拒ムコトヲ得ヘク、然カモ之カ爲メニ前者ニ對スル償還請求權ヲ失フコトナシ

第五百二條 參加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從ヒ其一人ヲシテ引受ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ニ於テハ參加引受ヲ爲サントスル者數人アル場合ニ於ケル所持人ノ選擇權ヲ規定セリ、參加引受ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ支拂人ヲ除クノ外何人タルヲ問ハサルヲ以テ、時トシテハ參加引受ヲ爲サントスル者數人アルコトアルヘシ、然レトモ既ニ前條ニ規定セル如ク所持人ハ豫備支拂人ニ非ラサル者ノ參加引受ハ之ヲ拒ムコトヲ得ルモノトスル以上ハ引受ヲ爲サントスル者數人アル場合ニ於テモ所持人ハ其ノ數人ノ引受ヲ悉ク拒ムコトヲ得ヘク、從テ亦タ其ノ數人中ノ何レノ者ヲ以テ引受ヲ爲サシム可キヤノ選擇ヲ爲スコトヲ得ルモ勿論ナリ、是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第五百三條 參加引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ參加引受人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

參加引受人カ爲替手形ニ被參加人ヲ定メサリシトキハ其引受ハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本條ニ於テハ參加引受ノ方式及ヒ被參加人ノ指定ヲ規定セリ、之ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 參加引受ノ方式(第一項) (一)豫備支拂人タルト其ノ他ノ者トヲ問ハス參加引受ヲ爲サントスルトキハ爲替手形ニ參加引受ヲ爲スコトヲ記載シ且ツ之ニ署名スルコトヲ要ス、何トナレハ參加引受人ハ之ニ因リテ支拂人カ支拂ヲ爲ササル場合ニ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ者ナルヲ以テ

參加引受ヲ爲シタルコト及ヒ其ノ參加引受人ノ何人タルヤハ之ヲ手形面ニ明確ニスルコトヲ要スレハナリ、是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ (二)然レトモ下ニ説明スル如ク參加引受人ハ引受ノ旨及ヒ署名ノ外猶ホ何人ノ爲メニ參加引受ヲ爲シタルカ即チ被參加人ヲ明記スルヲ可トス

第二 被參加人ノ指定(第二項) (一)參加引受ハ支拂人カ引受ヲ爲ササル場合ニ之ヲ爲スモノナレハ參加引受ハ支拂人ノ爲メニ爲スモノノ如シ、然レトモ是レ決シテ然ルモノニ非ラス、支拂人カ支拂ヲ爲ササルコトハ參加引受ノ條件ニ過キスシテ參加引受ハ或ハ振出人ノ爲メニ爲スコトアリ、或ハ裏書人ノ爲メニ爲スコトアリ、何トナレハ參加引受アルトキハ振出人若クハ裏書人ハ擔保ノ請求ヲ受クルコトヲ免ルルカ故ニ(第五〇六條ノ説明參看)振出人ノ利益若クハ裏書人ノ利益ノ爲メニ爲スコトアレハナリ、故ニ參加引受ヲ爲スニハ其旨ノ記載及ヒ引受人ノ署名ノ外猶ホ何人ノ爲メニ參加引受ヲ爲シタルカ即チ被參加人ヲ記載スルコトヲ要ス (二)然レトモ此ノ記載ハ必スシモ參加引受ノ要件ニ非ラサルカ故ニ此ノ記載ナキモ其ノ引受ヲ無効トセス第四百九十八條ト同一ノ趣旨ニ依リ振出人ノ爲メニ爲シタルモノト看做スヘキモノトス、是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第五百四條 所持人ハ引受拒絶證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ且其證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス
參加引受人ハ遲滞ナク前項ノ拒絶證書ヲ被參加人ニ送付スルコトヲ要ス
本條ニ於テハ參加引受アリタル場合ニ所持人及ヒ參加引受人ノ爲スヘキ手續即チ其ノ義務ヲ規定セリ、之ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 所持人ノ爲スヘキ手續(第一項)

(支拂人カ引受ヲ拒絶シタルニ因リ作ラシメタル拒絶證書ヲ謂フ、第四七五條ノ説明參看)ニ參加引受アリタルコトヲ記載セシメ而シテ其ノ拒絶證書ノ作成ノ費用ヲ參加引受人ヨリ受ケ之ト引換ニ其ノ拒絶證書ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要スルモノトス、是レ下ニ説明スルカ如ク參加引受人ヲシテ之ヲ被參加人ニ送付セシムルカ爲メニシテ即チ本條第一項ノ規定アル所以ナリ(二)拒絶證書ニ參加引受アリタル旨ノ記載ハ公證人又ハ執達吏之レヲ爲ス(第五一五條ノ説明參看)

第二 參加引受人ノ爲スヘキ手續(第二項)

(一)又タ參加引受人ハ參加引受ヲ爲スト共ニ右ノ規定ニ依リ引受拒絶證書ト引換ニ其ノ拒絶證書作成ノ費用ヲ所持人ニ支拂ヒ、而シテ所持人ヨリ受取リタル引受拒絶證書ヲ遲滞ナク被參加人(自己カ引受ヲ爲シタル者、前條ノ説明參看)ニ送付スルコトヲ要ス、是レ引受拒絶證書ニハ右説明ノ如ク被參加人ノ爲メニ參加引受ヲ爲シタルコトノ記載アルカ故ニ之ヲ被參加人ニ送付シテ以テ被參加人ノ爲メニ參加引受ヲ爲シタルコトヲ知ラシメ而シテ被參加人ヲシテ之ニ因リテ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲サシムルカ爲メニシテ(第五〇七條ノ説明參看)即チ本條第二項ノ規定アル所以ナリ(二)從テ參加引受人カ此ノ手續ヲ怠リ損害ヲ生シタルトキハ參加引受人ハ之カ賠償ノ責ヲ負ハサル可カラサルモノトス

第五百五條

參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ

負フ但所持人カ支拂拒絶證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示セサルトキハ參加引受人ハ其義務ヲ免ル(同上ヲ以テ)

(參照)

前商法

第五百五條 參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ但所持人カ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示セサルトキハ參加引受人ハ其義務ヲ免ル

本條ニ於テハ參加引受ノ引受人ニ對スル效果即チ參加引受人カ引受ヲ爲シタルニ因リ負フ所ノ義務及ヒ其ノ義務ノ消滅ヲ規定セリ、之ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 參加引受人ノ義務(本條本文)

(一)抑モ參加引受ハ支拂人カ手形金額ヲ支拂ハサル場合ニ於テ之カ支拂ヲ爲スコトノ引受ヲ爲シタルモノナルヲ以テ參加引受人カ支拂ノ義務ヲ負フハ支拂人カ支拂ヲ爲ササルコトヲ條件トスルモノナリ、故ニ支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキニ於テ初メテ其ノ責任ヲ負フモノトス(二)而シテ參加引受ハ必スシモ支拂人ノ爲メニ爲スモノニ非ラス或ハ裏書人ノ爲メニ爲シ又ハ振出人ノ爲メニ爲スモノニシテ是等ノ者ハ其ノ前者ニ對シテハ債權者ニシテ後者ノ爲メニシテ債務者タルカ故ニ今マ參加引受人カ或者ノ爲メニ參加引受ヲ爲シタルトキハ參加セラレタル者即チ被參加人ノ後者ニ對シテノミ支拂ノ義務ヲ負フヘキコト勿論ナリ(三)其ノ支拂ヲ爲スヘキ義務ハ必シモ手形金額ノ全部ニ限ラスシテ若シ支拂人カ一部ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其ノ支拂ヲ爲ササリシ部分及ヒ費用ニ付テノミ支拂ノ義務ヲ負フモノトス、例之ハ甲カ振出人、乙カ支拂人、丙、丁、戊カ裏書人ニシテ所持人已ニ至リ而シテ支拂人乙カ引受ヲ

爲ササルニ因リ壬ナル者カ裏書人丁ノ爲メニ參加引受ヲ爲シタル場合ニ滿期日ニ至リ支拂人乙カ手形金額千圓中五百圓ヲ支拂ヒ残り五百圓ヲ支拂ハサルトキハ參加引受人壬ハ被參加引受人即チ丁ノ前者ナル甲及ヒ丙ニ對シテハ何等ノ義務ナシト雖モ被參加人ノ後者ナル戊、己ニ對シテ乙カ支拂ハサリシ五百圓及ヒ費用ニ付キ支拂ノ義務ヲ負フカ如シ、是レ本條本文ニ於テ『參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ』ト規定セル所以ナリ

第二 參加引受人ノ免責(本條但書)

(一) 參加引受人ノ責任ハ右ノ如シト雖モ若シ所持人カ支拂拒絶證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示シテ其ノ支拂ヲ求メサルトキハ參加引受人ハ之ニ因リテ其ノ義務ヲ免ルルモノトス、何トナレハ參加引受人ハ一方ニ於テハ右ニ説明スル如ク所持人ニ對シテ支拂ヲ爲ス代ハリニ他方ニ於テハ被參加人及ヒ其ノ前者ニ對シ所持人ノ權利ヲ取得シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ(第五一三條ノ説明參看)而シテ其ノ償還請求ヲ爲スニハ法定ノ期間内ニ拒絶證書ヲ作ラシメ且ツ償還請求ノ通知ヲ爲スヘキモノナルニ拘ラス所持人カ支拂拒絶證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ參加引受人ニ對シ手形ノ呈示ヲ爲ササルトキハ參加引受人ハ一方ニ於テ所持人ニ支拂ヲ爲ス義務ヲ負ヒナカラ他方ニ於テ所持人カ呈示ヲ爲ササル爲メ法定ノ期間内ニ被參加人若クハ其前者ニ對シ償還請求ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス單ニ義務ノミヲ負ヒ償還請求權ヲ失フニ至ル可ケレハナリ、故ニ所持人カ呈示ヲ爲ササルトキハ參加引受人ニ償還請求ヲ爲スコトヲ得サルト共ニ他方ニ於テハ其ノ義務ヲ免レシムヘキコト至當ナリ、是レ本條但書ニ於テ『所持人カ支拂拒絶證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル

爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示セサルトキハ參加引受人ハ其義務ヲ免ル』ト規定セル所以ナリ(二) 前商法ノ本條ニハ手形ノ呈示ヲ爲スヘキ期間ヲ『滿期日又ハ其後二日內』トアリシヲ改正ノ本條ニ於テハ『拒絶證書作成ノ期間内』ト改メタリ、是レ『滿期日又ハ其後二日內』ト謂フトキハ其ノ期間ニ休日ヲ算入スト雖モ『拒絶證書作成ノ期間内』ト謂フトキハ休日ヲ算入セサルカ故ニ(第四八七條ノ説明參看)本條ノ期間モ亦タ之ヲ『拒絶證書作成ノ期間内』ト改メ以テ此ノ期間ニハ休日ヲ算入セサルモノト爲シタルニ依ルナリ(明治四十四年一月二十七日貴族院商法中改正法律案特別委員會議事速記録參看)

第五百六條 爲替手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ

本條ニ於テハ參加引受ニ因リ擔保ノ請求權ヲ失フヘキ者ヲ規定セリ(一) 爲替手形ノ所持人ハ參加引受アルニ因リ其ノ前者ニ對シテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フモノトス、抑モ所持人カ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ支拂人カ手形ノ引受ヲ爲サシテ其ノ支拂カ疑ハシキニ至リタルニ因リ之ヲ確保スルカ爲メニ外ナラス、然ルニ今マ參加引受人カ參加引受ヲ爲シテ支拂ノ義務ヲ負ヒ而シテ所持人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ルニ拘ハラズ其ノ引受ヲ承諾シタル以上ハ是レ其ノ引受ニ因リテ支拂カ確實ト爲リタルニ外ナラサルヘク、從テ最早ヤ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲ス必要アラサルヘシ、是レ參加引受ニ因リ所持人カ其ノ前者ニ對シ擔保請求權ヲ失フ所以ナリ(二) 又タ被參加人ノ後者モ參加引受アルニ因リ其ノ前者ニ對スル擔保請求權ヲ失フモノトス、抑モ參加引受ハ前條ノ規定ニ依リ被參加人ノ後者ニ對シ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フモノナリ(前條第一ノ說

明參看) 既に被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リ支拂カ確保セラレタル以上ハ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲ス必要ナシ、是レ恰モ右第一ノ如ク所持人カ手形ノ支拂ヲ確保セラレタルニ依リ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲ス必要ナキト同一ナリ、即チ被參加人ノ後者モ亦タ所持人ト共ニ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スルノ權利ヲ失フ所以ニシテ本條ニ於テ『爲替手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ』トノ規定ノ因リテ來ル所ナリ (三) 從テ被參加人ノ前者ハ其ノ前者ニ對シテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失ハサルハ勿論ニシテ、其ノ被參加人ノ擔保請求權ニ付テハ次條ニ於テ別ニ之ヲ規定セリ (次條ノ說明參看)

第五百七條 被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十六條乃至第四百七十九條ノ規定ヲ準用ス(同上ヲ以テ)

(參照) 前商法 (本條改正)

第五百七條 被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十五條乃至第四百七十九條ノ規定ヲ準用ス

本條ニ於テハ被參加人ノ其ノ前者ニ對スル擔保請求權ヲ規定セリ (一) 所持人及ヒ被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ其ノ前者ニ對スル擔保請求權ヲ失フコトハ前條ノ規定スル所、而シテ被參加人ノ前者ハ參加引受アルモ之ニ因リテ擔保請求權ヲ失フモノニ非ラサルコトハ言ヲ俟タサル所ナリ、唯タ被參加人ハ參加引受ニ因リテ擔保請求權ヲ失フヘキヤ否ヤハ或ハ疑フヘキカ如シト雖モ參加引受人カ支拂ヲ爲シタルトキハ被參加人ニ對シ所持人タルノ權利ヲ取得シ從テ被參加人ハ參加引受人ヨリ償還ノ請求ヲ受クルコトアルヲ以テ (第五一三條ノ說明參看) 被參加人ハ此ノ準

備ノ爲メニ其前者ニ對シ擔保ノ請求權ヲ有セサル可カラス、是レ本條ニ於テ『被參加人ハ其前者ニ對シ擔保ヲ請求スルコトヲ得』ト明言シタル所以ナリ (二) 而シテ其ノ手續ニ付テハ擔保ノ請求ニ關スル第四百七十六條乃至第四百七十九條ノ規定ヲ準用ス (同各條ノ說明參看)

第二款 參加支拂

前款ニ於テハ參加引受ヲ規定シタルニ依リ本款ニ於テハ參加支拂ヲ規定セリ、是レ引受ニ次キ其ノ結果タル擔保ノ請求ヲ規定シ之ニ次キテ支拂ヲ規定シタルト同一ノ順序ニ出ツルモノナリ、參加支拂トハ支拂人若クハ支拂擔當者カ支拂ヲ爲ササル場合ニ豫備支拂人又ハ參加引受人若クハ其他ノ第三者カ支拂ヲ爲スヲ謂フ、而シテ其ノ參加支拂ヲ爲ス者ヲ『參加支拂人』ト謂ヒ、參加セラルル者ヲ『被參加人』ト謂フ、但シ本款ニ於テハ豫備支拂人又ハ參加引受人以外ノ參加支拂人ヲ之ト區別スル爲メニ『豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル參加支拂人』ト謂ヘリ、而シテ本款ニ於テハ豫備支拂人又ハ參加引受人ノ參加支拂、參加支拂拒絕ノ效果、參加支拂人ノ選擇、被參加人ノ指定、參加支拂ノ手續、參加支拂人ノ權利等ヲ規定セリ

第五百八條 爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ參加引受人ニ、若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲

ササリシトキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス(同上ヲ以テ)參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ支拂拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

(參照) 前商法

第五百八條(第一項) 爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ滿期日又ハ其後二日內ニ參加引受人ニ、若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

本條ニ於テハ先ツ豫備支拂人又ハ參加引受人アル場合ニ於ケル所持人ノ償還請求ノ條件及ヒ是等ノ者カ支拂ヲ拒絕シタル場合ニ於ケル拒絕證書ノ記載并ニ其手續ヲ怠リタル場合ノ效果ヲ規定シタルモノニシテ參加引受人ニ於ケル第五百條ノ規定ニ相對スルモノナリ、之ヲ分說スレハ左ノ如シ

第一 豫備支拂人又ハ參加引受人アル場合ノ所持人ノ償還請求ノ條件(第一項) (一)抑モ支拂人カ手形ノ支拂ヲ爲ササルトキハ所持人ハ其ノ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ第四百八十六條ノ規定スル所ナリ、故ニ所持人ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ直チニ其ノ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ(同條ノ說明參看) 若シ振出人又ハ裏書人カ手形ニ豫備

支拂人ヲ記載シ若クハ參加引受人アルトキハ是レ支拂人カ支拂ヲ爲ササル場合ニ是等ノ者ヲシテ支拂ヲ爲サシメントスルモノナレハ(第四四八、四五八、五〇〇條ノ說明參看) 所持人ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササルニ因リ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ是等ノ者ニ手形ヲ呈示シ支拂ヲ求メ其ノ支拂ナキ場合ニ非ラサレハ其ノ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトスヘキハ當然ナリ、是レ先ツ本條第一項ニ於テ『爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ云々爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ非ラサレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス』ト規定セル所以ナリ(二) 豫備支拂人及ヒ參加引受人アル場合ニ右ノ支拂ヲ求ムル順序ハ第一ニ參加引受人ニ引ムヘク、參加引受人カ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ第二ニ豫備支拂人ニ求ムヘキモノトス、何トナレハ豫備支拂人ハ必シモ引受ヲ爲シタルモノニ非ラサルニ反シ參加引受人ハ既ニ引受ヲ爲シ支拂ノ義務ヲ負フ者ナレハナリ、但シ參加引受人ナキトキハ直チニ豫備支拂人ニ求ムヘキハ勿論ナリ、是レ亦タ本條第一項ニ於テ『所持人ハ云々參加引受人ニ、若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ニ』云々と規定セル所以ナリ(三) 又タ右ノ支拂ヲ求ムルハ支拂拒絕證書作成期間內ニ限ルモノトス、是レ第四百八十七條ト同趣旨ニ出ルモノニシテ『所持人ハ支拂拒絕證書作成期間內ニ云々爲替手形ヲ呈示シテ』云々と規定シタル所以ナリ、從テ以上ノ手續ヲ怠ルトキハ所持人ハ下ノ第三ニ説明スル如ク手形上ノ權利ヲ失フヘシ(四) 前商法ノ本條第一項中ニ『滿期日又ハ其後二日內』トアリシヲ本條ニ於テハ『支拂拒絕證書作成ノ期間內』ト改メタリ、是レ此ノ期間內ニ休日ヲ算入セサルコトヲ明カニシタルモノニシテ第五百五條改正ノ趣旨ト同一ナリ(同條第

二(二)ノ説明參看)

第二 參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシ場合ノ拒絕證書ノ記載(第二項) (一) 所持人カ右ノ規定ニ依リ參加引受人ニ手形ヲ呈示シタルモ支拂ヲ爲ササリシトキハ支拂拒絕證書ニ(支拂人ニ支拂ヲ求メタルモ支拂ヲ爲ササリシ爲メ作ラシメタル拒絕證書ヲ謂フ)參加引受人カ支拂ヲ爲ササリシ旨ヲ記載セシムヘク(二) 又タ參加引受人カ右ノ如ク支拂ヲ爲ササリシ爲メ拒絕證書ニ之ヲ記載シ更ニ豫備支拂人ニ支拂ヲ求メタル場合ニ豫備支拂人カ亦タ支拂ヲ爲ササリシトキハ又タ其旨ヲ拒絕證書ヲ記載セシムルコトヲ要ス(三) 而シテ參加引受人ナク直ニ豫備支拂人ニ支拂ヲ求メ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキモ亦タ其旨ヲ拒絕證書ニ記載セシム可キモノトス、何トナレハ所持人カ償還ノ請求ヲ爲スニハ參加引受人又ハ豫備支拂人ニ支拂ヲ求メタルモ拒絕セラレタルコトヲ證明スヘク、而シテ之ヲ證明スルニハ絶拒絕證書ヲ以テスルコトヲ適當ナレハナリ、是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第三 前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル場合ノ效果(第三項)

(一) 前二項ノ手續ハ參加引受人又ハ豫備支拂人アル場合ニ於テ所持人カ償還請求ヲ爲スニ付テノ要件ナルヲ以テ若シ所持人カ此ノ手續ヲ怠ルトキハ豫備支拂人アル場合ニ於テハ其ノ豫備支拂人ヲ指定シタル振出人及ヒ其後ノ裏書人ノ全員又ハ豫備支拂人ヲ指定シタル裏書人及ヒ其ノ後者ニ對シ償還請求ヲ爲ス權利ヲ失フヘク(二) 參加引受人アル場合ニ於テハ被參加人及ヒ其ノ後者ニ對シ償還請求ヲ爲ス權利ヲ失フヘク(三) 豫備支拂人及ヒ參加引受人アル場合ニ於テハ其ノ豫備支拂人ヲ指定シタル者及ヒ其ノ後者并ニ被參加人及ヒ其ノ後者ニ對シテ併テ償還請求權ヲ失フヘシ、是レ本條第三項ニ於テ

『所持人カ前二項ノ手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ』ト規定セル所以ナリ(四) 但シ前二項ノ手續ヲ怠ルモ豫備支拂人ヲ指定シタル者及ヒ被參加人ノ前者ニ對シテハ右ノ權利ヲ失ハサルコトハ勿論ナリ、而シテ本條ノ規定ハ約束手形ニ準用ス(第五二九條ノ説明參看)

第五百九條

爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル者ノ參加支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

本條ニ於テハ參加支拂ハ之ヲ求ムコトヲ得サルコト及ヒ之ヲ拒ミタル場合ノ效果ヲ規定セリ(一) 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非ラサル者ノ參加引受ハ之ヲ拒ムコトヲ得ルト雖モ參加支拂ニ付テハ假令ヒ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非ラサル他ノ者ノ參加支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス、何トナレハ參加引受ハ資産ナク又ハ信用ナキ者ノ引受ハ手形ノ信用ヲ増スコトナク却テ擔保請求權ヲ失フコトアルヲ以テ所持人ノ選擇ニ依リ之ヲ拒ムコトヲ得ルト雖モ(第五〇一條ノ説明參看) 參加支拂ハ現ニ支拂ヲ爲スモノナレハ所持人ハ何人ヨリ支拂ヲ受クルモ異ナルコトナク決シテ害ヲ受クルコトナケレハナリ、是レ本條ニ於テ『所持人ハ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル者ノ參加支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得ス』ト規定セル所以ナリ(二) 從テ若シ所持人カ之ニ反シ參加支拂ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其ノ後者ニ對シ償還請求ヲ爲ス權利ヲ失フモノトス、何トナレハ參加支拂アルトキハ被參加人及ヒ其ノ後者ハ所持人ニ對シ償還義務ヲ免ルルニ拘ハラズ所持人カ一方ニ於テ參加支拂ヲ拒ミツツ他方ニ於テ償還請求ヲ爲サントスルハ不當

ナレハナリ、是レ本條ニ於テ『若シ之ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ』ト規定セル所以ナリ、而シテ本條ノ規定モ亦タ約束手形ニ準用ス(第五二九條ノ說明參看)

第五百十條

參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最モ多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス

本條ハ參加支拂ヲ爲サントスル者數人アル場合ニ於テ所持人ノ之ヲ選擇スヘキ方法ヲ規定セリ、參加引受ノ場合ニ於テハ引受人ノ資力若クハ信用ノ有無等ニ依リ所持人ニ利害ノ關係アルヲ以テ引受ヲ爲サントスル者ノ數人中如何ナル者ヲ參加引受人トスヘキヤハニ所持人ノ選擇ニ委ネタリト雖モ(第五〇二條ノ說明參看)參加支拂ノ場合ニ於テハ現ニ支拂アルモノニシテ資力、信用等ノ如何ヲ問フノ必要ナク最モ多數ノ債務者ノ債務ヲ免レシムル者ヲ參加支拂人トシ以テ多數人ノ手形關係ヲ消滅セシムルコト適當ナリ、是レ本條ニ於テ『參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最モ多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス』ト規定セル所以ニシテ、例之ハ甲カ振出人、乙、丙、丁カ裏書人ナル場合ニ甲ノ爲メニ參加支拂ヲ爲サントスル者ト丙ノ爲メニ參加支拂ヲ爲サントスル者アルトキハ丙ノ爲メニスル支拂ハ僅ニ丙、丁二人ノ債務ヲ免レシムルニ過キスト雖モ、甲ノ爲メニスル支拂ハ振出人タル甲以下全員ノ債務ヲ免レシムルモノナルヲ以テ所持人ハ甲ノ爲メニスル支拂ヲ受ケサル可カラサルカ如シ、而シテ本條ノ規定モ約束手形ニ準用スルモノナリ(第五二九條ノ說明參看)

第五百十一條

豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル參加支拂人カ被參加人ヲ示ササリシトキハ其支拂ハ支拂人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本條ハ參加支拂人カ被參加人ヲ示ササル場合ニ何人ヲ被參加人トスヘキカヲ規定セリ、豫備支拂人カ支拂ヲ爲スハ之ヲ指定シタル振出人又ハ裏書人ノ爲メタルコト勿論ニシテ、參加引受人カ支拂ヲ爲スハ自己カ被參加人トシテ手形ニ記載シタル者又ハ手形ニ被參加人ヲ記載セサリシトキハ振出人ノ爲メニ爲シタルモノトスルヲ以テ別ニ之ヲ定ムルノ必要ナシ(第五〇三條ノ說明參看)然レトモ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル他ノ參加支拂人カ被參加人ヲ示ササリシトキハ何人ノ爲メニ爲シタルモノナルヤハ不明ニシテ從テ之ヲ定ムルノ必要アリ、而シテ此ノ場合ニハ前條ノ趣旨ヲ以テスレハ最モ多數ノ債務ヲ免レシムヘキ者ノ爲メニ爲シタルモノト看做スヲ正當トスルカ如キモ本條ニ於テハ支拂人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトセリ、而シテ本條ノ規定ハ約束手形ニ準用ス(第五二九條ノ說明參看)

第五百十二條

所持人ハ支拂拒絶證書ニ參加支拂アリタル旨ヲ記載セシメ且手形金額及ヒ費用ノ支拂ト引換ニ其拒絶證書及ヒ爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付スルコトヲ要ス

本條ニ於テハ參加支拂ノ手續及ヒ所持人ノ爲スヘキ手續ヲ規定セリ、參加支拂アリタルトキハ所持人ハ支拂拒絶證書ニ(支拂人カ支拂ヲ爲ササルニ因リ作ラシメタル拒絶證書ヲ謂フ)參加支拂アリタル旨ヲ記載セシメ而シテ參加支拂人ヨリ手形金額及ヒ費用ヲ受取り之ト引換ニ右ノ拒絶證

書及ヒ爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付スヘキモノトス、是レ參加支拂人ハ次條ノ規定ニ依リ引受人被參加人及ヒ其ノ前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得シ是等ノ者ニ對シ償還請求ヲ爲スヘキヲ以テ其ノ請求ヲ爲スニ付テノ證明及ヒ償還ヲ受クル場合ニ之ヲ償還義務者ニ交付セシメンカ爲メナリ(第四九五條ノ說明參看) 是レ本條ノ規定アル所以ナリ、猶ホ本條ノ規定ハ約束手形ニ準用ス(第五二九條ノ說明參看)

第五百十三條

參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人、被參加人及ヒ其前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得ス

本條ニ於テハ參加支拂人カ支拂ヲ爲シタル場合ニ取得スヘキ權利ヲ規定セリ、即チ參加支拂人ハ其ノ支拂ヲ爲シタルニ因リテ引受人、被參加人及ヒ其ノ前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得スヘキモノトス、何トナレハ引受人ハ引受ニ因リテ何人ニ對シテモ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ者ナレハ參加支拂人カ所持人ニ支拂ヲ爲シタル以上ハ所持人ヨリ請求ヲ受クルコトナキ代ハリニ參加支拂人ニ支拂ヲ爲ス義務アリ、被參加人ハ參加支拂ノ爲メニ自己カ後者ニ對スル債務ヲ免レタル代ハリニ參加支拂人ニ之カ償還ヲ爲ス義務アリ、被參加人ノ前者モ亦タ被參加人ノ後者ニ對シ債務ヲ免レタル代ハリニ參加支拂人ニ之カ償還ヲ爲ス義務アレハナリ、故ニ參加支拂人ハ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘク因リテ當然是等ノ者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得シ引受人ニ對シテハ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘク被參加人及ヒ其ノ前者ニ對シテハ償還請求ヲ爲ス權利ヲ有スルモノトス、而シテ本條ノ規定ハ約束手形ニ準用スルモノナリ(第五二九條ノ說明參看)

第九節 拒絕證書

以上數節ニ於テ手形行爲ヲ規定シタルニ依リ本節及ヒ次節ニ於テ手形上用ユヘキ書類ヲ規定シ以テ爲替手形ノ規定ヲ終ハリ而シテ本節ニ於テハ拒絕證書ヲ規定セリ、拒絕證書トハ手形上ノ權利ノ行使及ヒ保全ニ必要ナル行爲ヲ證明スルノ證書ニシテ之ヲ作ルヘキ場合ニ付テハ既ニ第四百四十二條ニ於テ之ヲ示シタル所ナリ(同上ノ說明參看) 本節ニ於テハ此ノ拒絕證書ヲ作成スルノ任アル者、拒絕證書ニ掲クヘキ事項、拒絕證書ヲ作成スヘキ數、其他拒絕證書ヲ謄寫スヘキ帳簿、謄本ノ作成及ヒ其ノ效力等ヲ規定セリ

第五百十四條 拒絕證書ハ爲替手形ノ所持人ノ請求ニ因リ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

本條ニ於テハ先ツ拒絕證書ヲ作ルヘキ者ヲ規定シ併セテ其者カ之ヲ作ルハ職權ニ因リテ作ルヘキカ將タ請求ニ因リテ作ルヘキカヲ明カニセリ、即チ左ノ如シ

第一 拒絕證書ヲ作ルヘキ者 拒絕證書ヲ作ルヘキ者ハ公證人若クハ執達吏トス、抑モ拒絕證書ハ手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルコトヲ證明スルノ公正證書ニシ

テ(之ヲ作ルヘキ場合ハ次條第一ノ說明參看)而シテ手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルコト及ヒ其ノ結果如何ヲ正確ニ證明スルハ手形ノ信用、流通及ヒ手形上ノ權利義務ヲ律スルニ於テ最モ必要トス、故ニ之ヲ證明スヘキ證書ハ一定ノ資格アル公吏ヲシテ其職務トシテ作成セシムルコトヲ要ス、是レ拒絕證書ヲ作ルヘキ者ヲ公吏タル公證人又ハ執達吏トシタル所以ニシテ而シテ之ヲ公證人又ハ執達吏ノ二者ニ限リタルハ公證人ハ權利義務ニ關スル公正ノ證書ヲ作ルヲ以テ其ノ職務トシ執達吏ハ裁判所ノ機關トシテ判決ノ執行ヲ司ル者ニシテ最モ拒絕證書ヲ作ラシムルノ任ニ適シ且ツ今日ニ於テハ司法制度ノ完備ト共ニ僻遠ノ地ト雖モ此ノ二者ノ配置アリテ之ヲシテ作成ノ任ニ當ラシムルハ頗ル便利タルニ因ルナリ、從テ拒絕證書ハ公證人若クハ執達吏又ハ法律上其職務ヲ行フヘキ吏員例之ハ裁判所ノ命令若クハ執達吏ノ適法ナル委任ヲ受ケタル者又ハ執達吏ナキ地ニ於ケル裁判所書記ノ如キ法律上其ノ職務ヲ行フヘキ者ノ作リタルモノニ非ラサレハ其ノ效力ナキハ勿論ナリ

第二 拒絕證書作成ノ委任

拒絕證書ハ公證人又ハ執達吏之ヲ作ルヘキモノナリト雖モ其ノ之ヲ作ルハ職權ヲ以テ作ルヘキモノニ非ラスシテ必ラス手形ノ所持人ノ委任ニ因ルヘキモノトス蓋シ拒絕證書ハ手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ證明スルモノニシテ之ヲ作ルハ所持人ノ利益ノ爲ニ外ナラス、故ニ公證人又ハ執達吏ヲシテ之ヲ作ラシムルハ其ノ正確ヲ期スル爲ニ過キスシテ從テ之ヲ作ラシムヘキ主動者ハ所持人ナリ、是レ即チ公證人又ハ執達吏ハ之ヲ作ルヘキ機關ナリト雖モ然カモ所持人ノ委任アルニ非サレハ之ヲ作ルコトヲ得サル所以ニシテ本條ニ於テ『所持人ノ請求ニ因リ』云々ト規定シ又タ本編中各所ニ於テ『拒絕證書ヲ作ラシメ』

若クハ『拒絕證書ニ記載セシメ』ト規定シタルモノハ即チ所持人自ラ之ヲ作ルモノニ非ラサルコトヲ示スト同時ニ公證人又ハ執達吏ハ委任ニ因リテ之ヲ作ルモノナルコトヲ明カニシタルモノナリ、而シテ本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ノ拒絕證書ニ準用ス(第五二九、五三四、五三七條ノ說明參看)

第五百十五條

拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス(同上ヲ以テ)

(本條改正)

- 一 拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號
- 二 拒絕者ニ對スル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セサリシコト、拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシコト又ハ其營業所、住所若クハ居所カ知レサリシコト
- 三 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日
- 四 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト
- 五 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及ヒ參加人竝ニ被參加人ノ氏名又ハ商號
- 六 拒絕證書作成ノ場所及ヒ年月日

(參照)

前商法

第五百十五條 拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名スルコトヲ要ス

第四編 手形

第二章 爲替手形

第九節 拒絕證書

(第五一五條)

一五五三

- 一 爲替手形、其謄本及補遺ニ記載シタル事項
- 二 拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號
- 三 拒絕者ニ對シテ爲シタル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セザリシコト又ハ拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシ理由

- 四 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日
- 五 拒絕者ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサル場合ニ於テ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲シタルコト
- 六 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト
- 七 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及ヒ參加人並ニ被參加人ノ氏名又ハ商號

前條ニ於テハ拒絕證書ヲ作ルヘキ者ヲ規定シタルニ依リ本條ニ於テハ拒絕證書ニ記載スヘキ事項ヲ規定セリ、本條ノ規定ヲ説明スルニ先チ拒絕證書ハ如何ナル場合ニ作ルヘキカヲ説明スヘシ、是レ既ニ第四百四十二條ニ於テ概説シタル所ナリト雖モ拒絕證書ノ作成ハ手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ最モ必要ナル事項ニシテ所持人及ヒ之ヲ作ルヘキ公吏ニ於テ明カニ知ルコトヲ要スル事項ナルノミナラス本條各號ノ規定ヲ説明スルニ於テ必要ナルヲ以テ亦タ茲ニ重テ之ヲ説カントス

第一 拒絕證書ヲ作ルヘキ場合 拒絕證書ハ新タニ之ヲ作ルヘキ場合アリ、又タ既ニ作ラレタル拒絕證書ニ記載ヲ爲スヘキ場合アリ、即チ事項ニ依リ之ヲ區別シテ列記スレハ概ネ左ノ如シ

(一) 引受拒絕證書ノ作成

- 一、支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲ササルニ因リ所持人カ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(第四七四、四七五條ノ説明參看)
- 二、振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セスシテ引受ヲ求ムル爲メ手形ヲ支拂人ニ呈示スヘキ旨ヲ記載シタルトキハ所持人ハ之ニ從テ呈示ヲ爲シ支拂人カ引受ヲ爲サザリシトキハ拒絕

證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(第四七二條)

- 三、一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人カ其ノ日附ヨリ一年內又ハ振出人カ定メタル呈示期間內ニ手形ヲ支拂人ニ呈示シテ引受ヲ求メタルモ支拂人カ引受ヲ爲サザリシトキハ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(第四六六、四六七條)

- 四、同上ノ場合ニ於テ支拂人カ引受ヲ爲シタルモ引受ノ日附ヲ手形ニ記載セザリシトキハ右ノ呈示期間內ニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス、故ニ此ノ拒絕證書ヲ指シテ引受ノ日附拒絕證書ト稱スル者アリ(同上)

- 五、爲替手形ノ引受人又ハ約束手形ノ振出人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人カ擔保ノ請求ヲ爲シタルモ引受人又ハ振出人カ相當ノ擔保ヲ供セサルトキハ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス、此ノ拒絕證書ハ擔保ノ請求ヲ爲シタルモ之ヲ拒絕シタルニ依リ作ルモノナルヲ以テ之ヲ指シテ擔保拒絕證書ト謂フ者アリ(第四八〇、五二九條)

- 六、前項ノ場合ニ爲替手形ノ所持人カ豫備支拂人ニ引受ヲ求メタルモ豫備支拂人カ引受ヲ爲ササルトキハ更ニ引受拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(第四八〇、四七五條)

- (二) 支拂拒絕證書ノ作成
- 一、支拂人又ハ約束手形ノ振出人カ支拂ヲ爲ササルニ因リ所持人カ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(第四八七、五二九、五三七條)
- 二、爲替手形又ハ約束手形ノ所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂擔當者ニ、若シ

手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人又ハ約束手形ノ振出人ニ支拂ヲ求メ支拂擔當者又ハ支拂人若クハ約束手形ノ振出人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ支拂地ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(第四九〇、五二九條)

三、一覽拂ノ爲替手形又ハ約束手形ノ所持人カ其ノ日附ヨリ一年內又ハ振出人ノ定メタル呈示期間內ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メタルモ爲替手形ノ支拂人又ハ約束手形ノ振出人カ支拂ヲ爲ササルトキハ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(第四八二、五二九條)

(三) 呈示ノ拒絕證書ノ作成

一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其ノ日附ヨリ一年內又ハ振出人カ定メタル呈示期間內ニ約束手形ヲ振出人ニ呈示シタルモ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其ノ日附ヲ記載セサリシトキハ拒絕證書ヲ作り呈示ヲ爲シタルコトヲ證明スルコトヲ要ス、若シ之ヲ證明セサルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ、此ノ拒絕證書ハ引受ヲ求ムルモノニ非ラス又タ支拂ヲ求ムルモノニモ非ラス、唯タ呈示ヲ爲シタルコトヲ證明スルモノナルヲ以テ呈示拒絕證書ト謂フヘキモノナリ(第五二七、五二八條)

(四) 複本返還ノ拒絕證書ノ作成

爲替手形ノ複本ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メ其ノ一通ヲ送付シタルニ因リ他ノ各通ニ其ノ送付先ヲ記載シタル手形ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル一通ノ手形ヲ受取リタル者ニ對シ其ノ返還ヲ請求シタルモ其者カ之ヲ返還セサルトキハ其ノ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(第五二一條)

(五) 原本返還ノ拒絕證書ノ作成

引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル爲替手形ヲ受取リタル者カ之カ返還セサルトキハ其ノ謄本ノ所持人ハ其ノ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(第五二四條)

(六) 引受拒絕證書ノ記載

一、爲替手形ノ所持人カ引受拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルニ因リ之ニ引受ヲ求メタルモ豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ前ニ作リタル引受拒絕證書ニ其ノ旨ヲ記載セシムルコトヲ要ス(第五〇〇條)

二、參加引受アリタルトキハ爲替手形ノ所持人ハ前ニ作リタル引受拒絕證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス(第五〇四條)

(七) 支拂拒絕證書ノ記載

一、爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ參加引受人又ハ豫備支拂人アルニ依リ之ニ支拂ヲ求メタルモ參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ前ニ作ラシメタル支拂拒絕證書ニ其旨ヲ記載セシムルコトヲ要ス(第五〇八條)

二、參加支拂アリタルトキハ所持人ハ前ニ作リタル支拂拒絕證書ニ參加支拂アリタル旨ヲ記載セシメ手形金額及ヒ費用ノ支拂ト引換ニ其ノ拒絕證書及ヒ爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付スルコトヲ要ス(第五一二條)

拒絕證書ヲ作ルヘキ場合及ヒ拒絕證書ニ更ニ記載ヲ爲スヘキ場合ヲ舉レハ概ネ右ノ如シ、猶ホ各

條ノ説明ヲ參看スルコトヲ要ス、而シテ右ノ拒絕證書ニ記載スヘキ事項ハ下ノ如シ

第二 拒絕證書ニ記載スヘキ事項 拒絕證書ニハ本條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス、但シ本條ニ掲ケタル事項ト雖モ其ノ事實ナキ場合ニ於テハ之ヲ記載スルニ由ナキハ勿論ナリ、左ニ各號ノ規定ヲ説明スヘシ

一、拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號 (一) 拒絕證書ニハ請求ヲ拒絕シタル者及ヒ拒絕セラレタル者ノ氏名又ハ商號ヲ記載スヘキモノトス、是レ本條ニ於テ拒絕證書ニハ之ヲ作りタル公證人又ハ執達吏ノ署名、捺印アルヲ以テ足レリトシ拒絕者若クハ被拒絕者ハ之ニ署名スルコトヲ要セサルモノト爲シタルカ故ニ拒絕者ハ何人ニシテ拒絕セラレタル者ハ何人ナルカヲ記載シ所持人カ果シテ適當ノ者ニ請求ヲ爲シタルヤ否ヤヲ明カニスルカ爲メトス、但シ左ノ如キ判例アリ

約束手形ノ所持人カ満期日ニ支拂ヲ求ムル爲メ支拂場所ニ到ルモ支拂義務者タル振出人死亡ノ爲メ之ニ面會ヲ得サルカ如キ場合所持人カ其死亡事實ヲ知ラサルニ於テハ振出人ヲ拒絕者トシテ其氏名ヲ拒絕證書ニ記載スルハ寧ロ當然ニシテ之ヲ外ニシテ他ニ拒絕證書ヲ適法ニ作成スルノ道ナシト謂フヘシ (明治三十八年才第三百九十四號、同年十月十日大審院判決)

而シテ住所、職業、年齢ノ如キハ記載スルコトヲ要セス (明治四十四年十月二日民事第六五三號司法省民事局長回答) (二) 然レトモ右第一ノ説明中ノ (六) ノ二及ヒ (七) ノ二ニ示シタル參加引受若クハ參加支拂アリタル旨ヲ記載スル場合ニ於テハ既ニ作りタル拒絕證書ニ其旨ヲ記入スルニ過キサルカ故ニ重テ拒絕者ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルノ必要ナキハ勿論トス (下ノ五ノ説明參看) 二、拒絕者ニ對スル請求ノ趣旨其他 (一) 拒絕者ニ對スル請求ノ趣旨トハ引受ヲ求メタルコト、支拂ヲ求メタルコト、呈示ヲ受ケタルコトノ記載ヲ求メタルコト、引受ノ爲メ送付シタル際

本ノ返還ヲ求メタルコト又ハ原本ノ返還ヲ求メタルコト等ノ如シ、之ヲ拒絕證書ニ記載スルハ拒絕者ニ對シ如何ナル請求ヲ爲シ又ハ其ノ拒絕證書ハ如何ナル拒絕證書ナルカヲ明カニスルカ爲メナリ、但シ拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシトキハ其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足り請求ノ趣旨ヲ記載スルコトヲ要セストノ判例アリ、左ノ如シ

上告論旨ハ原院ハ振出人カ満期日ニ支拂場所ニ出頭セサリシモノニシテ斯ル場合ニ於テハ手形ノ呈示並ニ請求ヲ爲スコトヲ要セサルカ故ニ拒絕證書ニ請求ノ趣旨ヲ記載セサルモ要件ニ缺クル所ナシト判定セラレタルハ不法ナリト謂フニ在リ、然レトモ拒絕證書ヲ作成スルニ當リ拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシ理由ヲ記載スルハ足り請求ノ趣旨ヲ記載スルヲ要セサルコトハ商法第五百十五條第四前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日トアルニ因リ明カナリ、何トナレハ所謂請求ヲ爲スコト能ハサリシトハ拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシ場合ト照應スルコト極メテ明確ナレハナリ (明治三十七年才第八十九號、同年八月十八日大審院判決)

此ノ他右第一ノ説明 (六) ノ二及ヒ (七) ノ二ニ示シタル參加引受又ハ參加支拂アリタルコトヲ記載スルニハ別ニ請求ノ趣旨ヲ記載スルノ必要ナキコト勿論ナリ (二) 拒絕者カ請求ニ應セサリシコトトハ例之ハ引受ニ應セサリシコト、支拂ニ應セサリシコト、呈示ヲ受ケタルコトノ記載ヲ爲ササリシコト、賸本又ハ原本ヲ返還セサリシコト等ノ如シ、之ヲ拒絕證書ニ記載スルニハ拒絕者カ全ク請求ニ應セサリシコトヲ明カニスルカ爲メニシテ從テ參加引受若クハ參加支拂アリシコトヲ記載スル場合ハ請求ニ應セサリシ場合ニ非ラサルカ故ニ此ノ記載ヲ爲スコカラサルハ言フヲ俟タル所ナリ (三) 拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシコトトハ讀テ字ノ如シ、之ヲ記載スルハ之ヲ明確ニスルカ爲メ外ナラス、前商法ニ於テハ拒絕者ニ面會スルコト能ハサル理由ヲモ記載スヘキモノトセリト雖モ改正ノ本法ニ於テハ其事實ノミヲ記載スルヲ以テ足り理由ハ記載スルコトヲ

要セサルモノトセリ、是レ其ノ記載ヲ簡略ナラシメタルモノナリ(明治四十四年一月二十七日貴族院商法中改正法律案特別委員會議事速記録中政府委員說明參看)(四)其ノ營業所、住所若クハ居所カ知レサリシコトモ亦タ字ノ如シ、但シ此ノ營業所、住所若クハ居所カ知レサリシトハ支拂場所又ハ支拂地ニ於テ爲スヘキ行爲ニ付テハ其ノ支拂場所又ハ支拂地ニ於テ營業所、住所又ハ居所ノ知レサルコトヲ謂フモノト解スルコトハ前ニ述ヘタル所ナリ(第四四二條ノ說明及ヒ判例參看)前商法ニ於テハ本條第五號ニ於テ『拒絕者ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサル場合ニ於テ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲シタルコト』ト規定シ問合セテ爲シタルコトヲ記載スヘキモノトセリト雖モ本法ニ於テハ之ヲ第二號ニ移シ且ツ問合ヲ爲シタルコトヲ記載スヘキモノトセリト雖モ本法ニ於テハ之ヲ第二號ニ移シ且ツ問合ヲ爲シタルコトヲ記載スヘキモノトセリ、是レ亦タ簡略ヲ旨トシタルニ依ルナリ(五)本號ノ事項ノ意義ハ右ノ如シト雖モ本號ノ事項ハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ノミニ付テ此ノ事項ノ存シタル場合ノミニ限ルヤ又ハ當事者本人ニ付テ存シタル場合ヲモ包含スルヤ、行政例ニ於テハ

同條(本條)第二號ニ於ケル拒絕者ニ對スル請求又ハ拒絕者ニ面會スルコト能ハサルトハ公證人自ラ請求ヲ爲シ又ハ面會スル能ハサル場合ナリヤ、貴見ノ通(明治四十四年十月二日民事第六五三號・司法省民事局長回答)トシ又ハ判例ノ一ニ於テハ

凡ソ執達吏カ委任ヲ受ケテ拒絕證書ヲ作成スル場合ニ於テハ商法第五百十五號第三號(改正法ノ第二號)ニ規定シタル事項ハ執達吏自ラ干與シタル事項ヲ記載スヘキモノニシテ決シテ委任者ト拒絕者トノ間ニ爲シタル過去ノ行爲ニ付キ單ニ委任者ノ陳述ニ基キ之カ記載ヲ爲スヘキモノニ非サルコトハ言テ俟タサル所ニシテ原判決ニ於テハ總令甲第二號證ノ前段ニ上告人カ滿期日ニ支拂場所ニ至リ支拂ヲ請求シタルニ振出人出頭セサリシカ爲メ出會セサル旨記載アルハ右ハ執達吏カ上告人ヨリ

其事實ヲ傳聞シテ記載シタルニ過キサルモノト認メ而シテ又同證後段ニ執達吏カ支拂場所ニ到リ銀行員ニ出會ノ上上告人ノ陳述請求ニ基キ拒絕證書ヲ作成スヘキ旨告知シタルトノ記載アルモ是レ唯執達吏カ支拂場所ニ至リ銀行員ニ對シ拒絕證書作成ノ告知ヲ爲シタルコトヲ記載シタルニ止マリ商法第五百十五號第三號ニ規定シタル事項ハ毫モ之ヲ知ルニ由ナシト判定シタルモノニシテ畢竟原院カ其職權ニ依リ甲第二號證ノ意義ヲ解釋シタルニ外ナラス、故ニ之ニ對スル論難ハ上告ノ理由トナラス(明治三十八年第三百二號、同月八月二十四日大審院判決)

即チ右ノ行政例及ヒ判例共ニ本號ノ事項ハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ニ存スル場合ニ限リ記載スヘキモノノ如シ、然ルニ他ノ判例ニ於テハ曰ク

則チ不當ニ適用シタル違法アルモノト信スト云フニ在リ、然レトモ商法第五百十五號第二號ニ於テ拒絕者ニ對シテ爲シタル請求ノ趣旨ヲ拒絕證書ニ記載スヘキ要件ト爲シタル所以ハ所持人ヨリ拒絕者ニ對スル手形金額ノ支拂ニ付キ適式ノ請求アリタルモ支拂ハレサルコトヲ明確ニスル爲メニ外ナラサレハ右請求ニ關シ執達吏カ干與シタル以上ハ請求者カ委任ヲ受ケタル執達吏自身ナルト所持人又ハ其代理人ナルトヲ問フテ要セサルモノトス、故ニ原院ニ於テ甲第二號證拒絕證書ニ於ケル執達吏ト同行シタル手形所持人石川トメノ代理人カ手形カ呈示シタルモ振出人不在ナリシ旨ノ記載ヲ以テ不適法ノ廉ナシト判決シ上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルハ不法ニ非ス(大正二年第七十八號、同年五月七日大審院判決)

想フニ若シ前行政例及ヒ前判例ノ如ク本號ノ事項ハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏自身ニ付テ生シタル場合ニ限ルトシ公證人又ハ執達吏カ爲シタル請求ノ趣旨、公證人又ハ執達吏ノ爲シタル請求ニ對シ拒絕者カ請求ニ應セサリシコト等ヲ掲クヘキモノトシ所持人自身カ爲シタル場合ノ如キハ記載スヘキモノニ非ストセハ第四百六十七條ノ『所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス』ト謂ヘル場合ノ如キ所持人ハ手形ノ日附

ヨリ一年ノ初メニ呈示ヲ爲シ支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ一年ノ終ニ拒絕證書ヲ作ラシムルモ足ルニ拘ハラズ(呈示、拒絕證書ノ作成期間共ニ日附後一年ナルカ故ニ)公證人又ハ執達吏ニ依テ呈示シ若クハ公證人、執達吏ト同道シテ呈示シ常ニ呈示ト拒絕證書作成ト同時ニ爲ササル可カラサルニ至ルノミナラス呈示ハ所持人自身ニ於テ爲スコトヲ得ス必ラス公證人、執達吏ノ干與ヲ要スルニ至ルヘシ、然カモ第四百六十七條ヲ讀下スレハ斯クノ如キノ意ニ非ラサルハ明カナルヘシ、故ニ前ノ判例アリシニ拘ハラズ後ノ判例ノ如キ漸ク反對ノ解ニ近ツキタルヲ見ルヘシ、要スルニ所持人ノ爲シタル場合ト雖モ明確ナルモノハ之ヲ記載スルコトヲ得ヘキモノト解スルコト相當ナルヘシ

三、前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日 (一)前號ノ請求ヲ爲シタル地及ヒ年月日トハ前號ニ掲ケタル拒絕者ニ對シ請求ヲ爲シタル地ト之レヲ爲シタル年月日ヲ謂フ、之ヲ拒絕證書ニ掲ルハ手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ノ行爲ハ法律カ定メタル地及ヒ時ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要スルヲ以テ果シテ適當ナル地及ヒ時ニ於テ請求ヲ爲シタルヤ否ヤ明瞭ナラシムルカ爲メトス、故ニ若シ適當ナル地及ヒ時ニ於テ請求ヲ爲ササルトキハ拒絕證書ハ無効ナルコトアルヘシ、適當ナル地ニ於テ爲ササルニ依リ證書ノ無効タリシ一例ヲ示サン

(前略)然ルニ原告カ執達吏ヲシテ作成セシメタル甲第二號拒絕證書ヲ閱スルニ原告カ支拂期日ニ於テ株式會社東海銀行ニ至リ支拂ヲ求メタル事實ノ記載アルモ支拂ノ場所タル株式會社東海銀行本所支店ニ到リ支拂ヲ受サリシ事實ノ記載ナシ、是レ原告カ裏書人タル被告ニ對スル償還請求權ヲ保全スルニ必要ナル手續ヲ爲シタル事實ノ證明ヲ缺クモノニシテ甲第一號ニ貼付セル附箋ニ依リ補足スルコトヲ許サズ、原告請求ハ此點ニ於テ理由ナキモノトシテ排斥スルコトヲ得依テ當裁判所ハ他ノ爭點ニ付キ審査ヲ爲サシテ請求棄却ノ判決ヲ下セリ云々(明治三十四年ノ第六號約束手形金請求事件、東京地方裁判

所判決)

但シ公證人若クハ執達吏ハ如何ナル地及ヒ時ニ於テ請求ヲ爲スモ關スル所ニ非ラスト雖モ拒絕證書ニハ必ラス其地及ヒ年月日ヲ記載スヘシ(二)請求ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日トハ例之ハ請求ヲ受クヘキ者ノ營業所、營業所ナキ場合ニ其ノ住所又ハ居所ニ於テ請求ヲ爲サントシタルモ請求ヲ受クヘキ者ニ面會セス若クハ右等ノ營業所又ハ住所、居所カ知レスシテ請求ヲ爲スコト能ハサリシトキニ於ケル營業所、住所又ハ居所地ノ如シ、其ノ年月日トハ右ノ地ニ於テ請求ヲ爲サントシタルモ請求ヲ爲スコト能ハサリシ年月日ノ如シ、之ヲ拒絕證書ニ記載スルハ適法ナル地及ヒ時ニ於テ請求ヲ爲スヘキ行爲ヲ爲シタルヤ否ヤ明ニスルカ爲メトス、請求ヲ爲スヘキ地ニ付テハ第四百四十二條、第四百五十二條乃至第四百五十四條ノ詳説及ヒ判例ヲ參看スヘシ

四、法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト 手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ必要ナル行爲ハ法定ノ場所ニ於テ之レヲ爲スコトヲ要スト雖モ拒絕者カ承諾シタルトキハ法定ノ場所外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルハ第四百四十二條ノ規定スル所ナルヲ以テ若シ法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコトヲ其ノ證書ニ明記スヘキハ當然ナリ

五、參加引受又ハ參加支拂アルトキ參加ノ種類其他 (一)參加引受又ハ參加支拂アルトキハ其ノ旨ヲ拒絕證書ニ記載スルコトヲ要ス(第五〇四、五一二條ノ説明及ヒ本條第一ノ説明中(六)ノ二并ニ(七)ノ二參看)(二)參加ノ種類トハ參加引受ナルコト又ハ參加支拂ナルコトヲ謂フ是レ參加引受ト參加支拂トハ其ノ結果ノ異ナルヲ以テ之ヲ記載セシムルノ必要アルコトハ勿論ナ

レハナリ (三) 参加人及ヒ被参加人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルハ何人カ何人ノ爲ニ参加ヲ爲シタルヤヲ明確ニスルモノニシテ此ノ記載ノ必要ナルハ言フヲ俟タサルナリ (四) 而シテ以上ノ記載ハ新ニ拒絶證書ヲ作りテ記載スルモノニ非スシテ前ニ作りタル引受又ハ支拂ノ拒絶證書ニ記載スヘキモノナルコトハ既ニ屢々説明シタル所ナリ

六、拒絶證書作成ノ場所及ヒ年月日 (一) 拒絶證書ハ法定ノ場所ニ於テ之レヲ作ルコトヲ要ス、但シ此點ニ關シテハ既ニ詳説シタルヲ以テ茲ニ再説セサルヘシ、唯タ法定ノ場所ニ於テ作ラサルトキハ其ノ無効ヲ來スヲ以テ注意ヲ怠ルヘカラス (必ラス第四四二、四五二乃至四五四條ノ説明參看) (二) 拒絶證書ヲ作成スヘキ時ニ付テモ亦タ同シ、拒絶證書作成ノ時ニ付テハ法律ニ於テ其ノ作成期間ヲ定メタルモノアリ、故ニ此ノ場合ニハ其ノ期間後ニ作りタルモノハ亦タ無効ヲ來スヘシ、各條ノ規定ヲ熟視シテ注意スヘシ (第一ノ説明參看) (三) 前商法ニ於テハ拒絶證書作成ノ場所及ヒ年月日ハ拒絶證書ニ掲クヘキ必要事項トセサリシト雖モ拒絶證書作成ノ場所ハ右ノ如キ證書ノ效力ニ關スルカ故ニ其ノ效力ヲ定ムルカ爲メニ必ラス明カニセサル可カラス、故ニ本法ニ於テハ必要事項トシテ新タニ之ヲ加ヘ且ツ一般公正證書ト其ノ形式ヲ一致セシメタリ

以上ハ拒絶證書ニ掲クヘキ必要事項ナリ、前商法ニ於テハ右ノ外第一號ニ於テ『爲替手形、其膠本及ヒ補箋ニ記載シタル事項』ト規定シ手形、膠本、補箋ニ記載シタル事項ハ悉ク之ヲ拒絶證書ニ記載スヘキモノトセリト雖モ本法ニ於テハ記載ノ簡便ナルヲ期スルヨリ全然之ヲ削除シタリ

第三 公證人又ハ執達吏ノ署名、捺印

(一) 拒絶證書ハ公證人又ハ執達吏ニ依テ作成セラル可キモノナルコトハ前條ノ規定スル所ニシテ他ノ者カ作りタルトキハ拒絶證書タルノ效力ナシ、

故ニ拒絶證書ニハ前項ニ示シタル事項ヲ掲クルノ外之ヲ作り若クハ記載シタル公證人又ハ執達吏ニ於テ其ノ作成ヲ明カニスルコトヲ要シ、而シテ之ヲ爲スノ方法ハ其ノ署名及ヒ捺印ヲ爲スニ在リ (二) 前商法ニ於テハ單ニ署名ヲ必要トシ捺印ヲ爲スヘキコトヲ規定セサリシト雖モ公正證書ニ作成者カ捺印ヲ爲スコトハ一般ノ形式ト爲スヲ以テ本法ニ於テハ新タニ署名ノ外捺印ヲ爲スヘキコトトシ以テ一般公正證書ノ形式ト一致セシメタリ、故ニ署名アルモ捺印ナキ拒絶證書ハ違式ナリ (三) 公證人又ハ執達吏カ拒絶證書ヲ作りタルトキハ之ニ署名捺印スヘキコト右ノ如シト雖モ本條第一ノ(六)及ヒ(七)ニ説明シタル如キ一旦拒絶證書ヲ作りタル後チ更ラニ之レニ記載ヲ爲ス場合ニ於テモ其ノ記載ニ付キ更ニ署名捺印ヲ爲スコトヲ要ス (四) 公證人又ハ執達吏カ署名シタル拒絶證書ハ其ノ作成カ公證人又ハ執達吏ニ依テ爲サレタルコトノ證據ト爲リ、記載カ眞實ナルコトヲ推測セラルヘキハ勿論ナリト雖モ其ノ記載セラレタル事實ニ付テハ拒絶者ハ猶ホ之ヲ争フコトヲ得ヘシ、判例ニ曰ク

本件拒絶證書ハ拒絶者土方武ノ營業所又ハ住所以外ニ於テ作成セラレタルモノナルカ故ニ拒絶證書トシテ其效ナキ旨當初ヨリ被告上告人ノ争フ所ナルヲ以テ、本件拒絶證書ノ作成セラレタル小石川區同心町一番地方土方武ノ住所ナリトノ事實ハ上告人ニ於テ之ヲ證明スヘキハ證據法上當然ノ筋合ナリトス上告人ハ執達吏ニ於テ同所カ振出人ノ住所ナルコトヲ認メテ拒絶證書ヲ作成シタル以上ハ之ヲ以テ法定以外ノ場所ニ於テ作成シタル不適法ノモノト推測スヘカラサル旨論告スレトモ右ハ執達吏カ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ナ爲シタル上同町カ振出人ノ住所ナルコトヲ知り得タルモノト云フニモ非ラサレハ同町カ振出人ノ住所ナリト爲スハ究竟原判決説明ノ如ク執達吏ノ判斷ニ外ナラサルカ故ニ原院ニ於テ右場所カ支拂人土方武ノ住所ナルコトノ事實ハ被控訴人ニ於テ更ニ之ヲ證明セサル可カ、ス何トナレハ云々、拒絶證書ノ如キハ公正證書ト雖モ之ニ記載サルル作成者ノ判斷ハ之ヲ争フモノニ對シ完全ナル證據ヲ爲スヘキモノニアラス云々、右ノ點ニ關シ何等ノ證據方法ヲモ提出

セ云々ト説明シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ何レモ其理由ナシ(明治三十三年ノ第五百二十八號、大審院判決)

故ニ拒絶證書ニ記載セラレタル事實ト雖モ必シモ眞實ト爲スヲ得スシテ之レヲ争フコトヲ得ヘシ然レトモ拒絶證書ニ依リテ證明スル以上ハ一應之ヲ眞實ト推定スヘキコト勿論ニシテ從テ之ヲ眞實ナラストセハ却テ之ヲ争フ者ニ於テ反證ヲ舉ケサル可カラス、然ルニ右判決力之ニ反スルカ如キ此ノ點ニ付テハ正當ト謂フヲ得サルヘシ

第五百十五條ノ二 支拂拒絶證書ノ作成ハ爲替手形又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス(同上ヲ以テ本條追加)

第五百十四條ニ於テハ拒絶證書ヲ作成スヘキ職任アル者ヲ規定シ前條ニ於テハ之ニ記載スヘキ事項ヲ定メタルニ依リ本條ニ於テハ支拂拒絶證書ノ作成方法ヲ規定セリ(一)支拂拒絶證書ヲ作成スヘキ場合ハ第五百十五條第一ノ説明中『(二)支拂拒絶證書ノ作成』ト題シ述ヘタル所ノ如シ(必ラス同説明ヲ參看スヘシ)而シテ此ノ支拂拒絶證書ハ爲替手形又ハ附箋ニ記載シテ爲スヘキモノトス(二)蓋シ本條ノ規定ハ拒絶證書ノ作成ヲ簡易ナラシムルコトヲ期シタル改正規定ノ骨子タルモノナリ、前商法ニ於テハ第五百十五條第一號ニ於テ拒絶證書ハ爲替手形ニ記載シタル事項ヲ其儘全部記載スヘキモノト爲シタルカ故ニ別ニ拒絶證書ナル書面ヲ作り之ニ爲替手形ノ記載事項ヲ謄寫シ然ル後チ拒絶ニ關スル事項ヲ記載シタルヲ以テ其ノ手數煩雜タリシヲ免レス、然レトモ本法ニ於テハ可成ク其ノ手數ヲ簡易ナラシメントシタルカ故ニ先ツ前商法ノ前條第一號ヲ全然削除シテ拒絶證書ニ爲替手形ニ記載シタル事項ヲ掲クルコトヲ全廢シ、而シテ本條ニ於テ支拂拒絶證書ノ作成ハ別紙ヲ以テセス直チニ之レヲ爲替手形其ノモノノ裏面ニ記載スヘク、又ハ手形ノ

附箋ニ記載スヘキモノトセリ、但シ前號ノ記載事項ハ必ラス記載セサル可カラサルハ勿論ナリ(三)但シ本條ハ支拂拒絶證書ノ作成ニ關スル規定ナルヲ以テ支拂拒絶ノ場合ヲ除ク外ノ拒絶證書ノ作成ハ第五百十五條ノ四ニ依リテ手形ノ寫本若クハ手形ノ謄本ノ寫本又ハ附箋ニ記載スヘキモノトス、故ニ手形其モノノ裏面ニ記載スルハ支拂拒絶ノ場合ノミニ限ルヘシ(四)拒絶證書ノ事項ヲ手形ニ記載スルニハ第五百十五條ノ五ノ第一項ニ依リ裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ記載スヘク、附箋ニ記載スル場合ニハ接目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス、但シ手形ノ裏面ニ記載シテ爲スト又ハ附箋ニ記載シテ爲ストハ自由ニシテ裏面ニ餘白アル場合ト雖モ附箋ニ依リテ爲スコトヲモ得ルモノト解ス、但シ反對論アルカ如シ(猶ホ第五百十五條ノ五ノ説明參看)(五)本條ニハ「支拂拒絶證書ノ作成」トアルモ新タニ支拂拒絶證書ヲ作ルニ非ラスシテ支拂拒絶ノ事項ヲ之レニ附記スル場合(前條第一ノ説明中(七)參看)モ亦タ本條ニ包含ス、故ニ各々其ノ支拂拒絶證書トシテ作りタル手形ニ於ケル記載又ハ附箋ニ於ケル記載ニ附記シテ爲ス(六)此他手形ノ數通ノ謄本又ハ原本及ヒ謄本ヲ呈示シタル場合ニ作ルヘキ支拂拒絶證書、數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキ場合ニ作ルヘキ數及ヒ公證人又ハ執達吏カ拒絶證書ヲ作りタルトキ其ノ役場ニ備フヘキ謄本等ニ付テハ次條、第五百十六條、第五百十七條ノ説明ヲ參看スヘシ、而シテ本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニ準用ス(第五二九、五三七條ノ説明參看)

第五百十五條ノ三 爲替手形ノ數通ノ複本又ハ原本及ヒ謄本ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂拒絶證書ヲ作ルトキハ其作成ハ一通ノ複本若クハ原本又ハ附箋ニ依リ之ヲ爲スヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リテ支拂拒絶證書ヲ作りタルトキハ他ノ複本又ハ謄本ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス^(上同)

本條ニ於テハ爲替手形ノ數通ノ複本又ハ原本及ヒ謄本ニ付キ支拂拒絶證書ヲ作ルヘキ方法ヲ規定セリ(一)手形ハ數通ノ複本ヲ作ルコトアリ、其ノ數通ノ複本ハ各々別個ノ手形ニ非ラスシテ何レモ原本ニシテ唯々之ヲ數通ニ作りタルモノニ過キサカ故ニ其ノ數通ヲ合シテ一個ノ手形タルモノナリ(第五一八條ノ說明參看)而シテ其ノ數通ノ複本ヲ呈示シタル場合ニ支拂拒絶證書ヲ作ルニハ前條ノ規定ニ依リテ其ノ手形又ハ附箋ニ依リテ爲スヘキカ故ニ各通毎ニ拒絶證書ヲ記載シ各通毎ニ拒絶證書記載ノ附箋ヲ爲スヘキモノトスレハ其ノ手數煩雜ナリ、故ニ本條第一項ニ於テハ此ノ場合ニハ其ノ一通ノ複本又ハ附箋ニ依リテ拒絶證書ヲ作ルヲ以テ足り各通ニ依リ各別ニ作ルコトヲ要セサルモノトセリ(二)但シ斯クノ如ク一通ノ複本又ハ附箋ニ依リ拒絶證書ヲ作りタルトキハ之ヲ明カニスル爲メ本條第二項ニ於テハ他ノ複本ニハ其ノ拒絶證書ヲ作りタル旨ヲ記載スヘキモノトセリ(三)手形ハ又タ原本ニ依リ謄本ヲ作ルコトアリ(第五二二條ノ說明參看)而シテ又タ其ノ原本ト謄本トヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂拒絶證書ヲ作ルトキモ亦タ右ト同一トス、但シ此ノ場合ニハ拒絶證書ハ原本ニ依リ之ヲ作り謄本ニ其ノ拒絶證書ヲ作りタル旨ヲ記載スヘシ而シテ本條ノ規定ハ約束手形ニ準用ス(第五二九條ノ說明參看)

第五百十五條ノ四 支拂拒絶ノ場合ヲ除ク外拒絶證書ノ作成ハ爲替手形若クハ其謄本ノ寫本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス^(上同)

前二條ニ於テハ支拂拒絶證書ノ作成方法ヲ規定シタルニ依リ本條ニ於テハ支拂拒絶ノ場合ヲ除ク

他ノ拒絶證書ノ作成方法ヲ規定セリ(一)抑モ引受拒絶證書及ヒ擔保拒絶證書、其他支拂拒絶證書以外ノ拒絶證書ハ支拂拒絶證書ト異ニシテ何レモ手形ト分離シテ裏書人ニ交付スヘキモノナリ例之ハ支拂人カ手形ノ引受ヲ爲ササリシ爲メ所持人カ其ノ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲サントスルトキハ引受拒絶證書ヲ作ラシメ而シテ手形ハ勿論自己ノ手許ニ置キ右ノ引受拒絶證書ヲ交付シ之ト引換ニ擔保ヲ受取ルカ如シ(第四七四、第四七五、四七七條ノ說明參看)斯クノ如ク支拂拒絶證書以外ノ拒絶證書ハ手形ト分離シテ交付スヘキモノナルカ故ニ支拂拒絶證書ノ如ク手形ニ記載シテ之ヲ作成スルコトヲ得ス、故ニ本條ニ於テハ是等ノ拒絶證書ニ付テハ其ノ爲替手形ノ寫本若クハ爲替手形ノ謄本ノ寫本ヲ作り之ニ記載シ又ハ附箋ニ依リテ爲スヘキモノトセリ(二)但シ其ノ手形ノ寫本又ハ手形ノ謄本ノ寫本ハ手形又ハ謄本ヲ謄寫スルモノナリト雖モ形狀、用紙等ハ適宜タルコトヲ得、行政例ニ曰ク

改正商法第五百十五條ノ四ノ寫本ニハ如何ナル用紙ヲ用ウルモ差支ナク、又タ其寫本ノ形狀ハ手形若クハ其謄本ノ記載ト同一ナルヲ要セス(明治四十四年九月二十七日民事第五三一號、司法省民事局長回答)

但シ記載ノ事項ハ手形又ハ謄本ヲ同一ニ謄寫セサル可カラサルハ勿論ナリ、而シテ本條ハ約束手形ニ準用ス(第五二九條ノ說明參看)

第五百十五條ノ五 爲替手形、複本、原本又ハ爲替手形若クハ其謄本ノ寫

本ニ依リテ拒絶證書ヲ作ル場合ニ於テハ第五百十五條ニ掲ケタル事項ハ其裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス
附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏ハ其接目ニ契印ヲ爲スコトヲ

要ス(同上)

本條ニ於テハ總テノ拒絕證書ノ作成ニ付キ其ノ記載方法及ヒ附箋ノ方法ヲ規定セリ(一)手形、複本、原本、手形ノ寫本、手形ノ謄本ノ寫本ニ記載シテ拒絕證書ヲ作ルニハ第五百十五條ニ掲ケタル事項ハ其ノ裏面ニ記載シタル事項ニ接續シ空白ヲ置カスシテ記載スルコトヲ要スルモノトス例之ハ手形其他右ニ記載シタルモノノ裏面ノ最終ニ

表面ノ金額某殿又ハ其指圖人ニ御支拂可被成候也

大正何年何月何日

何 某

ト裏書アリテ其後カ空白ニ存スルトキハ第五百十五條ノ拒絕證書ノ事項ハ右ノ裏書ニ接續シ空白ヲ存セサル様ニ記載スヘキカ如シ、蓋シ此間ニ空白アルトキハ後日之ニ不正ノ記入ヲ爲シ拒絕證書ノ效力ヲ滅却左右スル者ナキヲ保シ難キヲ以テナリ(二)拒絕證書ヲ附箋ヲ以テスル場合ニハ公證人又ハ執達吏ハ其ノ附箋ノ接目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス、是レ亦タ附箋ヲ他ノ附箋ト變更スルカ如キ不正手段ヲ防遏セントセルニ外ナラサルナリ、本條ノ記載方ニ付テハ左ノ行政例アリ

改正商法第五百十五條ノ五ニ於テ「云々第五百十五條ニ掲ケタル事項ハ手形ノ裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ記載スルヲ要ス」トノ規定有之、然ルニ通例手形ハ印刷シタル用紙ヲ用キ其裏面ハ全部裏書ノ際記載スヘキ不動文字ヲ印刷シアリテ拒絕證書ノ記載ヲ爲シ得ヘキ餘白無之、此ノ如キ手形ニ付支拂拒絕證書ヲ作成スル場合ハ餘白ナキモノトシ附箋ニ依リ拒絕證書ノ記載ヲ爲シ裏書ノ爲メニ印刷セル不動文字間ノ空白ニハ墨線ヲ施シ置キ可然候哉、又右ノ場合ニ於テ爲ス附箋ハ裏書ヲ爲シタル記載ニ接續シテ貼付シ可然候哉、(回答)意見ノ通取扱ハレ可然モ附箋ハ手形自體ノ後部又ハ下部ニ之ヲ爲スモ差支ナシ、但此場合ニ於テハ印刷セル不動文字ヲ抹消シタル墨線ニ捺印スルヲ相當トス(明治四十四年九月二十七日民事第五三一號、司法省民事局長回答)

而シテ本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第五百十六條

數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキトキハ其請求ニ付キ

一通ノ拒絕證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

本條ハ數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキ場合拒絕證書ヲ作成スヘキ數ヲ規定セリ(一)抑モ手形ノ所持人ハ支拂人又ハ引受人ニ對シテ引受、擔保又ハ支拂ヲ請求シ、若シ支拂人又ハ引受人カ其ノ請求ニ應セサルトキハ更ニ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ對シテ引受、擔保又ハ支拂ヲ請求シ豫備支拂人又ハ參加引受人カ猶ホ其ノ請求ヲ拒ミタルトキハ拒絕證書ヲ作成セシメ以テ其ノ前者ニ對シテ擔保又ハ償還ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノナリ、斯クノ如ク引受、擔保、支拂又ハ償還ノ請求ハ數人ニ對シテ之ヲ爲スコトアルニ拘ハラズ數人ニ對シテ之ヲ爲スノ故ヲ以テ一人ニ對スル毎ニ一通ツツノ拒絕證書ヲ作ラサル可カラストスルハ甚タ不便ナリ、故ニ本條ニ於テハ數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキトキハ其ノ請求ニ付キ一通ノ拒絕證書ヲ作ルヲ以テ足ルモノトセリ(二)但シ本條ニハ「一通ノ拒絕證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル」トアルカ故ニ手數料ヲ負擔スル以上ハ數通ヲ作ラシムルモ自由ナルカ如シト雖モ本法ニ於テハ拒絕證書ノ原本ハ一通ナルヲ以テ原則トセリ、故ニ其ノ原本カ滅失シタルトキハ次條ニ依リ謄本ヲ作ラシム可キモノトス(次條ノ說明參看)(三)右ノ如ク數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テモ拒絕證書ハ一通ヲ作ルヲ以テ足ルト雖モ若シ其ノ作ルヘキ拒絕證書ノ種類カ異ナル場合即チ或ル一人ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲ス爲メニ引受拒絕證書ヲ要シ、他ノ一人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲ス爲メニ支拂拒絕證書ヲ要スルカ如キ場合ニ於テハ前ノ一人ニ對スル請求ノ爲メ引受拒絕證書ヲ作りタルノ故ヲ以テ後

ノ一人ニ對スル請求ノ爲メニ支拂拒絕證書ノ作成ヲ要セサルモノト爲スコトヲ得ス、例之ハ支拂人ニ引受ヲ求メタルニ之ヲ拒絕シタルニ因リ引受拒絕證書ヲ作り其ノ前者ニ擔保ノ請求ヲ爲シ、而シテ滿期日ニ至リ支拂人ニ支拂ヲ請求シタルニ之ヲ拒絕シタルニ因リ其前者ニ償還ノ請求ヲ爲スニ當リ前ニ引受拒絕證書一通ヲ作りタル故ヲ以テ後ノ償還請求ヲ爲スニ支拂拒絕證書ヲ作ルヲ要セスト爲スヲ得サルカ如シ、而シテ本條ノ規定ハ約束手形ニ準用ス(第五二九條ノ說明參看)

第五十七條

公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作りタルトキハ其謄本ニ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ其役場ニ備フルコトヲ要ス(同上ヲ以テ)

- 一 手形金額
 - 二 振出人、支拂人及ヒ受取人ノ氏名又ハ商號
 - 三 振出ノ年月日
 - 四 滿期日及ヒ支拂地
 - 五 支拂擔當者豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其氏名又ハ商號
- 拒絕證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此謄本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

(參照) 前商法

第五十七條 (第一項) 公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作りタルトキハ其帳簿ニ其證書ノ全文ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ニ於テハ公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作りタルトキハ其ノ謄本ヲ作り保存スヘキコト、其

ノ記載事項、拒絕證書ノ謄本ノ交付請求及ヒ謄本ノ效力等ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 拒絕證書謄本ノ作成及ヒ保存 (第一項)

(一) 公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作りタルトキハ後日參考ノ爲メ又ハ拒絕證書カ滅失シタルトキハ本條第二項ニ依リ利害關係人ハ其ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ルヲ以テ其ノ交付ノ用意ノ爲メ拒絕證書ノ謄本ヲ作り本條第一項各號ノ事項ヲ記載シテ之ヲ保存スルコトヲ要ス

(二) 前商法ニ於テハ公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作りタルトキハ其ノ帳簿ニ證書ノ全文ヲ記載スルコトヲ要スルモノトセリト雖モ拒絕證書ハ役場外ニ於テ作ルヲ通例トスルニ拘ハラズ帳簿ヲ役場外ニ搬出シテ之ニ拒絕證書ノ全文ヲ記載スヘシトスルハ甚タ煩雜ナルノミナラス實際ニ於テハ謄本ヲ作り之ヲ綴込ミテ帳簿ニ代用シ居ルヲ以テ本法ニ於テハ寧ロ之ヲ謄本ヲ作ルヘキモノト改正セリ (三) 公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作り本條ニ依リ其ノ證書ノ謄本ヲ作りタルトキハ其ノ謄本ニ本條第一號乃至第五號ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス、蓋シ本法ニ於テハ拒絕證書ヲ作りタル手形、謄本、補箋ニ記載シタル事項ハ之レヲ拒絕證書ニ記載スルコトヲ要セス拒絕證書ハ手形、手形若クハ其ノ謄本ノ寫本又ハ附箋ニ記載シテ作ルヘキモノトセルカ故ニ拒絕證書ノ部分ノミヲ以テハ如何ナル手形ニ付キ之ヲ作りタルヤ明カナラス、然カモ之ヲ明カニシ置クハ必要ナルヲ以テ即チ手形ヲ表示スルニ足ルヘキ本條第一項第一號乃至第五號ノ事項ヲ拒絕證書ノ謄本ニ記載スヘキモノトセリ (四) 拒絕證書ノ謄本ニ記載スヘキ本條第一項ノ事項ハ謄本ノ何レノ部分ニ記載スルモ妨ケナシ、行政例ニ曰ク

改正商法第五十七條第一項ノ記載事項ハ何レノ手形ナルヤヲ特定スル爲メ必要ナル記載事項ナルニ付キ謄本ノ前部タルト後部タルト又上部タルト下部タルトヲ問ハス執務上ノ便宜ニ依ルヘシ(明治四十四年十月二日民事第六五三號、司法省民事

局長回答)

故ニ便宜ニ依リ記載スヘク事項ニ欠缺ナキヲ以テ足ル

第二 拒絕證書謄本交付ノ請求及ヒ謄本ノ效力(第二項)

(一) 拒絕證書カ滅失シタルトキ

ハ利害關係人ハ其ノ拒絕證書ヲ作リタル公證人又ハ執達吏ニ其ノ證書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得、蓋シ拒絕證書カ必要アルニ之カ滅失シタルトキハ之レヲ作リタル公證人又ハ執達吏ニ更ニ交付ヲ請求スルヨリ外ナク、而シテ公證人又ハ執達吏ハ更ニ原本ヲ作ルニ由ナキヲ以テ本條第一項ニ依リ保存セル謄本ニ依リ更ニ其ノ謄本ヲ作リテ交付スヘキモノトス(二) 謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ヘキ者ハ利害關係人ニ限ル、蓋シ利害關係ナキ者ニ之ヲ交付スル必要アラサレハナリ(三) 拒絕證書ノ謄本ヲ作成スルハ公證人又ハ執達吏カ本條第一項ニ依リ保存セル謄本ニ基キ作成スヘキモノナリト雖モ本條第一項ニ依リ其ノ謄本ニ記載シタル第一項第一號乃至第五號ノ事項モ交付スヘキ謄本ニ記載スヘキカ、行政例ニ曰ク

改正商法第五百十七條第二項ノ拒絕證書謄本ニハ同條第一項各號ノ事項ヲ記載スルヲ相當トス(明治四十四年九月二十七日民事第五三一號、司法省民事局長回答)

蓋シ滅失シタル拒絕證書ノ部分ニハ元來本條第一項第一號乃至第五號ノ事項ハ記載ナシト雖モ拒絕證書ハ手形、寫本ニ記載シテ作ルヘキモノナルカ故ニ拒絕證書ノ謄本ニモ亦タ手形、寫本ニ記載セル本條第一號乃至第五號ノ事項ヲ記載スルヲ相當トセルモノナリ(四) 第二項ニ依リ交付スル謄本ハ拒絕證書カ滅失シタル場合ニ之ニ代フル爲メナルヲ以テ原本ト同一ノ效力ヲ有ス、而シテ本條ノ規定ハ約束手形及ヒ小切手ニ準用ス(第五二九、五三七條ノ說明參看)

第十節 爲替手形ノ複本及ヒ謄本

前節ニ於テハ拒絕證書ヲ規定シタルニ依リ本節ニ於テハ爲替手形ノ複本及ヒ謄本ニ關スル事項ヲ規定シテ以テ爲替手形ノ規定ヲ終レリ、爲替手形ノ複本トハ爲替手形ノ原本ノ一種ニシテ爲替手形ヲ數通作リタル場合ノ其一ヲ謂ヒ、爲替手形ノ謄本トハ原本ヲ謄寫シテ作リタルモノヲ謂フ、複本ヲ作ル必要ハ手形ノ一通カ喪失シタル場合ニ複本ヲ以テ其ノ權利ヲ行ヒ又タ手形ヲ引受ノ爲メニ送付シタル場合ニ複本ヲ以テ手形ノ讓渡ヲ爲スニ在リ、謄本ヲ作ルノ必要ハ手形ノ原本ヲ引受ノ爲メニ送付シタル場合ニ謄本ヲ以テ讓渡ヲ爲スニ在リ、是レ複本及ヒ謄本ヲ認メタル所以ナリ

第五百十八條

爲替手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ其爲替手形ノ複本ノ交

付ヲ請求スルコトヲ得但所持人カ受取人ニ非サルトキハ順次ニ其前者ヲ經由シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス
振出人カ爲替手形ノ複本ヲ作リタルトキハ各裏書人ハ各通ニ其裏書ヲ爲スコトヲ要ス

本條ニ於テハ先ツ爲替手形ノ複本ヲ請求シ得ヘキ者及ヒ之ヲ請求スルノ手續并ニ其ノ各通ノ裏書ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 複本ノ交付ヲ請求シ得ヘキ者

(一) 爲替手形ノ複本ハ手形ノ一通カ喪失シタル場合ニ複本ヲ以テ之ニ代ヘテ其ノ權利ヲ行ヒ若クハ一通ヲ引受ノ爲メ送付シタル場合ニ複本ヲ以テ手形ノ讓渡ヲ爲ス爲メナルヲ以テ爲替手形ノ所持人ハ此ノ必要アルトキハ何時タルヲ問ハス複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得、而シテ所持人ノ前者ハ其ノ請求ノ經由ヲ拒ムコトヲ得ス、振出人ハ其ノ交付ヲ拒ムコトヲ得サルナリ (二) 複本ノ數ハ何通ニテモ制限ナシ

第二 複本ノ交付ヲ請求スルノ手續

(一) 複本ノ交付ヲ爲スヘキ者ハ振出人タルコト勿論ナリ、故ニ爲替手形ノ受取人ハ直チニ振出人ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ (二) 然レトモ爲替手形カ漸次輾轉シテ受取人ニ非ラサル所持人ノ手ニ在ルトキハ所持人ハ直接ニ振出人ニ對シテ複本交付ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス必ラス自己ノ直接ノ前者ニ請求シ、其ノ前者ヨリ又タ其ノ直接ノ前者ニ請求シ最後ニ振出人ニ請求スヘキモノトス、例之ハ甲カ振出人、乙、丙、丁、戊カ裏書人ニシテ所持人己ニ至リ己カ複本交付ノ請求ヲ爲スニハ戊ニ請求シ、戊ハ丁ニ、丁ハ丙ニ、丙ハ乙ニ、而シテ乙ヨリ振出人ニ對シ爲スヘキモノトス、本條第一項但書ニ於テ『所持人カ受取人ニ非サルトキハ順次ニ其前者ヲ經由シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス』ト謂フハ此ノ意ニ外ナラサルナリ

第三 前者ノ複本各通ノ裏書

(一) 受取人カ振出人ニ對シテ複本ノ請求ヲ爲シタルトキハ振出人ト受取人トノ間ニハ裏書人ナキカ故ニ振出人ハ直チニ受取人ニ複本ヲ交付スルヲ以テ足ルト

雖モ (二) 若シ受取人ニ非ラサル所持人カ請求ヲ爲シタルトキハ振出人ト所持人トノ間ニハ數人ノ裏書人アルヲ以テ振出人カ複本ヲ作りタルトキハ其ノ各裏書人ハ複本ノ各通ニ其ノ裏書ヲ爲スヘキモノトス、前項ノ例ヲ以テスレハ乙、丙、丁、戊ハ複本ノ各通ニ對シ一々曾テ裏書ヲ爲シタル通リ裏書ヲ爲スヘキモノトス、複本ノ數カ數通ナルトキハ其ノ各數ニ付キ一々之ヲ爲ササルヲ得ス、本條第二項ハ即チ此ノ規定ニ外ナラサルナリ

第五百十九條

爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示ササルトキハ其各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力ヲ有ス

本條ハ複本ニ其ノ複本タルコトヲ記載ススヘキコト及ヒ之ヲ記載セサル複本ノ效力ヲ規定セリ、爲替手形ノ複本ニハ其ノ複本タルコトヲ明記スヘキハ勿論ナリト雖モ、若シ其ノ複本タルコトヲ示ササルトキハ其ノ各通ハ事實複本タルニ拘ハラズ獨立ノ爲替手形トシテ效力ヲ有スルモノトス抑モ手形ハ其ノ手形ニ記載シタル所ヲ標準トシテ權利、義務ヲ定ムルヲ以テ其ノ性質トスルモノニシテ此主義ハ手形ノ規定上一貫シテ存スル所ナリ、從テ若シ複本タルコトヲ示ササルトキハ手形上之ヲ複本ト認ムヘキ所ナキヲ以テ其ノ手形ハ事實複本タルニ拘ハラズ獨立シタル別個ノ手形トシテ效力ヲ有スルモノトセサル可カラス、故ニ若シ振出人カ複本ニ其ノ複本タルコトヲ示サス各裏書人モ亦タ之ニ裏書シタルトキハ振出人ハ新ナル手形ヲ振出シタルコトト爲リ裏書人モ亦タ新ナル手形ニ裏書シタルモノト爲リテ各々其ノ責任ヲ負ハサル可カラス、複本ヲ作ル者及ヒ之ニ裏書スル者ハ宜シク注意スヘキ所ナリ

第五百二十條

爲替手形ノ複本ヲ作りタル場合ニ於テ其一通ノ支拂アリタ

ルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失フ但引受アルモノハ此限ニ在ラス
二人以上ニ各別ニ數通ノ爲替手形ノ裏書ヲ爲シタル者又ハ數通ノ爲替手
形ニ引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ於テ返還アラサリシ各通ニ付キ手形
上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

本條ニ於テハ複本ノ他ノ各通ノ效力ヲ失フヘキ場合及ヒ二人以上ニ各別ニ裏書ヲ爲シ又ハ引受ヲ
爲シタル者ノ責任ヲ規定セリ、之ヲ分説スレハ左ノ如シ

第一 複本ノ他ノ各通ノ效力ヲ失フ場合(第一項) (一) 爲替手形ノ複本數通ヲ作りタル場
合ニ於テ其中ノ一通ニ付キ支拂アリタルトキハ他ノ複本ハ皆ナ其ノ效力ヲ失フヘキモノトス、抑
モ複本ハ數通ヲ作ルコトヲ得ルト雖モ其ノ數通ハ合シテ一ノ手形タルモノニシテ各別ノ手形ニ非
ラス、故ニ其ノ數通中ノ一通ニ對シ支拂アリタルトキハ支拂ナキ他ノ數通ハ何レモ其ノ效力ヲ失
フヘキコト勿論ナリ、從テ前者ハ支拂アリタル手形ニ付テ償還義務ナキハ勿論、他ノ複本ニ因リ
償還ヲ請求セラルルモノニ應スル義務ナク、支拂人モ亦タ他ノ複本ニ對シ支拂ノ義務ナシ、但シ
本條第一項ニハ單ニ支拂アリタルトキノミヲ規定スト雖モ一通ニ引受アリタル場合ニ於テモ前者
ハ擔保ヲ供スル義務ナシ、何トナレハ複本ハ數本ナルモノノ手形ニ過キサルカ故ニ其ノ一通ニ引
受アリタルトキモ擔保ノ義務ヲ免ルヘケレハナリ(二) 然レトモ他ノ複本ニ引受アリタルトキハ
他ノ一通ニ付キ支拂アルモノ引受アリタル複本ハ效力ヲ失フヘキ限ニ在ラス、何トナレハ引受人ハ
引受アル複本ト引換ニ非ラサレハ支拂ヲ爲スコトヲ要セサルニ之ト引換ヲ爲サスシテ引受ナキモ
ノニ付キ支拂ヲ爲シタルハ其ノ不注意ニシテ爲メニ引受ヲ爲シタル分ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サ

レハナリ、是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ

第二 二人以上ニ各別ニ數通ノ裏書又ハ引受ヲ爲シタル者ノ責任(第二項) (一) 複本數通
ヲ作りタル場合ニ二人以上ノ者ニ對シ各別ニ數通ノ裏書ヲ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ返還アラサリ
シ各通ニ付キ償還ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス、例之ハ複本ノ一通ニ付キ裏書ヲ爲シテ甲ニ與ヘ他
ノ一通ニモ裏書ヲ爲シテ乙ニ與ヘタルトキハ支拂ノ時ニ於テ支拂人カ甲ノ複本ノミニ支拂ヲ爲シ
乙ノ複本ノ返還ヲ受ケスシテ後日乙ノ複本ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ裏書人ハ乙ノ複本ノ償還請
求ニ應セサルヲ得ス、何トナレハ複本ハ合シテ一通ノ手形ナリト雖モ既ニ之ヲ各別ノ人ニ各別ニ
裏書シタル以上ハ實際ニ於テ各別ノ手形ノ裏書ヲ爲シタルモノト同一ナレハナリ、但シ振出人ハ
此ノ義務ナシ(二) 複本數通ヲ作りタル場合ニ二人以上ノ者ニ對シ各別ニ數通ノ引受ヲ爲シタル
者ハ支拂ノ時ニ於テ返還アラサリシ引受アル各通ニ付テモ支拂ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス、何ト
ナレハ二人以上ニ各別ニ數通ノ引受ヲ爲シタル以上ハ其ノ數通ニ付キ支拂ノ義務ヲ負フモノニシ
テ支拂ノ時他ノ各通ノ返還ヲ待タスシテ支拂ヲ爲シタルハ其ノ返還アラサリシモノニ對シ支拂ノ
義務アルコト益々明カナレハナリ、是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

**第五百二十一條 爲替手形ノ複本ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メ其一通ヲ送
付シタルトキハ他ノ各通ニ其送付先ヲ記載スルコトヲ要ス**
前項ノ記載アル爲替手形ノ所持人ハ引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル一通
ノ爲替手形ヲ受取りタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得若シ其者